

# HP Universal CMDB

Windows および Linux オペレーティング・システム用

ソフトウェア・バージョン : 9.0

---

## モデリング・ガイド

ドキュメント・リリース日 : 2010 年 7 月 (英語版)

ソフトウェア・リリース日 : 2010 年 7 月 (英語版)



# 利用条件

## 保証

HP の製品およびサービスの保証は、かかる製品およびサービスに付属する明示的な保証の声明において定められている保証に限り、本ドキュメントの内容は、追加の保証を構成するものではありません。HP は、本ドキュメントに技術的な間違いまたは編集上の間違い、あるいは欠落があった場合でも責任を負わないものとします。

本ドキュメントに含まれる情報は、事前の予告なく変更されることがあります。

## 制限事項

本コンピュータ・ソフトウェアは、機密性があります。これらを所有、使用、または複製するには、HP からの有効なライセンスが必要です。FAR 12.211 および 12.212 に従って、商用コンピュータ・ソフトウェア、コンピュータ・ソフトウェアのドキュメント、および商用アイテムの技術データは、HP の標準商用ライセンス条件に基づいて米国政府にライセンスされています。

## 著作権

© Copyright 2005 - 2010 Hewlett-Packard Development Company, L.P

## 商標

Adobe® および Acrobat® は、Adobe Systems Incorporated の商標です。

AMD および AMD の矢印記号は、Advanced Micro Devices, Inc. の商標です。

Google™ および Google™ マップは、Google Inc. の商標です。

Intel®, Itanium®, Pentium®, および Intel® Xeon® は、米国およびその他の国における Intel Corporation またはその子会社の商標または登録商標です。

Java™ は Sun Microsystems, Inc. の米国商標です。

Microsoft®, Windows®, Windows NT®, Windows® XP, および Windows Vista® は、Microsoft Corporation の米国登録商標です。

Oracle は、Oracle Corporation およびその関連企業の登録商標です。

UNIX® は The Open Group の登録商標です。

## 確認

- この製品には、Apache Software Foundation (<http://www.apache.org/licenses> (英語サイト)) によって開発されたソフトウェアが含まれています。

- この製品には、OpenLDAP Foundation (<http://www.openldap.org/foundation/> (英語サイト)) の OpenLDAP コードが含まれています。
- この製品には、Free Software Foundation, Inc. (<http://www.fsf.org/>) の GNU コードが含まれています。
- この製品には、Dennis M.Sosnoski の JiBX コードが含まれています。
- この製品には、ディストリビューションの一部で JiBX 全体で使用される、インディアナ大学 Extreme!Lab の XPP3 XMLPull パーサが含まれています。
- この製品には、Robert Futrell (<http://sourceforge.net/projects/officeInfs> (英語サイト)) の Office Look and Feels ライセンスが含まれています。
- この製品には、Netaphor Software, Inc. (<http://www.netaphor.com/home.asp> (英語サイト)) の JEP (Java Expression Parser) コードが含まれています。

## 文書の更新

本書のタイトル・ページには、次の識別情報が含まれています。

- ソフトウェアのバージョンを示すソフトウェア・バージョン番号
- ドキュメントが更新されるたびに更新されるドキュメント発行日
- 本バージョンのソフトウェアをリリースした日付を示す、ソフトウェア・リリース日付

最新のアップデートまたはドキュメントの最新版を使用するには、次の URL にアクセスしてください：

**<http://h20230.www2.hp.com/selfsolve/manuals>**

このサイトでは、HP Passport に登録してサインインする必要があります。HP Passport ID の登録は、次の場所で行います。

**<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html>**

または、HP Passport のログイン・ページの [New users - please register] リンクをクリックしてください。

適切な製品サポート・サービスに登録すると、更新情報や最新情報も入手できます。詳細については HP の営業担当にお問い合わせください。

## サポート

HP ソフトウェアのサポート Web サイトは、次の場所にあります。

**<http://support.openview.hp.com>**

この Web サイトでは、連絡先情報と、HP ソフトウェアが提供する製品、サービス、およびサポートについての詳細が掲載されています。

HP ソフトウェア・オンライン・ソフトウェア・サポートでは、お客様にセルフ・ソルブ機能を提供しています。ビジネス管理に必要な、インタラクティブなテクニカル・サポート・ツールに迅速かつ効率的にアクセスできます。有償サポートをご利用のお客様は、サポート・サイトの以下の機能をご利用いただけます。

- 関心のある内容の技術情報の検索
- サポート・ケースおよび機能強化要求の提出および追跡
- ソフトウェア・パッチのダウンロード
- サポート契約の管理
- HP サポートの連絡先の表示
- 利用可能なサービスに関する情報の確認
- ほかのソフトウェア顧客との議論に参加
- ソフトウェアのトレーニングに関する調査と登録

ほとんどのサポート・エリアでは、HP Passport ユーザとして登録し、ログインする必要があります。また、多くの場合、サポート契約も必要です。HP Passport ID の登録は、次の場所で行います。

**<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html>**

アクセス・レベルの詳細に関しては次を参照してください。

**[http://h20230.www2.hp.com/new\\_access\\_levels.jsp](http://h20230.www2.hp.com/new_access_levels.jsp)**



---

# 目次

ようこそ.....	11
本書の構成.....	11
対象読者.....	12
HP Universal CMDB オンライン・ドキュメント.....	12
その他のオンライン・リソース.....	15
ドキュメントの更新.....	16

## 第 I 部 :HP UNIVERSAL CMDB の概要

<b>第 1 章：トポロジクエリ言語.....</b>	<b>19</b>
トポロジ・クエリ言語 (TQL) の概要.....	20
UCMDB マネージャでの TQL クエリの作成.....	21
TQL クエリ結果の表示.....	22
複合関係.....	23
結合関係.....	24
サブグラフの定義.....	25
ALLOW_VOLATILITY 修飾子.....	25
TQL クエリの定義.....	27
TQL クエリへのクエリ・ノードと関係の追加.....	28
複合関係の定義のシナリオ.....	30
結合関係の定義のシナリオ.....	33
サブグラフ定義の作成のシナリオ.....	35
ショートカット・メニュー・オプション.....	37
属性演算子の定義.....	42
TQL ログ.....	44
トポロジ・クエリ言語のユーザ・インタフェース.....	49
トラブルシューティングと制限事項.....	97
<b>第 2 章：計算された関係の使用.....</b>	<b>103</b>
計算された関係の概要.....	104
計算された関係.....	104
計算された関係タイプ.....	106

<b>第 3 章：ダイレクト・リンクの URL の作成</b> .....	<b>107</b>
ダイレクト・リンクの生成の概要.....	108
ダイレクト・リンクの生成のシナリオ.....	110
[ダイレクトリンクの生成] ユーザ・インタフェース .....	111
<b>第 4 章：ダイレクト・リンクを使用した UCMDB アプレットの埋め込み</b> .....	<b>133</b>
ダイレクト・リンク機能を使用した UCMDB アプレットの埋め込み.....	134
UCMDB アプレット・タグ - 概要.....	135
ダイレクト・リンクの操作フロー.....	137
<b>第 5 章：CI の選択を使った作業</b> .....	<b>143</b>
CI の選択の概要 .....	144
参照モードでのビューの表示.....	145
[検索] モードでの CI の検索 .....	145
CI の選択の表示オプションの変更 .....	147
CI の選択のユーザ・インタフェース .....	149
トラブルシューティングと制限事項 .....	162
<b>第 6 章：トポロジ・マップの使用</b> .....	<b>163</b>
トポロジ・マップの概要.....	164
大きなビューの取り扱い.....	165
トポロジ・マップのユーザ・インタフェース .....	166

## 第 II 部：モデリング

<b>第 7 章：IT ユニバース・マネージャ</b> .....	<b>201</b>
IT ユニバース・マネージャの概要 .....	202
IT ユニバース・マネージャのビューを使った作業 .....	203
ビューのツリー構造.....	205
CI を使った作業 .....	206
関係を使った作業 .....	210
CMDB での CI と関係の作成 .....	216
アプリケーション・ディスカバリのステータス・チェック (ビューの再検出) .....	217
影響分析結果シナリオの取得.....	220
ビューのスナップショットの取得.....	228
トポロジ・マップの印刷とファイルへの保存 .....	228
IT ユニバース・マネージャのユーザ・インタフェース .....	229



<b>第 8 章：モデリング・スタジオ</b> .....	<b>265</b>
モデリング・スタジオの概要 .....	267
ビュー形式 .....	268
ビジネス・ビューの構築 .....	269
テンプレートとパースペクティブ .....	272
定義済みのフォルダとビュー .....	273
ビジネス CI モデル .....	274
パースペクティブ・ベース・ビューの作成 .....	276
公開 CI と監視 .....	280
パターン・ビューの作成 .....	285
テンプレートの作成 .....	286
パースペクティブの作成 .....	288
テンプレート ベース ビューの作成 .....	291
レポート設定の定義 .....	293
ビジネス CI モデルの作成 .....	294
パターン・ベース・モデルの作成 .....	296
モデルに基づいたパースペクティブ・ベース・ビューの作成 .....	297
CI のコレクションに基づいたパースペクティブ・ベース・ビューの 作成 .....	298
モデリング・スタジオのユーザ・インタフェース .....	300
<b>第 9 章：レポート</b> .....	<b>363</b>
トポロジ・レポートの概要 .....	364
カスタム・レポートの概要 .....	364
トポロジ・レポートの表示 .....	365
カスタム・レポートの生成 .....	365
CI の比較 .....	366
スナップショットの比較 .....	368
Cron 式 .....	370
[レポート] のユーザ・インタフェース .....	371
<b>第 10 章：影響分析マネージャ</b> .....	<b>439</b>
影響分析マネージャの概要 .....	440
影響ルールの定義 - ワークフロー .....	442
影響分析マネージャのユーザ・インタフェース .....	446

<b>第 11 章 : CI タイプ・マネージャ</b> .....	<b>465</b>
CI タイプの概要 .....	466
CI タイプの属性 .....	467
CI タイプの関係 .....	468
システム・タイプ・マネージャ .....	468
CI タイプの作成 .....	470
関係タイプの作成 .....	471
計算された関係タイプの作成.....	473
リストおよび列挙定義の作成.....	474
列挙定義の作成 - ワークフロー .....	475
CI タイプと関係の詳細を表示 .....	477
CI タイプ・マネージャのユーザ・インタフェース .....	477
<b>第 12 章 : エンリッチメント・マネージャ</b> .....	<b>507</b>
エンリッチメント・マネージャの概要.....	508
エンリッチメント・ルール of 定義 - シナリオ .....	510
エンリッチメント・クエリ・ノードと関係をエンリッチメント TQL クエリに追加.....	515
エンリッチメント・マネージャのユーザ・インタフェース .....	517
<b>第 III 部 : HP UNIVERSAL CMDDB データ・モデル</b>	
<b>第 13 章 : UCMDDB データ・モデルの概要</b> .....	<b>539</b>
BDM データ・モデルの概要.....	540
データ・モデルのドキュメント .....	541
アップグレードに関するドキュメント.....	542
<b>第 14 章 : UCMDDB データ・モデルの UML ツールへのエクスポート</b> ....	<b>545</b>
UML ツールへのエクスポート - 概要 .....	546
クラス・モデルのエクスポート .....	547
クラス・モデルの選択部分の XML を変換 .....	548
UML ツール・ユーザ・インタフェースへのエクスポート.....	550
ツール・プラグイン入力.....	553
<b>第 IV 部 : 参照情報</b>	
<b>第 15 章 : テーブルを使用した作業</b> .....	<b>557</b>
カラムのユーザ・インタフェース.....	558
<b>第 16 章 : 正規表現の例</b> .....	<b>561</b>
正規表現の例 .....	562
<b>索引</b> .....	<b>563</b>

---

# ようこそ

本書では、システムのトポロジを構築できる IT モデルの設定と使用方法について説明します。構成アイテムおよびそれらの関係はこのモデルに取り込み、モデルを使用して重要なビジネス・プロセスを評価および管理します。

## 本章の内容

- ▶ 本書の構成 (11 ページ)
- ▶ 対象読者 (12 ページ)
- ▶ HP Universal CMDB オンライン・ドキュメント (12 ページ)
- ▶ その他のオンライン・リソース (15 ページ)
- ▶ ドキュメントの更新 (16 ページ)

## 本書の構成

本書は、次の各章で構成されています。

### 第 I 部 HP Universal CMDB の概要

CMDB の概要を説明し、トポロジ・クエリ言語、CI の選択、トポロジ・マップについての一般的な情報を示します。

## 第 II 部 モデリング

CMDB から必要な情報を取得するビューの定義および TQL クエリの構築により、ビジネス環境をモデル化する方法について説明します。特定ビューのトポロジ・レポートおよびカスタム・レポートを作成する方法、および CMDB で定義されている構成アイテム・タイプ (CIT) の定義と、それらの接続を定義する関係を表示、変更する方法について説明します。

## 第 III 部 HP Universal CMDB データ・モデル

BTO データ・モデル (BDM) バージョン 1.1.1 および CMS データ・モデルについて説明し、数量化したドキュメントが含まれます。

## 第 IV 部 参照情報

一般的な参照情報が含まれます。

## 対象読者

本書は、次の利用者を対象としています。

- ▶ HP Universal CMDB 管理者
- ▶ HP Universal CMDB プラットフォーム管理者
- ▶ HP Universal CMDB アプリケーション管理者
- ▶ HP Universal CMDB データ・コレクタ管理者

本書の読者は、エンタープライズ・システム管理に精通し、ITIL の概念を理解していること、そして HP Universal CMDB についての知識を備えている必要があります。

## HP Universal CMDB オンライン・ドキュメント

HP Universal CMDB には、次のオンライン・ドキュメントが含まれています。

**Readme** : バージョンの制限事項および最終更新のリストが表示されます。HP Universal CMDB DVD のルート・ディレクトリから、**readme.html** をダブルクリックします。HP ソフトウェア・サポート Web site から、最新の Readme ファイルにアクセスできます。

**新機能** : 新機能およびバージョンの重要項目のリストが表示されます。HP Universal CMDB で、**[ヘルプ]** > **[新機能]** を選択します。

**印刷用ドキュメント** : **[ヘルプ]** > **[UCMDB ヘルプ]** を選択します。次のガイドは、PDF 形式でのみ提供されています。

- ▶ 『HP Universal CMDB デプロイメント・ガイド』(PDF) HP Universal CMDB の設定に必要なハードウェアおよびソフトウェア要件、HP Universal CMDB のインストールまたはアップグレード方法、システムのセキュリティを強化する方法、およびアプリケーションへのログイン方法について説明します。
- ▶ 『HP Universal CMDB データベース・ガイド』(PDF) HP Universal CMDB で必要とされるデータベース (MS SQL Server または Oracle) の設定方法について説明します。
- ▶ HP Universal CMDB ディスカバリ / インテグレーション・コンテンツ・ガイド ディスカバリを実行して、システムで実行されているアプリケーション、オペレーティング・システム、およびネットワーク・コンポーネントを検出する方法について説明します。統合によってほかのデータ・リポジトリにあるデータを検出する方法についても説明します。

**HP Universal CMDB オンライン・ヘルプ**の内容は次のとおりです。

- ▶ **[モデリング]** : IT ユニバース・モデルのコンテンツを管理できます。
- ▶ **データ・フロー管理** : HP Universal CMDB をほかのデータ・リポジトリと統合する方法、およびネットワーク・コンポーネントを検出するように HP Universal CMDB を設定する方法について説明します。
- ▶ **UCMDB 管理** : HP Universal CMDB で作業する方法について説明します。
- ▶ **開発者向けリファレンス** : HP Universal CMDB について高度な知識を持つユーザを対象としています。アダプタを定義して使用する方法、および API を使用してデータにアクセスする方法について説明します。

オンライン・ヘルプは、HP Universal CMDB の個別のウィンドウから利用できます。ウィンドウをクリックして **[ヘルプ]** ボタンをクリックします。



オンライン・ブックは Adobe Reader を使用して表示および印刷できます。Adobe Reader は Adobe Web サイトからダウンロードできます (<http://www.adobe.com/jpl/>)。



## トピックの種類

このガイドでは、各サブジェクト領域はトピックに分類されています。トピックには、サブジェクトの個別の情報モジュールが含まれています。トピックは通常、含まれる情報のタイプに従って分類されます。

ドキュメントは異なる状況で必要となるさまざまな情報タイプに分割されており、特定情報にアクセスしやすいように設計されています。

使用されている主なトピックの種類は、**概念**、**タスク**、および**参照情報**の3つです。これらのトピックの種類は、アイコンで視覚的に分かりやすく分類されています。

トピックの種類	説明	使用法
<b>概念</b> 	背景, 説明, または概念的な情報。	機能に関する一般情報について学習します。
<b>タスク</b> 	<p><b>手順タスク:</b> アプリケーションを使用して目標を達成するための手順が、順を追って説明されています。一部のタスクの手順には、サンプル・データを使用した例が含まれます。</p> <p>タスクの手順は、番号が付いている場合と付いていない場合があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>番号付きの手順:</b> 各手順を連続した順序で行うことで実行するタスクです。</li> <li>▶ <b>番号が付いていない手順:</b> 任意の順序で実行できる、自己充足型の操作のリストです。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ タスクの全体的なワークフローについて学習します。</li> <li>▶ 番号が付いているタスクのリストにある手順に従って、タスクを実行します。</li> <li>▶ 番号が付いていないタスクの手順を完了することで、独立した操作を実行します。</li> </ul>
	<p><b>使用例シナリオ・タスク:</b> 特定の状況でタスクを実行する方法の例です。</p>	現実的なシナリオでタスクを実行する方法を学習します。

トピックの種類	説明	使用法
<b>参照先</b> 	<b>一般的な参照情報</b> ：参考資料に関する詳細なリストおよび説明です。	特定のコンテキストに関連する参照情報を検索します。
	<b>ユーザ・インタフェース参照情報</b> ：特定のユーザ・インタフェースを詳細に説明した参照情報トピックです。通常、製品の [ヘルプ] メニューから [このページのヘルプ] を選択すると、ユーザ・インタフェースのトピックが開きます。	入力内容またはウィンドウ、ダイアログ・ボックス、ウィザードなど特定のユーザ・インタフェース要素の使用方法に関する個別の情報を検索します。
<b>トラブルシューティングおよび制限事項</b> 	<b>トラブルシューティングおよび制限事項</b> ：よく発生する問題および解決策について説明し、機能または製品領域の制限事項のリストを表示する参照情報トピックです。	機能を使用する前に、またはソフトウェアでユーザビリティに関する問題に遭遇した場合に、重要な問題に対する意識を高めます。

## その他のオンライン・リソース

[**トラブルシューティングとナレッジ ベース**] を選択すると、HP ソフトウェアのサポート Web サイトのトラブルシューティング・ページが開き、セルフ・ソルブ技術情報を検索できます。[ヘルプ] > [**トラブルシューティングとナレッジ ベース**] を選択します。この Web サイトの URL は <http://h20230.www2.hp.com/troubleshooting.jsp> です。

[**HP ソフトウェア サポート**] を選択すると、HP ソフトウェアのサポート Web サイトが開きます。このサイトでは、セルフ・ソルブ技術情報を参照できます。ユーザ・ディスカッション・フォーラムへの参加と検索、サポート要求の送信、パッチやアップデートされたドキュメントのダウンロードなども行うことができます。[ヘルプ] > [**HP ソフトウェア サポート**] を選択します。この Web サイトの URL は [www.hp.com/go/hpsupport](http://www.hp.com/go/hpsupport) です。

ほとんどのサポート・エリアでは、HP Passport ユーザとして登録し、ログインする必要があります。また、多くの場合、サポート契約も必要です。

アクセス・レベルの詳細に関しては次を参照してください。

[http://h20230.www2.hp.com/new\\_access\\_levels.jsp](http://h20230.www2.hp.com/new_access_levels.jsp)

HP Passport ユーザ ID の登録は、次の URL にアクセスしてください。

<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html>

[**HP ソフトウェアの Web サイト**] を選択すると、HP ソフトウェアの Web サイトが開きます。このサイトには、HP ソフトウェア製品の最新情報が表示されます。新規ソフトウェア・リリース、セミナーおよび製品発表会、カスタマ・サポートなどの情報が含まれます。[**ヘルプ**] > [**HP ソフトウェアの Web サイト**] を選択します。この Web サイトの URL は <http://welcome.hp.com/country/jp/ja/prodserv/software.html> です。

## ドキュメントの更新

HP ソフトウェアの製品ドキュメントは、新しい情報で絶えず更新されています。

最新のアップデートまたはドキュメントの最新版を使用していることを確認するには、HP ソフトウェア製品マニュアルの Web サイト (<http://h20230.www2.hp.com/selfsolve/manuals>) にアクセスしてください。



# 第 I 部

---

## HP Universal CMDB の概要



# 1

---

## トポロジ クエリ言語

本章の内容

### 概念

- ▶ トポロジ・クエリ言語 (TQL) の概要 (20 ページ)
- ▶ UCMDB マネージャでの TQL クエリの作成 (21 ページ)
- ▶ TQL クエリ結果の表示 (22 ページ)
- ▶ 複合関係 (23 ページ)
- ▶ 結合関係 (24 ページ)
- ▶ サブグラフの定義 (25 ページ)
- ▶ ALLOW\_VOLATILITY 修飾子 (25 ページ)

### タスク

- ▶ TQL クエリの定義 (27 ページ)
- ▶ TQL クエリへのクエリ・ノードと関係の追加 (28 ページ)
- ▶ 複合関係の定義のシナリオ (30 ページ)
- ▶ 結合関係の定義のシナリオ (33 ページ)
- ▶ サブグラフ定義の作成のシナリオ (35 ページ)

### 参照先

- ▶ ショートカット・メニュー・オプション (37 ページ)
- ▶ 属性演算子の定義 (42 ページ)
- ▶ TQL ログ (44 ページ)
- ▶ トポロジ・クエリ言語のユーザ・インタフェース (49 ページ)
- ▶ トラブルシューティングと制限事項 (97 ページ)

---

---

## 概念

---

---

### トポロジ・クエリ言語 (TQL) の概要

Topology Query Language (TQL) (トポロジ・クエリ言語) は、IT インフラストラクチャ・データを検出、編成、管理するための言語およびツールです。トポロジ・クエリ言語を使用することで、CMDB からビジネス・サービス・データを取得する TQL クエリを作成できます。また、TQL クエリはデータを視覚的な図に表現することでデータの監視や管理を容易にします。

本項の内容

- ▶ 20 ページの「トポロジ・クエリ言語 (TQL)」
- ▶ 21 ページの「TQL の役割」

### トポロジ・クエリ言語 (TQL)

TQL では、次の 2 つの重要な機能を追加することによって標準の SQL 言語を拡張します。

- ▶ TQL を使うことで、実際の相互依存関係を表す構成アイテム (CI) 間の概念上の関係を描くことができます。定義済みの演算子を使って、CI 間に存在するさまざまな相互接続 (関係) を確立し、その結果、インフラストラクチャの設計とパフォーマンスをより正確に表現できます。この表現は、複雑なインフラストラクチャのディスカバリ、配置、クエリ、および管理の基礎となりモデルとなります。
- ▶ TQL には、リソースおよびそれらの相互接続を表す視覚的な記号や構文で構成されたグラフィカルな側面があります。この IT インフラストラクチャの視覚化により、IT ビジネス オペレーションの理解、監視、および管理が簡易化されます。

## TQL の役割

TQL には、次に示すようにいくつかの役割があります。

- ▶ ビジネス サービスとしてともに機能する IT アセット間の相互接続を定義、説明するビジネス サービス モデルを構築します。ビジネス サービス モデルにより、増え続けるインフラストラクチャ リソースの数と複雑さにも関わらず、ビジネス サービスのディスカバリと識別が容易になります。ビジネス・サービスから構成されるリソースを検出すると、ビジネス・サービス・モデルによって CMDB での編成方法と管理方法が構築されます。
- ▶ 常に CMDB を検索して管理リソースの状態に生じた変更を特定します。このような変更が検出された場合には、関連するサブシステムに通知されて更新されます。
- ▶ ビジネス・サービス・データを CMDB から取得するクエリを作成し、そのデータを視覚的な図に表現してデータの監視と管理を行えます。

## UCMDB マネージャでの TQL クエリの作成

次のマネージャを使用して、CMDB から特定のデータを取得する TQL クエリを作成し、そのデータを表示できます。

- ▶ **影響分析マネージャ**：影響ルールでインフラストラクチャの変更がシステムにどのような影響を与えるかをシミュレートし、問題の真の原因とそれによるビジネスへの影響を究明できます。ルールの作成時にベースの TQL クエリ・タイプを定義しますが、これは新規クエリ、既存クエリのどちらでも可能です。詳細については、439 ページの「影響分析マネージャ」を参照してください。
- ▶ **エンリッチメント・マネージャ**：エンリッチメント・ルールでは、CMDB の拡張、CMDB からの CI インスタンスの削除、CMDB にすでに存在する CI の属性の更新を行うことができます。ルールの作成時にベースの TQL クエリ・タイプを定義しますが、これは新規クエリ、既存クエリのどちらでも可能です。詳細については、507 ページの「エンリッチメント・マネージャ」を参照してください。

- ▶ **モデリング・スタジオ**：TQL クエリ・エディタを使用して新しい TQL クエリを作成するか、パターン・ビュー・エディタを使用して新規ビュー、テンプレート、パースペクティブの定義時に新しいクエリを作成できます。また、パターン・ビュー・エディタでは各ビューのトポロジ・レポート設定も定義できます。詳細については、265 ページの「モデリング・スタジオ」を参照してください。

## TQL クエリ結果の表示



IT ユニバース・マネージャは、結果のデータを視覚的な図として表示します。結果として得られるトポロジ・マップの構造は、クエリにより定義されます。ビューには、クエリ定義に適合する CI と関係だけが表示されます。[プレビュー] ボタンをクリックして IT ユニバース・マネージャと同一のプレビュー画面を開くことでもクエリの結果を参照できます。IT ユニバース・マネージャの詳細については、201 ページの「IT ユニバース・マネージャ」を参照してください。

### TQL クエリ・タイプと優先度

TQL クエリを定義する場合、[クエリ定義プロパティ] ダイアログ・ボックスの [タイプ] フィールドで TQL クエリのタイプを定義します。使用可能なクエリ・タイプは次のとおりです。

- ▶ **[ビュー]**：パターン・ビューのベースとして使用される TQL クエリ。
- ▶ **インテグレーション**：インテグレーションに使用される TQL クエリ。
- ▶ **ディスカバリ**：DFM パターンのベースとして使用される TQL クエリ。
- ▶ **テンプレート・クエリ**：テンプレートのベースとして使用される TQL クエリ。
- ▶ **パースペクティブ・クエリ**：パースペクティブのベースとして使用される TQL クエリ。
- ▶ **影響分析**：影響ルールベースとして使用される TQL クエリ。これは、影響分析マネージャで作成されるクエリの標準設定タイプです。
- ▶ **エンリッチメント**：エンリッチメント・ルールベースとして使用される TQL クエリ。これは、エンリッチメント・マネージャで作成されるクエリの標準設定タイプです。

既存の TQL クエリのタイプは変更できません。

インテグレーションを通じてインポートされたクエリにタイプが割り当てられていない場合、そのクエリは非表示とみなされ、モデリング・スタジオのクエリ・リストには表示されません。非表示のクエリをクエリ・リストに表示するには、[一般]の下にある[ユーザプリファレンス]ダイアログ・ボックスで非表示のクエリの設定を変更します。詳細については、97 ページの「[ユーザプリファレンス]ダイアログ・ボックス」を参照してください。

TQL クエリの優先度も設定できます。この優先度によって、クエリが更新された情報を取り込んで自動的に再実行される頻度が決まります。使用可能な優先度は次のとおりです。



- ▶ 低
- ▶ 中
- ▶ 高
- ▶ 至急
- ▶ 非アクティブ

TQL クエリの優先度を[非アクティブ]に設定するとクエリは非アクティブになり、自動的に実行されませんが、手動でビューを作成する場合には使用できます。

## 複合関係

**compound** 関係は、トポロジ・グラフ内のパスを表します。複合関係を使うと、ソース CI とターゲット CI の間のパスに許可されているステップを定義できます。

各行は、トポロジ・マップ内でソース CI からターゲット CI に至るパスの許可されている手順の 1 つを表します。

Source	Relationship	Target
 IpSubnet	 Membership	 Node
 Node	 Containment	 IpAddress

複合定義の例については、30 ページの「複合関係の定義のシナリオ」を参照してください。複合関係の定義の詳細については、52 ページの「[複合関係の追加] / [複合関係の編集]ダイアログ・ボックス」を参照してください。

## 結合関係

join 関係とは 2 つの CI 間の関係を表す論理的接続です (結合関係は, TQL クエリ結果を含むトポロジ・マップにのみ表示されます)。結合関係は, CMDB には存在しません。join 関係を作成するには, 値を比較に使用する各クエリ・ノードの属性を定義します。

TQL 結果により, 属性値が join 定義に定義されている条件を満たしている CI のすべてが取得されます。

たとえば, **Created by** 属性値が「等価」である **IP Address CI** に接続されているすべてのノード CI をリンクする join 定義を作成できます (次の例を参照してください)。

Host	演算子	IP
Created By	等価	Created By

各 join 定義は, join 関係に定義されている条件の 1 つを表しています。

---

**注:** 複数の条件を定義できます。

---

結合定義の例については, 33 ページの「結合関係の定義のシナリオ」を参照してください。結合関係を定義する方法の詳細については, 56 ページの「結合関係の追加結合関係の編集ダイアログ・ボックス」を参照してください。



## サブグラフの定義

サブグラフの定義を使うと、特定の CI に関連する追加の TQL クエリ データを表すグラフを作成できます。DFM ジョブにより、TQL クエリとサブグラフの定義の両方で結果が検索されます。クエリは、サブグラフの定義に一致する、定義された深さのすべての関連 CI を再帰的に取得します。サブグラフの定義の詳細については、95 ページの「サブグラフの定義ダイアログ・ボックス」を参照してください。

グラフでは、特定のクエリ・ノードに接続された関係を定義できます。たとえば、いずれかのクエリ・ノードがノード・タイプである場合は、Windows、ルータ、および IP Address に対して異なる関係を指定できます。クエリ・ノードの属性条件も定義できます。詳細については、93 ページの「サブグラフ条件の定義ダイアログ・ボックス」を参照してください。

DFM ジョブにより、サブグラフに定義された条件に一致するデータが取得されます。

サブグラフの定義の例については、35 ページの「サブグラフ定義の作成のシナリオ」を参照してください。

## ALLOW\_VOLATILITY 修飾子

この修飾子は、値のわずかな差異を許容する属性をマークするために使用します。たとえば、わずかなディスク・サイズの変更 (8.00008 GB から 8.00009 GB への変更) はレポートする必要がない場合があります。

この修飾子でマークされた属性を更新する場合、HP Universal CMDB は新しい値を古い値に照らしてチェックします。このチェックはレコード更新の一部としてサーバ上で実行され、2 つの値の差が許容差異よりも小さい場合は、更新は実行されません (操作は偽の更新とみなされます)。

この修飾子には、許容差異を保持する次のデータ項目のうちの 1 つが含まれている必要があります。

- ▶ **ALLOWED\_DEVIATION\_FIX** : 差異のタイプは、数値属性では属性タイプ、日付属性では整数タイプと同じです。差異は固定値により測定され、その単位は属性値と同じです（日付属性では、差異は秒単位で測定されます）。
- ▶ **ALLOWED\_DEVIATION\_PERCENT** : 差異は割合で測定されます。日付値では、割合のチェックは日付表示のミリ秒に対して行われます。このデータ項目は常に 0 から 100 の範囲の整数値です。

**修飾子を無効にするには、次の手順で行います。**

インフラストラクチャ設定マネージャにアクセスします（**[マネージャ]** > **[管理]** > **[インフラストラクチャ設定マネージャ]**）。**[ボラティリティを許可]** オプションに移動します。値を **False** に変更します。

---

---

## タスク

---

---

### TQL クエリの定義

このタスクでは、モデリング・スタジオで TQL クエリを作成する方法について説明します。

---

**注:** TQL クエリは、影響ルール、エンリッチメント・ルール、ビュー、テンプレート、パースペクティブの作成時にも作成できます。

---

このタスクには次の手順が含まれます。

- ▶ 27 ページの「TQL クエリの作成」
- ▶ 27 ページの「クエリへのクエリ・ノードと関係の追加」

#### 1 TQL クエリの作成

モデリング・スタジオで **[新規作成]** > **[クエリ]** を選択して、TQL クエリ・エディタを開きます。詳細については、355 ページの「TQL クエリ・エディタ」を参照してください。

#### 2 クエリへのクエリ・ノードと関係の追加

クエリを定義する TQL クエリ・ノードと関係を追加します。TQL クエリ・ノードは CI タイプ・マネージャで定義される CIT を表します。関係はノード間の接続を表します。関係は、クエリ内の TQL クエリ・ノードのペアごとに、一度に 1 つずつ定義されます。詳細については、28 ページの「TQL クエリへのクエリ・ノードと関係の追加」を参照してください。

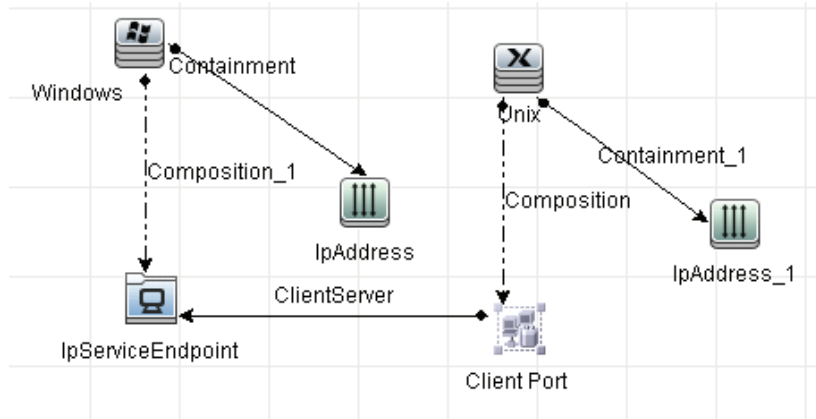
---

**注:** クエリ・ノードからそのノード自身への自己関係も定義できます。

---

TQL クエリ定義の例を次に示します。

関係の方向は、クエリ・ノード間の依存関係を示します。次の例は、クライアントとサーバの関係によって相互にリンクされた2つのノード、1つのIPサービス・エンドポイント、1つのクライアント・ポートを示しています。TQL クエリ結果は、矢印の方向に適合する必要があります。



**注:** TQL クエリは一定の検証制限を受けます。詳細については、97 ページの「トラブルシューティングと制限事項」を参照してください。

## TQL クエリへのクエリ・ノードと関係の追加

このセクションでは、クエリ・ノードと関係を TQL クエリに追加する方法について説明します。これには影響分析マネージャ、エンリッチメント・マネージャ、モデリング・スタジオが関係します。

---

**注:** TQL クエリを有効にするために、TQL クエリが特定の制限に従う必要があります。詳細については、97 ページの「トラブルシューティングと制限事項」を参照してください。

---

クエリ・ノードと関係を TQL クエリに追加するには、次の手順で行います。



- 1 影響分析マネージャまたはエンリッチメント・マネージャで左側の表示枠のツリーから必要なクエリを選択し、**[新規作成]** ボタンをクリックして新しく作成します。

モデリング・スタジオの左側の表示枠で **[リソース]** タブを選択し、クエリを **[リソース タイプ]** として選択してツリーから必要なクエリを選択するか、**[新規作成]** > **[クエリ]** をクリックして新しいクエリを作成します。

- 2 影響分析マネージャまたはエンリッチメント・マネージャで **CI タイプ**・セレクトクタに表示されているツリーから必要な **TQL クエリ・ノード** を 1 つ以上クリックして、編集表示枠にドラッグします。モデリング・スタジオの左側の表示枠で **[CI タイプ]** タブを選択し、必要な **TQL クエリ・ノード** をツリーから編集表示枠にドラッグします。これらの **TQL クエリ・ノード** がクエリに含まれます。

- 3 2 つのクエリ・ノードの間に関係を追加するには、次の手順で行います。

- ▶ **CTRL** キーを押しながら **TQL クエリ・ノード** をクリックして必要な **TQL クエリ・ノード** を選択し、右クリックして **[関係の追加]** を選択します。**[関係の追加]** ダイアログ・ボックスが開きます。必要な関係を選択してください。詳細については、59 ページの「**関係の追加 / 編集ダイアログ・ボックス**」を参照してください。

または



- ▶ **[関係を作成]** アイコンをクリックし、必要なクエリ・ノードの間に線を引きます。**[関係のタイプを選択]** ダイアログ・ボックスが開きます。必要な関係のタイプを選択してください。詳細については、92 ページの「**関係のタイプを選択ダイアログ・ボックス**」を参照してください。
- 4 **[OK]** をクリックします。選択したクエリ・ノードが、選択した関係によってリンクされます。

## 複合関係の定義のシナリオ

このセクションでは、**IP Subnet CI** と **IP Address CI** の間に複合関係を形成する、許容される手順の定義方法について説明します。

---

**注:** 必要な結果に到達するためには、次のそれぞれの手順を実行する必要があります。

---

**IP Subnet CI と IP Address CI の間に複合関係を定義するには、次の手順で行います。**

- 1 タイプ・ビューの TQL クエリを作成し、編集表示枠に次のクエリ・ノードをドラッグします。
  - ▶ IP Subnet
  - ▶ IP Address
- 2 **[IP Subnet]** と **[IP Address]** のクエリ・ノードを右クリックし、**[複合関係の追加]** を選択して **[複合関係の追加]** ダイアログ・ボックスを開きます。
- 3 **[追加]** ボタンをクリックします。エンリッチメント・マネージャおよび影響分析マネージャで **[トリプレットの追加]** ダイアログ・ボックスが開きます。モデリング・スタジオ内のテーブルに行が追加されます。次の選択を行います。
  - ▶ **[ソース]** リストで、**[IP Subnet]** を選択します。
  - ▶ **[ターゲット]** リストで、**[Node]** を選択します。
  - ▶ **[関係]** リストで、**[Membership]** を選択します。
  - ▶ 必要な**関係**の方向を選択します。







エンリッチメント・マネージャおよび影響分析マネージャで **[OK]** をクリックして変更内容を保存します。

- 4 もう一度 **[追加]** ボタンをクリックし、次の選択を行います。
  - ▶ **[ソース]** リストで、**[Node]** を選択します。
  - ▶ **[ターゲット]** リストで、**[IP Address]** を選択します。
  - ▶ **[関係]** リストで、**[Containment]** を選択します。

- ▶ 必要な**関係**の方向を選択します。

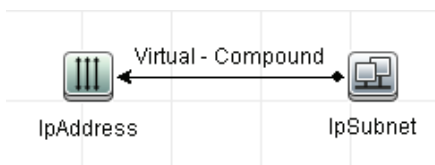
エンリッチメント・マネージャおよび影響分析マネージャで **[OK]** をクリックして変更内容を保存します。

次の例は、変更後の複合定義を示しています。

Source	Relationship	Target
 IpSubnet	 Membership	 Node
 Node	 Containment	 IpAddress

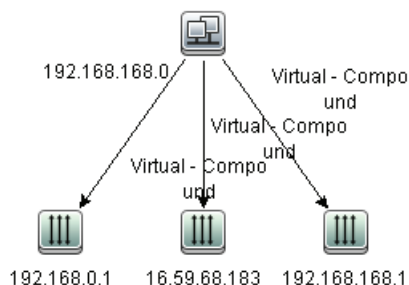
- [OK]** をクリックして、変更内容を保存します。

編集表示枠内の TQL クエリは、次のように表示されます。



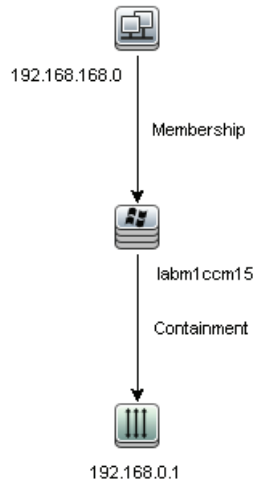
- TQL クエリに基づいてビューを作成し、保存します。

- IT ユニバース・マネージャで必要なビューに移動して結果を表示します。**ソースおよびターゲット CI の間にフルパスを表示**オプションを選択していない場合は、関係の実際の名前ではなく、CI をリンクする関係の名前が **Virtual-Compound** として結果に表示されます。次の図を参照してください。



## 第1章・トポジクエリ言語

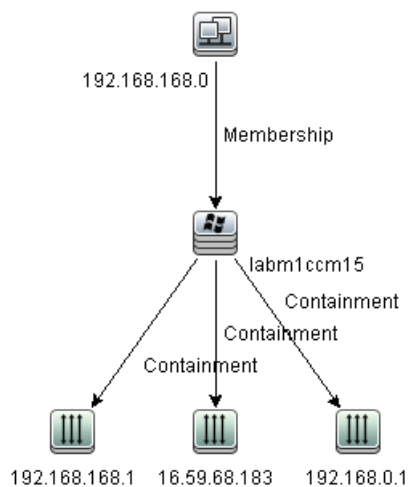
IT ユニバース・マネージャで [Virtual - Compound] 関係をダブルクリックしてリンク・マップを開きます。このマップには、IP Subnet CI と IP Address CI をリンクするために使用可能な手順を形成する、CI と関係が表示されます。



前述の例では、**192.168.168.0** (IP Subnet) CI は、**labm1ccm15** (ノード) CI を通じて **192.168.0.1** (IP Address) CI にリンクされています。



[ソースおよびターゲット CI の間にフルパスを表示] オプションを選択した場合、IT ユニバースの結果には、CI をリンクする関係の実際の名前と、ソース CI とターゲット CI の間のフル・パスが表示されます。次の図を参照してください。



## 結合関係の定義のシナリオ

このセクションでは、**Created by** 属性値が等しい **Node CI** と **IP Address CI** をリンクする結合関係を定義する方法について説明します。

---

**注：**必要な結果に到達するためには、次のそれぞれの手順を実行する必要があります。

---

**Created by 属性値が等しい IP Address CI と Node CI をすべてリンクする結合関係を定義するには、次の手順で行います。**

1 TQL クエリを作成し、次のクエリ・ノードを CI タイプ・セレクタから編集表示枠にドラッグします。

- ▶ Node
- ▶ IP Address

2 [Node] および [IP Address] クエリ・ノードを選択し、右クリックして [結合関係の追加] ダイアログ・ボックスを開きます。



3 [追加] ボタンをクリックし、テーブルに行を追加し、次の操作を実行します。

- ▶ [Node 属性] ボックスで [Created by] を選択します。
- ▶ 演算子ボックスで、等価を選択します。
- ▶ [IPAddress 属性] ボックスで [Created by] を選択します。

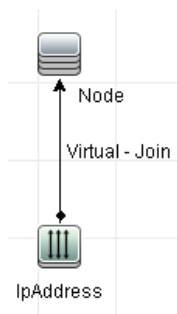
エンリッチメント・マネージャおよび影響分析マネージャの [関係条件を結合] ダイアログ・ボックスで、これらの選択を行います。

[定義の結合] 領域は、次のように表示されます。

Host	演算子	IP
Created By	等価	Created By

4 [OK] をクリックして、変更内容を保存します。

編集表示枠内の TQL クエリは、次のように表示されます。



## サブグラフ定義の作成のシナリオ

本項では、サブグラフの定義を作成する方法について説明します。この例では、TQL クエリの結果として、**包含**関係によりビジネス・サービス CI と接続される、深さ 3 までのすべての CI が取得されます。

---

**注：**必要な結果に到達するためには、次のそれぞれの手順を実行する必要があります。

---

**このサンプルのサブグラフの定義を作成するには、次の手順を実行します。**

- 1 TQL クエリを作成し、[Business Service] タイプのクエリ・ノードを編集表示枠にドラッグします。
- 2 [Business Service] クエリ・ノードを右クリックし、[サブグラフの定義] を選択して [サブグラフの定義] ダイアログ・ボックスを開きます。



- 3 **[追加]** ボタンをクリックします。エンリッチメント・マネージャおよび影響分析マネージャで [トリプレットの追加] ダイアログ・ボックスが開きます。モデリング・スタジオ内のテーブルに行が追加されます。次の選択を行います。
  - ▶ **[ソース]** ドロップダウン・リストで、[Managed Object] を選択します。
  - ▶ **[ターゲット]** ドロップダウン・リストで、[Managed Object] を選択します。
  - ▶ **[関係]** ドロップダウン・リストで、[Containment] を選択します。
  - ▶ 関係の方向を左から右に設定します。

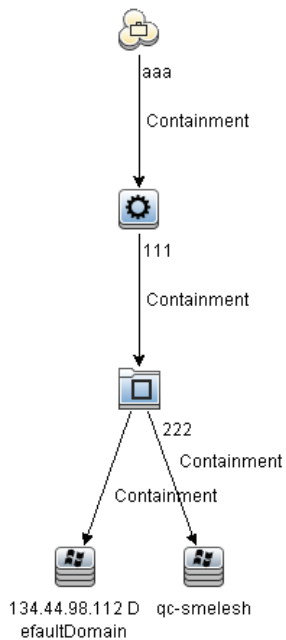
エンリッチメント・マネージャおよび影響分析マネージャで **[OK]** をクリックして変更内容を保存します。

[サブグラフの定義] ダイアログ・ボックスが、次のように表示されます。

ソース	関係	ターゲット
 IT Universe	 Container link	 IT Universe
 IT Universe	 Contains	 IT Universe
 IT Universe	 Contained	 IT Universe

- 4 **[深さ]** の設定を **[3]** に設定します。
- 5 [サブグラフの定義] ダイアログ・ボックスで **[OK]** をクリックします。

IT ユニバース・マネージャで必要なビューに移動して結果を表示します。



結果として、ビジネス・サービス CI **aaa** と、Containment 関係によってそれに連続してリンクされる、レベル 3 までのすべての CI が表示されます。

---



---

## 参照先

---




---

### ショートカット・メニュー・オプション

このセクションでは、TQL クエリのショートカット・メニューのオプションのリストを紹介します。


UI 要素 (A-Z)	説明
計算された関係を追加	<p>計算された関係を作成できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 計算された関係を作成する方法の詳細については、493 ページの「[トリプレット] ページ」を参照してください。</li> <li>▶ 影響モデリングの詳細については、103 ページの「計算された関係の使用」を参照してください。</li> </ul>
複合関係の追加	<p>複合関係を使用して 2 つのクエリ・ノード間の接続を定義できます。</p> <p>詳細については、52 ページの「[複合関係の追加] / [複合関係の編集] ダイアログ・ボックス」を参照してください。</p>
結合関係の追加	<p>結合関係を定義できます。結合関係は、各クエリ・ノードに属性を定義して作成します。これらのクエリ・ノード値は連携時の比較に使用されます。</p> <p>詳細については、56 ページの「結合関係の追加結合関係の編集ダイアログ・ボックス」を参照してください。</p>
[関連クエリ ノードを追加] ウィザード	<p>[関連クエリ ノードを追加] ウィザード・ダイアログ・ボックスが表示されます。このウィザードでは TQL クエリを作成できます。詳細については、61 ページの「[関連クエリ ノードを追加] ウィザード」を参照してください。</p>

UI 要素 (A-Z)	説明
<p><b>関係の追加</b></p>	<p>定義済みリストから関係を選択することによって、クエリ・ノードの関係を作成できます。[関係の追加] ダイアログ・ボックスが表示されます。</p> <p>詳細については、59 ページの「関係の追加 / 編集ダイアログ・ボックス」を参照してください。</p> <p><b>注:</b> エンリッチメント・マネージャでは、<b>エンリッチメント・モード</b>で作業している場合、このオプションを設定するとエンリッチメント関係がルールに追加されます。通常のクエリ・ノードとエンリッチメント・クエリ・ノードに適用されます。詳細については、507 ページの「エンリッチメント・マネージャ」を参照してください。追加した関係には、追加済みであることを示す  インジケータが表示されます。</p>
<p><b>階層に追加</b></p>	<p>選択したクエリ・ノードを分離されたクエリ・ノードとして階層に追加します。</p> <p><b>注:</b> モデリング・スタジオにのみ関連します。</p>
<p><b>モデル出力に追加</b></p>	<p>選択したクエリ・ノードをパターン・ベースのモデルの出力として指定します。</p> <p><b>注:</b> モデリング・スタジオ内のパターン・ベースのモデルにのみ関連します。</p>
<p><b>ノード要素タイプ / 関係タイプを変更</b></p>	<p>[ノード要素タイプの変更] ダイアログ・ボックスが表示されます。クエリ・ノードの作成後にクエリ・ノードの CI タイプを変更できます。詳細については、303 ページの「[ノード要素タイプ / 関係タイプを変更] ダイアログ・ボックス」を参照してください。</p> <p><b>注:</b> モデリング・スタジオにのみ関連します。</p>
<p><b>クリア</b></p>	<p>利用するには、エンリッチメント・マネージャの<b>エンリッチメント・モード</b>で作業しているときに、クエリ・ノードまたは関係を右クリックします。クエリ・ノードまたは関係のエンリッチメント・ルールの定義がクリアされます。詳細については、507 ページの「エンリッチメント・マネージャ」を参照してください。</p> <p>エンリッチメント・ルールを使用してクエリ・ノードまたは関係を更新または削除した場合にのみ表示されます。</p> <p><b>注:</b> エンリッチメント・マネージャにのみ関連します。</p>

UI 要素 (A-Z)	説明
コピー / 貼り付け	<p>既存の TQL クエリ・ノードまたは関係を同じクエリ内で、または別の TQL クエリにコピーまたは貼り付けします。</p> <p>コピーした TQL クエリ・ノードまたは関係には、TQL 定義がすべて含まれています。</p> <p>関係をコピー、貼り付けするには、関係の接続先である TQL クエリ・ノードも選択している必要があります。接続先の TQL クエリ・ノードがない単独の関係は、コピーできません。</p> <p>複数の TQL クエリ・ノードまたは関係を選択することもできます。</p> <p><b>注：</b> [貼り付け] オプションは、[コピー] オプションを使用して既存の TQL クエリ・ノードまたは関係をコピーした後でのみ利用できます。</p>
影響を受けるものを定義	<p>TQL クエリでトリガ影響分析クエリ・ノードになるクエリ・ノードと、システムで発生する変更の影響を受けるクエリ・ノードを定義します。詳細については、455 ページの「[影響を受けるクエリ ノード] ダイアログ・ボックス」を参照してください。</p> <p><b>注：</b> 影響分析マネージャにのみ関連します。</p>
削除	<p>選択したクエリ・ノード、関係、または CI が削除されます。</p> <p><b>注：</b> このオプションは、計算された関係には利用できません。</p>
関係 / クエリ ノードを削除	<p>利用するには、<b>エンリッチメント</b>・モードで作業しているときに、クエリ・ノードまたは関係を右クリックします。</p> <p>CI または関係を CMDB から削除するように設計された特定のエンリッチメント・ルールが作成されます。通常のクエリ・ノードと関係にのみ適用されます。このオプションは、たとえば、不必要なデータを CMDB から削除するのに使用できます。詳細については、507 ページの「エンリッチメント・マネージャ」を参照してください。</p> <p>削除したクエリ・ノードと関係には、削除済みを示す <input type="checkbox"/> インジケータが表示されます。</p> <p><b>注：</b> エンリッチメント・マネージャにのみ関連します。</p>

UI 要素 (A-Z)	説明
<p><b>関係を編集</b></p>	<p>[関係タイプを詳細化] ダイアログ・ボックスが表示されません。詳細については、91 ページの「[クエリ ノード タイプの再設定] ダイアログ・ボックス」を参照してください。</p> <p><b>注:</b> モデリング・スタジオには関連しません。</p> <p><b>注:</b> このオプションは、選択した関係に子孫がある場合のみ表示されます。</p>
<p><b>クエリ ノード / 関係のプロパティ</b></p>	<p>[クエリ ノード / 関係のプロパティ] ダイアログ・ボックスが表示され、選択した TQL クエリ・ノードまたは関係の属性条件を定義できます。詳細については、80 ページの「[クエリ ノード / 関係のプロパティ] ダイアログ・ボックス」を参照してください。</p> <p><b>注:</b> このオプションは、計算された関係には利用できません。</p>
<p><b>クエリ ノード タイプの再設定</b></p>	<p>[クエリ ノード タイプの再設定] ダイアログ・ボックスが表示されます。クエリ・ノードの作成後にクエリ・ノードの CI タイプを変更できます。詳細については、91 ページの「[クエリ ノード タイプの再設定] ダイアログ・ボックス」を参照してください。</p> <p><b>注:</b> このオプションは、CI タイプの子が存在する場合のみ表示されます。影響分析マネージャおよびエンリッチメント・マネージャにのみ関連します。</p>
<p><b>サブグラフを削除</b></p>	<p>サブグラフを定義している場合のみ表示されます。詳細については、95 ページの「サブグラフの定義ダイアログ・ボックス」を参照してください。</p>
<p><b>影響を受けるものをリセット</b></p>	<p>該当するクエリ・ノードに適用されている [影響を受けるものを定義] の定義が削除されます。[影響を受けるものを定義] の定義の詳細については、455 ページの「[影響を受けるクエリ ノード] ダイアログ・ボックス」を参照してください。</p> <p><b>注:</b> 影響分析マネージャにのみ関連します。</p>
<p><b>内部関係をリセット</b></p>	<p>見やすいように、トポロジ・マップの自己参照の関係を四角形に再描画します。</p> <p><b>注:</b> 四角形でない自己参照の関係にのみ関連します。</p>



UI 要素 (A-Z)	説明
<b>コンタクトクエリノードとして設定</b>	<p>選択したクエリ・ノードをパースペクティブのコンタクト・クエリ・ノードとして指定します。</p> <p><b>注:</b> モデリング・スタジオのパースペクティブにのみ関連します。</p>
<b>データ・ソースの設定</b>	<p>[データソースの設定] ダイアログ・ボックスが表示され、TQL クエリ・ノードの必要なデータ・ソースを選択できます。</p> <p><b>注:</b> モデリング・スタジオにのみ関連します。</p>
<b>要素を非表示設定</b>	<p>このオプションを選択すると、編集表示枠で選択した TQL クエリ・ノードの右に非表示のインジケータ  が表示されます。</p> <p>TQL クエリ・ノードに属するクエリ結果は、トポロジ・マップに表示されません。これは、特定の関係や TQL クエリ・ノードがクエリの構築には必要であるが結果には必要でないという場合に便利です。ビューを有効にするには、少なくとも1つのクエリ・ノードが表示状態である必要があります。</p> <p><b>注:</b> モデリング・スタジオにのみ関連します。</p>
<b>要素を表示設定</b>	<p>このオプションを選択すると、TQL クエリ・ノードに属するクエリ結果がトポロジ・マップに表示されます。</p> <p><b>注:</b> モデリング・スタジオにのみ関連します。</p>
<b>要素インスタンスの表示</b>	<p>[要素インスタンス] ダイアログ・ボックスが表示され、テーブル内の各クエリ・ノードに対して検出されたインスタンスがすべて表示されます。詳細については、73 ページの「要素インスタンス ダイアログ・ボックス」を参照してください。</p>
<b>パラメータを表示</b>	<p>[テンプレートパラメータ値] ダイアログ・ボックスが表示され、クエリ・ノードのパラメータ値を設定できます。</p> <p><b>注:</b> モデリング・スタジオ内のテンプレート・ベースのビューにのみ関連します。</p>
<b>サブグラフの定義</b>	<p>[サブグラフの定義] ダイアログ・ボックスが表示され、特定のクエリ・ノードに関連する追加の TQL クエリ・データを表すグラフを作成できます。詳細については、95 ページの「サブグラフの定義ダイアログ・ボックス」を参照してください。</p>

UI 要素 (A-Z)	説明
<b>関係を更新 / クエリ・ノードを更新</b>	<p>エンリッチメント・ルールを使用して、CMDB 内の CI 属性の値を更新するか、現在値が設定されていない属性にデータを追加します。[クエリ ノード定義 - 属性] ダイアログ・ボックスが開きます。詳細については、531 ページの「[クエリ ノード定義], [関係の定義] ダイアログ・ボックス」を参照してください。これは、通常のクエリ・ノードとエンリッチメント・クエリ・ノードの両方に適用されます。</p> <p>更新されたクエリ・ノードには、更新されたことを示す <input checked="" type="checkbox"/> インジケータが表示されます。</p> <p><b>注:</b> エンリッチメント・マネージャにのみ関連します。</p>

## 属性演算子の定義

このセクションでは、[サブグラフ条件] ダイアログ・ボックス、[関係の追加] ダイアログ・ボックス、[影響ルール定義] ダイアログ・ボックス、または [クエリ ノード / 関係のプロパティ] ダイアログ・ボックスなど、さまざまなダイアログ・ボックスで属性条件の定義に使用する演算子のリストを紹介します。

演算子	説明
<b>途中で変更</b>	(日付の属性タイプを選択した場合にのみ表示) <b>値の比較</b> ボックスで指定した期間内に変更されたインスタンスのみが表示されます。
<b>等価</b>	属性値が <b>値の比較</b> ボックスで指定した値に等しいかどうかチェックされます。
<b>大文字小文字を無視して等価</b>	属性値が、値ボックスで指定した値に等しいかどうかチェックされます。大文字と小文字は区別されません。
<b>より大きいか等しい</b>	属性値が <b>値の比較</b> ボックスで指定した値以上かどうかチェックされます。
<b>より大きい</b>	属性値が <b>値の比較</b> ボックスで指定した値より大きいかどうかチェックされます。

演算子	説明
含む	この属性値が選択した値のいずれかに等しいインスタンスのみが表示されます。たとえば、CIの[Change Status]がPlanおよびNew,に等しい場合、演算子の <b>含む</b> を <b>演算子</b> リストから選択し、 <b>Plan</b> と <b>New</b> の両方を <b>値</b> ボックスで選択します。
null	属性値がNULLかどうかチェックされます。
より小さい	属性値が <b>値の比較</b> ボックスで指定した値より小さいかどうかチェックされます。
より小さいか等しい	属性値が <b>値の比較</b> ボックスで指定した値以下かどうかチェックされます。
類似	ワイルドカード (%) を使用します。検索対象の名前が一部しかわからないときに <b>類似</b> を使用します。
類似で大文字小文字を区別しない	ワイルドカード (%) を使用します。検索対象の名前が一部しかわからないときに [類似で大文字小文字を区別しない] を使用します。文字列の大文字と小文字は無視されます。
不等価	属性値が <b>値の比較</b> ボックスで指定した値に等しくないかどうかチェックされます。
途中で変更なし	(日付タイプの属性を選択したときに表示されます) <b>値の比較</b> ボックスで指定した期間内に変更されなかったインスタンスのみが表示されます。

**注：**

- ▶ **不等価**演算子については、クエリ結果には値が割り当てられていない CI インスタンスからのデータは含まれません。たとえば、システムに 3 つのノードがあり、ノード 1 には値 A、ノード 2 には値 B がそれぞれ割り当てられ、ノード 3 には値が割り当てられていないとします。この場合、A と **不等価**である値を持つすべてのノードを取得するクエリを作成すると、ノード 3 には値が割り当てられていないため、ノード 2 のみがクエリ結果に含まれることとなります。
  - ▶ HP Universal CMDB では、Microsoft SQL Server と Oracle データベースの両方がサポートされています。Microsoft SQL Server では、標準設定で大文字と小文字が区別されません (Oracle データベースでは大文字と小文字が区別されます)。その結果、Microsoft SQL Server を使用する場合は、**等価**演算子を使うと、**大文字小文字を無視して等価**演算子と同じクエリ結果が取得されます。たとえば、**City** 属性を選択し、**等価**演算子を選択して**値の比較**ボックスに **NEW YORK** と入力すると、大文字と小文字の区別は無視されて、クエリ結果には **NEW YORK**、**New York** および **new york** が含まれます。
- 

## TQL ログ

本項では、TQL パラメータのログ ファイルの定義について説明します。

本項の内容

- ▶ 45 ページの「パターン・ログ」
- ▶ 46 ページの「パターン統計情報ログ」
- ▶ 46 ページの「監査簡略ログ / 監査詳細ログ (TQL の観点)」
- ▶ 47 ページの「増分統計ログ」
- ▶ 48 ページの「増分スプリッタ・ログ」
- ▶ 49 ページの「増分詳細ログ」

## パターン・ログ

ログ名は `cmdb.pattern.log` です。

ログ・ファイル	説明
目的	<p>CMDB で処理, 計算される TQL クエリのライフサイクルに関する情報です。</p> <p>CMDB に格納されている TQL クエリのみが含まれます。一時的な TQL クエリに関する情報は含まれません。</p>
情報レベル	利用不可。
エラー・レベル	利用不可。
デバッグ・レベル	<p>各 TQL クエリに対して利用できるアクションは, 次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ ステータス変更</li> <li>▶ モデル変更</li> <li>▶ クエリ変更</li> <li>▶ 完了した計算</li> </ul>
基本的なトラブルシューティング	<p>TQL クエリが長期間同じステータスを保持していないかをチェックします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>new</b>: クエリは遅延ロード中です。</li> <li>▶ <b>inactive</b></li> <li>▶ <b>calculation</b>: 計算が失敗した可能性があるのに, スケジューラに通知されていません。</li> </ul> <p>また, TQL クエリが受信した通知の数を表示することもできます。</p>

## パターン統計情報ログ

ログ名は `cmdb.pattern.statistics.log` です。

ログ・ファイル	説明
目的	各 TQL クエリの一般的な計算データで、あらかじめ定義された間隔で更新されます。
情報レベル	次の情報が各 TQL クエリに与えられます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 名前</li> <li>▶ 平均計算時間, 最短計算時間, および最長計算時間</li> <li>▶ 計算の数</li> <li>▶ 最終計算時間</li> <li>▶ 結果のサイズ</li> </ul>
エラー・レベル	利用不可。
デバッグ・レベル	利用不可。
基本的なトラブルシューティング	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 特定の TQL クエリが更新されたかどうかを検証します。</li> <li>▶ TQL クエリの計算時間を評価します。</li> <li>▶ TQL クエリの結果のサイズを評価します。</li> </ul>

## 監査簡略ログ / 監査詳細ログ (TQL の観点)

ログ名前は、`cmdb.audit.short.log` ログです。

ログ・ファイル	説明
目的	CMDB の状態の変更, CI タイプの変更, および TQL クエリの結果です。 このログを使用すると, TQL クエリの結果を追跡できます。
情報レベル	利用不可。
エラー・レベル	利用不可。

ログ・ファイル	説明
デバッグ・レベル	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ TQL クエリの最終計算がログに記録されます。</li> <li>▶ 最終の TQL クエリ計算が直前の計算から変化していない場合は、その事実が記録されます。</li> <li>▶ 最終の TQL クエリ計算が直前の計算から変化している場合は、CI および関係の結果が詳細ログに記録されます。CI および関係の数は簡略ログに記録されます。</li> </ul>
基本的なトラブルシューティング	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ このログを使用して、TQL クエリ・サブシステムがどのような通知を発行したかを確認します。</li> <li>▶ それぞれの結果の最後にあるセクションをチェックします。このセクションには、追加、削除、または更新された CI および関係が含まれています。</li> <li>▶ CIT の変化を追跡して、クエリ結果も変化したかどうかを調べます。こうすることで、CIT の変化をクエリ計算の結果に関連付けられます。</li> </ul>

## 増分統計ログ

ログ名は `cmdb.incremental.statistics.log` です。

ログ・ファイル	説明
目的	各クエリの計算手順（完全または増分）を追跡します。
情報レベル	利用不可。
エラー・レベル	利用不可。

ログ・ファイル	説明
デバッグ・レベル	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 日付, 時刻, クエリ名, および増分統計の計算が実行されたかどうか (yes/no) が記録されます。</li> <li>▶ 増分統計の計算が実行されなかった場合は, その理由, 副計算の数 (増分計算にのみ該当), および完全な計算時間が記録されます。</li> </ul>
基本的なトラブルシューティング	<p>計算プロセスを監視します。</p> <p>特定のクエリの計算に長い時間がかかる場合は, その計算が完全か増分かをチェックします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 完全な計算の場合は, 完全な計算が必要かどうかをチェックします。</li> <li>▶ 増分の場合は, 実行された副計算の数をチェックします。</li> </ul>

### 増分スプリッタ・ログ

ログ名は `cmdb.incremental.splitter.log` です。

ログ・ファイル	説明
目的	増分計算の最中に行われた増分スプリッタの結果を監視します。
情報レベル	利用不可。
エラー・レベル	利用不可。
デバッグ・レベル	増分スプリッタによって作成された各クエリ・グラフのクエリ・ノード番号のセットが記録されます。
基本的なトラブルシューティング	増分計算による TQL 結果が誤っている場合は, スプリッタの結果が正しいかどうかを検証します。



## 増分詳細ログ

ログ名は `cmdb.incremental.detailed.log` です。

ログ・ファイル	説明
目的	増分計算プロセスを監視します。
情報レベル	利用不可。
エラー・レベル	利用不可。
デバッグ・レベル	それぞれの増分副計算エントリには、次の要素が含まれます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ トリガ・クエリ・ノード</li> <li>▶ トリガ・クエリ・ノードと分類された要素の数</li> <li>▶ 副計算ステップが、モデルに追加された新しい要素によって行われたか、それとも既存の要素によって行われたか</li> <li>▶ 計算されたクエリ グラフ</li> </ul>
基本的なトラブルシューティング	増分計算の基本手順に従います。

## トポロジ・クエリ言語のユーザ・インタフェース


本項の内容

- ▶ 50 ページの「[計算された関係を追加] / [計算された関係を編集] ダイアログ・ボックス」
- ▶ 52 ページの「[複合関係の追加] / [複合関係の編集] ダイアログ・ボックス」
- ▶ 56 ページの「結合関係の追加結合関係の編集ダイアログ・ボックス」
- ▶ 59 ページの「関係の追加 / 編集ダイアログ・ボックス」
- ▶ 69 ページの「トリプレットの追加ダイアログ・ボックス」
- ▶ 73 ページの「要素インスタンス ダイアログ・ボックス」
- ▶ 76 ページの「CI インスタンスをフィルタダイアログ・ボックス」
- ▶ 77 ページの「関係条件を結合ダイアログ・ボックス」

- ▶ 79 ページの「レイアウト設定ダイアログ・ボックス」
- ▶ 80 ページの「[クエリ ノード / 関係のプロパティ] ダイアログ・ボックス」
- ▶ 91 ページの「[クエリ ノード タイプの再設定] ダイアログ・ボックス」
- ▶ 93 ページの「サブグラフ条件の定義ダイアログ・ボックス」
- ▶ 95 ページの「サブグラフの定義ダイアログ・ボックス」
- ▶ 61 ページの「[関連クエリ ノードを追加] ウィザード」
- ▶ 97 ページの「[ユーザ プリファレンス] ダイアログ・ボックス」




## [計算された関係を追加] / [計算された関係を編集] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、CI タイプ・モデルから計算された関係を使用して2つのクエリ・ノード間の接続を定義できます。

<b>利用方法</b>	<p><b>エンリッチメント・マネージャ、影響分析マネージャ、モデリング・スタジオで利用するには、次の手順で行います。</b> エンリッチメント・マネージャ、影響分析マネージャ、またはモデリング・スタジオの編集表示枠で必要なクエリ・ノードを右クリックし、<b>[計算された関係を追加]</b>を選択します。</p> <p><b>注：</b>エンリッチメント・マネージャを使用している場合は、編集表示枠の上部で<b>クエリ・モード</b>を選択して<b>[計算された関係を追加]</b>オプションを表示します。</p> <p><b>データ・フロー管理 (DFM) のアダプタ管理で利用するには、次の手順で行います。</b></p> <ol style="list-style-type: none"><li><b>1</b> [ディスカバリ リソース]表示枠でアダプタを選択します。</li><li><b>2</b> <b>[アダプタ定義]</b> タブで、 <b>[入力クエリの編集]</b> ボタン (<b>[入力クエリ]</b> ボックスの右) をクリックし、[入力クエリ エディタ] を開きます。</li><li><b>3</b> 必要なクエリ・ノードを右クリックして <b>[計算された関係を追加]</b> を選択します。</li></ol>
-------------	--

関連タスク	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 442 ページの「影響ルールの定義 - ワークフロー」</li> <li>▶ 510 ページの「エンリッチメント・ルールの定義 - シナリオ」</li> <li>▶ 27 ページの「TQL クエリの定義」</li> <li>▶ 『HP Universal CMDB 開発者向けリファレンス・ガイド』の「ディスカバリ・アダプタの実装」</li> <li>▶ 285 ページの「パターン・ビューの作成」</li> <li>▶ 286 ページの「テンプレートの作成」</li> <li>▶ 288 ページの「パースペクティブの作成」</li> </ul>
関連情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 103 ページの「計算された関係の使用」</li> <li>▶ 468 ページの「CI タイプの関係」</li> </ul>


ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

UI 要素 (A-Z)	説明
	[すべてを展開] をクリックすると、ツリー内のすべてのフォルダが展開されます。
	[すべてを折りたたむ] をクリックすると、ツリー内のすべてのフォルダが折りたたまれます。
 ツリー ビュー	[ツリー ビュー] をクリックして、計算された関係ツリーの表示形式を選択します。次のオプションを利用できます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 表示ラベル</li> <li>▶ クラス名</li> <li>▶ 旧クラス名</li> </ul>
< 計算された関係ツリー >	2 つのクエリ・ノード間の接続を定義する計算された関係を選択します。
関係の方向	クエリ・ノード間の依存関係を表す関係の方向です。
関係名	計算された関係の名前です。

UI 要素 (A-Z)	説明
<b>関係の制限</b>	<p>クエリ結果において同一クエリ・ノード間の関係、または自己関係を処理する方法を定義するオプションを選択します。自己関係とは、あるクエリ・ノードから、そのノード自身につながっている関係のことです。</p> <p><b>注:</b> このリストは、1つのクエリ・ノードまたは2つの同一クエリ・ノードを選択したときのみ表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>全関係を許可:</b> すべての関係がクエリ結果に表示されます。</li> <li>▶ <b>自己関係のみを許可:</b> 自己関係（自身へとつながる関係）のみが、クエリ結果に表示されます。</li> <li>▶ <b>非自己関係のみを許可:</b> 自己関係は、クエリ結果に表示されません。</li> </ul>




## [複合関係の追加] / [複合関係の編集] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、複合関係を使用して2つのクエリ・ノード間の接続を定義できます。

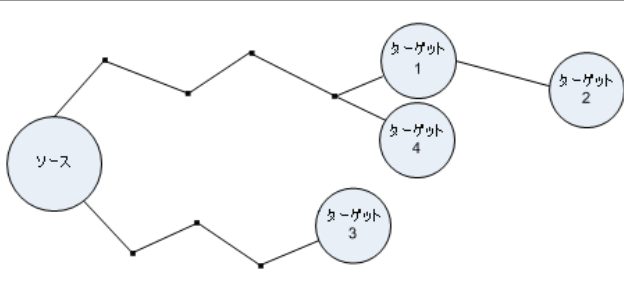
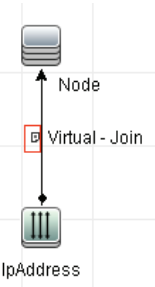
<b>利用方法</b>	<p><b>エンリッチメント・マネージャ、影響分析マネージャ、モデリング・スタジオで利用するには、次の手順で行います。</b></p> <p>エンリッチメント・マネージャ、影響分析マネージャ、またはモデリング・スタジオの編集表示枠で必要なクエリを右クリックし、<b>[複合関係の追加]</b>を選択します。</p> <p><b>注:</b> エンリッチメント・マネージャを使用している場合は、編集表示枠の上部で<b>クエリ・モード</b>を選択して<b>[複合関係の追加]</b> オプションを表示します。</p> <p><b>DFM のアダプタ管理で利用するには、次の手順で行います。</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li><b>1</b> [ディスカバリ リソース] 表示枠でアダプタを選択します。</li> <li><b>2</b> <b>[アダプタ定義]</b> タブで、 <b>[入力クエリの編集]</b> ボタン（<b>[入力クエリ]</b> ボックスの右）をクリックし、<b>[入力クエリエディタ]</b> を開きます。</li> <li><b>3</b> 必要なクエリ・ノードを右クリックして<b>[複合関係の追加]</b>を選択します。</li> </ol>
-------------	---

<b>重要情報</b>	複合定義は、必要な数だけ作成できます。
<b>関連タスク</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 442 ページの「影響ルール of 定義 - ワークフロー」</li> <li>▶ 510 ページの「エンリッチメント・ルール of 定義 - シナリオ」</li> <li>▶ 27 ページの「TQL クエリ of 定義」</li> <li>▶ 『HP Universal CMDB 開発者向けリファレンス・ガイド』の「ディスカバリ・アダプタ of 実装」</li> <li>▶ 285 ページの「パターン・ビュー of 作成」</li> <li>▶ 286 ページの「テンプレート of 作成」</li> <li>▶ 288 ページの「パースペクティブ of 作成」</li> </ul>
<b>関連情報</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 23 ページの「複合関係」</li> <li>▶ 30 ページの「複合関係 of 定義 of シナリオ」</li> </ul>

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。


UI 要素 (A-Z)	説明
	複合定義が追加されます。 影響分析マネージャおよびエンリッチメント・マネージャでは、[トリプレットの追加] ダイアログ・ボックスが開きます。モデリング・スタジオでは、テーブルに標準設定の複合定義が入力されます。定義コンポーネントを編集するには、[編集] をクリックします。
	選択した複合定義が削除されます。
	選択した複合定義を編集します。 影響分析マネージャおよびエンリッチメント・マネージャでは、[トリプレットの追加] ダイアログ・ボックスが開きます。モデリング・スタジオでは、[複合関係 条件 of 定義] ダイアログ・ボックスが開きます。
<b>最大ステップ数</b>	CMDB 内の 2 つの CI 間でディスカバリ・プロセスに含むことが許可されている最長パスです。 <b>標準設定 : 5</b>
<b>最小ステップ</b>	CMDB 内の 2 つの CI 間でディスカバリ・プロセスに含むことが許可されている最短パスです。 <b>標準設定 : 1</b>

UI 要素 (A-Z)	説明
関係	2 つのクエリ・ノードを接続する関係です。
関係の方向	クエリ・ノード間の依存関係を表す関係の方向です。
関係名	複合関係の名前です。
関係の制限	<p>クエリ結果において同一クエリ・ノード間の関係、または自己関係を処理する方法を定義するオプションを選択します 自己関係とは、あるクエリ・ノードから、そのノード自身につながっている関係のことです。</p> <p><b>注：</b>このリストは、1 つのクエリ・ノードまたは 2 つの同一クエリ・ノードを選択したときのみ表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>全関係を許可：</b>すべての関係がクエリ結果に表示されます。</li> <li>▶ <b>自己関係のみを許可：</b>自己関係（自身へとつながる関係）のみが、クエリ結果に表示されます。</li> <li>▶ <b>非自己関係のみを許可：</b>自己関係は、クエリ結果に表示されません。</li> </ul>
ソースおよびターゲット CI の間にフル・パスを表示	このオプションを選択すると、クエリ結果に、CI をリンクする関係の実際の名前と、ソース CI とターゲット CI の間の完全パスが表示されます。
ソース	必須のソース・クエリ・ノードです。

UI 要素 (A-Z)	説明
<b>最初の複合レベルで停止する</b>	<p>このオプションを選択すると、システムがパス内の 1 つ目のターゲットに達したときに、TQL クエリ結果の検索が停止されます。</p> <p>次のサンプルの複合リンク定義では、<b>深度</b>は 10 に定義され、<b>最初の複合レベルで停止する</b>が選択されています。</p>  <p>TQL クエリ結果には、<b>ターゲット 1</b>、<b>ターゲット 3</b>、および<b>ターゲット 4</b>は、すべてレベル 1 (パスで検出される 1 つ目の CI) であるため、これらが含まれています。<b>ターゲット 2</b>は、TQL 結果に含まれていません。ターゲット 2 はレベル 2 (パスで検出される 2 つ目の CI) だからです。</p>
<b>ターゲット</b>	<p>必須のターゲット・クエリ・ノードです。</p>
<b>可視</b>	<p><b>可視</b>を選択すると、結合関係または複合関係に関するクエリ結果が含まれます。標準設定では、<b>可視</b>は選択されています。<b>[可視]</b>をオフにすると、<input type="checkbox"/> 編集表示枠の関係の名前の左にボックスが表示され、その関係に属するクエリ結果はトポジ・マップに表示されないことが示されます。</p> 




## 結合関係の追加結合関係の編集ダイアログ・ボックス

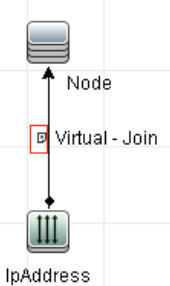
このダイアログ・ボックスでは結合関係を定義できます。

<p><b>利用方法</b></p>	<p><b>エンリッチメント・マネージャ、影響分析マネージャ、モデリング・スタジオで利用するには、次の手順で行います。</b></p> <p>エンリッチメント・マネージャ、影響分析マネージャ、またはモデリング・スタジオの編集表示枠で必要なクエリを右クリックし、<b>[結合関係の追加]</b>を選択します。</p> <p><b>注：</b>エンリッチメント・マネージャを使用している場合は、編集表示枠の上部で<b>クエリ・モード</b>を選択して<b>[結合関係の追加]</b> オプションを表示します。</p> <p><b>DFM のアダプタ管理で利用するには、次の手順で行います。</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li><b>1</b> [ディスカバリ リソース]表示枠でアダプタを選択します。</li> <li><b>2</b> <b>[アダプタ定義]</b> タブで、 <b>[入力クエリの編集]</b> ボタン（<b>[入力クエリ]</b> ボックスの右）をクリックし、<b>[入力クエリエディタ]</b> を開きます。</li> <li><b>3</b> 必要なクエリ・ノードを右クリックして<b>[結合関係の追加]</b>を選択します。</li> </ol>
<p><b>重要情報</b></p>	<p>モデリング・スタジオからダイアログ・ボックスにアクセスした場合、属性および演算子はこのダイアログ・ボックス内で選択します。影響分析マネージャまたはエンリッチメント・マネージャからダイアログ・ボックスにアクセスした場合、属性および演算子は<b>[関係条件を結合]</b> ダイアログ・ボックスで選択します。</p>
<p><b>関連タスク</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 442 ページの「影響ルールの定義 - ワークフロー」</li> <li>▶ 510 ページの「エンリッチメント・ルールの定義 - シナリオ」</li> <li>▶ 27 ページの「TQL クエリの定義」</li> <li>▶ 『HP Universal CMDB 開発者向けリファレンス・ガイド』の「ディスカバリ・アダプタの実装」</li> <li>▶ 285 ページの「パターン・ビューの作成」</li> <li>▶ 286 ページの「テンプレートの作成」</li> <li>▶ 288 ページの「パースペクティブの作成」</li> </ul>
<p><b>関連情報</b></p>	<p>24 ページの「結合関係」</p> <p>33 ページの「結合関係の定義のシナリオ」</p>





ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

UI 要素 (A-Z)	説明
	結合定義を定義します。影響分析マネージャおよびエンリッチメント・マネージャでは、[関係条件の結合] ダイアログ・ボックスが開きます。モデリング・スタジオでは、選択した属性および演算子がリストに追加されます。
	選択した結合定義が削除されます。
	結合定義を編集します。[関係条件を結合] ダイアログ・ボックスが開きます。 <b>注:</b> このオプションはモデリング・スタジオには関連しません。
<クエリノード1属性> ボックス	<end_1> クエリ・ノードの属性を選択します。 <b>注:</b> このオプションはモデリング・スタジオでのみ使用できます。
<クエリノード2属性> ボックス	<end_2> クエリ・ノードの属性を選択します。 <b>注:</b> このオプションはモデリング・スタジオでのみ使用できます。
<選択したクエリノード1> カラム	選択したクエリ・ノード。1 つ目の属性は <end_1> に適用されます。
<選択したクエリノード2> カラム	選択したクエリ・ノード。2 つ目の属性は <end_2> に適用されます。
And	すべての結合定義が、 <b>And</b> 演算子でリンクされます。 <b>注:</b> モデリング・スタジオには関連しません。
演算子ボックス	演算子を選択します。使用可能な演算子の詳細については、77 ページの「関係条件を結合ダイアログ・ボックス」を参照してください。 <b>注:</b> このオプションはモデリング・スタジオでのみ使用できます。
演算子カラム	[関係条件を結合] ダイアログ・ボックスで選択した演算子。演算子の定義の詳細については、42 ページの「属性演算子の定義」を参照してください。
関係の方向	クエリ・ノード間の依存関係を表す関係の方向です。

UI 要素 (A-Z)	説明
関係名	結合関係の名前です。
関係の制限	<p>クエリ結果において同一クエリ・ノード間の関係、または自己関係を処理する方法を定義するオプションを選択します。自己関係とは、あるクエリ・ノードから、そのノード自身につながっている関係のことです。</p> <p><b>注：</b>このリストは、1つのクエリ・ノードまたは2つの同一クエリ・ノードを選択したときのみ表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>全関係を許可：</b>すべての関係がクエリ結果に表示されます。</li> <li>▶ <b>自己関係のみを許可：</b>自己関係（自身へとつながる関係）のみが、クエリ結果に表示されます。</li> <li>▶ <b>非自己関係のみを許可：</b>自己関係は、クエリ結果に表示されません。</li> </ul>
可視	<p><b>可視</b>を選択すると、結合関係または複合関係に関係するクエリ結果が含まれます。標準設定では、<b>可視</b>は選択されています。<b>[可視]</b>をクリアすると、編集表示枠の関係の名前の左に非表示のボックス <input type="checkbox"/> が表示されます。関係に属するクエリ結果は、トポロジ・マップに表示されません。</p>  <p>The diagram illustrates a relationship between two nodes. At the top is a server icon labeled 'Node'. At the bottom is a server icon labeled 'IpAddress'. A vertical double-headed arrow connects them, with the text 'Virtual-Join' in the middle. A red square box is drawn around the 'Virtual-Join' text, indicating that this relationship is not visible in the topology map.</p>




## 関係の追加 / 編集ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、TQL クエリ内の 2 つのクエリ・ノード間の接続を定義できます。

<p><b>利用方法</b></p>	<p><b>エンリッチメント・マネージャ、影響分析マネージャ、モデリング・スタジオで利用するには、次の手順で行います。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ エンリッチメント・マネージャ、影響分析マネージャ、またはモデリング・スタジオの編集表示枠で必要なクエリを右クリックし、<b>[関係の追加]</b> を選択します。</li> </ul> <p>または</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>[関係を作成]</b>  アイコンをクリックし、必要なクエリ・ノードの間に線を引きます。<b>[関係のタイプ]</b> を選択し、ダイアログ・ボックスが開きます。<b>[通常の関係]</b> を選択します。</li> </ul> <p><b>注：</b>エンリッチメント・マネージャを使用している場合は、編集表示枠の上部で<b>クエリ・モード</b>を選択して<b>[関係の追加]</b> オプションを表示します。</p> <p><b>DFM のアダプタ管理で利用するには、次の手順で行います。</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li><b>1</b> [ディスカバリ リソース] 表示枠でアダプタを選択します。</li> <li><b>2</b> <b>[アダプタ定義]</b> タブで、 <b>[入力クエリの編集]</b> ボタン（<b>[入力クエリ]</b> ボックスの右）をクリックし、<b>[入力クエリ エディタ]</b> を開きます。</li> <li><b>3</b> 必要なクエリ・ノードを右クリックして <b>[関係の追加]</b> を選択します。</li> </ol>
<p><b>関連タスク</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 442 ページの「影響ルールの定義 - ワークフロー」</li> <li>▶ 510 ページの「エンリッチメント・ルールの定義 - シナリオ」</li> <li>▶ 27 ページの「TQL クエリの定義」</li> <li>▶ 『HP Universal CMDB 開発者向けリファレンス・ガイド』の「ディスカバリ・アダプタの実装」</li> <li>▶ 285 ページの「パターン・ビューの作成」</li> <li>▶ 286 ページの「テンプレートの作成」</li> <li>▶ 288 ページの「パースペクティブの作成」</li> </ul>
<p><b>関連情報</b></p>	<p>このオプションは、選択した 2 つのクエリ・ノード間（または選択した 1 つのクエリ・ノード）に有効な関係がない場合は表示されません。</p>



## 第1章・トポロジクエリ言語

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

UI 要素 (A-Z)	説明
	[ <b>すべてを展開</b> ] をクリックすると、関係ツリー内のすべてのフォルダが展開されます。
	[ <b>すべてを折りたたむ</b> ] をクリックすると、関係ツリー内のすべてのフォルダが折りたたまれます。
 <b>ツリー ビュー</b>	[ <b>ツリー ビュー</b> ] をクリックして、関係ツリーの表示形式を選択します。次のオプションを利用できます。 <ul style="list-style-type: none"><li>▶ 表示ラベル</li><li>▶ クラス名</li><li>▶ 旧クラス名</li></ul>
< <b>関係ツリー</b> >	2つのクエリ・ノード間の接続を定義する関係を選択します。
<b>関係の方向</b>	クエリ・ノード間の依存関係を表す関係の方向です。
<b>関係名</b>	関係の名前です。
<b>関係の制限</b>	クエリ結果において同一クエリ・ノード間の関係、または自己関係を処理する方法を定義するオプションを選択します。自己関係とは、あるクエリ・ノードから、そのノード自身につながっている関係のことです。 <p><b>注：</b>このリストは、1つのクエリ・ノードまたは2つの同一クエリ・ノードを選択したときのみ表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>▶ <b>全関係を許可：</b>すべての関係がクエリ結果に表示されます。</li><li>▶ <b>自己関係のみを許可：</b>自己関係（自身へつながる関係）のみが、クエリ結果に表示されます。</li><li>▶ <b>非自己関係のみを許可：</b>自己関係は、クエリ結果に表示されません。</li></ul>

## [関連クエリ ノードを追加] ウィザード

このウィザードでは TQL クエリを構築できます。

<p><b>利用方法</b></p>	<p><b>エンリッチメント・マネージャ、影響分析マネージャ、モデリング・スタジオで利用するには、次の手順で行います。</b> 編集表示枠で、必要なクエリ・ノードを右クリックし、<b>[関連クエリ ノードを追加]</b> を選択します。</p> <p><b>注：</b>エンリッチメント・マネージャを使用している場合は、編集表示枠の上部で<b>クエリ・モード</b>を選択して<b>[関連クエリ ノードを追加]</b> オプションを表示します。</p> <p><b>DFM のディスカバリ・コントロール・パネルで利用するには、次の手順で行います。</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 [ディスカバリ モジュール] 表示枠でジョブを選択します。</li> <li>2 [プロパティ] タブで [トリガ クエリ] を選択します。 [クエリ エディタを開く]  ボタンをクリックして、<b>[トリガクエリ エディタ]</b> を開きます。</li> <li>3 必要なクエリ・ノードを右クリックして<b>[関連クエリ ノードを追加]</b> ウィザードを選択します。</li> </ol> <p><b>DFM のアダプタ管理で利用するには、次の手順で行います。</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 [ディスカバリ リソース] 表示枠でアダプタを選択します。</li> <li>2 <b>[アダプタ定義]</b> タブで、 <b>[入力クエリの編集]</b> ボタン ([入力クエリ] ボックスの右) をクリックし、[入力クエリ エディタ] を開きます。</li> <li>3 必要なクエリ・ノードを右クリックして<b>[関連クエリ ノードを追加]</b> ウィザードを選択します。</li> </ol>
<p><b>重要情報</b></p>	<p>TQL クエリが空の場合、左側の表示枠の CI タイプ・セレクタまたは [CI タイプ] タブに表示されているツリーから編集表示枠に必要な TQL クエリ・ノードをドラッグします。</p>
<p><b>関連タスク</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 442 ページの「影響ルール of の定義 - ワークフロー」</li> <li>▶ 510 ページの「エンリッチメント・ルールの定義 - シナリオ」</li> <li>▶ 27 ページの「TQL クエリの定義」</li> <li>▶ 『HP Universal CMDB 開発者向けリファレンス・ガイド』の「ディスカバリ・アダプタの実装」</li> <li>▶ 285 ページの「パターン・ビューの作成」</li> <li>▶ 286 ページの「テンプレートの作成」</li> <li>▶ 288 ページの「パースペクティブの作成」</li> </ul>




ウィザード・マップ	<p>[関連クエリ ノードを追加] ウィザードには次のページが含まれています。</p> <p>[関連クエリ ノードのタイプ] ページ &gt; [関係タイプ] ページ &gt; [関連クエリ ノードのプロパティ] ページ &gt; [関連クエリ ノードのインスタンス] ページ</p>
関連情報	20 ページの「トポロジ・クエリ言語 (TQL) の概要」

### [関連クエリ ノードのタイプ] ページ

このウィザード・ページでは、クエリ・ノードを TQL クエリに追加できます。

重要情報	<p>TQL クエリが空の場合は、必要な TQL クエリ・ノードを [構成アイテム タイプ] 表示枠に表示されているツリーから編集表示枠にドラッグします。</p> <p>[関連クエリ ノードを追加] ウィザードの一般的な情報については、61 ページの「[関連クエリ ノードを追加] ウィザード」を参照してください。</p>
ウィザード・マップ	<p>[関連クエリ ノードを追加] ウィザードには、次のページが含まれています。</p> <p>[関連クエリ ノードのタイプ] ページ &gt; [関係タイプ] ページ &gt; [関連クエリ ノードのプロパティ] ページ &gt; [関連クエリ ノードのインスタンス] ページ</p>

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します (ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します)。

UI 要素 (A-Z)	説明
	[すべてを展開] をクリックすると、ツリー内のすべてのフォルダが展開されます。
	[すべてを折りたたむ] をクリックすると、ツリー内のすべてのフォルダが折りたたまれます。
 ツリー ビュー	<p>[ツリー ビュー] をクリックして、CI タイプ・ツリーの表示形式を選択します。次のオプションを利用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 表示ラベル</li> <li>▶ クラス名</li> <li>▶ 旧クラス名</li> </ul> <p><b>注:</b> この機能はモデリング・スタジオでのみ使用できます。</p>


UI 要素 (A-Z)	説明
<p>&lt;クエリノード&gt; 必須</p>	<p>関係のカーディナリティを定義します。詳細については、84 ページの「カーディナリティタブ」を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 各クエリ・ノードの [<b>&lt;クエリノード&gt; 必須</b>] チェック・ボックスを選択にすると、関係の他端にあるクエリ・ノードのインスタンスが最低 1 つクエリ結果に含まれます。このチェック・ボックスを選択すると、関係にカーディナリティ値 1..* が設定されます。</li> <li>▶ [<b>&lt;クエリノード&gt; 必須</b>] チェック・ボックスをクリアにすると、関係にカーディナリティ値 0..* が設定されます。</li> </ul>
<p>&lt;TQL クエリノードの階層ツリー&gt;</p>	<p>必要なクエリ・ノードを選択します。選択したクエリ・ノードは、[要素名] ボックスに表示されます。</p> <p>このリストには、選択した（ソース）クエリ・ノードに対して有効な関係を持つ CI タイプのクエリ・ノードだけが表示されます。</p> <p>各クエリ・ノードの右に、CMDB に存在する、該当する CI タイプの CI インスタンスの数が表示されます。インスタンスの数は、[関連クエリノードを追加] ウィザードを閉じて再度開いた後のみ更新されます。</p> <p><b>注：</b>階層ツリーの最初のクエリ・ノードが標準で選択されています。</p>
<p>要素名</p>	<p>選択したクエリ・ノードの名前が含まれます（任意指定）。標準設定では、CI タイプは要素の名前として割り当てられます。</p> <p>TQL クエリ・ノードの名前は、一意のラベルを付けることによって [要素名] ボックスで変更できます。これは、TQL クエリに、同じ CI タイプのクエリ・ノードが複数ある場合に便利です。</p>
<p>インスタンスのある CIT のみ表示する</p>	<p>このチェック・ボックスを選択すると、CMDB にインスタンスのある CIT のみが表示されます。このボックスを選択しない場合、ツリーにはソース・クエリ・ノードへの有効なリンクのある CIT がすべて含まれます。</p> <p><b>注：</b>[<b>インスタンスのある CIT のみ表示する</b>] チェック・ボックスは、標準設定で選択されています。</p>

## [関係タイプ] ページ

このウィザード・ページでは、関係を TQL クエリに追加できます。

<p><b>ウィザード・マップ</b></p>	<p>[関連クエリ ノードを追加] ウィザードには、次のページが含まれています。</p> <p>[関連クエリ ノードのタイプ] ページ &gt; [関係タイプ] ページ &gt; [関連クエリ ノードのプロパティ] ページ &gt; [関連クエリ ノードのインスタンス] ページ</p>
-------------------------	---

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

UI 要素 (A-Z)	説明
<p> ツリー ビュー</p>	<p>[ツリー ビュー] をクリックして、関係ツリーの表示形式を選択します。次のオプションを利用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 表示ラベル</li> <li>▶ クラス名</li> <li>▶ 旧クラス名</li> </ul> <p><b>注：</b>この機能はモデリング・スタジオでのみ使用できます。</p>
<p>&lt;TQL クエリ関係の階層ツリー&gt;</p>	<p>必要な関係を選択してください。</p>
<p><b>関係の方向</b></p>	<p>必要な関係の方向を選択します。方向は、クエリ・ノード間の依存関係を示します。</p>
<p><b>関係名</b></p>	<p>関係の名前です。</p> <p><b>注：</b>この機能はモデリング・スタジオでのみ使用できます。</p>
<p><b>関係の制限</b></p>	<p>クエリ結果において同一クエリ・ノード間の関係、または自己関係を処理する方法を定義するオプションを選択します。自己関係とは、あるクエリ・ノードから、そのノード自身につながっている関係のことです。</p> <p><b>注：</b>この機能はモデリング・スタジオでのみ使用できます。</p>






UI 要素 (A-Z)	説明
関係タイプ	<p>選択したクエリ・ノード間の接続を定義する有効な関係です。このボックスには、関係階層ツリーで選択した関係が表示されます。</p> <p><b>注:</b> この機能は、エンリッチメント・マネージャおよび影響分析マネージャでのみ使用できます。</p>
インスタンスのある関係のみ表示する	<p>CMDB 内にインスタンスが存在する関係だけが表示されます。このボックスを選択しない場合、ツリーには選択したクエリ・ノード間の有効な関係がすべて含まれます。</p>




### [関連クエリ ノードのプロパティ] ページ


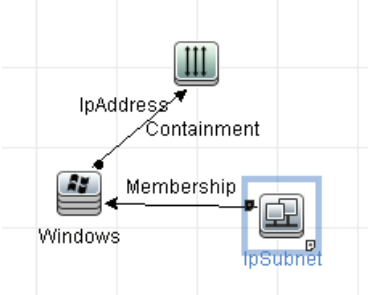
このウィザード・ページでは、属性条件をクエリ・ノードまたは関係に追加することで、クエリに表示されるクエリ・ノードの数を制限する式を作成できます。


重要情報	<p>モデリング・スタジオからウィザードを利用する場合、このウィザード・ページには <b>[属性]</b> と <b>[修飾子]</b> の2つのタブが表示されます。<b>[属性]</b> タブには、以下に説明されている要素が含まれます。<b>[修飾子]</b> タブの詳細については、87 ページの「修飾子タブ」を参照してください。</p>
ウィザード・マップ	<p>[関連クエリ ノードを追加] ウィザードには、次のページが含まれています。</p> <p>[関連クエリ ノードのタイプ] ページ &gt; [関係タイプ] ページ &gt; <b>[関連クエリ ノードのプロパティ] ページ</b> &gt; [関連クエリ ノードのインスタンス] ページ</p>

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素 (A-Z)	説明
	属性条件を追加します。
	属性条件を削除します。
	選択した行を上へ移動します。

UI 要素 (A-Z)	説明
	選択した行を下へ移動します。
	条件定義を表示します。
<b>詳細レイアウト設定</b>	<p>[レイアウト設定] ダイアログ・ボックスが開きます。このダイアログ・ボックスでは、サードパーティー製ツールまたはカスタム・ツールで CMDB にクエリを行うときに TQL クエリの計算で使用する属性を決定できます。</p> <p><b>注:</b> このオプションは、モデリング・スタジオからウィザードを利用する場合にのみ関連します。</p>
<b>AND/OR</b>	複数の条件をリンクさせるには、[AND/OR] フィールド内をクリックし、[AND] または [OR] を選択します。
<b>属性名</b>	リストから属性を選択します。
 <b>大括弧</b>	[大括弧] ボックス内をクリックすると、より複雑な論理ステートメントを作成するのに使用できる括弧のリストが表示されます。
<b>条件</b>	[要素インスタンス] ダイアログ・ボックスで定義した属性条件の定義が含まれています。
<b>サブタイプを含める</b>	選択した CI とその子がトポロジ・マップに表示されます。
<b>NOT</b>	<p>定義した内容と反対の条件構文を使用する場合に [NOT] を選択します。</p> <p><b>注:</b> [NOT] を選択した場合、クエリの結果には、値が割り当てられていない CI インスタンスのデータは含まれません。たとえば、システムに 3 つのノードがあり、ノード 1 には値 A、ノード 2 には値 B がそれぞれ割り当てられ、ノード 3 には値が割り当てられていないとします。A に等しい値を持つすべてのノードを取得するクエリを作成し、[NOT] を選択した場合、ノード 3 には値が割り当てられていないため、クエリの結果にはノード 2 のみが含まれます。</p>
<b>演算子</b>	必要な演算子を選択します。詳細については、42 ページの「属性演算子の定義」を参照してください。
<b>更新</b>	変更した属性条件が更新されます。

UI 要素 (A-Z)	説明
値	属性の値を入力または選択します。[値] オプションは、選択した属性タイプに応じて変わります。
可視	<p>[可視] を選択すると、選択した TQL クエリ・ノードが編集表示枠に表示されます。[可視] をクリアすると、非表示のボックス  は、編集表示枠で選択した TQL クエリ・ノードの右に表示されます。</p>  <p>TQL クエリ・ノードに属するクエリ結果は、トポロジ・マップに表示されません。これは、特定の関係や TQL クエリ・ノードがクエリの構築には必要であるが結果には必要でないという場合に便利です。たとえば、特定の IP Address を定義することによって Windows をネットワークに接続しているが、クエリ結果には IP Address 要素だけを表示し、Windows 要素を表示したくない場合があります。</p>




 **[関連クエリ ノードのインスタンス] ページ**

このウィザード・ページでは、選択した TQL クエリ・ノードに対して検出されたすべてのインスタンスがテーブルに表示されます。


<p><b>重要情報</b></p>	<p>レポートに表示されるカラムは、選択した CI タイプによって異なります。</p> <p>標準設定では、CI タイプ・マネージャで<b>アセット・データ</b>、<b>変更をモニタ</b>、および<b>比較可能</b>属性修飾子を使って定義されている属性に対応するカラムのみが、ダイアログ・ボックスにカラムとして表示されます。詳細については、488 ページの「[属性] ページ」を参照してください。</p> <p>必要に応じて<b>非表示カラムを表示</b>ボタンをクリックし、可視として定義されているが静的として定義されていない属性を表示できます。静的属性の詳細については、488 ページの「[属性] ページ」を参照してください。</p> <p><b>注：</b> [関連クエリ ノードのインスタンス] ページに含まれる要素の情報については、73 ページの「要素インスタンス ダイアログ・ボックス」を参照してください。</p>
<p><b>ウィザード・マップ</b></p>	<p>[関連クエリ ノードを追加] ウィザードには、次のページが含まれています。</p> <p>[関連クエリ ノードのタイプ] ページ &gt; [関係タイプ] ページ &gt; [関連クエリ ノードのプロパティ] ページ &gt; <b>[関連クエリ ノードのインスタンス] ページ</b></p>

## トリプレットの追加ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、サブグラフの定義、複合関係、または計算された関係の作成時に、ソース CI からターゲット CI へのトポロジ・グラフのパスで許容される手順を定義できます。

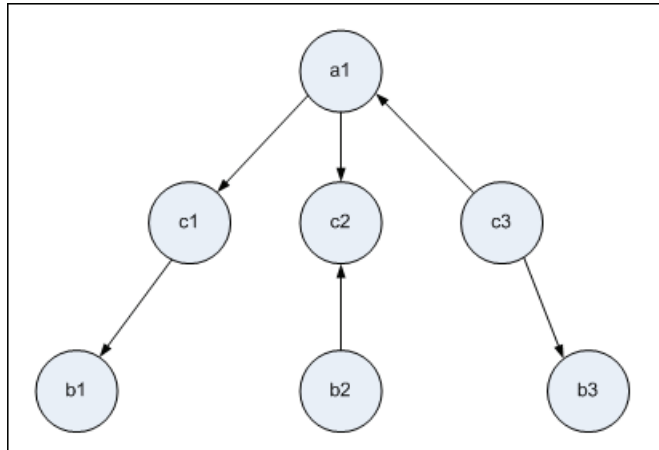
<p><b>利用方法</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ [複合関係の追加] ダイアログ・ボックスで、<b>[追加]</b>  ボタンをクリックします。詳細については、52 ページの「[複合関係の追加] / [複合関係の編集] ダイアログ・ボックス」を参照してください。</li> <li>▶ [サブグラフの定義] ダイアログ・ボックスで、<b>[追加]</b>  をクリックします。詳細については、95 ページの「サブグラフの定義ダイアログ・ボックス」を参照してください。</li> <li>▶ CI タイプ・マネージャで、[CI タイプ] 表示枠のドロップダウン・リストから<b>計算された関係</b>を選択します。編集表示枠で<b>[トリプレット]</b> ページを選択してから、<b>[追加]</b>  をクリックします。</li> </ul>
<p><b>重要情報</b></p>	<p>トポロジ・グラフに含めるクエリ・ノードと関係を選択します。</p> <p><b>重要：</b> [サブグラフ定義] ダイアログ・ボックスから [トリプレットの追加] ダイアログ・ボックスにアクセスする場合のみ、[条件] フィールドが表示されます。</p>
<p><b>関連タスク</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 442 ページの「影響ルールの定義 - ワークフロー」</li> <li>▶ 510 ページの「エンリッチメント・ルールの定義 - シナリオ」</li> <li>▶ 27 ページの「TQL クエリの定義」</li> <li>▶ 『HP Universal CMDB 開発者向けリファレンス・ガイド』の「ディスカバリ・アダプタの実装」</li> <li>▶ 285 ページの「パターン・ビューの作成」</li> <li>▶ 286 ページの「テンプレートの作成」</li> <li>▶ 288 ページの「パースペクティブの作成」</li> </ul>
<p><b>関連情報</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 23 ページの「複合関係」</li> <li>▶ 30 ページの「複合関係の定義のシナリオ」</li> <li>▶ 25 ページの「サブグラフの定義」</li> </ul>

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素 (A-Z)	説明
	<p>選択したソース・クエリ・ノードとターゲット・クエリ・ノードの属性条件を定義します。[サブグラフ条件の定義] ダイアログ・ボックスが開きます。</p> <p><b>[条件]</b> ボタンは、クエリ・ノードを<b>ソース</b>・リストまたは<b>ターゲット</b>・リストから選択した後に有効になります。</p> <p><b>注:</b> CI タイプ・マネージャではソース・クエリ・ノードとターゲット・クエリ・ノードの属性条件を定義できません。</p>
<b>関係</b>	<p>2 つのクエリ・ノードを接続する有効な関係を選択します。有効な関係のリストは、両方のクエリ・ノードを定義した後でのみ表示されます。</p>
<b>関係の方向</b>	<p>必要な方向を選択します。異なる関係の方向を設定すると、異なるクエリ結果が得られる場合があります。例については、71 ページの「複合定義に異なる関係の方向を設定」を参照してください。</p> <p><b>注:</b> 関係リストは、ソースとターゲットを選択するまで空のままになります。</p>
<b>ソース</b>	<p>必要なソース・クエリ・ノードを選択します。</p>
<b>ターゲット</b>	<p>必要なターゲット・クエリ・ノードを選択します。</p>

## 複合定義に異なる関係の方向を設定

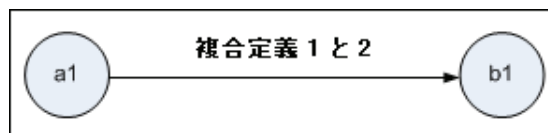
異なる関係の方向を設定すると、異なる TQL 結果が得られます。たとえば、ビジネス環境において、次の図に示すように、CIT **a** のクエリ・ノードと CIT **b** のクエリ・ノードを接続する複合関係を作成するとします。深さは、5 に定義されています（詳細については、96 ページの「深度」を参照してください）。



[トリプレットの追加] ダイアログ・ボックスでは、複合定義を作成して、異なる関係の方向を使用してクエリ・ノード **a** と **b** をリンクできます。

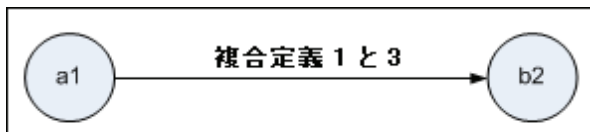
複合定義	ソース	ターゲット	関係	関係の方向
#1	クエリ・ノード <b>a</b>	クエリ・ノード <b>c</b>	< 関係 >	ソース --> ターゲット
#2	クエリ・ノード <b>c</b>	クエリ・ノード <b>b</b>	< 関係 >	ソース --> ターゲット
#3	クエリ・ノード <b>c</b>	クエリ・ノード <b>b</b>	< 関係 >	ソース <-- ターゲット

➤ 複合定義 1 と 2 の結果、次のクエリが得られます。

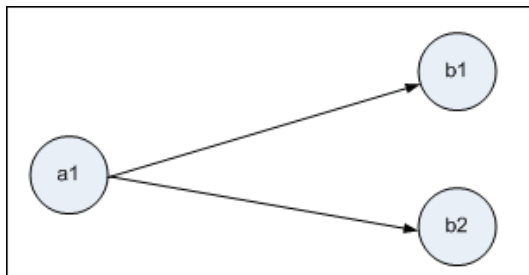


## 第1章・トポジクエリ言語

- ▶ 複合定義 1 と 3 の結果, 次のクエリが得られます。




- ▶ 複合定義 1, 2, および 3 の結果, 次のクエリが得られます。





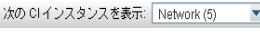









## 要素インスタンス ダイアログ・ボックス




このダイアログ・ボックスでは、選択した TQL クエリ・ノードに対して検出されたすべての CI インスタンスがテーブルに表示されます。

<p><b>利用方法</b></p>	<p><b>エンリッチメント・マネージャ、影響分析マネージャ、モデリング・スタジオで利用するには、次の手順で行います。</b> 編集表示枠で、必要なクエリ・ノードを右クリックし、<b>「要素インスタンスの表示」</b>を選択します。</p> <p><b>注：</b>エンリッチメント・マネージャを使用している場合は、編集表示枠の上部で<b>クエリ・モード</b>を選択して<b>「要素インスタンスの表示」</b>オプションを表示します。</p> <p><b>DFM のアダプタ管理で利用するには、次の手順で行います。</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li><b>1</b> [ディスクバリ リソース] 表示枠でアダプタを選択します。</li> <li><b>2</b> <b>「アダプタ定義」</b> タブで、 <b>「入力クエリの編集」</b> ボタン（<b>「入力クエリ」</b> ボックスの右）をクリックし、<b>「入力クエリ エディタ」</b> を開きます。</li> <li><b>3</b> 必要なクエリ・ノードを右クリックし、<b>「要素インスタンスの表示」</b>を選択します。</li> </ol>
<p><b>重要情報</b></p>	<p>テーブルのカラムに、選択した CI タイプの属性が表示されます。表示される属性は、選択した CI タイプによって異なります。</p> <p>標準設定では、CIT マネージャで<b>アセット データ、変更をモニタ</b>、および<b>比較可能</b>属性修飾子を使って定義されている属性に対応するカラムのみが、ダイアログ・ボックスにカラムとして表示されます。詳細については、488 ページの「<b>「属性」</b> ページ」を参照してください。</p>
<p><b>関連タスク</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 442 ページの「影響ルールの定義 - ワークフロー」</li> <li>▶ 510 ページの「エンリッチメント・ルールの定義 - シナリオ」</li> <li>▶ 27 ページの「TQL クエリの定義」</li> <li>▶ 285 ページの「パターン・ビューの作成」</li> <li>▶ 286 ページの「テンプレートの作成」</li> <li>▶ 288 ページの「パースペクティブの作成」</li> </ul>

## 第1章・トポロジクエリ言語

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。



UI 要素 (A-Z)	説明
	テーブルに表示する CIT を指定します。テーブルには、選択した CIT の子も含まれます。
	選択した CI を削除するときをクリックします。
	<b>CI のプロパティを表示</b> をクリックすると、選択した CI の [構成アイテムのプロパティ] ダイアログ・ボックスが開きます。
	クリックすると、CI インスタンスのリストが更新されます。
	選択したクエリ・ノードに表示する CI インスタンスをフィルタします。[CI インスタンスをフィルタ] ダイアログ・ボックスが開きます。
	[CI インスタンスをフィルタ] ダイアログ・ボックスで作成したフィルタ定義をクリアします。
	表示するカラムを選択できます。詳細については、558 ページの「[カラムの選択] ダイアログ・ボックス」を参照してください。
	CI インスタンスの並べ替え順序を設定できます。詳細については、559 ページの「[カラムコンテンツの並べ替え] ダイアログ・ボックス」を参照してください。
	[ <b>検索</b> ] をクリックすると、検索ツールバーが表示されます。
	[ <b>メールを送信</b> ] をクリックすると、テーブル・データが電子メールで送信されます。

UI 要素 (A-Z)	説明
	<p>テーブルのデータをエクスポートする形式を選択します。次のオプションを使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>Excel</b> : テーブルのデータは、スプレッドシートに表示できる .xls (Excel) ファイル形式に整形されます。</li> <li>▶ <b>PDF</b> : テーブルのデータは、PDF 形式でエクスポートされます。</li> <li>▶ <b>RTF</b> : テーブルのデータは、リッチ・テキスト形式でエクスポートされます。</li> <li>▶ <b>CSV</b> : テーブルのデータは、スプレッドシートに表示できるカンマ区切り (CSV) テキスト・ファイル形式に整形されます。</li> </ul> <p><b>注</b> : CSV 形式のテーブルのデータを正しく表示するには、カンマ (,) を区切り文字として定義する必要があります。Windows では、区切り文字の値を確認または変更するには、コントロール・パネルの [地域のオプション] を開いて、[数値] タブでカンマが区切り文字の値として定義されていることを確認します。Linux では、区切り文字は CSV ファイルを開くアプリケーションで指定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>XML</b> : テーブルのデータは、テキスト・エディタまたは XML エディタで開くことができる XML ファイルとして整形されます。</li> </ul> <p><b>ヒント</b> : HTML コードをレポートから抽出するには、次の手順で行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ ファイルを HTML として保存します。</li> <li>▶ ファイルを HTML エディタで開きます。</li> <li>▶ 関連するテーブルをターゲット・ファイルにコピーします。</li> </ul>
 <b>ページの行数</b>	<p>各ページに表示する行の数を選択します。</p>
	<p>クリックすると、ページごとに結果を移動したり、または最初のページや最後のページに移動したりできます。</p>
<p>&lt; <b>要素インスタンス</b> &gt;</p>	<p>選択した SQL クエリ・ノードに対して検出された CI インスタンスです</p> <p>インスタンスをダブルクリックすると、その CI の [構成アイテムのプロパティ] ダイアログ・ボックスが開きます。</p>

UI 要素 (A-Z)	説明
<要素インスタンスのショートカット・メニュー>	詳細については、250 ページの「IT ユニバース・マネージャのショートカット・メニュー」を参照してください。
表示ラベル	トポロジ・マップに表示される CI インスタンスの名前です。

## CI インスタンスをフィルタダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、特定の CI に対して条件と値を選択することによって、リストに表示する CI インスタンスの数を減らすことができます。


利用方法	[要素インスタンス] ダイアログ・ボックスで [フィルタ]  ボタンをクリックします。
重要情報	<p>定義したフィルタ条件の説明は、[要素インスタンス] ダイアログ・ボックスに表示されるテーブルのカラムの上に表示されます。たとえば、次の図では、CI タイプが <b>Windows</b> である CI インスタンスのみを表示するようにフィルタ条件を作成しました。</p> 
関連タスク	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 442 ページの「影響ルールの定義 - ワークフロー」</li> <li>▶ 510 ページの「エンリッチメント・ルールの定義 - シナリオ」</li> <li>▶ 27 ページの「TQL クエリの定義」</li> <li>▶ 『HP Universal CMDB 開発者向けリファレンス・ガイド』の「ディスカバリ・アダプタの実装」</li> <li>▶ 285 ページの「パターン・ビューの作成」</li> <li>▶ 286 ページの「テンプレートの作成」</li> <li>▶ 288 ページの「パースペクティブの作成」</li> </ul>

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素 (A-Z)	説明
属性	CI が属する CI タイプの属性がすべて表示されます。
条件	必要な演算子を選択します。詳細については、42 ページの「属性演算子の定義」を参照してください。
NOT	条件および値の否定によって結果をフィルタする場合に選択します。
値	必要な値を選択または入力します。

## 関係条件を結合ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、結合関係を使用して 2 つのクエリ・ノード間の接続を定義できます。

利用方法	エンリッチメント・マネージャまたは影響分析マネージャの [結合関係の追加] ダイアログ・ボックスで、[追加]  ボタンをクリックします。
関連タスク	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 442 ページの「影響ルールの定義 - ワークフロー」</li> <li>▶ 510 ページの「エンリッチメント・ルール of 定義 - シナリオ」</li> <li>▶ 27 ページの「TQL クエリの定義」</li> <li>▶ 『HP Universal CMDB 開発者向けリファレンス・ガイド』の「ディスカバリ・アダプタの実装」</li> </ul>

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します (ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します)。

UI 要素 (A-Z)	説明
< 選択したクエリノード 1 >	選択したクエリ・ノード。1 つ目の属性は <end_1> に適用されます。

UI 要素 (A-Z)	説明
<選択したクエリ ノード 2>	選択したクエリ・ノード。2 つ目の属性は <end_2> に適用されます。
<b>演算子</b>	<p>次の演算子のいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>[等価]</b> : 選択した 2 つの属性が等しいかどうかをチェックされます。</li> <li>▶ <b>[不等価]</b> : 選択した 2 つの属性が等しくないかどうかをチェックされます。</li> <li>▶ <b>[サブストリング]</b> : 1 つ目の属性の値が, 2 つの属性の値の部分文字列かどうかをチェックされます。</li> <li>▶ <b>[サブストリング (大文字小文字を区別しない)]</b> : 1 つ目の属性の値が, 2 つ目の属性の値の部分文字列かどうかをチェックされます (文字列の大文字と小文字は区別されません)。</li> </ul> <p><b>重要</b> : 演算子の<b>不等価</b>を使用するときは, 結合関係の両側で結果のサイズが制限されていることを確認してください。膨大な量の結果によりシステムが過負荷になるのを避けるために, より具体的な条件を定義することをお勧めします。</p>

## レイアウト設定ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、UCMDB API を使用するとき TQL クエリの計算に使用する属性を決定できます。詳細については、『HP Universal CMDB 開発者向けリファレンス・ガイド』の「HP Universal CMDB Web サービス API」を参照してください。


<b>利用方法</b>	[クエリ ノード / 関係のプロパティ] ダイアログ・ボックスで [詳細レイアウト設定] をクリックします。
<b>重要情報</b>	このオプションは、CMDB API に問い合わせるときしか関係ないため、ユーザ・インタフェースに対するクエリ結果は、このダイアログ・ボックスで選択する属性の影響を受けません。
<b>関連タスク</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 442 ページの「影響ルールの定義 - ワークフロー」</li> <li>▶ 510 ページの「エンリッチメント・ルールの定義 - シナリオ」</li> <li>▶ 27 ページの「TQL クエリの定義」</li> <li>▶ 『HP Universal CMDB 開発者向けリファレンス・ガイド』の「ディスカバリ・アダプタの実装」</li> <li>▶ 285 ページの「パターン・ビューの作成」</li> <li>▶ 286 ページの「テンプレートの作成」</li> <li>▶ 288 ページの「パースペクティブの作成」</li> </ul>

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素 (A-Z)	説明
<b>属性名</b>	属性の名前です。
<b>計算</b>	このチェック・ボックスを選択すると、クエリの計算に属性が含まれます。


## [クエリ ノード / 関係のプロパティ] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、選択した TQL クエリ・ノードまたは関係の属性条件を定義できます。

<p><b>利用方法</b></p>	<p>エンリッチメント・マネージャ、影響分析マネージャ、モデリング・スタジオで利用するには、次の手順で行います。 編集表示枠で、必要なクエリ・ノードを右クリックし、<b>[クエリ ノード / 関係のプロパティ]</b> を選択します。</p> <p><b>注：</b>エンリッチメント・マネージャを使用している場合は、編集表示枠の上部で <b>[クエリ モード]</b> を選択して <b>[クエリ ノードのプロパティ]</b> オプションを表示します。</p> <p><b>DFM で利用するには、次の手順で行います。</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li><b>1</b> [アダプタ定義] タブから利用するには、アダプタを選択し、 <b>[入力クエリの編集]</b> ボタン ([入力クエリ] ボックスの右) をクリックし、[入力クエリ エディタ] を開きます。</li> <li><b>2</b> 必要なクエリ・ノードまたは関係を右クリックして <b>[クエリ ノードのプロパティ]</b> または <b>[関係のプロパティ]</b> を選択します。</li> </ol>
<p><b>関連タスク</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 442 ページの「影響ルールの定義 - ワークフロー」</li> <li>▶ 510 ページの「エンリッチメント・ルールの定義 - シナリオ」</li> <li>▶ 27 ページの「TQL クエリの定義」</li> <li>▶ 『HP Universal CMDB 開発者向けリファレンス・ガイド』の「ディスカバリ・アダプタの実装」</li> <li>▶ 285 ページの「パターン・ビューの作成」</li> <li>▶ 286 ページの「テンプレートの作成」</li> <li>▶ 288 ページの「パースペクティブの作成」</li> </ul>



ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。





UI 要素 (A-Z)	説明
要素名	<p>[要素名] ボックスには、選択したクエリ・ノードまたは関係の名前が表示されます (任意指定)。標準設定では、CI タイプは要素の名前として割り当てられます。TQL クエリ・ノードの名前は、一意のラベルを付けることによって [要素名] ボックスで変更できます。これは、TQL クエリに、同じ CI タイプのクエリ・ノードが複数ある場合に便利です。</p>
サブタイプを含める	<p>選択すると、選択した CI とその子がトポロジ・マップに表示されます。</p>
クエリ結果数	<p>[クエリ結果数] をクリックすると、各クエリ・ノード / 関係のインスタンス数が示されている TQL クエリのトポロジ・マップが表示されます。</p> <p><b>注:</b> この機能はモデリング・スタジオでのみ使用できます。</p>
可視	<p>[可視] を選択すると、選択した TQL クエリ・ノードが編集表示枠に表示されます。このオプションをオフにすると、非表示のボックス  が、編集表示枠で選択した TQL クエリ・ノードの右に表示されます。</p> <div data-bbox="635 885 942 1171" data-label="Diagram"> <pre> graph TD     Windows[Windows] -- Membership --&gt; IpSubnet[IpSubnet]     IpSubnet -- Containment --&gt; IpAddress[IpAddress]     </pre> </div> <p>TQL クエリ・ノードに属するクエリ結果は、トポロジ・マップに表示されません。これは、特定の関係や TQL クエリ・ノードがクエリの構築には必要であるが結果には必要でないという場合に便利です。たとえば、特定の IP Address を定義することによって Windows を IP Subnet に接続しているが、クエリ結果には IP Address 要素だけを表示し、Windows 要素を表示したくない場合があります。</p>


## 属性タブ

この領域では、クエリに表示されるクエリ・ノードの数を制限するための条件を定義する式を作成できます。クエリ・ノードまたは関係に属性条件を追加して、クエリ結果をフィルタすることもできます。

<b>利用方法</b>	[クエリ ノード / 関係のプロパティ] ダイアログ・ボックスで <b>[属性]</b> タブをクリックします。
<b>関連タスク</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 442 ページの「影響ルールの定義 - ワークフロー」</li> <li>▶ 510 ページの「エンリッチメント・ルールの定義 - シナリオ」</li> <li>▶ 27 ページの「TQL クエリの定義」</li> <li>▶ 『HP Universal CMDB 開発者向けリファレンス・ガイド』の「ディスカバリ・アダプタの実装」</li> <li>▶ 285 ページの「パターン・ビューの作成」</li> <li>▶ 286 ページの「テンプレートの作成」</li> <li>▶ 288 ページの「パースペクティブの作成」</li> </ul>

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素 (A-Z)	説明
	定義した属性条件を追加します。
	属性の定義が削除されます。
	選択した行を上へ移動します。
	選択した行を下へ移動します。
	ポップアップ・ダイアログ・ボックスに条件が表示されます。
<b>詳細レイアウト設定</b>	[レイアウト設定] ダイアログ・ボックスが開きます。このダイアログ・ボックスでは、サードパーティー製ツールまたはカスタム・ツールで CMDB にクエリを行うときに TQL クエリの計算で使用する属性を決定できます。
<b>AND/OR</b>	複数の条件をリンクさせるには、 <b>[AND/OR]</b> フィールド内をクリックし、 <b>[AND]</b> または <b>[OR]</b> を選択します。




UI 要素 (A-Z)	説明
属性名	ドロップダウン・リストから属性を選択します。
 大括弧	[大括弧] ボックス内をクリックすると、より複雑な論理ステートメントを作成するのに使用できる括弧のリストが表示されます。
条件	[要素インスタンス] ダイアログ・ボックスで定義した属性条件の定義が含まれています。
標準設定値	パラメータ化された属性について、パラメータの標準設定値を入力します。
NOT	定義した内容と反対の条件構文を使用する場合に [NOT] を選択します。  <b>注:</b> [NOT] を選択した場合、クエリの結果には、値が割り当てられていない CI インスタンスのデータは含まれません。たとえば、システムに 3 つのノードがあり、ノード 1 には値 A、ノード 2 には値 B がそれぞれ割り当てられ、ノード 3 には値が割り当てられていないとします。A に等しい値を持つすべてのノードを取得するクエリを作成し、[NOT] を選択した場合、ノード 3 には値が割り当てられていないため、クエリの結果にはノード 2 のみが含まれます。
演算子	必要な演算子を選択します。詳細については、42 ページの「属性演算子の定義」を参照してください。
パラメータ化	属性にパラメータ化された値を定義する場合は、[はい] を選択します。属性に固定値を定義する場合は、[いいえ] を選択します。  <b>注:</b> この機能はモデリング・スタジオでのみ使用できます。
パラメータ名	属性にパラメータ化された値を定義する場合は、パラメータ名を入力する必要があります。  <b>注:</b> この機能はモデリング・スタジオでのみ使用できます。
値	属性の値を入力または選択します。[値] オプションは、選択した属性タイプに応じて変わります。





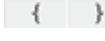
## カーディナリティ タブ

この領域では関係のカーディナリティを定義します。これにより、クエリ結果で関係の端部に得られる CI インスタンスの数を定義できます。

<b>利用方法</b>	[クエリ ノードのプロパティ] ダイアログ・ボックスで[ <b>カーディナリティ</b> ] タブをクリックします。
<b>重要情報</b>	<p>選択したクエリ・ノードに関連付ける必要な関係を選択します。次に、クエリ結果で関係の他端に含めるクエリ・ノードの下限と上限を定義します。</p> <p>条件を定義する式を作成することによって、関係の接続クエリ・ノードが TQL クエリ結果に含まれるようにする関係条件を定義できます。例については、86 ページの「関係条件の例」を参照してください。</p> <p><b>注:</b> このタブはクエリ・ノードが選択されているときにのみ表示されます。</p>
<b>関連タスク</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 442 ページの「影響ルールの定義 - ワークフロー」</li> <li>▶ 510 ページの「エンリッチメント・ルールの定義 - シナリオ」</li> <li>▶ 27 ページの「TQL クエリの定義」</li> <li>▶ 『HP Universal CMDB 開発者向けリファレンス・ガイド』の「ディスカバリ・アダプタの実装」</li> <li>▶ 285 ページの「パターン・ビューの作成」</li> <li>▶ 286 ページの「テンプレートの作成」</li> <li>▶ 288 ページの「パースペクティブの作成」</li> </ul>

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

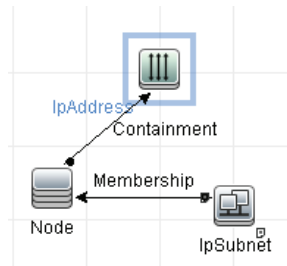
UI 要素 (A-Z)	説明
	定義したカーディナリティ定義が追加されます。
	[カーディナリティ] 領域からカーディナリティ定義が削除されます。
	選択した行を上へ移動します。

UI 要素 (A-Z)	説明
	選択した行を下へ移動します。
	ポップアップ・ダイアログ・ボックスに条件が表示されます。
	[最小] ボックスに <b>1</b> を, [最大] ボックスに <b>*</b> を挿入します。 <b>注:</b> モデリング・スタジオにのみ関連します。
	[最小] ボックスに <b>0</b> を, [最大] ボックスに <b>*</b> を挿入します。 <b>注:</b> モデリング・スタジオにのみ関連します。
AND/OR	複数の条件をリンクさせるには, [AND/OR] フィールド内をクリックし, [AND] または [OR] を選択します。
 <b>大括弧</b>	[大括弧] ボックス内をクリックすると, より複雑な論理ステートメントを作成するのに使用できる括弧のリストが表示されます。
<b>条件</b>	[要素インスタンス] ダイアログ・ボックスで定義したカーディナリティ条件の定義が含まれています。
<b>最大</b>	クエリ結果で関係の他端に含めるクエリ・ノードの上限を定義する値を入力します。 <b>注:</b> [最大] ボックスでアスタリスク (*) を使用すると, 無限大を表します。
<b>最小</b>	クエリ結果で関係の他端に含めるクエリ・ノードの下限を定義する値を入力します。 たとえば, <end_1> が IP で, <end_2> が Windows の場合, [最小] ボックスに「1」と入力し, [最大] ボックスにアスタリスク (*) を入力すると, 少なくとも 1 つの Windows オペレーティング・システムに接続されている IP Address のみが取得されます (アスタリスクは無限大を表します)。 [最小] ボックスに「3」と入力し, [最大] ボックスにアスタリスク (*) を入力すると, 少なくとも 3 つの IP Address に接続されている Windows オペレーティング・システムのみが取得されます。

UI 要素 (A-Z)	説明
クエリ ノード	選択したクエリ・ノードに関連付ける必要な関係を選択します。リストには、選択したクエリ・ノードにリンクされている関係がすべて含まれます。
NOT	定義した内容と反対の条件構文を使用する場合に [NOT] を選択します。  <b>注：</b> [NOT] を選択した場合、クエリの結果には、値が割り当てられていない CI インスタンスのデータは含まれません。たとえば、システムに 3 つのノードがあり、ノード 1 には値 A、ノード 2 には値 B がそれぞれ割り当てられ、ノード 3 には値が割り当てられていないとします。A に等しい値を持つすべてのノードを取得するクエリを作成し、[NOT] を選択した場合、ノード 3 には値が割り当てられていないため、クエリの結果にはノード 2 のみが含まれます。

### 関係条件の例

関係条件の例は、次の TQL クエリに基づいています。



[関係のカーディナリティ] ダイアログ・ボックスで、クエリに対して次の関係条件を定義します。

- ▶ 包含 **最小 : 2, 最大 : 4**
- ▶ Membership **最小 : 1, 最大 : \***

OR 演算子を使用すると、次のように**カーディナリティ** セクションに定義が表示されます。

NOT	(	基準
<input type="checkbox"/>		Create Time 途中で変更 "24 時間"
<input type="checkbox"/>		Display Label 等価 ""

- ▶ **[contained (Node, IP Address)] OR [member (IP Subnet, Node)]** は、ノードは 2 つから 4 つの IP Address を持っているか、または IP Subnet のメンバである必要があることを意味します。

AND 演算子を使用すると、次のように**カーディナリティ** セクションに定義が表示されます。

NOT	(	基準
<input type="checkbox"/>		Create Time 途中で変更 "24 時間"
<input type="checkbox"/>		Display Label 等価 ""

- ▶ **[contained (Node, IP Address)] AND [member (IP Subnet, Node)]** は、ノードは 2 つから 4 つの IP Address を持ち、かつ IP Subnet のメンバでもある必要があることを意味します。

## 修飾子タブ

この領域では、選択したクエリ・ノードまたは関係の修飾子条件を定義できます。たとえば、修飾子を使用して、CIT を **abstract** として定義できます。これは、その CIT からインスタンスを作成できないことを意味します。

<b>利用方法</b>	[クエリ ノード / 関係のプロパティ] ダイアログ・ボックスで <b>[修飾子]</b> タブをクリックします。
-------------	---

<b>重要情報</b>	標準設定では、複数選択すると条件が OR 演算子でリンクされます。
<b>関連タスク</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 442 ページの「影響ルールの定義 - ワークフロー」</li> <li>▶ 510 ページの「エンリッチメント・ルールの定義 - シナリオ」</li> <li>▶ 27 ページの「TQL クエリの定義」</li> <li>▶ 『HP Universal CMDB 開発者向けリファレンス・ガイド』の「ディスカバリ・アダプタの実装」</li> <li>▶ 285 ページの「パターン・ビューの作成」</li> <li>▶ 286 ページの「テンプレートの作成」</li> <li>▶ 288 ページの「パースペクティブの作成」</li> </ul>

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素 (A-Z)	説明
<b>ABSTRACT_CLASS</b>	この CIT のインスタンスは作成できません。
<b>ALLOW_VOLATILITY</b>	<p>値のわずかな差異を許容する属性のマークに使用されます。たとえば、わずかなディスク・サイズの変更 (8.00008 GB から 8.00009 GB への変更) はレポートする必要がない場合があります。</p> <p>標準設定では、<b>ALLOW_VOLATILITY</b> は次の数値属性または日付属性についてのみ有効です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ CIT : Node <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ MemorySize</li> <li>▶ SwapMemorySize</li> </ul> <p>これらの属性は比較可能修飾子および静的修飾子も含まれます。</p> </li> <li>▶ CIT : Host <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ HostLastBootTime</li> </ul> </li> <li>▶ CIT : CPU <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ CpuClockSpeed</li> </ul> </li> <li>▶ CIT : Filesystem <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ Disk_size</li> </ul> </li> </ul> <p>この修飾子属性の詳細と、この機能をアクティブ化および非アクティブ化する手順については、25 ページの「ALLOW_VOLATILITY 修飾子」を参照してください。</p>



UI 要素 (A-Z)	説明
<b>BDM_SCOPE</b>	CI タイプがクラス・モデルの BDM 対象の一部であることを示します。
<b>BLE_LINK_CLASS</b>	HP Business Service Management にのみ関連します。
<b>CALCULATED_LINK</b>	この修飾子は計算された関係に割り当てられます。
<b>CONTAINER</b>	この修飾子は、Member (メンバ)、Container link (コンテナ・リンク)、Contains (包含)、または Contained (被包含) など、包含関係を表す関係に割り当てられます。
<b>HIDDEN_CLASS</b>	この CIT のインスタンスは、アプリケーションのどこにも表示されません。
<b>ID_CLASS_NAME_OVER RIDE</b>	クラス ID が別のクラスに基づいて計算されることを示します。
<b>ITU_HIDDEN_CLASS</b>	この CIT のインスタンスは、トポロジ・マップ・アプリケーションのどこにも表示されません。
<b>MAJOR_APP</b>	この修飾子が割り当てられた CI タイプは、[アプリケーション ブレークダウン] 概要レポートに表示されます。詳細については、373 ページの「アプリケーション・ブレークダウン・レポート」を参照してください。
<b>MODELING_ENABLED</b>	CIT をモデリング・スタジオのモデルとして機能させることができます。詳細については、274 ページの「ビジネス CI モデル」を参照してください。
<b>NETWORK_DEVICES</b>	ネットワーク・デバイスを表す、すべての CI タイプに共通の修飾子です。ネットワーク・デバイスに関連する TQL クエリに使用でき、クエリの CI タイプの代替として機能します。
<b>無効な修飾子</b>	このチェック・ボックスを選択すると、要素は、選択した修飾子のリストに修飾子がない場合にのみクエリ結果に含まれます。
<b>PM_SUSPECT</b>	HP Business Service Management のみ。
<b>RANDOM_GENERATED_ID_CLASS</b>	CI の CMDB ID が、クラスのキー属性に基づいて生成されるのではなく、ランダムに生成されることを示します。
<b>READ_ONLY_CLASS</b>	この CIT は編集できません。

UI 要素 (A-Z)	説明
RECURSIVE_DELETE	関係に適用されます。関係の一方の端で CI が削除されると、システムにより関係の他端の CI がチェックされます。ほかのどの CI も関係付けられていない場合、この CI も削除されます。
TRACK_LINK_CHANGES	指定した関係で発生した変更が、変更レポートに表示されます。詳細については、381 ページの「CI 変更レポート」を参照してください。

## ID タブ

この領域では、選択した TQL クエリ・ノードに対して検出されたインスタンスの要素 ID に従って TQL クエリ結果をフィルタできます。

利用方法	[クエリ ノードのプロパティ] ダイアログ・ボックスで [ID] タブをクリックします。
重要情報	左右の矢印を使用して、必要な要素を左側の [オプション ID] 表示枠から右側の [選択された ID] 表示枠に移動して、TQL クエリ結果に含める要素を定義します。 <b>注:</b> このタブはクエリ・ノードが選択されているときにのみ表示されます。
関連タスク	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 442 ページの「影響ルールの定義 - ワークフロー」</li> <li>▶ 510 ページの「エンリッチメント・ルールの定義 - シナリオ」</li> <li>▶ 27 ページの「TQL クエリの定義」</li> <li>▶ 『HP Universal CMDB 開発者向けリファレンス・ガイド』の「ディスカバリ・アダプタの実装」</li> <li>▶ 285 ページの「パターン・ビューの作成」</li> <li>▶ 286 ページの「テンプレートの作成」</li> <li>▶ 288 ページの「パースペクティブの作成」</li> </ul>

含まれている要素は次のとおりです（ラベルのない GUI 要素は山括弧で囲んで示します）。

UI 要素 (A-Z)	説明
< ツールバー >	ツールバー・ボタンの説明は、73 ページの「要素インスタンス ダイアログ・ボックス」を参照してください。
[オプション ID] 表示枠	選択した TQL クエリ・ノードに対して検出されたインスタンスがすべて表示されます。
[選択された ID] 表示枠	TQL クエリ結果に含める要素を定義するのに使用する要素が表示されます。

## [クエリ ノード タイプの再設定] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、TQL クエリの作成後に TQL クエリ・ノードの CI タイプを変更できます。


利用方法	<p>影響分析マネージャまたはエンリッチメント・マネージャで必要なクエリ・ノードを右クリックし、<b>[クエリ ノード タイプの再設定]</b> を選択します。</p> <p><b>注：</b>エンリッチメント・マネージャを使用している場合は、編集表示枠の上部で<b>クエリ・モード</b>を選択して <b>[クエリ ノード タイプの再設定]</b> オプションを表示します。</p>
重要情報	CI タイプを CI タイプの子のいずれかのタイプに変更できます（存在する場合）。そのような CI タイプが存在しない場合、このオプションは表示されません。
関連タスク	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 442 ページの「影響ルール の定義 - ワークフロー」</li> <li>▶ 510 ページの「エンリッチメント・ルール の定義 - シナリオ」</li> <li>▶ 27 ページの「TQL クエリ の定義」</li> <li>▶ 『HP Universal CMDB 開発者向けリファレンス・ガイド』の「ディスカバリ・アダプタの実装」</li> <li>▶ 285 ページの「パターン・ビューの作成」</li> <li>▶ 286 ページの「テンプレートの作成」</li> <li>▶ 288 ページの「パースペクティブの作成」</li> </ul>

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

UI 要素 (A-Z)	説明
< 選択元の CI タイプのリスト >	必要な CI タイプを選択します。



## 関係のタイプを選択ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、作成する TQL 関係のタイプを選択できます。





利用方法	影響分析マネージャ、エンリッチメント・マネージャ、およびモデリング・スタジオの編集表示枠で、ツールバーにある <b>[関係を作成]</b>  ボタンをクリックし、2つのクエリ・ノードの間に線を引きます。 <b>[関係のタイプを選択]</b> ダイアログ・ボックスが自動的に開きます。
重要情報	次の関係のタイプのいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>通常の関係</b>：詳細については、59 ページの「関係の追加 / 編集ダイアログ・ボックス」を参照してください。</li> <li>▶ <b>結合関係</b>：詳細については、56 ページの「結合関係の追加 / 結合関係の編集ダイアログ・ボックス」を参照してください。</li> <li>▶ <b>複合関係</b>：詳細については、52 ページの「[複合関係の追加] / [複合関係の編集]ダイアログ・ボックス」を参照してください。</li> <li>▶ <b>計算された関係</b>：詳細については、50 ページの「[計算された関係を追加] / [計算された関係を編集]ダイアログ・ボックス」を参照してください。</li> </ul>
関連タスク	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 442 ページの「影響ルールの定義 - ワークフロー」</li> <li>▶ 510 ページの「エンリッチメント・ルールの定義 - シナリオ」</li> <li>▶ 27 ページの「TQL クエリの定義」</li> <li>▶ 『HP Universal CMDB 開発者向けリファレンス・ガイド』の「ディスカバリ・アダプタの実装」</li> <li>▶ 285 ページの「パターン・ビューの作成」</li> <li>▶ 286 ページの「テンプレートの作成」</li> <li>▶ 288 ページの「パースペクティブの作成」</li> </ul>



## サブグラフ条件の定義ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、クエリに表示されるクエリ・ノードの数を制限するための条件を作成できます。

<b>利用方法</b>	<p>影響分析マネージャおよびエンリッチメント・マネージャでは、[トリプレットの追加] ダイアログ・ボックスで [条件]  をクリックします。</p> <p>モデリング・スタジオでは、[サブグラフの定義] ダイアログ・ボックスで [条件]  をクリックします。</p>
<b>重要情報</b>	<p>次のタブが表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>属性</b> : クエリ・ノードと関係に対して属性条件を定義できます。[属性] タブの要素の説明は、下の表を参照してください。</li> <li>▶ <b>修飾子</b> : 選択したクエリ・ノードまたは関係の修飾子条件を定義できます。詳細については、87 ページの「修飾子タブ」を参照してください。</li> </ul>
<b>関連タスク</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 442 ページの「影響ルール of の定義 - ワークフロー」</li> <li>▶ 510 ページの「エンリッチメント・ルールの定義 - シナリオ」</li> <li>▶ 27 ページの「TQL クエリの定義」</li> <li>▶ 『HP Universal CMDB 開発者向けリファレンス・ガイド』の「ディスカバリ・アダプタの実装」</li> <li>▶ 285 ページの「パターン・ビューの作成」</li> <li>▶ 286 ページの「テンプレートの作成」</li> <li>▶ 288 ページの「パースペクティブの作成」</li> </ul>



ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素 (A-Z)	説明
	サブグラフ条件の定義が追加されます。
	サブグラフ条件の定義が削除されます。
	選択した行を上へ移動します。
	選択した行を下へ移動します。




UI 要素 (A-Z)	説明
	サブグラフ条件の定義が表示されます。
AND/OR	複数の条件をリンクさせるには、[AND/OR] フィールド内をクリックし、[AND] または [OR] を選択します。
属性名	リストから属性を選択します。
 大括弧	[大括弧] ボックス内をクリックすると、より複雑な論理ステートメントを作成するのに使用できる括弧のリストが表示されます。
条件	[要素インスタンス] ダイアログ・ボックスで定義した属性条件の定義が含まれています。
要素名	ソースリストとターゲットリストから選択した CIT が含まれています。
NOT	定義した内容と反対の条件構文を使用する場合に [NOT] を選択します。 <b>注:</b> [NOT] を選択した場合、クエリの結果には、値が割り当てられていない CI インスタンスのデータは含まれません。たとえば、システム内に 3 つのノードがあるとします。ノード 1 には値 A が割り当てられ、ノード 2 には値 B が割り当てられ、ノード 3 には値が割り当てられていません。A に等しい値を持つすべてのホストを取得するクエリを作成し、[NOT] を選択した場合、ノード 3 には値が割り当てられていないため、クエリの結果にはノード 2 のみが含まれます。
演算子	必要な演算子を選択します。詳細については、42 ページの「属性演算子の定義」を参照してください。
値	属性の値を入力または選択します。[値] オプションは、選択した属性タイプに応じて変わります。

## サブグラフの定義ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、特定の CI に関連する追加の TQL クエリ データを表すグラフを作成できます。

<p><b>利用方法</b></p>	<p><b>エンリッチメント・マネージャ、影響分析マネージャ、モデリング・スタジオで利用するには、次の手順で行います。</b> 編集表示枠で必要なクエリ・ノードを右クリックし、<b>[サブグラフの定義]</b> を選択します。</p> <p><b>注：</b>エンリッチメント・マネージャを使用している場合は、編集表示枠の上部で<b>クエリ・モード</b>を選択して<b>[サブグラフの定義]</b> オプションを表示します。</p> <p><b>DFM のアダプタ管理で利用するには、次の手順で行います。</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li><b>1</b> [ディスカバリ リソース] 表示枠でアダプタを選択します。</li> <li><b>2</b> <b>[アダプタ定義]</b> タブで、 <b>[入力クエリの編集]</b> ボタン ([入力クエリ] ボックスの右) をクリックし、[入力クエリ エディタ] を開きます。</li> <li><b>3</b> 必要なクエリ・ノードを右クリックして <b>[サブグラフの定義]</b> を選択します。</li> </ol>
<p><b>重要情報</b></p>	<p>次のアイコンが、サブグラフを定義するクエリ・ノードの横に表示されます。</p> 
<p><b>関連タスク</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 442 ページの「影響ルールの定義 - ワークフロー」</li> <li>▶ 510 ページの「エンリッチメント・ルールの定義 - シナリオ」</li> <li>▶ 27 ページの「TQL クエリの定義」</li> <li>▶ 『HP Universal CMDB 開発者向けリファレンス・ガイド』の「ディスカバリ・アダプタの実装」</li> <li>▶ 285 ページの「パターン・ビューの作成」</li> <li>▶ 286 ページの「テンプレートの作成」</li> <li>▶ 288 ページの「パースペクティブの作成」</li> </ul>
<p><b>関連情報</b></p>	<p>25 ページの「サブグラフの定義」</p> <p>35 ページの「サブグラフ定義の作成のシナリオ」</p>


ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素 (A-Z)	説明
	サブグラフの定義が追加されます。エンリッチメント・マネージャおよび影響分析マネージャでは、クリックすると [トリプレットの追加] ダイアログ・ボックスが開きます。モデリング・スタジオでは、クリックするとテーブルに行が追加されます。
	サブグラフの定義が削除されます。
	サブグラフの定義を編集できます。影響分析マネージャおよびエンリッチメント・マネージャでは、クリックすると [トリプレットの編集] ダイアログ・ボックスが開きます。モデリング・スタジオでは、クリックすると [サブグラフ条件の定義] ダイアログ・ボックスが開きます。
<b>深度</b>	DFM プロセスに含める必要がある CMDB の 2 つの CI 間で許可されている最長パス（つまり、最も接続の多いクエリ・ノード）の数です。  <b>標準設定：5</b>
<b>要素条件が存在します</b>	[サブグラフ条件の定義] ダイアログ・ボックスで、サブグラフの定義のソース、関係、またはターゲットのいずれかに属性条件が定義されている場合は、緑色のアスタリスクがその横に表示されます。詳細については、93 ページの「サブグラフ条件の定義ダイアログ・ボックス」を参照してください。
<b>関係</b>	ソースからターゲット・クエリ・ノードへの接続に選択されている関係です。
<b>関係の方向</b>	選択されている関係の方向です。クエリ・ノード間の依存関係を示します。
<b>ソース</b>	選択されている必要なソース・クエリ・ノードです。
<b>ターゲット</b>	選択されている必要なターゲット・クエリ・ノードです。



## [ユーザ プリファレンス] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、システムのプリファレンスをリセットできます。

<b>利用方法</b>	[編集] > [ユーザ プリファレンス] を選択するか、またはステータス・バーで [ユーザ プリファレンスの設定] ボタン  をクリックします。
<b>重要情報</b>	選択したプリファレンスはすべて (特定のウィザード・ページを表示するかどうかや、警告メッセージのプリファレンスなど) システムに保存されます。このダイアログ・ボックスでは、これらのプリファレンスをリセットできます。

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します (ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します)。

UI 要素 (A-Z)	説明
< 左側の表示枠 >	編集するプリファレンス ページを選択します。次のオプションを利用できます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ ウィザードプリファレンス</li> <li>▶ オプション メッセージプリファレンス</li> <li>▶ ディスカバリ プリファレンス</li> <li>▶ 一般</li> <li>▶ レポート</li> </ul>
<b>適用フィルタ</b>	オプションのリストをフィルタするための検索語を入力します。
<b>プリファレンスリスト</b>	警告メッセージとユーザが選択したプリファレンスのリストです。
<b>ページのリセット</b>	クリックすると、選択したプリファレンスが標準設定値にリセットされます。
<b>すべてリセット</b>	クリックすると、すべてのプリファレンスが標準設定値にリセットされます。

## トラブルシューティングと制限事項

このセクションでは、トポロジ・クエリ言語のトラブルシューティングと制限事項について説明します。

TQL クエリを有効にするために、TQL クエリが特定の制限に従う必要があります。

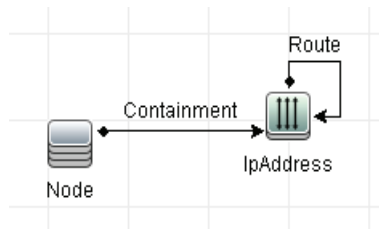
本項の内容

- ▶ 98 ページの「検証制限について」
- ▶ 100 ページの「影響分析 TQL クエリの検証」
- ▶ 101 ページの「エンリッチメント TQL クエリの検証」

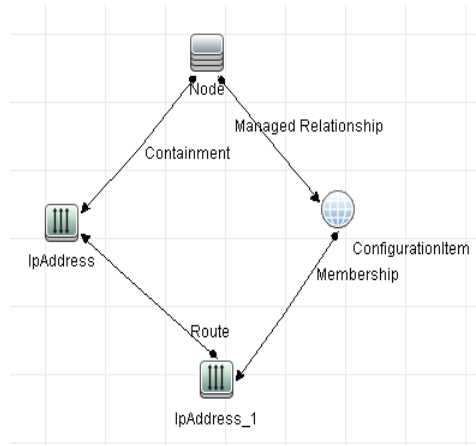
## 検証制限について

影響分析，ディスカバリ，およびエンリッチメント TQL クエリ・タイプを有効にするには，これらが次の制限に従っている必要があります。

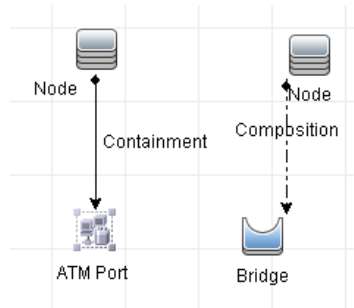
- ▶ **一意の名前**：TQL クエリ要素は一意の名前である必要があります。
- ▶ **自己関係**：TQL クエリは自己関係を含むことができません。つまり，次の例に示すように，関係がクエリ・ノードから，そのクエリ・ノード自身につながってはいけません。



▶ **環状図** : TQL クエリ構造は, 次の例に示すような閉じた環状にはできません。



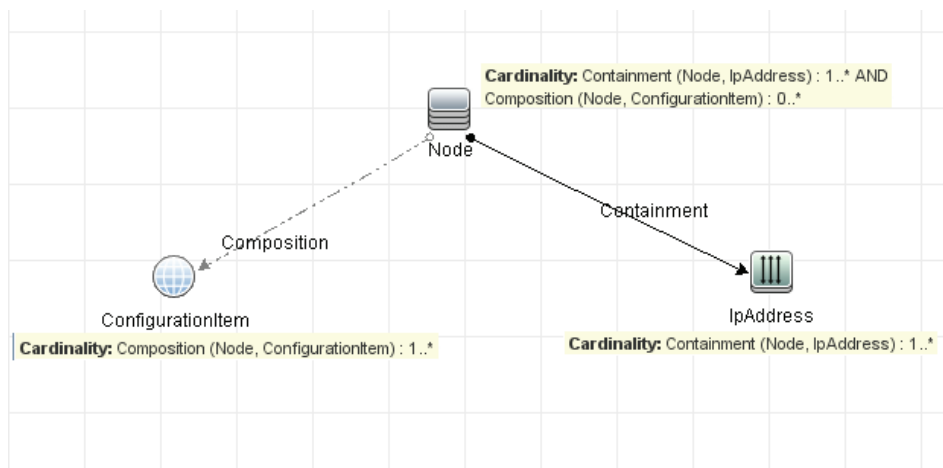
▶ **クエリ・ノードとグループの分離** : すべての TQL クエリ・ノードは互いにリンクされている必要があります。つまり, 次の例に示すように TQL クエリは分離されたクエリ・ノードやグループを含むことはできません。



## 影響分析 TQL クエリの検証

影響分析 TQL クエリは次の制限にも従っている必要があります。

- ▶ **クエリ・ノードの数**：影響分析 TQL クエリは、少なくとも 2 つのクエリ・ノードで構成されている必要があります。
- ▶ **トリガと影響を受けるクエリ・ノードが接続されていること**：トリガされるクエリ・ノードから影響を受けるクエリ・ノードまでの関係のパスがある必要があります。
- ▶ **影響分析トリガとして機能するクエリ・ノードの選択**：影響分析トリガとして機能するクエリ・ノードを選択するときは、クエリ・ノードは次の制限に従う必要があります。
  - ▶ 複数のクエリ・ノードをトリガとして選択できます。ただし、1 つのクエリ・ノードを影響を受けるクエリ・ノードおよびトリガの両方として定義することはできません。
  - ▶ クエリ・ノードに、下限が 0 の関係がある場合（つまり、関係の一端にクエリ・ノードがリンクされていないかもしれない場合）、他端にリンクされているクエリ・ノードは根本原因クエリ・ノードになりません (TQL クエリに存在するかどうか分からないため)。下限の詳細については、84 ページの「カーディナリティタブ」を参照してください。たとえば、**構成アイテム**は、**下限 0** でクエリ・ノードに接続されているため、根本原因クエリ・ノードまたは影響を受けるクエリ・ノードのいずれにもできません。



---

**注：**表示されていないクエリ・ノードは根本原因クエリ・ノードまたは影響を受けるクエリ・ノードになれません。

---

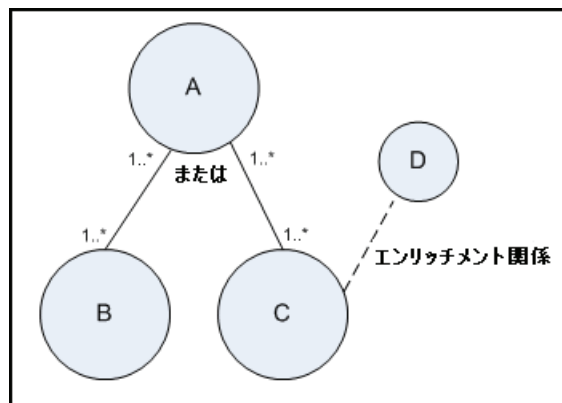
- ▶ **トリガ・クエリ・ノードと影響を受けるクエリ・ノードの間の接続：**定義するトリガ・クエリ・ノードと影響を受けるクエリ・ノードは、トリガされたクエリ・ノードから影響を受けるクエリ・ノードに関係のパスによって接続されている必要があります。

## エンリッチメント TQL クエリの検証

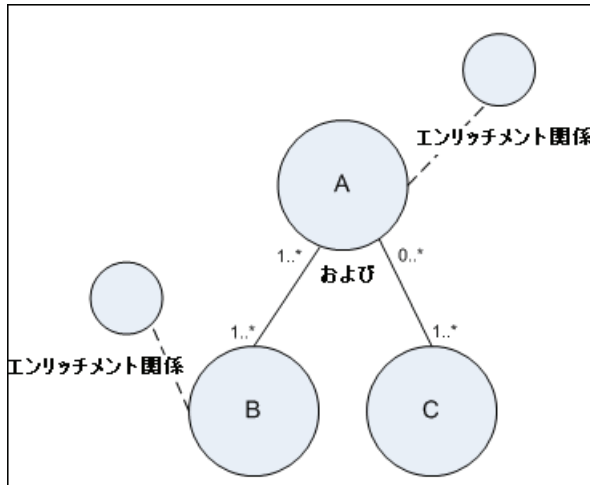
エンリッチメント TQL クエリは、次の制限に従っている必要があります。

- ▶ **必須な要素：**必須でないクエリ・ノードにはエンリッチメントは実行できません。必須でないクエリ・ノードとは、TQL クエリ結果に必ずしも表示されないクエリ・ノードのことです。

**例 1：**この例では、TQL クエリ結果は **A** および **B**、または **A** および **C** です。このため、エンリッチメント・クエリ・ノードをクエリ・ノード **B** または **C** に追加できません。これらは必須な要素ではないためです。クエリ・ノード **A** にはエンリッチメント・クエリ・ノードを追加できます。このクエリ・ノードは常に TQL クエリ結果に表示されるためです。エンリッチメント・クエリ・ノードと関係を追加する方法の詳細については、515 ページの「エンリッチメント・クエリ・ノードと関係をエンリッチメント TQL クエリに追加」を参照してください。



**例2:** この例では、**A**と**B**の両方がTQLクエリ結果に常に表示される必須な要素です。**C**のみが、カーディナリティが**0**なので必須な要素ではありません。このため、**C**にはエンリッチメント・クエリ・ノードを追加できません。



# 2

---

## 計算された関係の使用

本章の内容

### 概念

- ▶ 計算された関係の概要 (104 ページ)
- ▶ 計算された関係 (104 ページ)
- ▶ 計算された関係タイプ (106 ページ)

---

---

## 概念

---

---

### 計算された関係の概要

計算された関係は、パスが CI タイプ・マネージャで関係に基づいているトリプレットに対し定義された条件を満たしている、2 つの CI の間の接続を表します。トリプレットを定義する方法の詳細は、493 ページの「[トリプレット] ページ」を参照してください。

CI タイプ・モデルのほかの関係と同様、計算された関係を使用して TQL クエリを作成できます。これにより、計算された関係を基にしてエンリッチメント・ルール、影響分析ルール、およびビューを作成できるようになります。

計算された関係の方向は、CI タイプ・モデルから得られる物理的な関係の方向と必ずしも同じであるとは限りません。計算された関係に基づいているトリプレットの定義方法に応じて、2 つの CI の間には関係が 1 つ以上存在する可能性があります。

### 計算された関係

計算された関係は 1 つ以上のトリプレットで定義されます。各トリプレットは次のコンポーネントで定義されます。

- ▶ 1 つのソース CI タイプ
- ▶ 1 つのターゲット CI タイプ
- ▶ 2 つの CI タイプをリンクする物理的な関係タイプ（包含など）
- ▶ 関係の方向（必須）。方向は、ソース CI とターゲット CI 間の物理的な関係の方向と同じまたは反対の、いずれの可能性もあります。



計算された関係は、クラス・モデル内から物理的な関係によって定義されるため、その存続期間は物理的な関係の存続期間によって決まります。クラス・モデルの物理的な関係が削除されたときは、対応する計算された関係もすべてのビュー結果から削除されます。

---

**注：** CI タイプ・マネージャで新しい CI タイプまたは関係を作成する場合は、適切なトリプレットを定義する必要があります。

---

### トリプレット定義の例：



## 計算された関係タイプ

**Impacted By** という、標準で用意されている計算された関係があります。**Impacted By** には 2 つのサブタイプが含まれており、それぞれが異なるタイプの依存関係（完全な依存と潜在的な依存）を表します。

- ▶ **Impacted by (Directly)**
- ▶ **Impacted By (Potentially)**

# 3

---

## ダイレクト・リンクの URL の作成

本章の内容

概念

- ▶ ダイレクト・リンクの生成の概要 (108 ページ)

タスク

- ▶ ダイレクト・リンクの生成のシナリオ (110 ページ)

参照先

- ▶ [ダイレクト リンクの生成] ユーザ・インタフェース (111 ページ)

---

---

## 概念

---

---

### ダイレクト・リンクの生成の概要

ダイレクト・リンクを使用することで、別のユーザを HP Universal CMDB 内の特定のターゲット・ビューまたは CI に誘導する URL を作成できます。

次のような URL を作成できます。

- ▶ HP Universal CMDB で特定の HP Universal CMDB ビューまたは CI を直接開きます。これによりユーザは、HP Universal CMDB コンテキストで検索せずに HP Universal CMDB から情報を取得できるようになります。

---

**注：**特定のビューまたは CI を直接 HP Universal CMDB で開くには、**[コンテキスト・リンクに開く]** オプションを使用します。詳細については、112 ページの「[コマンドの選択] ページ」を参照してください。

---

- ▶ HP Universal CMDB との統合を可能にします。
  - ▶ [埋め込みリンク] オプションを使用して URL を作成した場合は、最初に HP Universal CMDB ログイン・ページが表示されます。ログイン名とパスワードを入力すると、ターゲット・ページがブラウザに表示されます。

---

**注：**ブラウザでターゲット・ページを開くには、**[埋め込みリンク]** オプションを使用します。詳細については、112 ページの「[コマンドの選択] ページ」を参照してください。

---

URL の作成時には次のことができます。

- ▶ URL を電子メール受信者に送信する
- ▶ URL をクリップボードにコピーする
- ▶ URL をテストして、ターゲット アプリケーション・ページが見つかるか確認する

URL の送信先となるユーザには、ターゲット・ページを開くのに十分な権限が割り当てられているアカウントが必要です。ターゲット・ビューへのアクセスが必要なユーザおよびユーザ グループには、適切な表示権限および編集権限を適用する必要があります。[マネージャ] > [管理] > [セキュリティ マネージャ] で権限を設定します。詳細については、『HP Universal CMDB 管理ガイド』の「[セキュリティ マネージャ] ページ」を参照してください。

---

---

## タスク

---

---

### **ダイレクト・リンクの生成のシナリオ**

本シナリオでは、ダイレクト・リンクを生成して特定の CI の URL を電子メールで別のユーザに送信する方法について説明します。

Jane Harrison は ABC ソフトウェアという会社のシニア エンジニアです。彼女は、自分が作成したビューで問題のある CI を発見しました。そこで、HP ServiceCenter を通じてその同じビューを使用している Henry Jones に、この問題のある CI のことを知らせようと思いました。彼女が作成したビューには何百もの CI が含まれているため、Henry がその特定の CI を探すのに多くの時間を割かなくてもいいように、CI の URL を電子メールで Henry に送信することにしました。

Jane は IT ユニバース・マネージャの **[編集]** メニューから **[ダイレクトリンクの生成]** を選択しました。そして、**[コマンドの選択]** ページで **[コンテキストリンクで開く]** を選択し、**[ビューを表示]** オプションを選択してから **[次へ]** をクリックしました。

**[ダイレクトリンク パラメータ - ビューを表示]** ページでは、Jane 自身が作成したビューと問題のある CI を選択し、Henry が CI を開くモードとして **[トポロジの表示]** を選択しました。URL が作成されたので、Jane は問題のある CI へのリンクを電子メールで Henry に送信しました。

詳細については、112 ページの「**[ダイレクトリンクの生成]** ウィザード」を参照してください。

---



---

## 参照先

---



---

### [ダイレクト リnkの生成] ユーザ・インタフェース

本項の内容

- ▶ 111 ページの「[ダイレクト リnkの生成] ダイアログ・ボックス」
- ▶ 112 ページの「[ダイレクト リnkの生成] ウィザード」

### [ダイレクト リnkの生成] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、ユーザに送信して HP Universal CMDB にアクセスできるようにするための URL を作成できます。

<b>利用方法</b>	[ <b>モデリング</b> ] メイン・メニューから、[ <b>編集</b> ] > [ <b>ダイレクト リnkの生成</b> ] リnkを選択します。112 ページの「[ダイレクト リnkの生成] ウィザード」でダイレクト・リnkのパラメータを設定した後、[完了] ページで [ <b>完了</b> ] をクリックします。
<b>関連タスク</b>	110 ページの「ダイレクト・リnkの生成のシナリオ」

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素 (A-Z)	説明
<b>URL をコピー</b>	URL がクリップボードにコピーされます。
<b>説明</b>	URL に含まれるパラメータについて説明します。パラメータの選択の詳細については、112 ページの「[コマンドの選択] ページ」を参照してください。
<b>リnk URL</b>	作成された URL で、指定の HP Universal CMDB 機能にアクセスします。
<b>URL をメール</b>	リnkの URL が含まれた電子メールが開きます。
<b>URL をテスト</b>	指定されたアプリケーション・ページが見つかるかどうか URL が検査されます。

## [ダイレクト リンクの生成] ウィザード

このウィザードでは、別のユーザを HP Universal CMDB 内の特定のターゲット・ビューまたは CI に誘導する URL を作成できます。

利用方法	[モデリング] メイン・メニューから、[編集] > [ダイレクトリンクの生成] リンクを選択します。
重要情報	標準設定では、このウィザードは [ようこそ] ページを表示するように設定されています。[ようこそ] ページを表示しないようにするには、[次回からこのページを表示しない] チェック・ボタンを選択します。
関連タスク	110 ページの「ダイレクト・リンクの生成のシナリオ」
ウィザード・マップ	[ダイレクト リンクの生成] ウィザードには次の項目が含まれます。 [コマンドの選択] ページ (< [コンテキストリンクで開く] オプション > および < [埋め込みリンク] オプション >) > [完了] ページ

## [コマンドの選択] ページ

このウィザード・ページでは、URL に追加する必要がある必須パラメータを選択できます。

次の 2 種類のリンクを作成できます。

- ▶ **コンテキスト・リンクで開く** : HP Universal CMDB コンテキストである必要なしに、特定のビューまたは CI を直接 HP Universal CMDB に開く URL を作成します。
- ▶ **埋め込みリンク** : HP Universal CMDB アプレットを外部アプリケーションに埋め込むことができる URL を作成します。

重要情報	標準設定では、このウィザードは [ようこそ] ページを表示するように設定されています。[ようこそ] ページを表示しないようにするには、[次回からこのページを表示しない] チェック・ボタンを選択します。
ウィザード・マップ	[ダイレクト リンクの生成] ウィザードには次の項目が含まれます。 [コマンドの選択] ページ (< [コンテキストリンクで開く] オプション > および < [埋め込みリンク] オプション >) > [完了] ページ
関連情報	112 ページの「[ダイレクトリンクの生成] ウィザード」



ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

UI 要素 (A-Z)	説明
< 左側の表示枠 >	選択したコマンドのイラストです。
CII グリッド	CMDB で見つかった、選択した CI タイプとその子のすべての CUI インスタンスを表示する URL を作成します。詳細については、119 ページの「[ダイレクトリンク パラメータ - CII グリッド] ページ」を参照してください。 <b>注：</b> [埋め込みリンク] オプションを選択した場合にのみ使用できます。
CI の選択	選択したビューの CI を表示する CI の選択を外部アプリケーションに埋め込む URL を作成します。詳細については、116 ページの「[ダイレクトリンク パラメータ - CI の選択] ページ」を参照してください。 <b>注：</b> [埋め込みリンク] オプションを選択した場合にのみ使用できます。
CI タイプ・セクタ	CI タイプ・セクタを外部アプリケーションに埋め込む URL を作成します。詳細については、117 ページの「[ダイレクトリンク パラメータ - CI タイプセクタ] ページ」を参照してください。 <b>注：</b> [埋め込みリンク] オプションを選択した場合にのみ使用できます。
説明	選択したコマンドの説明です。
影響マップ	影響マップを外部アプリケーションに埋め込む URL を作成します。詳細については、120 ページの「[ダイレクトリンク パラメータ - 影響マップ] ページ」を参照してください。 <b>注：</b> [埋め込みリンク] オプションを選択した場合にのみ使用できます。
モデル エディタ	モデル・エディタを、モデル・エディタの CI の選択で選択した CI を強調表示して外部アプリケーションに埋め込む URL を作成します。詳細については、121 ページの「[ダイレクトリンク パラメータ - モデル エディタ]」を参照してください。 <b>注：</b> [埋め込みリンク] オプションを選択した場合にのみ使用できます。

UI 要素 (A-Z)	説明
クエリ・エディタ	<p>選択した TQL クエリが表示されているモデル・エディタを外部アプリケーションに埋め込む URL を作成します。詳細については、122 ページの「[ダイレクトリンク パラメータ - クエリ エディタ]」を参照してください。</p> <p><b>注:</b> [埋め込みリンク] オプションを選択した場合にのみ使用できます。</p>
関連 CI	<p>選択したビュー内で選択した CI とその直接の隣接を表示するトポロジ・マップを開く URL を作成します。詳細については、123 ページの「[ダイレクトリンク パラメータ - 関連 CI] ページ」を参照してください。</p> <p><b>注:</b> [埋め込みリンク] オプションを選択した場合にのみ使用できます。</p>
レポート・ビューア	<p>特定のレポートを開く URL を作成します。詳細については、124 ページの「[ダイレクトリンク パラメータ - レポートビューア] ページ」を参照してください。</p> <p><b>注:</b> [埋め込みリンク] オプションを選択した場合にのみ使用できます。</p>
レポート・ビューア - 保存済みレポート	<p>保存済みのトポロジまたはカスタム・レポートを開く URL を作成します。詳細については、124 ページの「[ダイレクトリンク パラメータ - レポートビューア - 保存済みレポート] ページ」を参照してください。</p> <p><b>注:</b> [埋め込みリンク] オプションを選択した場合にのみ使用できます。</p>
変更レポートの表示	<p>特定の CI に加えられた変更を表示するレポートを外部アプリケーションに埋め込む URL を作成します。詳細については、126 ページの「[ダイレクトリンク パラメータ - 変更レポートの表示] ページ」を参照してください。</p> <p><b>注:</b> [埋め込みリンク] オプションを選択した場合にのみ使用できます。</p>
ビューに変更レポートを表示	<p>特定のビューに加えられた変更を表示するレポートを外部アプリケーションに埋め込む URL を作成します。詳細については、127 ページの「[ダイレクトリンク パラメータ - ビューに変更レポートを表示] ページ」を参照してください。</p> <p><b>注:</b> [埋め込みリンク] オプションを選択した場合にのみ使用できます。</p>

UI 要素 (A-Z)	説明
CI のプロパティを表示	<p>CI のプロパティを表示する URL を作成します。詳細については、125 ページの「[ダイレクトリンク パラメータ - CI のプロパティを表示] ページ」を参照してください。</p> <p><b>注:</b> [埋め込みリンク] オプションを選択した場合にのみ使用できます。</p>
トポロジ・レポートを表示	<p>トポロジ・レポートを外部アプリケーションに埋め込む URL を作成します。詳細については、126 ページの「[ダイレクトリンク パラメータ - トポロジ レポートを表示] ページ」を参照してください。</p> <p><b>注:</b> [埋め込みリンク] オプションを選択した場合にのみ使用できます。</p>
ビューを表示	<p>選択したビューおよび、任意でそのビューに事前に選択したクエリ ノードを表示する URL を作成します。詳細については、130 ページの「[ダイレクトリンク パラメータ - ビューを表示] ページ」を参照してください。</p> <p><b>注:</b> [コンテキストリンクで開く] オプションを選択した場合にのみ使用できます。</p>
ビュー トポロジを表示	<p>選択したビューのトポロジ・マップを表示し、そのトポロジ・マップを外部アプリケーションに埋め込む URL を作成します。詳細については、128 ページの「[ダイレクトリンク パラメータ - ビュー トポロジを表示] ページ」を参照してください。</p> <p><b>注:</b> [埋め込みリンク] オプションを選択した場合にのみ使用できます。</p>
モードで開始	<p>選択したページで HP Universal CMDB を開く URL を作成します。詳細については、131 ページの「[ダイレクトリンク パラメータ - モードで開始] ページ」を参照してください。</p> <p><b>注:</b> [コンテキストリンクで開く] オプションを選択した場合にのみ使用できます。</p>
ステップ	手順の現在のステップ。



UI 要素 (A-Z)	説明
ビュー エディタ	<p>モデリング・スタジオのパターン・ビュー・エディタで特定のビューを開く URL を作成します。詳細については、129 ページの「[ダイレクトリンク パラメータ - ビュー エディタ] ページ」を参照してください。</p> <p><b>注:</b> [埋め込みリンク] オプションを選択した場合にのみ使用できます。</p>
ビュー・セレクト	<p>ビュー・セレクトを外部アプリケーションに埋め込み、アプリケーション内でビューを選択、表示できるようにする URL を作成します。詳細については、129 ページの「[ダイレクトリンク パラメータ - ビューセレクト] ページ」を参照してください。</p> <p><b>注:</b> [埋め込みリンク] オプションを選択した場合にのみ使用できます。</p>

### [ダイレクトリンク パラメータ - CI の選択] ページ

このウィザード・ページでは、選択したビューの CI を表示する CI の選択を外部アプリケーションに埋め込む URL を作成できます。

ウィザード・マップ	[コマンドの選択] ページ ([埋め込みリンク] > [CI の選択]) > [完了] ページ
重要情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ [ダイレクトリンクの生成] ウィザードの全般的な情報については、112 ページの「[ダイレクトリンクの生成] ウィザード」を参照してください。</li> <li>▶ ウィザードを閉じて URL を作成するときは [完了] をクリックします。詳細については、111 ページの「[ダイレクトリンクの生成] ダイアログ・ボックス」を参照してください。</li> </ul>

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。



UI 要素 (A-Z)	説明
複数選択を許可	CI の単一選択または複数選択を可能にします。
選択されたビュー	<p>CI を選択する必要があるビューを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶  をクリックすると、[ビュー セレクタ] ダイアログ・ボックスが開きます。CI の選択に表示するビューを選択します。</li> <li>▶ 選択したビューを削除するには、 をクリックします。</li> </ul>







### [ダイレクト リンク パラメータ - CI タイプ セレクタ] ページ

このウィザード・ページでは、外部アプリケーションに埋め込むことができる、選択した CI タイプの階層ツリーまたはリストへの URL を作成できます。

重要情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ [ダイレクトリンクの生成] ウィザードの全般的な情報については、112 ページの「[ダイレクトリンクの生成] ウィザード」を参照してください。</li> <li>▶ ウィザードを閉じて URL を作成するときは <b>[完了]</b> をクリックします。詳細については、111 ページの「[ダイレクトリンクの生成] ダイアログ・ボックス」を参照してください。</li> </ul>
ウィザード・マップ	[コマンドの選択] ページ ([埋め込みリンク] > [CI タイプ セレクタ]) > [完了] ページ

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素 (A-Z)	説明
CI タイプ・セレクタモード	選択した CI タイプが階層ツリーまたはリストで表示されます。
非表示 CIT (ツリーのみ)	<p>ツリーに表示しない CI タイプを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶  をクリックすると、[CI タイプ セレクタ] ダイアログ・ボックスが開きます。ツリーに表示する CI タイプを選択します。</li> <li>▶  をクリックすると、選択した CI タイプが削除されます。</li> </ul>



UI 要素 (A-Z)	説明
<b>ルート CI タイプ (ツリーのみ)</b>	<p>階層ツリーで、ルート CI タイプとして使用する CI タイプを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶  をクリックすると、[CI タイプ セレクタ] ダイアログ・ボックスが開きます。階層ツリーで、ルート CI タイプとして使用する CI タイプを選択します。</li> <li>▶  をクリックすると、選択した CI タイプが削除されます。標準は IT ユニバースです。</li> </ul>
<b>選択モード</b>	<p>CI タイプの単一選択または複数選択を可能にします。</p>
<b>選択不可の CIT (ツリーのみ)</b>	<p>ツリーで選択できない CI タイプを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶  をクリックすると、[CI タイプ セレクタ] ダイアログ・ボックスが開きます。ツリーで選択できない CI タイプを選択します。</li> <li>▶  をクリックすると、選択した CI タイプが削除されます。</li> </ul>
<b>可視 CIT (リストのみ)</b>	<p>CI タイプ・リストに表示する CI タイプを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶  をクリックすると、[CI タイプ セレクタ] ダイアログ・ボックスが開きます。CI タイプ・リストに表示する CI タイプを選択します。</li> <li>▶  をクリックすると、選択した CI タイプが削除されます。</li> </ul> <p><b>注:</b> CIT をリストに表示することを選択した場合は、少なくとも 1 つの CI タイプを選択する必要があります。</p>

## [ダイレクト リンク パラメータ – CII グリッド] ページ

このウィザード・ページでは、CMDDB で見つかった、選択した CI タイプとその子のすべての CI インスタンスを表示できます。

<b>重要情報</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ [ダイレクトリンクの生成] ウィザードの全般的な情報については、112 ページの「[ダイレクトリンクの生成] ウィザード」を参照してください。</li> <li>▶ ウィザードを閉じて URL を作成するときは <b>[完了]</b> をクリックします。詳細については、111 ページの「[ダイレクトリンクの生成] ダイアログ・ボックス」を参照してください。</li> </ul>
<b>ウィザード・マップ</b>	[コマンドの選択] ページ ( [埋め込みリンク] > [CII グリッド] ) > [完了] ページ
<b>関連情報</b>	73 ページの「要素インスタンス ダイアログ・ボックス」

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。



UI 要素 (A-Z)	説明
<b>クラス・タイプ</b>	必要な CI タイプを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 必要な CI タイプを選択するときは  をクリックします。[CI タイプ セレクタ] ダイアログ・ボックスが開きます。</li> <li>▶ CI タイプを削除するときは  をクリックします。</li> </ul>

## [ダイレクト リンク パラメータ - 影響マップ] ページ





このウィザード・ページでは、影響分析マネージャで定義した影響分析ルールを実行できます。作成された URL では、選択した重大度および状態に対するトリガ CI の影響を受けるすべての CI のシミュレーションが表示されたトポロジ・マップを埋め込むことができます。詳細については、260 ページの「[影響分析を実行] ダイアログ・ボックス」を参照してください。

<b>重要情報</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ [ダイレクト リンクの生成] ウィザードの全般的な情報については、112 ページの「[ダイレクト リンクの生成] ウィザード」を参照してください。</li> <li>▶ ウィザードを閉じて URL を作成するときは <b>[完了]</b> をクリックします。詳細については、111 ページの「[ダイレクト リンクの生成] ダイアログ・ボックス」を参照してください。</li> </ul>
<b>ウィザード・マップ</b>	[コマンドの選択] ページ ([埋め込みリンク] > [影響マップ]) > [完了] ページ
<b>関連情報</b>	201 ページの「IT ユニバース・マネージャ」

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素 (A-Z)	説明
<b>CI タイプでフィルタ</b>	<p>影響分析結果に表示しない CI タイプを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 必要な CI タイプを選択するときは  をクリックします。</li> <li>▶  をクリックすると、選択した CI タイプが削除されます。</li> </ul>
<b>ルール・バンドル</b>	影響ルールを実行できる場所を定義できます。







UI 要素 (A-Z)	説明
<b>重大度</b>	<p>▶  をクリックして、必要な重大度を選択します。</p> <p><b>注：</b>状態の重大度リストは、システム・タイプ・マネージャで定義されます。詳細については、468 ページの「システム・タイプ・マネージャ」を参照してください。</p> <p>たとえば、トリガ・クエリ・ノードの重大度を「<b>変更なし</b>」以外として定義する影響ルールを影響分析マネージャで作成するとします(457 ページの「[影響ルール定義] ダイアログ・ボックス」を参照してください)。この場合、「<b>No Change</b>」以外の重大度(たとえば、「<b>Plan</b>」)を選択すると、条件が一致し、シミュレートされたシステム内の変化がトリガされます。</p> <p>詳細については、260 ページの「[影響分析を実行] ダイアログ・ボックス」を参照してください。</p> <p>▶ 選択した重大度を削除するには、 をクリックします。</p>
<b>トリガ CI</b>	<p>▶  をクリックして、影響マップでトリガとして使用する CI を選択します。これらの CI は、システムに対するシミュレートされた変更を表します。[CI の選択] ダイアログ・ボックスが開きます。[CI の選択] 表示枠の使用の詳細については、151 ページの「CI の選択」を参照してください。</p> <p>▶ 選択した CI を削除するには、 をクリックします。</p>

### [ダイレクト リンク パラメータ – モデル エディタ]

このウィザード・ページでは、モデル・エディタを、モデル・エディタの CI の選択で選択した CI を強調表示して外部アプリケーションに埋め込むことができます。

<b>重要情報</b>	<p>▶ [ダイレクトリンクの生成]ウィザードの全般的な情報については、112 ページの「[ダイレクトリンクの生成]ウィザード」を参照してください。</p> <p>▶ ウィザードを閉じて URL を作成するときは [完了] をクリックします。詳細については、111 ページの「[ダイレクトリンクの生成] ダイアログ・ボックス」を参照してください。</p>
<b>ウィザード・マップ</b>	<p>[コマンドの選択] ページ ([埋め込みリンク] &gt; [モデルエディタ]) &gt; [完了] ページ</p>
<b>関連情報</b>	<p>274 ページの「ビジネス CI モデル」</p>

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。



UI 要素 (A-Z)	説明
モデル名	<p>モデル・エディタに表示するモデルを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶  をクリックして、[モデルを選択] ダイアログ・ボックスを開きます。モデル・エディタに表示するモデルを選択します。</li> <li>▶ 選択したモデルを削除するには、 をクリックします。</li> </ul>
選択された検索中 CI	<p>モデル・エディタの CI の選択で強調表示する CI を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶  をクリックして、CI の選択を開きます。</li> <li>▶ 選択した CI を削除するには、 をクリックします。</li> </ul>

### [ダイレクト リンク パラメータ - クエリ エディタ]

このウィザード ページでは、選択した TQL クエリが表示されているモデル・エディタを外部アプリケーションに埋め込むことができます。

重要情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ [ダイレクト リンクの生成] ウィザードの全般的な情報については、112 ページの「[ダイレクト リンクの生成] ウィザード」を参照してください。</li> <li>▶ ウィザードを閉じて URL を作成するときは [完了] をクリックします。詳細については、111 ページの「[ダイレクト リンクの生成] ダイアログ・ボックス」を参照してください。</li> </ul>
ウィザード・マップ	[コマンドの選択] ページ ([埋め込みリンク] > [クエリ エディタ]) > [完了] ページ
関連情報	274 ページの「ビジネス CI モデル」

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。







UI 要素 (A-Z)	説明
クエリ名	<p>モデル・エディタに表示するモデルを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶  をクリックして、[Select Query] ダイアログ・ボックスを開きます。モデル・エディタに表示するクエリを選択します。</li> <li>▶ 選択したクエリを削除するには、 をクリックします。</li> </ul>

## [ダイレクト リンク パラメータ – 関連 CI] ページ

このウィザード・ページでは、特定の CI と、わずか 1 つの関係という距離でその CI にリンクされているすべての CI が表示されたトポロジ・マップを外部アプリケーションに埋め込むことができます。

<b>重要情報</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ [ダイレクト リンクの生成] ウィザードの全般的な情報については、112 ページの「[ダイレクト リンクの生成] ウィザード」を参照してください。</li> <li>▶ ウィザードを閉じて URL を作成するときは <b>[完了]</b> をクリックします。詳細については、111 ページの「[ダイレクト リンクの生成] ダイアログ・ボックス」を参照してください。</li> </ul>
<b>ウィザード・マップ</b>	[コマンドの選択] ページ ([埋め込みリンク] > [関連 CI]) > [完了] ページ

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します (ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します)。

UI 要素 (A-Z)	説明
<b>CI</b>	トポロジ・マップに表示する CI のタイプを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 必要な CI タイプを選択するときは  をクリックします。[CI の選択] ダイアログ・ボックスが開きます。</li> <li>▶ [CI] ボックスの値を削除するには  をクリックします。</li> </ul>
<b>CI タイプでフィルタ</b>	1 つ以上の CI タイプの関連 CI にトポロジ・マップの結果を制限します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 必要な CI タイプを選択するときは  をクリックします。</li> <li>▶ [CI タイプでフィルタ] ボックスの値を削除するには  をクリックします。</li> </ul>
<b>表示に限定</b>	特定のビューの関連 CI にトポロジ・マップの結果を制限します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 必要なビューを選択するときは  をクリックします。[ビュー セレクタ] ダイアログ・ボックスが開きます。</li> <li>▶ [次のビューに結果を制限] ボックス内の選択したビューを削除するときは  をクリックします。</li> </ul>

## [ダイレクト リンク パラメータ - レポート ビューア] ページ

このウィザード・ページでは、特定のレポートを開く URL を作成できます。

<b>重要情報</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ [ダイレクト リンクの生成] ウィザードの全般的な情報については、112 ページの「[ダイレクト リンクの生成] ウィザード」を参照してください。</li> <li>▶ ウィザードを閉じて URL を作成するときは <b>[完了]</b> をクリックします。詳細については、111 ページの「[ダイレクト リンクの生成] ダイアログ・ボックス」を参照してください。</li> </ul>
<b>ウィザード・マップ</b>	[コマンドの選択] ページ ([埋め込みリンク] > [レポート ビューア]) > [完了] ページ

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。



UI 要素 (A-Z)	説明
<b>レポート・タイプ</b>	必要なレポート・タイプを選択します。各レポート・タイプの詳細については、363 ページの「レポート」を参照してください。

## [ダイレクト リンク パラメータ - レポート ビューア - 保存済みレポート] ページ

このウィザード・ページでは、保存済みのトポロジまたはカスタム・レポートを開く URL を作成できます。

<b>重要情報</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ [ダイレクト リンクの生成] ウィザードの全般的な情報については、112 ページの「[ダイレクト リンクの生成] ウィザード」を参照してください。</li> <li>▶ ウィザードを閉じて URL を作成するときは <b>[完了]</b> をクリックします。詳細については、111 ページの「[ダイレクト リンクの生成] ダイアログ・ボックス」を参照してください。</li> </ul>
<b>ウィザード・マップ</b>	[コマンドの選択] ページ ([埋め込みリンク] > [レポート ビューア - 保存済みレポート]) > [完了] ページ

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。



UI 要素 (A-Z)	説明
レポート	<p>必要な保存済みレポートを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶  をクリックして、[レポートの選択] ダイアログ・ボックスを開きます。必要なトポロジまたはカスタム・レポートを選択します。</li> <li>▶ 選択したレポートを削除するには、 をクリックします。</li> </ul> <p>保存済みレポートの詳細については、363 ページの「レポート」を参照してください。</p>

### [ダイレクト リンク パラメータ - CI のプロパティを表示] ページ

このウィザード・ページでは、既存の CI の基本情報を表示できます。

重要情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ [ダイレクト リンクの生成] ウィザードの全般的な情報については、112 ページの「[ダイレクト リンクの生成] ウィザード」を参照してください。</li> <li>▶ ウィザードを閉じて URL を作成するときは [完了] をクリックします。詳細については、111 ページの「[ダイレクト リンクの生成] ダイアログ・ボックス」を参照してください。</li> </ul>
ウィザード・マップ	[コマンドの選択] ページ ([埋め込みリンク] > [CI のプロパティを表示]) > [完了] ページ
関連情報	233 ページの「[構成アイテムのプロパティ] ダイアログ・ボックス」

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。



UI 要素 (A-Z)	説明
ソース CI のオブジェクト ID	<p>必要な CI を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ ソース CI を選択してそのオブジェクト ID を取得するときは  をクリックします。[ソース CI の選択] ダイアログ・ボックスが開きます。詳細については、151 ページの「CI の選択」を参照してください。</li> <li>▶ [ソース CI のオブジェクト ID] ボックスの値を削除するときは  をクリックします。</li> </ul>

## [ダイレクト リンク パラメータ - トポロジ レポートを表示] ページ

このウィザード・ページでは、特定のトポロジ・レポートの URL を作成できます。

<b>重要情報</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ [ダイレクト リンクの生成] ウィザードの全般的な情報については、112 ページの「[ダイレクト リンクの生成] ウィザード」を参照してください。</li> <li>▶ ウィザードを閉じて URL を作成するときは <b>[完了]</b> をクリックします。詳細については、111 ページの「[ダイレクト リンクの生成] ダイアログ・ボックス」を参照してください。</li> </ul>
<b>ウィザード・マップ</b>	[コマンドの選択] ページ ([埋め込みリンク] > [トポロジ レポートを表示]) > [完了] ページ
<b>関連情報</b>	364 ページの「トポロジ・レポートの概要」

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。



UI 要素 (A-Z)	説明
<b>レポート名</b>	<p>必要なトポロジ・レポートを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 必要なトポロジ・レポートを選択するときは  をクリックします。[レポート ツリー] ダイアログ・ボックスが開きます。</li> <li>▶ [レポート名] ボックスの値を削除するときは  をクリックします。</li> </ul>

## [ダイレクト リンク パラメータ - 変更レポートの表示] ページ

このウィザード・ページでは、特定の CI とその子に加えられた変更を表示する特定の変更レポートの URL を作成できます。

<b>重要情報</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ [ダイレクト リンクの生成] ウィザードの全般的な情報については、112 ページの「[ダイレクト リンクの生成] ウィザード」を参照してください。</li> <li>▶ ウィザードを閉じて URL を作成するときは <b>[完了]</b> をクリックします。詳細については、111 ページの「[ダイレクト リンクの生成] ダイアログ・ボックス」を参照してください。</li> </ul>
<b>ウィザード・マップ</b>	[コマンドの選択] ページ ([埋め込みリンク] > [変更レポートの表示]) > [完了] ページ

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。



UI 要素 (A-Z)	説明
開始日付:	レポートの開始日時を設定します。
終了日付:	レポートの終了日時を設定します。
ソース CI のオブジェクト ID	<p>特定の CI とその子に加えられた変更を表示する特定の変更レポートの URL を作成できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ ソース CI を選択してそのオブジェクト ID を取得するときは  をクリックします。[ソース CI の選択] ダイアログ・ボックスが開きます。詳細については、151 ページの「CI の選択」を参照してください。</li> <li>▶ [ソース CI のオブジェクト ID] ボックスの値を削除するときは  をクリックします。</li> </ul>
時間範囲:	レポートを表示する時間範囲を選択します。

### [ダイレクト リンク パラメータ - ビューに変更レポートを表示] ページ

このウィザード・ページでは、特定のビューに加えられた変更を表示する特定の変更レポートの URL を作成できます。

重要情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ [ダイレクト リンクの生成] ウィザードの全般的な情報については、112 ページの「[ダイレクト リンクの生成] ウィザード」を参照してください。</li> <li>▶ ウィザードを閉じて URL を作成するときは [完了] をクリックします。詳細については、111 ページの「[ダイレクト リンクの生成] ダイアログ・ボックス」を参照してください。</li> </ul>
ウィザード・マップ	[コマンドの選択] ページ ([埋め込みリンク] > [ビューに変更レポートを表示]) > [完了] ページ
関連情報	379 ページの「変更されたビューのレポート」

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。



UI 要素 (A-Z)	説明
開始日付:	レポートの開始日時を設定します。
終了日付:	レポートの終了日時を設定します。
選択されたビュー	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 必要なビューを選択するときは  をクリックします。 [ビューの選択] ダイアログ・ボックスが開きます。</li> <li>▶ [選択されたビュー] ボックスの値を削除するときは  をクリックします。</li> </ul>
時間範囲:	レポートを表示する時間範囲を選択します。

### [ダイレクト リンク パラメータ - ビュー トポロジを表示] ページ

このウィザード・ページでは、選択したビューのトポロジ・マップを表示し、そのトポロジ・マップを外部アプリケーションに埋め込むことができます。

重要情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ [ダイレクト リンクの生成] ウィザードの全般的な情報については、112 ページの「[ダイレクト リンクの生成] ウィザード」を参照してください。</li> <li>▶ ウィザードを閉じて URL を作成するときは [完了] をクリックします。詳細については、111 ページの「[ダイレクト リンクの生成] ダイアログ・ボックス」を参照してください。</li> </ul>
ウィザード・マップ	[コマンドの選択] ページ ([埋め込みリンク] > [ビュー トポロジを表示]) > [完了] ページ

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素 (A-Z)	説明
次のビューのトポロジを表示	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ URL によって開く必要があるビューを選択するには  をクリックします。 [ビューの選択] ダイアログ・ボックスが開きます。</li> <li>▶ [選択されたビュー] ボックス内の選択したビューを削除するときは  をクリックします。</li> </ul>





## [ダイレクト リンク パラメータ - ビュー エディタ] ページ

このウィザード・ページでは、モデリング・スタジオのパターン・ビュー・エディタで特定のビューを開く URL を作成できます。

<b>重要情報</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ [ダイレクト リンクの生成] ウィザードの全般的な情報については、112 ページの「[ダイレクト リンクの生成] ウィザード」を参照してください。</li> <li>▶ ウィザードを閉じて URL を作成するときは <b>[完了]</b> をクリックします。詳細については、111 ページの「[ダイレクト リンクの生成] ダイアログ・ボックス」を参照してください。</li> </ul>
<b>ウィザード・マップ</b>	[コマンドの選択] ページ ([埋め込みリンク] > [ビュー エディタ]) > [完了] ページ
<b>関連情報</b>	269 ページの「ビジネス・ビューの構築」

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素 (A-Z)	説明
<b>ビュー名</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ URL によって開く必要があるビューを選択するには  をクリックします。[ビューセクタ] ダイアログ・ボックスが開きます。</li> <li>▶ <b>[選択されたビュー]</b> ボックス内の選択したビューを削除するときは  をクリックします。</li> </ul>

## [ダイレクト リンク パラメータ - ビュー セクタ] ページ

このウィザード・ページでは、ビュー・セクタを外部アプリケーションに埋め込み、そのアプリケーションでビューを選択、表示するようになります。



<b>重要情報</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ [ダイレクト リンクの生成] ウィザードの全般的な情報については、112 ページの「[ダイレクト リンクの生成] ウィザード」を参照してください。</li> <li>▶ ウィザードを閉じて URL を作成するときは <b>[完了]</b> をクリックします。詳細については、111 ページの「[ダイレクト リンクの生成] ダイアログ・ボックス」を参照してください。</li> </ul>
<b>ウィザード・マップ</b>	[コマンドの選択] ページ ([埋め込みリンク] > [ビュー セクタ]) > [完了] ページ
<b>関連情報</b>	269 ページの「ビジネス・ビューの構築」



## [ダイレクト リンク パラメータ - ビューを表示] ページ

このウィザード・ページでは、特定のビュー、および任意でそのビューで選択した特定のノードの URL を作成できます。ビューが開くと、選択した CI がビュー内で選択された状態になります。ビューは IT ユニバース・マネージャで開きます。

<p><b>重要情報</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ [ダイレクト リンクの生成] ウィザードの全般的な情報については、112 ページの「[ダイレクト リンクの生成] ウィザード」を参照してください。</li> <li>▶ ウィザードを閉じて URL を作成するときは <b>[完了]</b> をクリックします。詳細については、111 ページの「[ダイレクト リンクの生成] ダイアログ・ボックス」を参照してください。</li> </ul>
<p><b>ウィザード・マップ</b></p>	<p>[コマンドの選択] ページ ([コンテキストリンクで開く] &gt; [ビューを表示]) &gt; [完了] ページ</p>

以下では、使用されるインタフェース要素について説明します。

UI 要素 (A-Z)	説明
<p>&lt; 左側の表示枠 &gt;</p>	<p>選択したオプションのイラストです。</p>
<p><b>詳細表示枠 (可視性)</b></p>	<p>IT ユニバース・マネージャの [詳細表示枠] を表示または非表示にします。</p>
<p><b>ビュー結果から CI を選択</b></p>	<p>CI を選択してそのオブジェクト ID を取得するときにクリックします (任意指定)。ビューが開くと、選択した CI がビュー内で選択された状態になります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ ターゲット・ビューに必要な CI を選択してそのオブジェクト ID を取得するときは  をクリックします。[ソース CI の選択] ダイアログ・ボックスが開きます。詳細については、151 ページの「CI の選択」を参照してください。</li> <li>▶ [ビュー結果から CI を選択] ボックス内の選択した CI のオブジェクト ID を削除するときは  をクリックします。</li> </ul>

UI 要素 (A-Z)	説明
選択されたビュー	<p>URL で開くターゲット・ビューです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ URL で開くターゲット・ビューを選択するときは  をクリックします。[ビューの選択] ダイアログ・ボックスが開きます。</li> <li>▶ [選択されたビュー] ボックス内の選択したビューを削除するときは  をクリックします。</li> </ul>
ビュー モード	<p>次のビュー・オプションを使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>トポロジの表示</b> : ビュー内のレイヤ全体が表示されます。</li> <li>▶ <b>ビュー内の関連項目</b> : 現在のビュー内の選択された CI とその直接の隣接が表示されます。</li> <li>▶ <b>データベース内の関連項目</b> : CMDB 内の選択した CI とその直接の隣接が表示されます。</li> </ul>

### [ダイレクト リンク パラメータ - モードで開始] ページ

このウィザード・ページでは、たとえば [モデリング スタジオ] ページなど、選択したページで UCMDDB アプリケーションを開始できます。

重要情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ [ダイレクト リンクの生成] ウィザードの全般的な情報については、112 ページの「[ダイレクト リンクの生成] ウィザード」を参照してください。</li> <li>▶ ウィザードを閉じて URL を作成するときは [完了] をクリックします。詳細については、111 ページの「[ダイレクト リンクの生成] ダイアログ・ボックス」を参照してください。</li> </ul>
ウィザード・マップ	[コマンドの選択] ページ ([コンテキストリンクで開く] > [モードで開始] ページ) > [完了] ページ

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します (ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します)。

UI 要素 (A-Z)	説明
< 左側の表示枠 >	選択したモードのイラストです。
初期モード	選択したモードで UCMDDB アプリケーションを開始します。

### **[完了] ページ**

これは [ダイレクト リンクの生成] ウィザードの最後のページです。ウィザードを閉じて URL を作成するときは **[完了]** をクリックします。[ダイレクト リンクの生成] ダイアログ・ボックスが開きます。

<b>重要情報</b>	[ダイレクト リンクの生成] ウィザードの全般的な情報については、112 ページの「 [ダイレクト リンクの生成] ウィザード」を参照してください。
<b>ウィザード・マップ</b>	[コマンドの選択] ページ (< [コンテキストリンクで開く] オプション > および < [埋め込みリンク] オプション >) > <b>[完了] ページ</b>

# 4

---

## ダイレクト・リンクを使用した UCMDB アプレットの埋め込み

このドキュメントでは、ダイレクト・リンクを使用して UCMDB アプレットを外部アプリケーションに埋め込む方法について説明します。

本章の内容

### 概念

- ▶ ダイレクト・リンク機能を使用した UCMDB アプレットの埋め込み (134 ページ)
- ▶ UCMDB アプレット・タグ - 概要 (135 ページ)

### 参照先

- ▶ ダイレクト・リンクの操作フロー (137 ページ)

---

**注:** この章は、統合開発者にのみ関係があります。

---

---

---

## 概念

---

---

### **ダイレクト・リンク機能を使用した UCMDB アプレットの埋め込み**

ダイレクト・リンクを使用して UCMDB アプレットを外部アプリケーションに直接埋め込むことができます。ダイレクト・リンクは、ダイレクト・リンク・ウィザードを使用して作成する URL です。詳細については、112 ページの「[ダイレクトリンクの生成] ウィザード」を参照してください。

UCMDB アプレットは、次の方法で埋め込むことができます。

- ▶ URL そのものを使用して、CMDB のコンテンツを外部アプリケーションに表示します。たとえば、ダイレクト・リンク・ウィザードで URL を作成して、特定の CI のプロパティを表示できます。まだ HP Universal CMDB にログインしていない場合は、ログイン・ページが開きます。

---

**注：** URL を使用した統合を可能にするには、Iframe または新規ウィンドウでリンクを開く必要があります。この場合、クロスサイト・スクリプティングに関する問題により、UCMDB アプレットを Javascript を使用して管理することはできません。たとえば、オブジェクト ID を使用して特定 CI のプロパティを表示する URL を使用する場合、同じ URL を使用して他の CI のプロパティを表示することはできません。

---

- ▶ UCMDB アプレット・タグを使用して、UCMDB アプレットを外部アプリケーションに埋め込みます。これにより、統合開発者は HP Universal CMDB ユーザ・インタフェースの一部を独自のアプリケーションの一部として表示できます。また、Javascript を使用した埋め込み HP Universal CMDB ユーザ・インタフェースとのやり取りが可能になります。

## UCMDB アプレット・タグ – 概要

UCMDB アプレット・タグは、UCMDB アプレットの実行に必要な環境 (HTML, Javascript, およびサーバ・セッションのパラメータ) を作成します。次のいずれかの場合、タグの背後にあるコードにより、HP Universal CMDB サーバにログインできます。

- ▶ ログイン・パラメータが指定されていて、ユーザがまだログインしていない。
- ▶ **clear session** パラメータが **true** である。

ユーザ・セッションが確立されると、JSP プロセッサが結果を出すまで、タグは必要なアプレット環境 (HTML および Javascript コード) の記述を続けます。生成された HTML ページには、指定したサーバから UCMDB アプレットをロードするのに必要な Javascript コードが含まれます。エラー発生時には、指定されたエラー文字列がページに印刷されます。この文字列は、**userErrorMessage** パラメータを使用してカスタマイズできます。また、エラー処理シナリオを開始するための HTML 要素および HTML ラップ Javascript コードを含むことがあります。

### UCMDB アプレット・タグの例

```
<ucmdb:ucmdb_applet
serverConnectionString="x.com"
serverType="BAC"
directLinkParameters="cmd=ShowProperties&objectId=2d3b0fec35431ea01625
a4&navigation=false&interfaceVersion=8.0.0"
userName="admin"
userPassword="admin"
clearSessionCookies="false"/>
```

---

**注意** : **directLinkParameters** は、ダイレクト・リンク・ウィザードで作成された URL から取得します。"**cmd=**" の前のパラメータ部分は、UCMDB アプレット・タグに必要なパラメータ部分ではないため、削除します。ダイレクト・リンクを作成する方法の詳細については、112 ページの「[ダイレクト リンクの生成] ウィザード」を参照してください。

---

UCMDB アプレット・タグは <HP Universal CMDDB ルート・フォルダ >  
**AppServer¥webapps¥site.war¥WEB-INF¥tags¥CMS¥**  
**ucmdb\_applet.tag** にあります。

UCMDB アプレット・タグを外部アプリケーション・サーバにコピーできます。  
次の場合、UCMDB アプレット・タグは HP Universal CMDDB サーバからのロ  
グイン・データを要求します。

- ▶ 外部アプリケーション・サーバが JSP タグとやり取りできる場合。
- ▶ 外部アプリケーション・サーバおよびブラウザが HP Universal CMDDB サー  
バにアクセスできる場合。



---

---

## 参照先

---

---

### **ダイレクト・リンクの操作フロー**

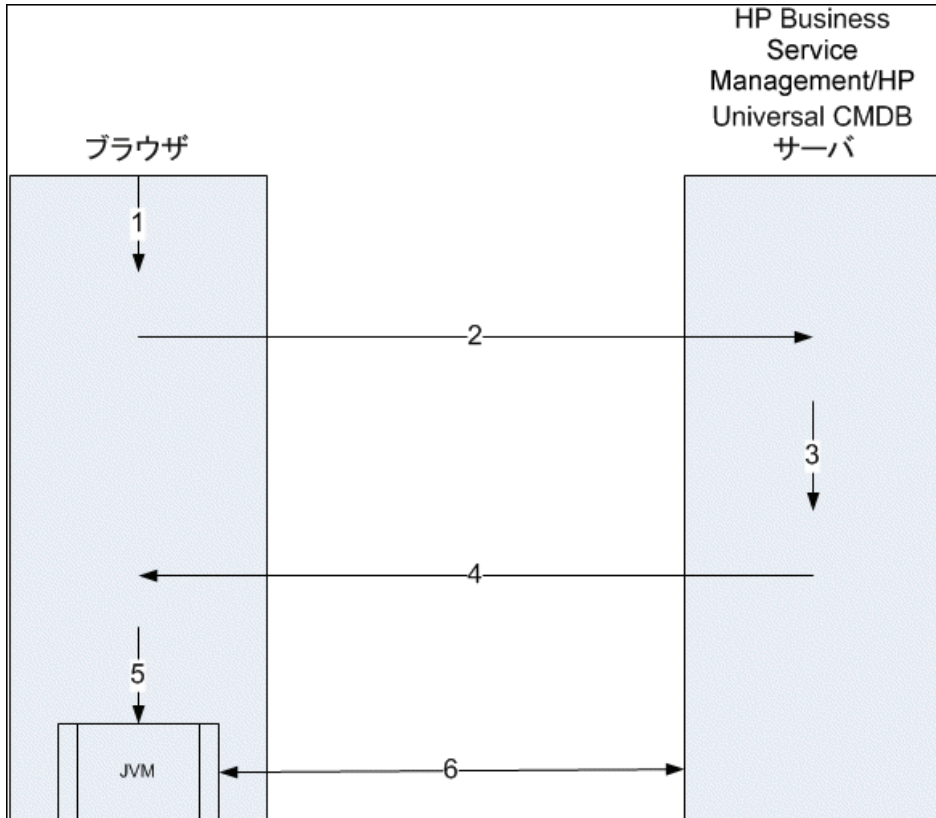
このセクションでは、ダイレクト・リンクを使用して UCMDB アプレットを外部マシンに埋め込むさまざまなシナリオを説明します。

このセクションでは、次のフローについて説明します。

- ▶ 138 ページの「通常のログイン」
- ▶ 139 ページの「ダイレクト・リンク URL を使用した UCMDB アプレットの埋め込み」
- ▶ 141 ページの「UCMDB アプレット・タグを使用した UCMDB アプレットの埋め込み」

## 通常ログイン

このフローでは、HP Universal CMDB サーバへの通常ログインについて説明します。これは、ダイレクト・リンク・フローの基本情報となります。



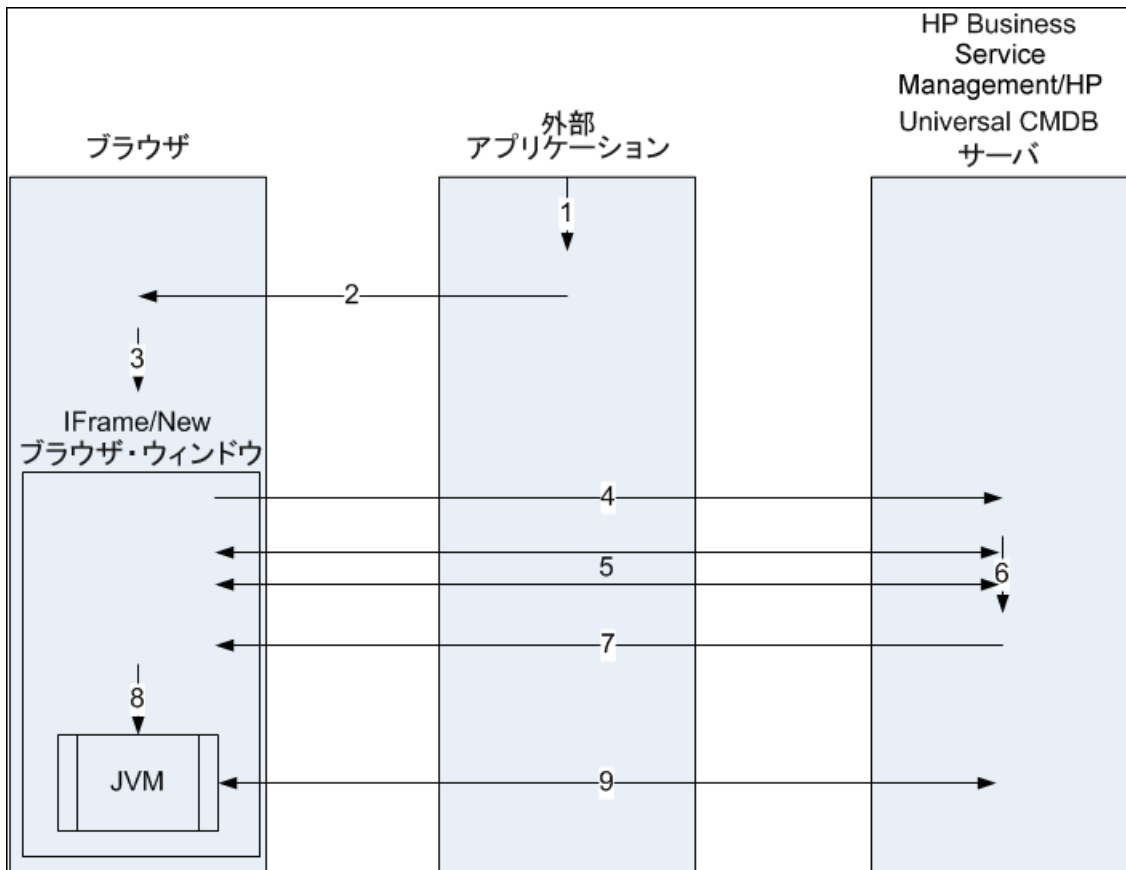
- 1 ダイレクト・リンク URL をブラウザに入力して、HP Universal CMDB サーバにログインします。
- 2 ブラウザはログイン要求を HP Universal CMDB サーバに送信します。
- 3 サーバはユーザの資格情報を確認し、必要に応じてユーザ・セッションを作成します。
- 4 サーバは要求された HP Universal CMDB の最初のページを返します。

- 5 ブラウザは **code base location** パラメータ（このパラメータは、JVM に UCMDB アプレット・ファイルのロード元を指示します）を HP Universal CMDB サーバとして指定して、Java 仮想マシン（JVM）をロードします。
- 6 UCMDB アプレット・ファイル (jars) およびデータが、HP Universal CMDB サーバとブラウザにロードされた JVM 間で転送されます。

この時点で、UCMDB アプレットがロードされ、HP Universal CMDB がやり取りするサーバとして認識されます。

### ダイレクト・リンク URL を使用した UCMDB アプレットの埋め込み

このフローでは、ダイレクト・リンクを使用して、新しいブラウザ・フレームで UCMDB アプレットを開く（指定したコンテキストで開く）方法を示します。



## 第4章・ダイレクト・リンクを使用した UCMDB アプレットの埋め込み

- 1 外部アプリケーションに、UCMDB アプレットの表示を必要とするページがあります。
- 2 返されたページには、**Iframe** または新しいブラウザ・ウィンドウでダイレクト・リンクを開くディレクティブが含まれます。
- 3 ブラウザは、ダイレクト・リンクをフレーム URL として新しいフレーム (**Iframe** または新しいウィンドウ) を開きます。
- 4 新しいフレームは、ダイレクト・リンクを HP Universal CMDB サーバに送信します。
- 5 ユーザがまだ HP Universal CMDB にログインしていない場合、HP Universal CMDB はログイン・ページを表示し、ユーザが資格情報を入力してログイン・ボタンをクリックするまで待機します。
- 6 必要に応じて、ユーザ・セッションが作成されます。
- 7 HP Universal CMDB サーバは、UCMDB アプレットをロードするディレクティブを含むページを返します。
- 8 ブラウザはページを処理します。UCMDB アプレットをロードするディレクティブを見つけたら、ブラウザは JVM を起動します。次にブラウザは、HP Universal CMDB サーバの場所を「コード・ベース」として指定したパラメータなどの必須パラメータを JVM に渡します。
- 9 UCMDB アプレット・ファイル (jars) およびデータが、HP Universal CMDB サーバとブラウザにロードされた JVM 間で転送されます。

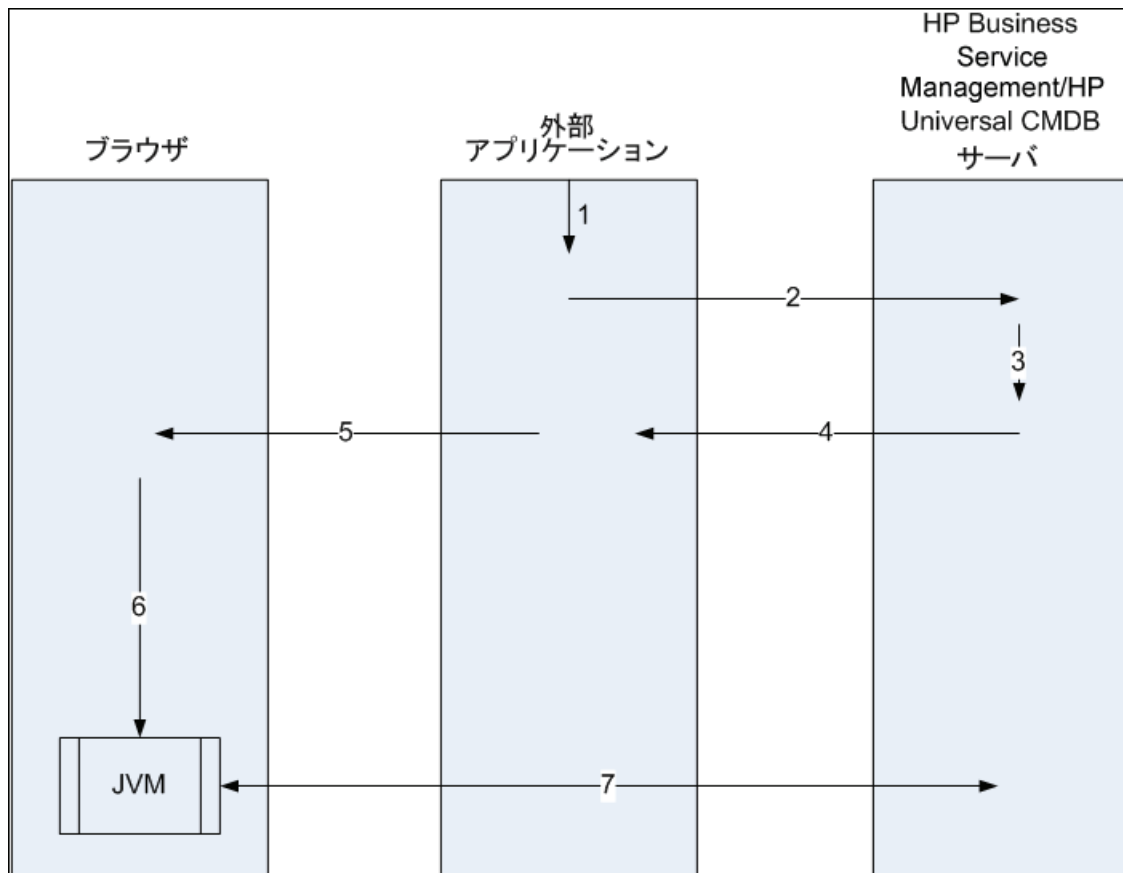
---

**注意:** HP Universal CMDB サーバは、ブラウザ・マシンからアクセスできる必要があります。

---

## UCMDB アプレット・タグを使用した UCMDB アプレットの埋め込み

このフローでは、UCMDB アプレット・タグをダイレクト・リンクとともに使用して、外部アプリケーション・ページに UCMDB アプレット（指定したコンテキストで開いた）を埋め込む方法を示します。



- 1 UCMDB アプレット・タグが、外部アプリケーションの処理済み JSP に格納されます。
- 2 UCMDB アプレット・タグは指定されたパラメータを使用して、HP Universal CMDB サーバへの HTTP/HTTPS 接続を作成し、アプレット HTML スニペット・コードを要求します。

- 3 ユーザがまだログインしていない場合、UCMDB アプレット・タグのパラメータが使用されます（この手順の参照情報として、タグを参照）。ログインに失敗すると、UCMDB アプレット・タグは、事前設定されているエラー・メッセージまたは UCMDB アプレット・タグのパラメータで指定されたエラー・メッセージを返します。
- 4 HP Universal CMDB サーバは、UCMDB アプレットをロードする HTML スニペット・コードを（埋め込み Javascript とともに）返します。これで、外部アプリケーションはこのスニペット・コードをページに実装し、ページをブラウザに送信できます。
- 5 外部アプリケーションは、HTML スニペット・コードを含む完了ページをブラウザに送信します。
- 6 ブラウザはページを処理します。UCMDB アプレットをロードする HTML スニペット・コードを見つけたら、ブラウザは JVM を起動します。次にブラウザは、HP Universal CMDB サーバの場所を「コード・ベース」として指定したパラメータなどの必須パラメータを JVM に渡します。
- 7 UCMDB アプレット・ファイル (jars) およびデータが、HP Universal CMDB サーバとブラウザにロードされた JVM 間で転送されます。

---

**注意：**HP Universal CMDB サーバは、ブラウザ・マシンおよび外部アプリケーション・マシンからアクセスできる必要があります。

---

# 5

---

## CI の選択を使った作業

本章の内容

### 概念

- ▶ CI の選択の概要 (144 ページ)

### タスク

- ▶ 参照モードでのビューの表示 (145 ページ)
- ▶ [検索] モードでの CI の検索 (145 ページ)
- ▶ CI の選択の表示オプションの変更 (147 ページ)

### 参照先

- ▶ CI の選択のユーザ・インタフェース (149 ページ)
- ▶ [トラブルシューティングと制限事項](#) (162 ページ)

---

---

## 概念

---

---

### CI の選択の概要

---

**注：**CI の選択は、前のバージョンの HP Universal CMDB ではビュー・エクスプローラと呼ばれていました。

---

CI の選択では、HP Universal CMDB 内の IT ユニバース・モデルの要素をビューを使って表示します。HP Universal CMDB では、CI の選択は IT ユニバース・マネージャとモデリング・スタジオの左側の表示枠に表示されます。

CI の選択でビューを選択すると、CI 間で定義されている関係に従って、ビューに含まれている構成アイテム (CI) が階層ツリー形式で表示されます。TQL クエリに一致する CI が見つからない場合は、ビューは空の場合があります。ビューの詳細については、268 ページの「ビュー形式」を参照してください。

CI の選択を使用し、ビューを選択して CI を検索できます。ビューを選択して、CI のリストの参照や、名前または CI タイプで特定の CI の検索を行うことができます。後で使うために検索条件を保存することもできます。

CI の選択のコンポーネントの詳細については、149 ページの「CI の選択のユーザ・インタフェース」を参照してください。



---

---

## タスク

---

---

### 参照モードでのビューの表示

CI の選択を**参照**モードに設定すると、選択したビューの内容を表示できます。参照モードでの CI の選択のユーザ・インタフェースの詳細については、151 ページの「ビューの参照モード」を参照してください。

このタスクには次の手順が含まれます。

- ▶ 145 ページの「前提条件」
- ▶ 145 ページの「表示するビューの選択」

#### 1 前提条件

[CI の選択] 表示枠で、[**ビューの参照**] モードを選択します。

#### 2 表示するビューの選択



省略記号のボタンをクリックして [ビュー セレクタ] ダイアログ・ボックスを開き、表示するビューを選択します。選択したビューの名前が [**ビュー**] ボックスに表示されます。ビュー内の CI は、[CI の選択] 表示枠の下部にある CI ツリーに表示されます。HP Universal CMDB ではほかのアプリケーションに移動しても、このビューが選択された状態が維持されます。

### [検索] モードでの CI の検索

CI の選択の検索ツールを使用すると、特定の CI を検索できます。検索は CMDB 全体で実行されます。CI の選択の検索ツールのユーザ・インタフェースの詳細については、155 ページの「CI の検索モード」を参照してください。

このタスクには次の手順が含まれます。

- ▶ 146 ページの「前提条件」
- ▶ 146 ページの「CI 名による検索」
- ▶ 146 ページの「構成アイテムのタイプによる検索」

- ▶ 146 ページの「検索の実行と結果の並べ替え」
- ▶ 147 ページの「高度な検索の実行」

### 前提条件

[CI の選択] 表示枠で [CI の検索] モードを選択し、[簡易] タブを選択します。

### CI 名による検索

名前を使って CI を検索するには、[CI 名] ボックスに CI の名前、または名前の一部を表す文字列を入力します。検索結果には、入力文字列を名前のどこか（定義したほかの検索条件の境界内）に含む、すべての CI が返されます。

**注：**CI 名による検索のオプションでは、大文字と小文字は区別されません。

### 構成アイテムのタイプによる検索

[CI タイプ] ボックスを使用して CI を検索できます。この検索では、[CI タイプ] ボックスで指定したタイプの CI が返されます。



省略記号のボタンをクリックして、必要な CI タイプを選択します。[CI タイプ] ボックスに CIT を手動で入力することはできません。

[CI タイプ] ボックスで CI を定義したら、異なるアプリケーションに移動するまで、または異なる値を定義するまで、HP Universal CMDB によって選択内容が記憶されます。

### 検索の実行と結果の並べ替え

検索を実行します。結果は [CI の選択] 表示枠の下部に表示され、エントリごとに CI 名とタイプが示されます。検索結果を並べ替えるには、該当する見出しをクリックします。

検索結果で CI を選択すると、トポロジ・マップに、その CI が CMDB 内の関連する CI とともに表示されます。



(任意指定) [保存] ボタンをクリックして検索条件を保存し、検索名を入力します。詳細については、161 ページの「[検索基準の保存] ダイアログ・ボックス」を参照してください。

## 高度な検索の実行

ほかの検索オプションでは、**[詳細]** タブを選択できます。CI 条件検索の詳細については、149 ページの「**[CI 条件検索] ダイアログ・ボックス**」を参照してください。実行中のソフトウェア検索の詳細については、160 ページの「**[実行中のソフトウェア検索] ダイアログ・ボックス**」を参照してください。

## CI の選択の表示オプションの変更

CI の選択の表示オプションは変更できます。これらのオプションは、インフラストラクチャ設定マネージャで設定します。

---

**注意：**インフラストラクチャ設定マネージャで特定の設定を変更すると、HP Universal CMDB のパフォーマンスが低下する場合があります。設定を変更する際は、まず HP ソフトウェア・サポートまたは HP プロフェッショナルサービス担当者にお問い合わせください。

---

このタスクには次の手順が含まれます。

- ▶ 147 ページの「前提条件」
- ▶ 147 ページの「選択した設定の変更」

### 1 前提条件

[マネージャ] > [管理] > [インフラストラクチャ設定マネージャ] の順に選択して、インフラストラクチャ設定マネージャにアクセスします。

### 2 選択した設定の変更

変更できる設定は次のとおりです。

- ▶ **[すぐに表示される子の数]** : CI の選択で親クエリ・ノードを展開したときに即座に表示される子の数。
- ▶ **[子の最大数]** : CI の選択の親クエリ・ノードの下に表示される子の最大数。

## 第 5 章 • CI の選択を使った作業

- ▶ **[最大検索結果サイズ]** : 1 回の検索操作で返される CMDB インスタンスの最大数。
- ▶ **[最近使ったビュー リストのサイズ]** : ユーザごとに格納する最近使ったビューの最大数。

---



---

## 参照先

---



---

### CI の選択のユーザ・インタフェース

本項の内容





- ▶ 149 ページの「[CI 条件検索] ダイアログ・ボックス」
- ▶ 151 ページの「CI の選択」
- ▶ 159 ページの「[検索の整理] ダイアログ・ボックス」
- ▶ 160 ページの「[実行中のソフトウェア検索] ダイアログ・ボックス」
- ▶ 161 ページの「[検索基準の保存] ダイアログ・ボックス」




### [CI 条件検索] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、属性条件、関連 CI、または関連 CI の属性条件に基づいて CI を検索できます。

<b>利用方法</b>	[CI の選択] で、検索モードの <b>[詳細]</b> タブを選択し、[CI 条件検索] の横の省略記号のボタンをクリックします。
-------------	---

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素 (A-Z)	説明
	属性条件を追加するときにクリックします。
	選択した行を削除するときにクリックします。
	選択した行を上に移動するときにクリックします。
	選択した行を下に移動するときにクリックします。

UI 要素 (A-Z)	説明
	属性条件リストのプレビューを表示するときにクリックします。
<b>属性名</b>	ドロップダウン・リストから属性を選択します。
<b>CI 名</b>	検索する CI の名前を入力します。
<b>CI タイプ</b>	検索する CI のタイプを入力します。
<b>演算子</b>	ドロップダウン・リストから演算子を選択します。
<b>関連する CI 名</b>	検索する関連 CI の名前を入力します。
<b>関連する CI タイプ</b>	省略記号のボタン  をクリックすれば、関連 CI を検索条件とした検索のための CI タイプをツリーから選択できます。
<b>関係タイプ</b>	省略記号のボタン  をクリックすれば、関連 CI を検索条件とした検索のための関係をツリーから選択できます。
<b>CI 条件で検索</b>	指定した条件で CI を検索するときに選択します。
<b>関連 CI 条件で検索</b>	指定した条件で、CI に関連する CI を検索するときに選択します。
<b>関連 CI 条件で検索</b>	指定した CI または CI タイプに関連する CI を検索するときに選択します。
<b>値</b>	属性条件の値を入力します。




## CI の選択

ビューを選択して CI を検索できます。

<b>利用方法</b>	[IT ユニバース マネージャ] ページとモデリング・スタジオの左側の表示枠に表示されます。
<b>重要情報</b>	<p>CI の選択では、ビューの参照モードと CI の検索モードの 2 つの機能を使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ ビューの参照モードでは、ビューを検索、表示したり、ビューを参照して特定の CI を検索できます。ショートカット・メニューから CI に対する操作を実行することもできます。</li> <li>▶ CI の検索モードでは、ビューまたは CMDB 内の CI を、名前や CI タイプで検索できます。</li> </ul>
<b>関連タスク</b>	<p>145 ページの「参照モードでのビューの表示」</p> <p>145 ページの「[検索] モードでの CI の検索」</p>



### ビューの参照モード






ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

UI 要素 (A-Z)	説明
	クリックすると、ほかのユーザによって変更された可能性がある階層ツリー構造のデータ内容が更新されます。
	<p>[<b>テンプレートパラメータを表示</b>] をクリックすると [テンプレートパラメータ値] ダイアログ・ボックスが開き、選択したテンプレートのパラメータを編集できます。</p> <p><b>注：</b>このボタンは、テンプレートが選択されている場合のみ有効です。</p>
	<p>[<b>選択した CI をモデル / ビューに追加</b>] をクリックすると、選択した CI が現在のモデルまたはビューに追加されます。</p> <p><b>注：</b>このボタンは、モデリング・スタジオにのみ表示されます。</p>

UI 要素 (A-Z)	説明
	<p>[<b>関連 CI として追加</b>] をクリックすると、選択した CI が関連 CI としてモデルに追加されます。</p> <p><b>注:</b> このボタンは、モデリング・スタジオのモデル・エディタでのみアクティブになります。</p>
	<p>[<b>選択したモデルを新しいタブで開く</b>] をクリックすると、選択したモデルがモデル・エディタで開きます。</p> <p><b>注:</b> このボタンは、モデリング・スタジオでモデルを選択している場合のみアクティブになります。</p>
	<p>[<b>選択済みの CI を含むモデルを表示</b>] をクリックすると、選択した CI を含むモデルのリストが表示されます。</p> <p><b>注:</b> このボタンは、モデリング・スタジオにのみ表示されます。</p>
	<p>IT ユニバース・マネージャでは、これは [<b>ビュー定義の表示</b>] を表しており、現在のビューに対するモデリング・スタジオのビュー定義に直接移動できます。</p> <p>モデリング・スタジオでは、これは [<b>選択されたビューを開く</b>] を表しており、選択したビューをエディタ表示枠で開きます。</p>
	<p>[<b>選択済みの CI/ モデルを含むビューを表示</b>] をクリックすると、選択した CI またはモデルを含むビューのリストが表示されます。</p> <p><b>注:</b> このボタンは、モデリング・スタジオにのみ表示されます。</p>
	<p>[<b>選択したモデルのビューを生成</b>] をクリックすると、[新規ビューの作成] ダイアログ・ボックスが開き、選択したモデルに基づいてビューを構築できます。</p> <p><b>注:</b> このボタンは、モデリング・スタジオでモデルを選択している場合のみアクティブになります。</p>
	<p>[<b>ディスカバリおよび変更のサマリを表示</b>] をクリックすると、最初に CI を検出した DFM ジョブを手動で開始することによって、選択したビュー内のすべての CI が再検出されます。詳細については、238 ページの「[ディスカバリおよび変更のサマリ] ダイアログ・ボックス」を参照してください。</p> <p><b>注:</b> このボタンは、IT ユニバース・マネージャにのみ表示されます。</p>





UI 要素 (A-Z)	説明
	<p>[<b>ビューへのダイレクト・リンクを生成</b>]をクリックすると、ダイレクトリンクの生成を使用してビューへのダイレクト・リンクを作成できます。</p> <p><b>注:</b> このボタンは、IT ユニバース・マネージャにのみ表示されます。</p>
	<p>テーブルのデータをエクスポートする形式を選択します。次のオプションを使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>Excel:</b> テーブルのデータは、スプレッドシートに表示できる .xls (Excel) ファイル形式に整形されます。</li> <li>▶ <b>PDF:</b> テーブルのデータは、PDF 形式でエクスポートされます。</li> <li>▶ <b>RTF:</b> テーブルのデータは、リッチ・テキスト形式でエクスポートされます。</li> <li>▶ <b>CSV:</b> テーブルのデータは、スプレッドシートに表示できるカンマ区切り (CSV) テキスト・ファイル形式に整形されます。</li> </ul> <p><b>注:</b> CSV 形式のテーブルのデータを正しく表示するには、カンマ (,) を区切り文字として定義する必要があります。Windows では、区切り文字の値を確認または変更するには、コントロール・パネルの [地域のオプション] を開いて、[数値] タブでカンマが区切り文字の値として定義されていることを確認します。Linux では、区切り文字は CSV ファイルを開くアプリケーションで指定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>XML:</b> テーブルのデータは、テキスト・エディタまたは XML エディタで開くことができる XML ファイルとして整形されます。</li> </ul> <p><b>ヒント:</b> HTML コードをレポートから抽出するには、次の手順で行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ ファイルを HTML として保存します。</li> <li>▶ ファイルを HTML エディタで開きます。</li> <li>▶ 関連するテーブルをターゲット・ファイルにコピーします。</li> </ul>





UI 要素 (A-Z)	説明
	<p>スナップショットを使用するには、[スナップショット] ボタンをクリックします。次のオプションを利用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>スナップショットを保存する</b> : 選択して [スナップショットを保存する] ダイアログ・ボックスを開き、ビューのスナップショットを保存します。詳細については、262 ページの「[スナップショットを保存する] ダイアログ・ボックス」を参照してください。</li> <li>▶ <b>スナップショットを比較する</b> : スナップショット比較レポートを実行する場合に選択します。詳細については、393 ページの「スナップショット比較レポート」を参照してください。</li> <li>▶ <b>スナップショットをスケジュールする</b> : 選択すると、[ジョブのスケジュール] ダイアログ・ボックスが開きます。詳細については、427 ページの「[ジョブのスケジュール] ダイアログ・ボックス」を参照してください。</li> <li>▶ <b>スケジュールされたスナップショット ジョブを表示</b> : 選択すると、[ジョブリスト] ダイアログ・ボックスが開きます。詳細については、413 ページの「[ジョブリスト] ダイアログ・ボックス」を参照してください。</li> </ul> <p><b>注</b> : このボタンは、IT ユニバース・マネージャにのみ表示されます。</p>
	<p>[<b>ビュー ベース レポート</b>] をクリックすると、選択したビューのトポロジ・レポートが表示されます。</p> <p><b>注</b> : このボタンは、IT ユニバース・マネージャにのみ表示されます。</p>
	<p>[<b>アセット レポート</b>] をクリックすると、選択したビューのアセット・レポートが開きます。詳細については、375 ページの「アセット・レポート」を参照してください。</p> <p><b>注</b> : このボタンは、IT ユニバース・マネージャにのみ表示されます。</p>
	<p>[<b>ビュー</b>] ボックスの右にある [<b>ビューのツリー ダイアログを開く</b>] ボタンをクリックすると、[ビューセクタ] ダイアログ・ボックスが開きます。フォルダ・ツリーを参照して、表示するビューを見つけることができます。</p>
	<p>[<b>検索</b>] ボックスに入力した文字列の次の検索結果または前の検索結果に移動できます。</p>
<p>&lt;CI&gt;</p>	<p>現在選択されているビューに含まれている CI です。</p>
<p>&lt; ツールチップ &gt;</p>	<p>カーソルを CI に合わせると、関連する CI タイプのツールチップが表示されます。</p>







UI 要素 (A-Z)	説明
検索	[検索] ボックスに CI 名またはその一部を入力して、CI ツリーで CI を検索します。
ビュー	<p>[ビュー] ボックスには、現在選択されているビューが表示されます。表示するビューを選択するには、[ビュー] ボックスの右側にある下矢印をクリックします。これにより、ごく最近にアクセスしたビューを含むビューの簡略リストが表示されます。リストの下部にある矢印をクリックすると、リスト全体をスクロールできます最近アクセスしたビューは、ドロップダウン・リストの上部の分割線の上に表示されます。ビューの完全なリストは、分割線の下に表示されます。</p> <p>あるいは、カーソルをリスト内に合わせ、ビューの名前を入力します。入力した最初の数文字が既存のエントリに一致する場合は、HP Universal CMDB によりビューの名前の残りが入力されます。同じ文字で始まる名前を持つビューが複数存在する場合は、一致するビューがすべてリストに表示されます。</p>



## CI の検索モード

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

UI 要素 (A-Z)	説明
	<p>[検索結果をテーブルで表示] をクリックすると、別の表示枠が開いて検索結果に含まれる CI がテーブルに表示されます。</p> <p><b>注：</b>このボタンは、IT ユニバース・マネージャにのみ表示されます。</p>
	<p>[選択した CI をモデル / ビューに追加] をクリックすると、選択した CI が現在のモデルまたはビューに追加されます。</p> <p><b>注：</b>このボタンは、モデリング・スタジオにのみ表示されます。</p>
	<p>[関連 CI として追加] をクリックすると、選択した CI が関連 CI としてモデルに追加されます。</p> <p><b>注：</b>このボタンは、モデリング・スタジオのモデル・エディタでのみアクティブになります。</p>

UI 要素 (A-Z)	説明
	<p>[<b>選択したモデルを新しいタブで開く</b>] をクリックすると、選択したモデルがモデル・エディタで開きます。</p> <p><b>注:</b> このボタンは、モデリング・スタジオでモデルを選択している場合のみアクティブになります。</p>
	<p>[<b>選択済みの CI を含むモデルを表示</b>] をクリックすると、選択した CI を含むモデルのリストが表示されます。</p> <p><b>注:</b> このボタンは、モデリング・スタジオにのみ表示されます。</p>
	<p>[<b>選択済みの CI/ モデルを含むビューを表示</b>] をクリックすると、選択した CI または モデルを含むビューのリストが表示されます。</p> <p><b>注:</b> このボタンは、モデリング・スタジオにのみ表示されます。</p>
	<p>[<b>選択したモデルのビューを生成</b>] をクリックすると、[新規ビューの作成] ダイアログ・ボックスが開き、選択したモデルに基づいてビューを構築できます。</p> <p><b>注:</b> このボタンは、モデリング・スタジオでモデルを選択している場合のみアクティブになります。</p>

UI 要素 (A-Z)	説明
	<p>テーブルのデータをエクスポートする形式を選択します。次のオプションを使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>Excel</b> : テーブルのデータは、スプレッドシートに表示できる .xls (Excel) ファイル形式に整形されます。</li> <li>▶ <b>PDF</b> : テーブルのデータは、PDF 形式でエクスポートされます。</li> <li>▶ <b>RTF</b> : テーブルのデータは、リッチ・テキスト形式でエクスポートされます。</li> <li>▶ <b>CSV</b> : テーブルのデータは、スプレッドシートに表示できるカンマ区切り (CSV) テキスト・ファイル形式に整形されます。</li> </ul> <p><b>注</b> : CSV 形式のテーブルのデータを正しく表示するには、カンマ (,) を区切り文字として定義する必要があります。Windows では、区切り文字の値を確認または変更するには、コントロール・パネルの [地域のオプション] を開いて、[数値] タブでカンマが区切り文字の値として定義されていることを確認します。Linux では、区切り文字は CSV ファイルを開くアプリケーションで指定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>XML</b> : テーブルのデータは、テキスト・エディタまたは XML エディタで開くことができる XML ファイルとして整形されます。</li> </ul> <p><b>ヒント</b> : HTML コードをレポートから抽出するには、次の手順で行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ ファイルを HTML として保存します。</li> <li>▶ ファイルを HTML エディタで開きます。</li> <li>▶ 関連するテーブルをターゲット・ファイルにコピーします。</li> </ul> <p><b>注</b> : このボタンは、モデリング・スタジオにのみ表示されます。</p>
	<p>クリックして [検索の整理] ダイアログ・ボックスを開き、保存した検索のリストから検索を編集または削除します。</p>
	<p>クリックして、検索結果領域を展開または折りたたみます。</p>
	<p>クリックすると、検索が実行されます。検索結果は、[CI の選択] 表示枠の下部に表示されます。</p>
	<p>クリックして、後で使用するために現在の検索条件を保存します。</p>
	<p>[検索] フィールドに入力した文字列の次の検索結果または前の検索結果に移動できます。</p>


UI 要素 (A-Z)	説明
< 検索結果 >	<p>検索の実行後、結果は [CI の選択] 表示枠の下部にリストされます。結果は、次の 2 つのカラムに表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>[名前]</b>: CI の名前が含まれます。</li> <li>▶ <b>CI タイプ</b>: CI の CI タイプが含まれます。</li> </ul> <p>CI またはビューの名前が短縮されている場合は、ポインタをエントリに合わせると完全な名前が表示されます。検索結果を並べ替えるには、該当する見出しをクリックします。</p>
[詳細] タブ	<p>次の詳細検索オプションを利用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>CI 条件検索</b>: 属性条件、関連 CI、または関連 CI の属性条件に基づいて CI を検索できます。</li> <li>▶ <b>実行中のソフトウェア検索</b>: ホストで実行されているアプリケーションを検索条件にしてホストを検索できます。また、アプリケーションが実行されているホストを検索条件にしてアプリケーションを検索できます。</li> </ul> <p>検索ごとに、省略記号のボタン  をクリックして検索ダイアログ・ボックスを開きます。検索の実行後、[保存] ボタン  をクリックして、後で使用するために検索を保存します。</p>
CI 名	<p>名前で CI を検索するには、検索する CI の名前を入力します。</p>
CI タイプ	<p>CI タイプで CI を検索するには、省略記号のボタンをクリックして [構成アイテム タイプの選択] ダイアログ・ボックスから CI を選択します。</p>
検索	<p>[検索] ボックスに CI 名または CI 名の一部を入力して、モデル内の CI を検索します。</p>
検索	<p>保存した検索のドロップダウン・リストから検索を選択します。</p>
検索結果数	<p>[検索] ボックスの下の検索結果数には、検索で検出された CI の合計数が表示されます。</p>
[簡易] タブ	<p>[簡易] タブでは、標準の検索機能を使用できます。詳細な検索オプションを使用する場合は、[詳細] タブをクリックします。</p>

## ショートカット・メニュー・オプション





メニュー項目	説明
<ITユニバース・マネージャのショートカット・メニュー・オプション>	ITユニバース・マネージャのトポロジ・マップの通常のショートカット・メニューは、CIの選択からも利用できません。メニュー・オプションの詳細については、250ページの「ITユニバース・マネージャのショートカット・メニュー」を参照してください。
追加	選択したCIが現在のモデルまたはビューに追加されます。 <b>注：</b> この機能は、モデリング・スタジオにのみ表示されます。
関連CIとしてモデルに追加	選択したCIが関連CIとして現在のモデルに追加されます。 <b>注：</b> この機能は、モデリング・スタジオにのみ表示されます。
選択したモデルのビューを生成	選択すると、現在のモデルに基づいてビューが作成されます。[新規ビューの作成]ダイアログ・ボックスが開き、適用するパースペクティブを選択できます。 <b>注：</b> この機能は、モデリング・スタジオにのみ表示されます。
選択したモデルを新しいタブで開く	選択したモデルがモデル・エディタで開きます。 <b>注：</b> この機能は、モデリング・スタジオにのみ表示されます。
含まれるモデルを表示	[ <b>選択済みのCIを含むモデルを表示</b> ]を選択すると、選択したCIを含むモデルのリストが表示されます。 <b>注：</b> このオプションは、モデリング・スタジオにのみ表示されます。
含まれるビューを表示	[ <b>選択済みのCI/モデルを含むビューを表示</b> ]を選択すると、選択したCIまたはモデルを含むビューのリストが表示されます。 <b>注：</b> このオプションは、モデリング・スタジオにのみ表示されます。

 [検索の整理] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、保存した検索のリストから検索を編集または削除できます。

利用方法	[CIの選択] で [ <b>保存した検索リストを管理</b> ] ボタン  をクリックします。
------	---

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素 (A-Z)	説明
	クリックして、選択した検索を編集します。簡易検索の場合は、[CI 簡易検索] ダイアログ・ボックスが開き、CI の名前やタイプを編集できます。CI 条件検索の場合は、[CI 条件検索] ダイアログ・ボックスが開きます。
	選択した検索を削除する場合にクリックします。
	クリックすると、検索ツリーが展開されます。
	クリックすると、検索ツリーが折りたたまれます。
<b>検索</b>	[検索] ボックスに検索名または検索名の一部を入力して、リスト内を検索します。
<b>次を検索</b>	選択した検索フレーズに一致する、リスト内の次の項目を検索するときにクリックします。
<b>前回を検索</b>	選択した検索フレーズに一致する、リスト内の前の項目を検索するときにクリックします。
<b>検索ツリー</b>	保存したすべての検索がツリー形式で表示されます。

## [実行中のソフトウェア検索] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、ホストで実行されているアプリケーションを検索条件にしてホストを検索できます。また、アプリケーションが実行されているホストを検索条件にしてアプリケーションを検索できます。

<b>利用方法</b>	[CI の選択] で、検索モードの [詳細] タブを選択し、[実行中のソフトウェア検索] の横の省略記号のボタンをクリックします。
-------------	---




ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素 (A-Z)	説明
ホスト名	検索するノードの名前を入力します。
実行中のソフトウェア	ドロップダウン・リストから実行中のソフトウェア CI を選択します。
検索対象	[ <b>実行中のソフトウェア</b> ] または [ <b>ノード</b> ] を選択します。 <b>注:</b> 特定のノードで実行されている実行中のソフトウェア CI を検索するには、ノード名を入力し、必要な実行中のソフトウェア CI を選択して検索を実行します。

## [検索基準の保存] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、後で使用するために現在の検索条件を保存できます。

利用方法	[CI の選択] の検索モードで、[保存] ボタン  をクリックします。
------	---

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素 (A-Z)	説明
既存のクエリ	既存の検索のリストがツリー形式で表示されます。
名前	現在の検索の名前を入力します。
検索	[検索] ボックスに検索名または検索名の一部を入力して、リスト内を検索します。
次を検索	選択した検索フレーズに一致する、リスト内の次の項目を検索するときにクリックします。
前回を検索	選択した検索フレーズに一致する、リスト内の前の項目を検索するときにクリックします。

## 🔍 トラブルシューティングと制限事項

このセクションでは、CIの選択のトラブルシューティングと制限事項について説明します。

### 利用できないビューと CI

次の理由から、[CIの選択]の[ビュー]リストにCMDB内のすべてのビューが表示されない場合や、ビューの内容が表示されない場合があります。

- ▶ [ビュー]リストには、必要な権限をユーザが持っているビューだけが含まれます。同様に、検索モードは、CIの検索権限を持っている場合のみ利用できます。権限を設定するには、[マネージャ] > [管理] > [セキュリティ マネージャ]の順に選択します。詳細については、『HP Universal CMDB 管理ガイド』の「セキュリティ・マネージャ」を参照してください。
- ▶ 現在非アクティブなビューは、[ビュー]リストに赤色に表示されますが、これらのビューを選択することはできません。ITユニバース・マネージャでは、非アクティブなビューは淡い色のテキストで表示されます。
- ▶ 標準で-用意-されている-ビューで、ユーザがライセンスを持っていないビューは、[ビュー]リストに表示されますが、これらのビューにはCIは含まれていません。標準で用意されているビューの詳細については、273ページの「定義済みのフォルダとビュー」を参照してください。

---

**注:** 1つ以上のクエリ・ノードをTQLクエリから削除した後、変更内容をビューに更新するのに時間がかかる場合があります。この間、削除したCIはビューに表示されています。ビューが更新される前に、削除したCIを選択すると、エラー・メッセージが表示されます。[更新]ボタンをクリックしてビューを更新してください。

---

# 6

---

## トポロジ・マップの使用

本章の内容

### 概念

- ▶ トポロジ・マップの概要 (164 ページ)
- ▶ 大きなビューの取り扱い (165 ページ)

### 参照先

- ▶ トポロジ・マップのユーザ・インタフェース (166 ページ)

---

---

## 概念

---

---

### トポロジ・マップの概要

トポロジ・マップは、ビューのグラフィック表示を提供します。ビューの 1 レイヤ内のすべての CI がアイコンで表され、それらをつなぐ線が CI 間の関係を表します。トポロジ・マップ内でも、左の表示枠の [CI の選択] でも、CI を選択できます。[CI の選択] でドリル・ダウンして、ビューの別のレイヤをトポロジ・マップに表示することもできます。

CI のラベルがアイコンの下に表示されます。[ユーザプリファレンス] ダイアログ・ボックスの [全般] で、行ごとの最大文字数と最大行数を設定できます。詳細については、97 ページの「[ユーザプリファレンス] ダイアログ・ボックス」を参照してください。



トポロジ・マップ内の CI アイコンに下向き矢印が付いている場合は、トポロジ・マップには、ビューの階層セットによって作成された追加の CI レイヤがあります。矢印をクリックして、サブレイヤに含まれる CI を表示できます。

データ・フロー管理プロセスで新しい CI が検出された場合など、IT ユニバースのデータが変更されると、トポロジ・マップも動的に自動更新されます。

トポロジ・マップの上にあるツールバーとメイン・メニューを使って、ズームイン、トポロジ・マップのレイアウトの変更、トポロジ・マップの印刷ができます。このほかに、トポロジ・マップまたは CI の選択で CI を右クリックすると表示されるショートカット・メニューから使用できる機能もあります。

## 大きなビューの取り扱い

トポロジ・マップでは、単一のレイヤに 900 個を超える CI が含まれているビューは表示できません。CI の数が 900 個を超えるレイヤを含んでいるビューを選択すると、トポロジ・マップの表示が空白になります。900 を超える CI があるレイヤは、テキスト・モードでテーブルに表示できます。

トポロジ・マップで大きなビューを表示するには、次のいずれかの方法を使用します。

- ▶ モデリング・スタジオでビューを再定義して、TQL クエリの結果を減らします。詳細については、303 ページの「[ノード要素タイプ / 関係タイプを変更] ダイアログ・ボックス」を参照してください。
- ▶ ビューの別の階層を定義して、そのビューのレイヤ間で CI を再配分します。階層の定義の詳細については、270 ページの「ビュー階層の設定」を参照してください。
- ▶ 設定パラメータで、許可される CI の最大数を設定しなおします。インフラストラクチャ設定マネージャで、[表示設定] の下にある [TS の最大オブジェクト数 GUI] パラメータを選択します。ただし、レイヤあたりの CI の最大数を増やすと、トポロジ・マップの再描画が非常に遅くなる可能性があります。

インフラストラクチャ設定マネージャの詳細については、『HP Universal CMDB 管理ガイド』の「インフラストラクチャ設定のユーザ・インタフェース」を参照してください。

---

---

## 参照先

---

---

### トポロジ・マップのユーザ・インタフェース

本項の内容

- ▶ 166 ページの「[画像にマップをエクスポート] ダイアログ・ボックス」
- ▶ 168 ページの「[レイアウト プロパティ] ダイアログ・ボックス」
- ▶ 185 ページの「メイン・メニュー」
- ▶ 186 ページの「[印刷] ダイアログ・ボックス」
- ▶ 187 ページの「[印刷プレビュー] ダイアログ・ボックス」
- ▶ 187 ページの「[印刷設定] ダイアログ・ボックス」
- ▶ 189 ページの「ツールバー・オプション」
- ▶ 197 ページの「トポロジ・マップのサイドバー」

### [画像にマップをエクスポート] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、トポロジ・マップをファイルに保存できます。

利用方法	トポロジ・マップから [操作] > [画像にマップをエクスポート] を選択します。
関連タスク	228 ページの「トポロジ・マップの印刷とファイルへの保存」

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素 (A-Z)	説明
実際のサイズ	グラフ・ノードのサイズが最大になるようにしてビューを保存します。
現在のズーム レベル	ビューをトポロジ・マップに表示されているとおりに保存します。たとえば、 <b>インタラクティブ・ズーム・モード</b> を使ってビューの倍率を下げている場合は、保存されたビューでもグラフ・ノードが小さく表示されます。詳細については、192 ページの「 <b>インタラクティブ・ズーム</b> 」を参照してください。
カスタム	[幅] ボックスと [高さ] ボックスで、保存するビューのサイズを指定します。
ファイル名	必要なファイル名と保存場所を指定します(または、[Browse] をクリックしてファイルと保存場所を検索します)。
用紙にフィット	ビューを拡大または縮小して表示枠にぴったり合わせます。
画像品質	印刷するマップの品質です。[高], [中間], または [低] を選択します。
選択済みオブジェクトのみ	マップ内で選択されているグラフ・ノード/CI とそれらの関係だけを保存します。
タイプ	必要なファイル形式を選択します。
可視ウィンドウのみ	グラフのうち表示枠内に表示されている部分だけを保存します。

## [レイアウト プロパティ] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、ビュー内の特定のレイヤのレイアウトをカスタマイズして、可能な範囲内で最大限明確なプレゼンテーションを実現することによって、管理対象のデータをよりの確に把握して監視できるようになります。

<b>利用方法</b>	[レイアウト] > [レイアウト プロパティ] を選択します。
<b>重要情報</b>	レイヤ内に表示されるグラフ・ノードと関係の論理位置を割り当てることにより、ビューのレイヤのレイアウトを定義します。レイヤのレイアウトをカスタマイズするには、標準設定値を変更します。  レイアウト定義の設定は、特定のレイヤに対してのみできません。定義を別のレイヤや別のビューに対して保存することはできません。  パラメータ値はピクセル数です。

### [グローバル] タブ

この領域では、グローバルなレイアウト・パラメータを定義できます。

<b>利用方法</b>	[レイアウト プロパティ] ダイアログ・ボックスで [グローバル] タブをクリックします。
<b>重要情報</b>	[グローバル] タブでは、レイアウトのグローバルな設定を定義できます。

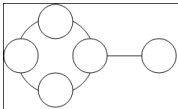
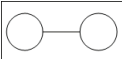
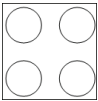
ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素 (A-Z)	説明
<b>描画にフィット</b>	次のいずれかのオプションを選択して、レイアウトを調整します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>用紙にフィット</b>: レイアウトを画面の用紙に合わせます。</li> <li>▶ <b>印刷にフィット</b>: レイアウトを印刷ページに合わせます。</li> <li>▶ <b>フィットなし</b>: レイアウトを変更しません。</li> </ul>



UI 要素 (A-Z)	説明
ラベリング	[ <b>ラベリングの実行</b> ] を選択して、レイアウトの再描画時にラベルが表示されるようにします。このフィールドが選択されていないと、再描画レイアウトにラベルは表示されません。
スタイル	[ <b>スタイルを強制的に適用</b> ] を選択し、選択したレイアウトをトポロジ・マップのネストされたすべてのレイヤに適用します。

### [すべてのスタイル] タブ

利用方法	[レイアウト プロパティ] ダイアログ・ボックスで [ <b>すべてのスタイル</b> ] タブをクリックします。
重要情報	<p>[すべてのスタイル] タブでは、非接続グラフ・ノードと接続コンポーネントの一般的なレイアウト・パラメータを定義できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 非接続グラフ・ノードは、ほかのグラフ・ノードにいずれも接続されていないノードです。</li> <li>▶ 非接続ノードは、ほかのノードにいずれも接続されていないノードです。コンポーネントには、相互に接続できる一群のグラフ・ノードが含まれています。</li> </ul> <p>次の図は 5 つのグラフ・ノードを持つ接続コンポーネントを示しています。</p>  <p>次の図は 2 つのグラフ・ノードを持つ接続コンポーネントを示しています。</p>  <p>次の図は、それぞれ単一の非接続グラフ・ノードから成る 4 つの非接続コンポーネントを示しています。</p> 

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素 (A-Z)	説明
コンポーネント	<p>非接続グラフ内のコンポーネント間の間隔は、各コンポーネントのサイズに基づいた定数値と比例値で構成されます。</p> <p>[<b>コンポーネントの検出</b>] を選択すると、非接続コンポーネントを表示できます。すべてのコンポーネントと一緒にレイアウトすることも、ほかのコンポーネントに関係なく個別にレイアウトすることもできます。コンポーネントのグループ化を選択すると、各コンポーネントがレイアウトされ、その後一緒にまとめられます。</p> <p>[コンポーネントの検出] が選択されている場合、次の設定の値を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>コンスタント スペーシング</b> : それぞれの非接続コンポーネントの周囲の固定間隔 (水平および垂直) を設定します。 <b>標準設定値</b> : 20</li> <li>▶ <b>プロポーションアル スペーシング</b> : それぞれの非接続コンポーネントの周囲の間隔 (水平および垂直) を、コンポーネントのサイズとの比率で設定します。 <b>標準設定値</b> : 0.05</li> </ul>

UI 要素 (A-Z)	説明
切断されたノード	<p>非接続グラフ内のグラフ・ノード間の間隔は、各グラフ・ノードのサイズに基づいた定数値と比例値で構成されます。</p> <p>[<b>切断されたノードの検出</b>] を選択すると、非接続グラフ・ノードを表示できます。非接続グラフ・ノードをグループ化して1つのコンポーネントにすることも、各ノードを個別にレイアウトすることもできます。</p> <p>[切断されたノードの検出] が選択されている場合、次の設定の値を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>コンスタント スペーシング</b>：それぞれの非接続グラフ・ノードの周囲の固定間隔（水平および垂直）を設定します。 <b>標準設定値</b>：20</li> <li>▶ <b>プロポーションアル スペーシング</b>：それぞれの非接続グラフ・ノードの周囲の間隔（水平および垂直）を、コンポーネントのサイズとの比率で設定します。 <b>標準設定値</b>：0.05</li> </ul>
余白スペーシング	レイアウトの右、左、上、下の余白スペーシングの値を入力します。

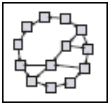
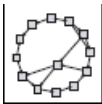
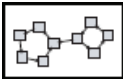
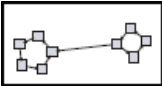
### [円形] タブ

利用方法	<b>利用方法</b> ：[レイアウト プロパティ] ダイアログ・ボックスで [円形] タブをクリックします。
重要情報	[円形] タブでは、選択したグループ化オプションに基づいて、グラフ・ノードをグループまたはクラスタにまとめることができます。これは特に、リングおよびスター・ネットワーク・トポロジと、リンク分析に適しています。

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素 (A-Z)	説明
<p><b>クラスタリング</b></p>	<p>次の設定の値を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>クラスタ サイズ ファクタ</b> : 平均クラスタ・サイズとクラスタ数との比率を指定します。クラスタのサイズは、そのクラスタ内の全グラフ・ノードの加重の合計として定義されます。加重値を各グラフ・ノードに割り当てることができます。</li> <li>▶ <b>最小クラスタ数</b> : レイヤ内の最小クラスタ数です。</li> <li>▶ <b>最大クラスタ数</b> : レイヤ内の最大クラスタ数です。</li> </ul>
<p><b>クラスタ レイアウト スタイル</b></p>	<p>対称型または円型レイアウト・スタイルでクラスタを表示します。</p> <p>次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>対称</b> : 対称型レイアウト・スタイルでクラスタを表示します。</li> </ul> <div data-bbox="575 786 975 998" data-label="Diagram"> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>円型</b> : 円型レイアウト・スタイルでクラスタを表示します。</li> </ul> <div data-bbox="575 1086 811 1329" data-label="Diagram"> </div>

UI 要素 (A-Z)	説明
<b>レイアウト品質</b>	<p>生成されるレイアウトの品質をアプリケーションのニーズに合わせて調整します。この品質は、レイアウトの生成に使用されたステップまたはメソッドの数を反映しています。たとえば、高品質にすると表示がより明瞭になりますが、レイアウトの設定にかかる時間が長くなります。</p> <p>次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>▶ <b>ドラフト</b>：レイアウトを下書き品質に設定します。</li><li>▶ <b>中間</b>：レイアウトを中間品質に設定します。</li><li>▶ <b>最高</b>：レイアウトを最高品質に設定します。</li></ul>

UI 要素 (A-Z)	説明
<p><b>スペーシング</b></p>	<p>同一クラスタ内とクラスタ間での各グラフ・ノードの間隔を設定します。</p> <p>次の設定の値を入力します。</p> <p>▶ <b>Between Graph Nodes</b> : 同一クラスタ内での各グラフ・ノード間の間隔を設定します。間隔が大きくなるほど、クラスタ境界上に位置するグラフ・ノードが多くなります。</p> <p><b>標準設定値</b> : 50</p> <p>次の図はグラフ・ノードの間隔が小さい場合を示しています。</p>  <p>次の図はグラフ・ノードの間隔が大きい場合を示しています。</p>  <p>▶ <b>円形の間</b> : クラスタ間の間隔を設定します。</p> <p><b>標準設定値</b> : 50</p> <p>次の図はクラスタの間隔が小さい場合を示しています。</p>  <p>次の図はクラスタの間隔が大きい場合を示しています。</p> 

**[階層的] タブ**

<p><b>利用方法</b></p>	<p>[レイアウト プロパティ] ダイアログ・ボックスで [階層的] タブをクリックします。</p>
--------------------	--

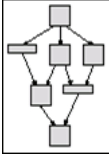
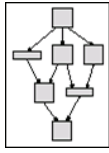
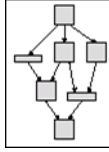
<b>重要情報</b>	[階層的] タブでは、組織または情報管理システムの依存関係、プロセス・モデル、ソフトウェア呼び出しグラフ、およびワーク・フローを表す優先順位関係を表示します。階層レイアウトでは、グラフ・ノードを異なるレベルに配置することで依存関係が強調されます。
-------------	---

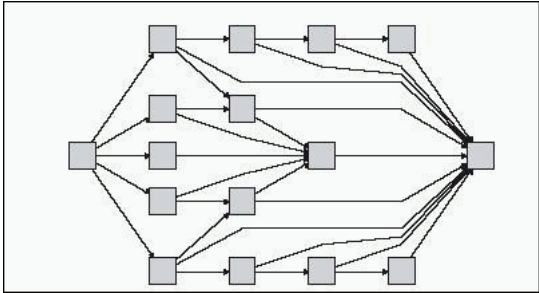
ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素 (A-Z)	説明
<b>後方エッジ</b>	<p>階層レイアウト内で逆行関係がどのように表示されるかを指定します。</p> <p>次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>最小後方エッジ</b>：レイヤ内に表示される逆行関係の数を最小に設定します。</li> <li>▶ <b>フィードバック フローの最適化</b>：レイヤ内に表示される逆行関係の数を最大に設定します。このモードはフロー・チャートに適しています。</li> </ul>
<b>水平スペーシング</b>	<p>各レベルの隣り合う 2 つのグラフ・ノード間の水平方向の最小間隔を設定できます。</p> <p>次の設定の値を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>ノード間</b>：レイヤ内の各グラフ・ノードの周囲に水平方向の間隔を設定します。 <b>標準設定値</b>：28</li> <li>▶ <b>エッジ間</b>：この設定は、[ルーティング] &gt; [直交型] を選択した場合にのみ使用できます。グラフ内のエッジ間の水平方向の間隔を設定します。 <b>標準設定値</b>：12</li> </ul>

UI 要素 (A-Z)	説明
レイアウト品質	<p>生成されるレイアウトの品質をアプリケーションのニーズに合わせて調整します。この品質は、レイアウトの生成に使用されたステップまたはメソッドの数を反映しています。たとえば、高品質にすると表示がより明瞭になりますが、レイアウトの設定にかかる時間が長くなります。</p> <p>次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>ドラフト</b>：レイアウトを下書き品質に設定します。</li> <li>▶ <b>中間</b>：レイアウトを中間品質に設定します。</li> <li>▶ <b>最高</b>：レイアウトを最高品質に設定します。</li> </ul>



UI 要素 (A-Z)	説明
<b>レベルの配置</b>	<p data-bbox="621 227 1252 284">グラフ・ノードを垂直方向に位置合わせする方法を設定できます。</p> <p data-bbox="621 302 1058 328">次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul data-bbox="621 347 1252 404" style="list-style-type: none"><li data-bbox="621 347 1252 404">▶ 上。次の図では、階層の同じレベルにある各グラフ・ノードの上端で位置合わせされています。</li></ul>  <ul data-bbox="621 621 1252 678" style="list-style-type: none"><li data-bbox="621 621 1252 678">▶ 中央。次の図では、階層の同じレベルにある各グラフ・ノードの中央で位置合わせされています。</li></ul>  <ul data-bbox="621 899 1252 956" style="list-style-type: none"><li data-bbox="621 899 1252 956">▶ 下。次の図では、階層の同じレベルにある各グラフ・ノードの下端が位置合わせされています。</li></ul> 

UI 要素 (A-Z)	説明
<p><b>方向</b></p>	<p>階層の向きを設定できます。</p> <p>次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>上から下</b>: 子は親の上に配置されます。</li> <li>▶ <b>左から右</b>: 子は親の左に配置されます。</li> <li>▶ <b>下から上</b>: 子は親の下に配置されます。</li> <li>▶ <b>右から左</b>: 子は親の右に配置されます。</li> </ul>
<p><b>直交ルーティング - 固定ノードサイズ</b></p>	<p>この設定は, [ルーティング] &gt; [直交型] を選択した場合にのみ使用できます。グラフ・ノードのサイズを維持します。グラフ・ノードの同じ側に複数の関係が接続されるときに, 指定した関係の間隔設定を維持する必要があり, レイアウト内のグラフ・ノードのサイズを拡大できるようにする場合は, このオプションをクリアします。</p>
<p><b>ポリラインルーティング - ベンド間のスペーシング</b></p>	<p>この設定は, [ルーティング] &gt; [ポリライン] を選択した場合にのみ使用できます。ポリライン・ルーティングでは, 任意の角度で曲がる 1 つ以上の直線分としてエッジ (連結線) がルーティングされます。エッジ (連結線) が重なり合わないよう, パス・ノードが自動的に追加されます。</p> <p><b>標準設定値: 12</b></p> 

UI 要素 (A-Z)	説明
<b>ルーティング</b>	レイアウトのルーティング・タイプを選択します。次のオプションを使用できます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>直交型</b></li> <li>▶ <b>ポリライン</b></li> </ul>
<b>方向付けのないレイアウト</b>	Edge direction 階層図のレベル構築にエッジの方向を使用しません。
<b>変数レベル スペーシング</b>	可変レベル間隔では、レベル間のエッジの密度に従って、隣り合う 2 つのレベル間の間隔を調整します。 <p>図中のエッジが直交ルーティングされている場合は、これによってレベル間にルーティングされた水平方向のエッジ間に必要な垂直方向の間隔が確保されます (上から下または下から上のレイアウトで)。</p> <p>ポリライン・ルーティングの場合は、可変レベル間隔を使うことによって、密度の高い図でも各エッジを区別しやすくなります。</p>
<b>垂直スペーシング</b>	異なるレベルにある隣り合う 2 つのグラフ・ノード間の垂直方向の最小間隔を設定できます。 次の設定の値を入力します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>ノード間</b>: レベル内の各グラフ・ノードの周囲に垂直方向の間隔を設定します。 <b>標準設定値: 28</b></li> <li>▶ <b>エッジ間</b>: この設定は、[ルーティング] &gt; [直交型] を選択した場合にのみ使用できます。グラフ内のエッジ間の垂直方向の間隔を設定します。 <b>標準設定値: 12</b></li> </ul>

### [直交型] タブ

<b>利用方法</b>	<b>利用方法</b> : [レイアウト プロパティ] ダイアログ・ボックスで [直交型] タブをクリックします。
<b>重要情報</b>	[直交型] タブでは、直交線レイアウトのルート関係を水平方向と垂直方向で設定できます。この結果、関係を示す線の折れ曲がりには常に 90 度になります。

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素 (A-Z)	説明
<p><b>固定ノードサイズ</b></p>	<p>グラフ・ノードのサイズを維持します。グラフ・ノードの同じ側に複数の関係が接続されるときに、指定した関係の間隔設定を維持する必要があり、レイアウト内のグラフ・ノードのサイズを拡大できるようにする場合は、このオプションをクリアします。</p>
<p><b>水平スペーシング</b></p>	<p>グラフ・ノード間の水平方向の最小距離を設定できます。 次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>ノード間</b>：レイヤ内の各グラフ・ノードの周囲に水平方向の間隔を設定します。 <b>標準設定値</b>：20</li> <li>▶ <b>エッジ間</b>：レイヤ内の要素間の水平方向の間隔を設定します。 <b>標準設定値</b>：12</li> </ul>
<p><b>レイアウト品質</b></p>	<p>生成されるレイアウトの品質をアプリケーションのニーズに合わせて調整します。この品質は、レイアウトの生成に使用されたステップまたはメソッドの数を反映しています。たとえば、高品質にすると表示がより明瞭になりますが、レイアウトの設定にかかる時間が長くなります。 次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>ドラフト</b>：レイアウトを下書き品質に設定します。</li> <li>▶ <b>中間</b>：レイアウトを中間品質に設定します。</li> <li>▶ <b>最高</b>：レイアウトを最高品質に設定します。</li> </ul>
<p><b>垂直スペーシング</b></p>	<p>グラフ・ノード間の垂直方向の最小距離を設定できます。 次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>ノード間</b>：レイヤ内の各グラフ・ノードの周囲に垂直方向の間隔を設定します。 <b>標準設定値</b>：100</li> <li>▶ <b>エッジ間</b>：レイヤ内の要素間の垂直方向の間隔を設定します。 <b>標準設定値</b>：20</li> </ul>

**[対称] タブ**

<b>利用方法</b>	[レイアウトプロパティ] ダイアログ・ボックスで <b>[対称]</b> タブをクリックします。
<b>重要情報</b>	[対称] タブでは、複雑なネットワークをわかりやすくビジュアル化して表示します。対称レイアウトでは、グラフ内に存在する対称性が強調されます。

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素 (A-Z)	説明
<p><b>レイアウト品質</b></p>	<p>生成されるレイアウトの品質をアプリケーションのニーズに合わせて調整します。この品質は、レイアウトの生成に使用されたステップまたはメソッドの数を反映しています。たとえば、高品質にすると表示がより明瞭になりますが、レイアウトの設定にかかる時間が長くなります。</p> <p>次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>ドラフト</b>：レイアウトを下書き品質に設定します。</li> <li>▶ <b>中間</b>：レイアウトを中間品質に設定します。</li> <li>▶ <b>最高</b>：レイアウトを最高品質に設定します。</li> </ul>
<p><b>スペーシング</b></p>	<p>レイヤ内の各グラフ・ノードの周囲に水平方向と垂直方向の固定間隔を設定できます。指定した値はレイアウトのガイドラインであり、特定のグラフ・ノードのペアの間隔がここで指定した値と異なる場合もあります。グラフ・ノード間隔を大きく指定するほど、最終的なレイアウトのグラフ・ノード間隔が広がります。</p> <p><b>標準設定値：50</b></p> <p>次の図は間隔が小さい場合と大きい場合を示しています。</p> <div data-bbox="576 933 1139 1194" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> </div>

**[ルーティング] タブ**

<p><b>利用方法</b></p>	<p>[レイアウト プロパティ] ダイアログ・ボックスで <b>[ルーティング]</b> タブをクリックします。</p>
--------------------	--

<b>重要情報</b>	[ルーティング] タブでは、原則としてグラフ・ノードの位置はそのまま、線が直交するようにルーティングしなおすことができます。
-------------	--

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素 (A-Z)	説明
<b>ノード位置の固定</b>	表示内のすべてのグラフ・ノードの位置を維持します。レイアウトを改良する必要があり、レイアウト内のグラフ・ノードを移動できるようにする場合は、このオプションをクリアします。重なり合いを避け、折れ曲がりの数が最少になるように、最小限の移動が行われます。
<b>固定ノードサイズ</b>	グラフ・ノードのサイズを維持します。グラフ・ノードの同じ側に複数の関係が接続されるときに、指定した関係の間隔設定を維持する必要があり、レイアウト内のグラフ・ノードのサイズを拡大できるようにする場合は、このオプションをクリアします。

UI 要素 (A-Z)	説明
<p><b>水平スペーシング</b></p>	<p>グラフ・ノード間の水平方向の最小距離を設定できます。 次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>Between Graph Nodes</b> : レイヤ内の各グラフ・ノードの周囲に水平方向の間隔を設定します。 <b>標準設定値</b> : 20</li> <li>▶ <b>エッジ間</b> : レイヤ内の要素間の水平方向の間隔を設定します。 <b>標準設定値</b> : 12</li> </ul>
<p><b>垂直スペーシング</b></p>	<p>グラフ・ノード間の垂直方向の最小距離を設定できます。 次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>Between Graph Nodes</b> : レイヤ内の各グラフ・ノードの周囲に垂直方向の間隔を設定します。 <b>標準設定値</b> : 20</li> <li>▶ <b>エッジ間</b> : レイヤ内の要素間の垂直方向の間隔を設定します。 <b>標準設定値</b> : 12</li> </ul>



## メイン・メニュー

トポロジ・マップを操作するためのオプションが含まれています。

<b>利用方法</b>	画面の左上にあります。
<b>重要情報</b>	メイン・メニューの各ドロップダウン・リストに含まれている個々のオプションについては、189 ページの「ツールバー・オプション」を参照してください。

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素 (A-Z)	説明
<b>編集</b>	トポロジ・マップ用の選択オプションが含まれています。
<b>エディタ アイテム</b>	現在のマネージャ用のトポロジ・マップ・ショートカット・メニュー・オプションが含まれています。 <b>注:</b> このドロップダウンは、CI タイプ・マネージャには表示されません。
<b>レイアウト</b>	トポロジ・マップのレイアウトを変更するためのオプションが含まれています。 <b>注:</b> このドロップダウンは、レポートには表示されません。
<b>マネージャ</b>	さまざまな UCMDB モジュールへのリンクが含まれています。
<b>操作</b>	トポロジ・マップを印刷またはエクスポートするためのオプションが含まれています。
<b>リソース</b>	現在のマネージャ用の左表示枠ショートカット・メニュー・オプションが含まれています。 <b>注:</b> このドロップダウンは IT ユニバース・マネージャまたはレポートには表示されず、CI タイプ・マネージャでは <b>CI タイプ</b> と呼ばれます。
<b>ツール</b>	ユーザ・プリファレンス・ツール、ログ設定ツール、および画面キャプチャ・ツールが含まれます。
<b>ビュー</b>	モジュールの各表示枠の表示 / 非表示を切り替えられます。

## [印刷] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、トポロジ・マップの内容を印刷できます。

<b>利用方法</b>	[操作] > [印刷] を選択します。
<b>重要情報</b>	<p>トポロジ・マップの印刷結果は、画面キャプチャとほぼ同じです。したがって、印刷前に次の作業を行うことをお勧めします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 印刷設定を定義し、必要に応じてトポロジ・マップの内容を整理します。詳細については、187 ページの「[印刷設定] ダイアログ・ボックス」を参照してください。</li> <li>▶ トポロジ・マップの内容を印刷用に整理します。それには、[レイアウト] オプションと [レイアウト プロパティ] を使用します。レイアウト・オプションの詳細については、193 ページの「レイアウト」を参照してください。レイアウト・プロパティの詳細については、168 ページの「[レイアウト プロパティ] ダイアログ・ボックス」を参照してください。</li> </ul>
<b>関連タスク</b>	228 ページの「トポロジ・マップの印刷とファイルへの保存」

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素 (A-Z)	説明
<b>部数</b>	印刷する部数を入力します。
<b>プロパティ</b>	必要に応じてドキュメントのプロパティを定義します。

## [印刷プレビュー] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、印刷前にトポロジ・マップの内容をプレビューできます。

利用方法	[操作] > [印刷プレビュー] を選択します。
関連タスク	228 ページの「トポロジ・マップの印刷とファイルへの保存」

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

メニュー項目	説明
フィット	ビュー全体を表示枠内にぴったり収めます。
印刷	マップを印刷します。詳細については、186 ページの「[印刷] ダイアログ・ボックス」を参照してください。
印刷設定	マップの印刷設定を定義します。詳細については、187 ページの「[印刷設定] ダイアログ・ボックス」を参照してください。
ズーム	マップの特定の詳細にズーム・インします。詳細については、192 ページの「インタラクティブ・ズーム」を参照してください。

## [印刷設定] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、トポロジ・マップの印刷設定を定義できます。

利用方法	[操作] > [印刷設定] を選択します。
関連タスク	228 ページの「トポロジ・マップの印刷とファイルへの保存」


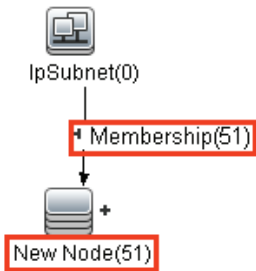

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。





UI 要素 (A-Z)	説明
実際のサイズ	ビューを実際の大きさに印刷します。
色	テキストの色を設定します。
フォント	必要なフォントを設定します。




UI 要素 (A-Z)	説明
ページ設定	印刷設定を定義します。
ページ	マップを行と列に分割し、各セクションを別々に印刷します。[ページカラム] ボックスと [ページ行] ボックスに、それぞれ列数と行数を入力します。
位置	キャプションの位置を [位置] リストから選択します。
背景を印刷	ビューの背景を印刷します。
境界を印刷	マップを境界線付きで印刷します。境界線の色を選択するには、[色] をクリックします。
印刷キャプション	テキスト領域にキャプションを入力し、[フォント] をクリックして使用するカスタム・フォントを選択します。
描画全体を印刷	クロップ・マークを印刷します。
現在の印刷範囲を印刷	選択したグラフ・ノードとその関係を印刷します。
現在のウィンドウを印刷	ビューの表示枠内に表示されている部分を印刷します。
トンボを印刷	ビューの全体を印刷します。
ページ番号を印刷	ページ番号を印刷します。
ズーム レベル	現在のズーム・レベルでビューを印刷します。


## 🔍 ツールバー・オプション

トポロジ・マップの各ツールバー・オプションについて、次の表で説明します。


ボタン	オプション名	このオプションの機能
	追加数	<p>エンリッチメント・ルールの結果として作成されたインスタンスの数を計算します。作成された TQL クエリ・ノード・インスタンスおよび関係の数は、次の図のようにエンリッチメント・クエリ・ノードまたは関係の横に表示されます。</p>  <p><b>注：</b>このオプションがツールバーに表示されるのは、エンリッチメント・マネージャだけです。</p>
	詳細表示枠	<p>[詳細表示枠] を画面の下部中央に表示するか非表示にするかを切り替えます。</p> <p><b>利用方法：</b> [表示] &gt; [詳細表示枠] を選択します。</p>
	クエリ結果数を計算する	<p>各 TQL クエリ・ノード / 関係について、見つかったインスタンスの数を計算します。</p>
	ラベルの長さを変更 / ラベルプロパティの変更	<p>ラベルに含める最大文字数を入力します。</p> <p><b>利用方法：</b> IT ユニバース・マネージャとモデリング・スタジオでは、[レイアウト] &gt; [ラベルプロパティの変更] を選択します。その他のマネージャでは、[レイアウト] &gt; [ラベルの長さを変更] を選択します。</p>



ボタン	オプション名	このオプションの機能
	CI タイプ・ツリー	CI タイプ・セレクタを画面の右に表示するか非表示にするかを切り替えます。 <b>利用方法：</b> [表示] > [CI タイプ ツリー] を選択します。 <b>注：</b> モデリング・スタジオでは、このオプションは [CI タイプ] と呼ばれます。
	関係を作成	ほとんどのマネージャでは、2つの既存の TQL クエリ・ノードの間に関係を作成します。詳細については、28 ページの「TQL クエリへのクエリ・ノードと関係の追加」を参照してください。 IT ユニバース・マネージャでは、既存の CI の間に関係を作成します。詳細については、212 ページの「既存の CI の関連付け」を参照してください。
	選択した項目の削除	IT ユニバース・マネージャから CI を削除するか、影響分析マネージャまたはエンリッチメント・マネージャから TQL クエリ・ノードを削除します。
	関連 CI の取得を無効化 / 有効化	CI の選択で新しい CI を選択するときに、関連する CI でのトポロジ・マップの再描画の無効化と有効化を切り替えます。 <b>注：</b> このオプションは、IT ユニバース・マネージャの [ビュー内の関連項目] または [データベース内の関連項目] タブにのみ表示されます。
	マップをドラッグ	ビューをドラッグします。 <b>利用方法：</b> [モード] ボックスでドロップダウン・メニューを開くか、[表示] > [マップをドラッグ] を選択します。IT ユニバース・マネージャおよびモデリング・スタジオでは、[レイアウト] > [ドラッグモード] を選択します。
	レイヤを1つドリル・ダウン	トポロジ・マップ内の1つ下のレベルに移動します。このオプションは、ビューの階層を設定して作成された、別の CI レイヤが下位に存在する場合にのみ有効になります。階層設定の詳細については、270 ページの「ビュー階層の設定」を参照してください。 <b>注：</b> このオプションは、IT ユニバース・マネージャにのみ表示されます。
	エンティティ・ツリー	マネージャ固有のエンティティ・ツリーを画面の左に表示するか非表示にするかを切り替えます。 <b>利用方法：</b> [表示] > [エンティティ ツリー] を選択します。 <b>注：</b> モデリング・スタジオでは、左表示枠 (リソース, CI タイプ, CI の選択) の各タブが別個のオプションとして表示されます。

ボタン	オプション名	このオプションの機能
	画像にマップをエクスポート	トポロジ・マップをファイルに保存します。詳細については、166 ページの「[画像にマップをエクスポート] ダイアログ・ボックス」を参照してください。 <b>利用方法:</b> [操作] > [画像にマップをエクスポート] を選択します。
	ウィンドウに合わせる	マップ全体を表示枠内にぴったり収めます。
	ダイレクト・リンクの生成 - 概要	ビューまたは CI へのダイレクト・リンクを生成します。 <b>利用方法:</b> [編集] > [ダイレクト リンクの生成] を選択します。
	関連 CI を取得	[関連 CI を取得] ツールバーの表示 / 非表示を切り替えます。 <b>注:</b> このオプションは、IT ユニバース・マネージャの [ビュー内の関連項目] または [データベース内の関連項目] タブが選択されている場合にのみ表示されます。
	レイヤを1つ上げる	トポロジ・マップ内の1つ上のレベルに移動します。このオプションは、ビューの階層を設定して作成された、別の CI レイヤが上位に存在する場合にのみ有効になります。階層設定の詳細については、270 ページの「ビュー階層の設定」を参照してください。 <b>注:</b> このオプションは、IT ユニバース・マネージャにのみ表示されます。
	マップからすべての継承を非表示	継承関係とそれらが接続しているクエリ・ノードの表示 / 非表示を切り替えます。 <b>利用方法:</b> [レイアウト] > [マップからすべての継承を非表示] を選択します。 <b>注:</b> このオプションがツールバーに表示されるのは、CI タイプ・マネージャだけです。
	全クエリノードのラベルを非表示	CI/CIT/クエリ・ノード/パターン ラベルの表示 / 非表示を切り替えます。 <b>利用方法:</b> [レイアウト] > [全クエリ ノードのラベルを非表示] を選択します。 <b>注:</b> このオプションは、IT ユニバース・マネージャとモデリング・スタジオでは使用できません。
	全関係ラベルを非表示	関係ラベルの表示と非表示を切り替えます。 <b>利用方法:</b> [レイアウト] > [全関係ラベルを非表示] を選択します。 <b>注:</b> このオプションは、IT ユニバース・マネージャとモデリング・スタジオでは [エッジのラベルを非表示] と呼ばれます。





ボタン	オプション名	このオプションの機能
	<b>全関係を非表示</b>	表示されているマップ内の関係の表示 / 非表示を切り替えます。 <b>利用方法：</b> [レイアウト] > [全関係を非表示] を選択します。 <b>注：</b> このオプションは、ITユニバース・マネージャとモデリング・スタジオでは使用できません。
	<b>凡例の非表示/ 凡例を表示</b>	トポロジ・マップの凡例の表示 / 非表示を切り替えます。 <b>注：</b> このオプションは、ITユニバース・マネージャとモデリング・スタジオにのみ表示されます。
	<b>インタラクティブ・ズーム</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ クリックしてマウス・ポインタを上を移動すると、表示倍率が低くなります。</li> <li>▶ クリックしてマウス・ポインタを下を移動すると、表示倍率が高くなります。</li> </ul> <b>利用方法：</b> [モード] ボックスでドロップダウン・メニューを開くか、[表示] > [インタラクティブズーム] を選択します。 <b>注：</b> このオプションは、ITユニバース・マネージャとモデリング・スタジオでは使用できません。
	<b>レイアウト・プロパティ</b>	ビューのクエリ・ノードと関係の位置を指定することにより、ビューのレイヤ・レイアウトを定義します。詳細については、168 ページの「 [レイアウトプロパティ] ダイアログ・ボックス」を参照してください。 <b>利用方法：</b> [レイアウト] > [レイアウトプロパティ] を選択します。



ボタン	オプション名	このオプションの機能
	レイアウト	<p>リストからレイアウト表示を選択します。次のオプションを使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>階層構造</b>：トポロジ・マップ内の優先関係を表示できます。</li> <li>▶ <b>対称型</b>：複雑なネットワークをわかりやすくビジュアル化して表示できます。</li> <li>▶ <b>円型</b>：グラフのノードをグループまたはクラスタにまとめます。</li> <li>▶ <b>手動</b>：トポロジ・マップに手動で加えた変更を表示できます。</li> <li>▶ <b>直交</b>：水平線と垂直線だけを使ってエッジをルーティングすることで、非常にわかりやすいビューを表示できます。</li> </ul> <p>各オプションの詳細については、168 ページの「[レイアウト プロパティ] ダイアログ・ボックス」を参照してください。</p> <p><b>利用方法</b>：このレイアウト・オプションは、エンリッチメント・マネージャ、CIT マネージャ、影響分析マネージャでのみ使用されます。</p>
	ログ設定	<p>[ログ設定] ダイアログ・ボックスが開きます。</p> <p><b>利用方法</b>：[ツール] &gt; [ログ設定] を選択します。</p>
	マップ概要	<p>トポロジ・マップのコピーを表示する小さなボックスが開きます。この機能は、大きなビューで表示をズーム・インしているときに便利です。</p> <p><b>利用方法</b>：[レイアウト] &gt; [マップ概要] を選択します。</p>
	ワークスペースの最大化 / ワークスペースの復元	<p>トポロジ・マップの通常表示と全画面表示を切り替えます。</p>











ボタン	オプション名	このオプションの機能
	ナビゲーション	<p>時計回りで次の接続された CI/CIT/TQL クエリ・ノードにポインタを移動します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 関係を左クリックすると、時計回りに次の CI/CIT/ ノード / パターンへ移動します。</li> <li>▶ CI/CIT/ クエリ・ノード / パターンを右クリックすると、時計回りに次の CI/CIT/ ノード / パターンへの方向 (関係) が強調されます。</li> </ul> <p><b>利用方法:</b> [モード] ボックスでドロップダウン・メニューを開くか、[表示] &gt; [ナビゲーション] を選択します。</p> <p><b>注:</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ このオプションは、関係で接続されている CI/CIT/ クエリ・ノード / パターンだけに使用できます。</li> <li>▶ このオプションは、IT ユニバース・マネージャとモデリング・スタジオでは使用できません。</li> </ul>
	新規 CI	<p>新規の関連付けされていない CI を作成します。詳細については、206 ページの「CI を使った作業」を参照してください。</p> <p><b>注:</b> このオプションがツールバーに表示されるのは、IT ユニバース・マネージャだけです。</p>
	新規関連 CI	<p>新規の関連 CI を作成します。詳細については、206 ページの「CI を使った作業」を参照してください。</p> <p><b>注:</b> このオプションがツールバーに表示されるのは、IT ユニバース・マネージャだけです。</p>
	中央に配置	<p>選択した CI/CIT/ クエリ・ノード / パターンをマップの中央に配置します。</p> <p><b>利用方法:</b> [レイアウト] &gt; [中央に配置] を選択します。</p> <p><b>注:</b> このオプションは、IT ユニバース・マネージャとモデリング・スタジオでは使用できません。</p>
	印刷	<p>トポロジ・マップの内容を印刷します。詳細については、186 ページの「[印刷] ダイアログ・ボックス」を参照してください。</p> <p><b>利用方法:</b> [操作] &gt; [印刷] を選択します。</p>
	印刷プレビュー	<p>マップの内容を印刷前にプレビューできます。</p> <p><b>利用方法:</b> [操作] &gt; [印刷プレビュー] を選択します。</p>

ボタン	オプション名	このオプションの機能
	印刷設定	トポロジ・マップの印刷設定を定義します。詳細については、187 ページの「[印刷設定] ダイアログ・ボックス」を参照してください。 <b>利用方法:</b> [操作] > [印刷設定] を選択します。
	エンリッチメント結果を削除する	エンリッチメント・ルールに基づいて CMDB から作成されたインスタンスを削除します。 <b>注:</b> このオプションがツールバーに表示されるのは、エンリッチメント・マネージャだけです。
	画面キャプチャ	画面キャプチャ・ツールを使用して、画面のスナップショットを取ります。 <b>利用方法:</b> [ツール] > [画面キャプチャ] を選択します。
	選択	単一の CI/CIT/TQL クエリ・ノード、または複数の CI/CIT/TQL クエリ・ノードを選択します。 <b>利用方法:</b> [モード] ボックスでドロップダウン・メニューを開くか、[表示] > [選択] を選択します。IT ユニバース・マネージャおよびモデリング・スタジオでは、[レイアウト] > [選択モード] を選択します。
	すべて選択	選択したレイヤ内のすべての CI と関係を選択します。 <b>利用方法:</b> [編集] > [すべて選択] を選択します。 <b>注:</b> このオプションは、IT ユニバース・マネージャとモデリング・スタジオでは使用できません。
	全クエリノードを選択	選択したレイヤ内のすべてのクエリ・ノードを選択します。 <b>利用方法:</b> [編集] > [全クエリノードを選択] を選択します。 <b>注:</b> このオプションは、IT ユニバース・マネージャとモデリング・スタジオでは使用できません。
	カラムの選択	表示するカラムを選択できます。詳細については、558 ページの「[カラムの選択] ダイアログ・ボックス」を参照してください。 <b>注:</b> このオプションは、IT ユニバース・マネージャのテキスト・モードでのみ表示されます。
	変更時間枠の設定	[時間枠を変更] ダイアログ・ボックスが開き、追加または変更した CI インジケータの表示時間を設定できます。 <b>注:</b> このオプションがツールバーに表示されるのは、IT ユニバース・マネージャだけです。







ボタン	オプション名	このオプションの機能
	<b>削除の候補を表示</b>	現在のビュー内で削除の候補となる CI に  アイコンを付けて識別します。 <b>注：</b> このオプションがツールバーに表示されるのは、IT ユニバース・マネージャだけです。
	<b>スケジュール情報の表示</b>	選択したジョブのスケジュール情報を表示します。詳細については、『HP Universal CMDB データ・フロー管理ガイド』の「[ディスカバリ スケジューラ] ダイアログ・ボックス」を参照してください。 <b>注：</b> このオプションは、DFM の [依存関係マップ] タブのツールバーに表示されます。詳細については、『HP Universal CMDB データ・フロー管理ガイド』の「[依存関係マップ] タブ」を参照してください。
	<b>カラム・コンテンツの並べ替え</b>	表示されているカラムの順序を設定できます。詳細については、559 ページの「[カラムコンテンツの並べ替え] ダイアログ・ボックス」を参照してください。 <b>注：</b> このオプションは、IT ユニバース・マネージャのテキスト・モードでのみ表示されます。
	<b>そろえる</b>	角度がある 2 つのクエリ・ノード間の選択した関係をまっすぐにできます。 <b>利用方法：</b> [レイアウト] > [そろえる] を選択します。 <b>注：</b> このオプションは、エンリッチメント・マネージャと影響分析マネージャでのみ使用できます。
	<b>ユーザ・プリファレンス</b>	[ユーザ・プリファレンス] ダイアログ・ボックスが開き、そこで警告メッセージのプリファレンスをリセットできます。詳細については、97 ページの「[ユーザ プリファレンス] ダイアログ・ボックス」を参照してください。 <b>利用方法：</b> [ツール] > [ユーザ プリファレンス] を選択します。
	<b>ズーム イン</b>	トポロジ・マップ内の拡大する部分をクリックし、選択の矩形で囲むことによって、その部分を拡大表示できます。選択した領域は、トポロジ・マップに収まる最大の倍率で表示されます。 <b>利用方法：</b> [モード] ボックスでドロップダウン・メニューを開くか、[表示] > [ズーム イン] を選択します。IT ユニバース・マネージャおよびモデリング・スタジオでは、[レイアウト] > [ズーム イン] を選択します。

## トポロジ・マップのサイドバー

トポロジ・マップの各サイドバー・オプションについて、次の表で説明します。トポロジ・マップのサイドバーは、IT ユニバース・マネージャとモデリング・スタジオに表示されます。

ボタン	オプション名	このオプションの機能
	<b>Move to Right/Left</b>	サイドバーを画面の右側または左側に移動します。
	<b>ズーム イン/ ズーム アウト</b>	トポロジ・マップでズーム・インまたはズーム・アウトします。
	<b>選択モード</b>	トポロジ・マップで選択モードを有効にします。
	<b>ドラッグ モード</b>	トポロジ・マップでドラッグ・モードを有効にします。
	<b>Refresh to get an optimal layout</b>	トポロジ・マップを更新し、レイアウトを最適化します。
	<b>ウィンドウに合 わせる</b>	マップ全体を表示枠内にぴったり収めます。
	<b>エッジのラベル を非表示</b>	すべての関係のラベルを非表示にします。
	<b>ラベル プロパ ティの変更</b>	[マップのラベル プロパティ] ダイアログ・ボックスを開いて、行ごとの最大ラベル長とラベルごとの最大行数を設定できます。
	<b>マップ概要を 表示</b>	トポロジ・マップのコピーを表示する小さなボックスが開きます。この機能は、大きなビューで表示をズーム・インしているときに便利です。
	<b>階層レイアウト</b>	トポロジ・マップを、優先関係を示すレイアウトで表示します。

## 第6章・トポロジ・マップの使用

ボタン	オプション名	このオプションの機能
	<b>直交ルーティングを持つ階層レイアウト</b>	水平線と垂直線だけを使ってエッジをルーティングすることで、トポロジ・マップを、優先関係を示すレイアウトで表示します。
	<b>円型レイアウト</b>	トポロジ・マップを、グラフ・ノードをグループまたはクラスタにまとめたレイアウトで表示します。
	<b>直交レイアウト</b>	水平線と垂直線だけを使ってエッジをルーティングするレイアウトで、トポロジ・マップを表示します。
	<b>対称型レイアウト</b>	トポロジ・マップを、複雑なネットワークをわかりやすくビジュアル化して示すレイアウトで表示します。
	<b>印刷</b>	トポロジ・マップを印刷します。
	<b>画像にマップをエクスポート</b>	トポロジ・マップをファイルに保存します。

# 第 II 部

---

モデリング





# 7

---

## IT ユニバース・マネージャ

本章の内容

### 概念

- ▶ IT ユニバース・マネージャの概要 (202 ページ)
- ▶ IT ユニバース・マネージャのビューを使った作業 (203 ページ)
- ▶ ビューのツリー構造 (205 ページ)
- ▶ CI を使った作業 (206 ページ)
- ▶ 関係を使った作業 (210 ページ)

### タスク

- ▶ CMDB での CI と関係の作成 (216 ページ)
- ▶ アプリケーション・ディスカバリのステータス・チェック (ビューの再検出) (217 ページ)
- ▶ 影響分析結果シナリオの取得 (220 ページ)
- ▶ ビューのスナップショットの取得 (228 ページ)
- ▶ トポロジ・マップの印刷とファイルへの保存 (228 ページ)

### 参照先

- ▶ IT ユニバース・マネージャのユーザ・インタフェース (229 ページ)

---

---

## 概念

---

---

### IT ユニバース・マネージャの概要

IT ユニバースマネージャを使うと、IT ユニバースモデルのコンテンツを管理できます。次に、このアプリケーションの基本機能を示します。

- ▶ **関係を作成せずに CI を作成** : CMDB に追加する新しい CI を個々に定義して、新しい関係が作成されないようにできます。詳細については、207 ページの「非関連 CI の作成」を参照してください。
- ▶ **対応する関係を持つ CI を作成** : 新しい CI を定義して既存の CI に関連付けることで、新しい CI と新しい関係を CMDB に定義できます。詳細については、207 ページの「関連 CI の作成」を参照してください。
- ▶ **既存の CI を追加して、追加した CI の関係を作成** : CI を既存の CI に関連付けると、既存の CI に対して新しい関係を作成できます。詳細については、212 ページの「既存の CI の関連付け」を参照してください。
- ▶ **CI の削除** : CI を CMDB から削除できます。詳細については、208 ページの「CI の削除」を参照してください。
- ▶ **影響分析結果の取得** : ビューに定義した影響ルールを実行すると、定義された特定の変化がシステムに及ぼす影響をシミュレートし、変化の根本原因を発見できます。影響ルールの詳細については、440 ページの「影響分析マネージャの概要」を参照してください。
- ▶ **ビューのスナップショットを取る** : HP Universal CMDB では、ビューのステータスを別の時点で取得したステータスと比較して、1 つのスナップショットに表示できます。スナップショットを取る方法の詳細については、228 ページの「ビューのスナップショットの取得」を参照してください。

### IT ユニバース・モデルの作成

CMDB 内の IT ユニバース・モデルには、HP Universal CMDB 内で操作する CI 生成ツールによって生成された CI と関係が含まれています。ほとんどの CI と関係は、次のいずれかのソースから発生します。

- ▶ **データ・フロー管理 (DFM)** : 社内のインフラストラクチャ内で検出された IT リソースやトポロジに基づいて、CI と関係を自動的に作成します。詳細については、『HP Universal CMDB データ・フロー管理ガイド』の「データ・フロー管理の概要」を参照してください。
- ▶ **IT ユニバース・マネージャ** : ビジネスの論理要素や物理要素を表す CI と関係を手動で作成できます。詳細については、206 ページの「CI を使った作業」を参照してください。
- ▶ **エンリッチメント・マネージャ** : エンリッチメント TQL クエリに定義されているエンリッチメント・クエリ・ノードの属性からデータを受け取ることで、CI と関係を CMDB に追加できます。詳細については、507 ページの「エンリッチメント・マネージャ」を参照してください。

## IT ユニバース・マネージャのビューを使った作業

IT ユニバースマネージャでは、ビュー レベルでデータを分析します。ビューは、IT ユニバースのサブセットで、特定の観点領域に関連する CI だけが含まれています。すべてのビューは、ビューの内容を決定するパターンに基づいています。

- ▶ **パターン・ビューとテンプレート・ベース・ビュー**は、ビューの構造を定義する TQL (トポロジ・クエリ言語) クエリから構築されます。ビューには、クエリ定義に適合する CI と関係だけが表示されます。
- ▶ **パースペクティブ・ベース・ビュー**は、CI のグループを選択し、パースペクティブを適用することによって手作業で構築します。パースペクティブとは、ビューに含まれる関連 CI の定義に使用するパターンです。

ビューの各タイプに応じたエディタを使うことによって、すべてのビューはモデリング・スタジオで構築します。異なる種類のビューと、それぞれの機能については、268 ページの「ビュー形式」を参照してください。

---

**注:** ビューを編集するには、ビューの**変更**権限が必要です。必要な権限がない場合は、HP Universal CMDB の管理者にお問い合わせください。

---

DFM で作成した CI は、CI (およびその関係) がビューの TQL 定義に適合するように、各ビューに自動的に追加されます。[CI の選択] でビューを開くと、そのビューの TQL クエリにより、定義されているパターンに一致する CI が CMDB に問い合わせられます。一致する CI が見つからない場合 (プロセスがまだ実行されていない DFM プロセスのビューのときなど)、ビューは空の状態のままになります。

IT ユニバース・マネージャのビューで作業しているときに新しい CI を定義すると、CI (および関連する関係) が CMDB に作成されます。CI は、現在のビューの TQL 仕様を満たしている場合のみビューに追加されます。

作成した CI と関係が TQL の要件を満たしていない場合、その CI と関係は CMDB 内に作成されますが、ビューには表示されません。同様に、既存の CI をビュー内の CI に関連付け、新しいパターンが TQL の要件を満たしていない場合、関連付けた CI はビューに表示されませんが、その関係は作成されています。

### テンプレートとテンプレート・ベース・ビュー



テンプレートを IT ユニバース・マネージャで開くと、パターン・ビューのようにトポロジ・マップでテンプレートが表示されます。[CI の選択] ツールバーの **[テンプレート パラメータを表示]** ボタンをクリックすると、[テンプレート パラメータ値] ダイアログ・ボックスが開き、テンプレート・パラメータの値を変更してトポロジ・マップ内の表示結果を変更できます。さまざまなパラメータ値を試してトポロジ・マップがどう変わるのかをご覧ください。なお、変更はテンプレート自体に保存することはできません。選択したパラメータとともにテンプレート・ベース・ビューに表示結果を保存するには、[テンプレート パラメータ値] ダイアログ・ボックスで **[ビューに名前を付けて保存]** ボタンをクリックします。

### ビューのライフサイクル

一定期間、[CI の選択] からビューへのアクセスがなければ、システムのメモリを節約するためにビューはクリアされます。ただし、ビューは CMDB からは削除されていないので、そのビューをクリックすると再び取得できます。未使用のビューをクリアする標準設定の期間は 1 時間です。

---

**注：**永続として定義されているビューはクリアされることはなく、常にメモリに保持されます。

---

## 非表示ビュー

非表示ビューのバンドルを定義してそのバンドルにビューを割り当てると、ITユニバース・マネージャに表示されない非表示ビューとしてビューを指定できます。

**ビューを非表示ビューとして指定するには、次の手順で行います。**

- 1 インフラストラクチャ設定マネージャで、[Hidden Bundles Names in CI Selector] を選択します。
- 2 標準設定値として新規バンドル名を入力し、設定を保存します。
- 3 関連するビューをモデリング・スタジオで開き、ツールバーの [定義プロパティの表示] ボタンをクリックします。
- 4 [定義プロパティの表示] ダイアログ・ボックスで、非表示ビューのバンドルを選択しそのバンドルにビューを割り当てます。

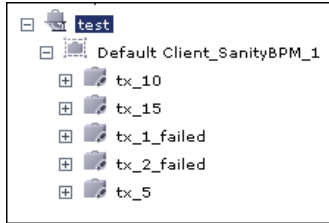


## ビューのツリー構造

ビューは、ITユニバース・マネージャの左側の表示枠に階層ツリー形式で表示されます。これをビュー エクスプローラ (または CI の選択) と呼びます。ビューの名前は、ツリー上部の [ビュー] ボックスに表示され、ビュー内の CI を格納するフォルダとして機能します。

[CI の選択] ツリーの最初のレベルは、ルート CI のクエリ・ノードから構成されています。ルート CI は、ビューのサブツリーの起点です。ビューには、任意の数のサブツリーが含まれます。ルート CI の下には分岐 CI があり、各分岐の末端の最終クエリ・ノードであるリーフ CI まで展開されます。

サブツリー内の各レベルの CI は、そのすぐ上の分岐上にある CI に関連付けられているとみなされます。この関係付けは、一般に依存関係を表しています。したがって、上位の（ルート CI に近い）分岐はビジネス・プロセス内の 1 つ下の（リーフ CI に近い）分岐上にある CI に依存するビジネスのコンポーネントを表します。たとえば、アプリケーションはそのアプリケーションを実行するサーバに依存します。



上位クエリ・ノードと下位クエリ・ノードの関係付けは、親子関係と呼ばれます。親 CI は多くの関係付けられた子 CI を持つことができ、子 CI は親に動作ステータスを渡します。

ツリーのトポロジは、そのビューに定義された階層によって決定されます。パターン・ビューでは、これらは特定のビューに対して定義されます。テンプレート・ベース・ビューやパースペクティブ・ベース・ビューの階層は、テンプレートまたはパースペクティブの一部として定義されます。階層定義の詳細については、270 ページの「ビュー階層の設定」を参照してください。

### CI を使った作業

IT ユニバース・マネージャでは、関連 CI および非関連 CI の作成、CI の削除、CI プロパティの編集、エイジング・メカニズムを使用した古い CI の削除を行うことができます。

本項の内容

- ▶ 207 ページの「非関連 CI の作成」
- ▶ 207 ページの「関連 CI の作成」
- ▶ 208 ページの「CI の削除」

- ▶ 208 ページの「CIのプロパティ」
- ▶ 209 ページの「エイジング・メカニズムを使った期限切れ CI の削除」

## 非関連 CI の作成



IT ユニバース・マネージャで新規 CI を定義するには、ツールバーの [新規 CI] ボタンをクリックします。[新規 CI] ダイアログ・ボックスが開き、新しい CI のプロパティを定義できます。CI が CMDB に作成されます。詳細については、253 ページの「[新規 CI] / [新規関連 CI] ダイアログ・ボックス」を参照してください。

---

**注：**CI は、ビューのパターン、テンプレート、またはパースペクティブの仕様が一致した場合のみビューに追加されます。

---

このようにして作成された CI は、CMDB に存在するほかの CI と関係を持たない独立したエンティティとして追加されます。

## 関連 CI の作成

新しい CI が、既存の CI の親、子、または兄弟として追加されるように定義できます。

**新しい関連 CI を定義するには、次の手順を実行します。**

- 1 新しい CI を関連付ける CI をビューで選択します。
- 2 ツールバーの [新規 CI] ボタンをクリックします。
- 3 [新規関連 CI] ダイアログ・ボックスで、CI のプロパティと関係を定義します。詳細については、253 ページの「[新規 CI] / [新規関連 CI] ダイアログ・ボックス」を参照してください。



CI と関係が CMDB に作成されます。

---

**注：**CI と関係は、ビューのパターン、テンプレート、またはパースペクティブの仕様が一致した場合のみビューに追加されます。

---

## CIの削除

CIを削除するには、ITユニバース・マネージャのショートカット・メニューで**[CMDBから削除]**を選択します。CIがCMDBおよびすべてのビューから削除されます。CIに子がある場合は、親CIを削除しても子は自動的に削除されません。ビュー内で親CIと、親CIとともに表示される子CIの関係を削除せずに親CIを削除すると、子CIはビューに表示されなくなります。

子CIがほかのビューに表示されていない場合、子CIはビューに表示されませんがCMDBには残されています。それらの子CIは、パターン要件を満たした場合にそのビューに表示されるようになります。

このルールの例外は、子CIと親CIの関係が**Composition**の場合です。この場合は、親CIが削除されると、それに含まれているCIもCMDBから削除されます。たとえば、ノードCIが子CPUCIのコンテナである場合、ノードCIが削除されると、CPUもCMDBから削除されます。

DFMプロセスによって作成されたCIを削除すると、次にDFMが実行されるたびにCIが復元され（CIがまだ有効であった場合）、関連するすべてのビューに再び表示されます。

## CIのプロパティ

ITユニバース・マネージャでは、CIのプロパティを編集できます。CIのプロパティは複数のカテゴリに分割されて**[新規CI]**ダイアログ・ボックスに表示されます。

- ▶ CIの一般プロパティは、すべてのCIで共通です。一般プロパティには、CIの作成中に自動的に定義されるものと、**[新規CI]**ダイアログ・ボックスで手動による定義が必要なものがあります。
- ▶ CIT固有のプロパティは、CIタイプ・マネージャでCIT定義の一部として作成されます。CIT固有のプロパティの値は、DFM中に検出されたCIから取得されます。インフラストラクチャ内のエンティティを表すためにCIを手動で作成する場合は、これらの値を手動で入力することもできます。詳細については、465ページの「CIタイプ・マネージャ」を参照してください。
- ▶ キープロパティには一般プロパティとCIT固有のプロパティがあり、CIタイプのインスタンスを作成するために値を割り当てる必要があります。



ITユニバース・マネージャから[構成アイテムのプロパティ]ダイアログ・ボックスにアクセスしてCIのプロパティを表示するには、CIを右クリックして[**プロパティ**]を選択するか、[詳細]表示枠で[プロパティ]タブをクリックします。CIの編集に必要な権限を持っている場合は、CIのプロパティを編集することもできます。CIのプロパティの詳細については、233ページの「[構成アイテムのプロパティ]ダイアログ・ボックス」を参照してください。

CIT固有のプロパティは、[項目別]ボタンを使用してプロパティを並べ替えると、[構成アイテムのプロパティ]ダイアログ・ボックスの**特定のプロパティ**・セクションに表示されます。自動的に作成されたCIのプロパティには編集できるものもありますが、CIが[**Allow CI Update**] (全般プロパティ) に設定されている場合は、DFMがCIを更新するときに変更内容を上書きする場合があります。選択したプロパティの説明は、[構成アイテムのプロパティ]ダイアログボックスの下部にある詳細領域で確認できます。

DFM CIのCIT固有のプロパティには、変更を監視するように標準で設定されるものがあります。これらのプロパティが修正された場合は、変更に関する情報をCI変更レポートに表示できます。詳細については、381ページの「CI変更レポート」を参照してください。

## エイジング・メカニズムを使った期限切れCIの削除

CIまたは関係が一定期間、更新またはリフレッシュされていない場合 (CIがDFMによって再検出されておらず、かつ手動更新が実施されていないときなど)、エイジング・メカニズムによってCIがCMDBから削除されます。詳細については、『HP Universal CMDB 管理ガイド』の「CIライフサイクルおよびエイジング・メカニズム」を参照してください。

## 関係を使った作業

CMDB における CI 間の関係の多くは、DFM などによって自動的に作成されます。また、IT ユニバース・マネージャ、エンリッチメント・マネージャ、影響分析マネージャ、モデリング・スタジオでは、手動で関係を作成することもできます。

本項の内容

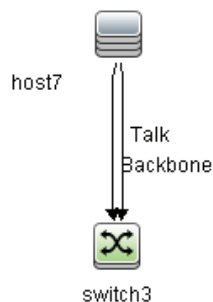
- ▶ 210 ページの「関係の作成」
- ▶ 211 ページの「階層関係の作成」
- ▶ 212 ページの「既存の CI の関連付け」
- ▶ 213 ページの「ビュー階層の設定」
- ▶ 213 ページの「関連 CI の表示」
- ▶ 214 ページの「関係の削除」
- ▶ 214 ページの「レイヤ間リンク」

### 関係の作成

関係を作成するには、1 つまたは複数の CI を [CI の選択] 表示枠またはトポロジ・マップで右クリックし、ショートカット・メニューで [CI に関連付け] を選択します。トポロジ・マップでは、ツールバーの [関係を作成] ボタンを使用してビュー内の 2 つの CI の間に線を引くことによって、2 つの CI の関係を定義できます。いずれの操作でも [関係を挿入] ダイアログ・ボックスが開きます。詳細については、240 ページの「[関係を挿入] ダイアログ・ボックス」を参照してください。



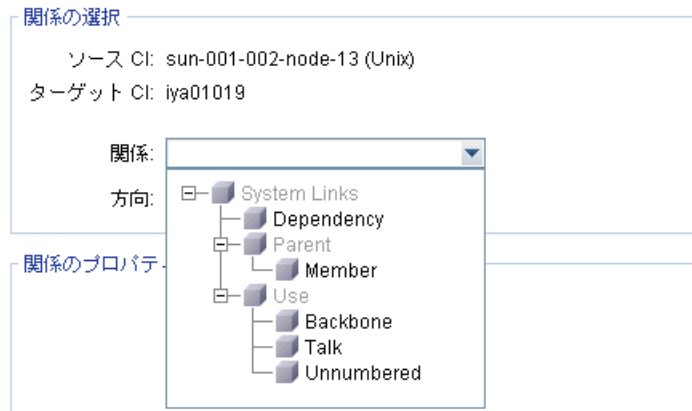
CMDB 内の CI とほかの CI との間には、必要な数の関係を作成できます。新しい各関係は、独自のエンティティとして CMDB 内に存在し、IT ユニバース・マネージャで編集可能な独自のプロパティを持っています (233 ページの「[構成アイテムのプロパティ] ダイアログ・ボックス」を参照してください)。各関係が異なる関係のタイプに基づいている場合は、2 つの同じ CI の間に複数の関係を作成することもできます。次の例では、**host7** は **Backbone** と **Talk** の 2 つの関係を **switch3** に対して持っています。



## 階層関係の作成

IT ユニバース・マネージャで、ある CI を別の CI に関連付けることによって、CI 間に階層関係 (親-子) を作成できます。これにより、一方の CI は他方の CI の影響を受けるようになります。

このように定義した関係は、関係のタイプ **[Usage]** (関係が2つの非モニタリング CI 間の場合)、または関係のタイプ **[Monitored By]** (関係内の子 CI がモニタ・タイプ CI の場合) に制限されるものがあります。ただし、特定のタイプの CI 間では、ほかの関係タイプが使用されます。たとえば、2つのノード CI 間で関係を定義する場合、複数の関係タイプが可能になります。



**注:** 子 CI を親 CI に関連付ける場合、CMDB 内でその関係を作成します。このため、子は、関係が存在するすべてのビューにおいて親 CI に影響を与えるとともに、子と関係が SQL クエリに一致するすべてのビューに表示されます。

## 既存の CI の関連付け

[関係を挿入] ダイアログ・ボックスを使用すると、既存の CI を関連付けることができます。このダイアログ・ボックスには、次の2つのモードがあります。

- ▶ 関連付ける CI を選択する。
- ▶ 元の CI と関連付ける CI の関係を定義する。

関連付ける CI を選択する場合、複数の CI をビューから選択して元の CI に関連付けることができます。ただし、一度の操作で関連付ける CI はすべて、同じ関係のタイプを持っている必要があります。たとえば、[Usage] 関係を使用する CI を、[Monitored By] 関係を使用する CI と同じ操作で関連付けることはできません。

## ビュー階層の設定

ビューのクエリ・ノード定義と関係定義を設定した後は、そのビューに対して階層を設定できます。これにより、選択した CI が異なるレベルで表示されるようになり、ビュー内の CI の組織構造を定義できます。階層を定義しなかった場合、トポロジ・マップまたはテーブルは標準で、クエリ結果に含まれるすべての CI を 1 つのレベルで表示します。たとえば、クエリ結果にノードと IP Subnet が含まれる場合、トポロジ・マップまたはテーブルではどちらの CI タイプも同じレベルで表示されます。

---

**注：**トポロジ・マップで 1 つのレイヤに表示できる CI の最大数は 900 個です。ビューに 900 個を超える CI が存在するレイヤがある場合、階層が変更されるまで、そのビューはトポロジ・マップに表示されません。ただし、900 個を超える CI が存在するレイヤは、テキスト・モードのテーブルには表示できます。

---

階層設定の詳細については、270 ページの「ビュー階層の設定」を参照してください。

## 関連 CI の表示

選択した CI に関連する CI はすべて、トポロジ・マップで表示できます。ビューで CI を選択し、[ビュー内の関連項目] タブを選択します。トポロジ・マップには、選択した CI とビュー内の関連 CI だけが表示されます（ビュー階層内の位置は関係しません）。[データベース内の関連項目] タブを選択すると、選択した CI と CMDB 内の関連 CI すべてが表示されます。

関連 CI マップを使って関連 CI を表示することもできます。詳細については、259 ページの「関連 CI マップ」を参照してください。

## 関係の削除

トポロジ・マップには、現在のビューに含まれる CI の関係だけが表示されます。ただし、同じ関係がほかのビューにも含まれる場合があります。IT ユニバース・マネージャで関係を削除すると、その関係は CMDB とすべてのビューから削除されます。

関係を削除した場合、ビューのパターンに一致する場合には、関係の対極にある CI はビューに表示された状態になる場合があります。ただし、削除した関係が **composition link** である場合、ターゲット CI もともに削除されます。

パースペクティブ・ベース・ビューでは、モデリング・スタジオのパースペクティブ・ベース・ビュー・エディタでビューから非表示にすることによって、CI をビューから完全に削除できます（CMDB からは削除されません）。

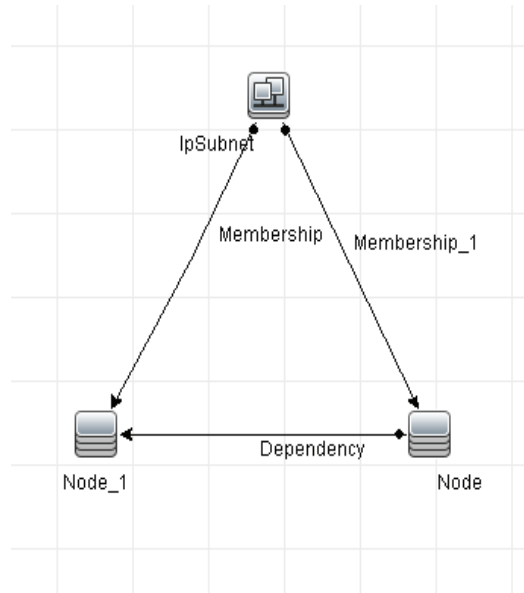
DFM プロセスによって作成された関係を削除すると、次に DFM が実行されるときに関係が復元され（関係がまだ有効であった場合）、関連するすべてのパターン・ビューに再び表示されます。

ビューからサブツリーまたは複数の CI と関係を削除するには、数分かかることがあります。

## レイヤ間リンク

一部の状況下で IT ユニバース・マネージャは、ビューのレイヤにある CI 間の関係を表示するとき、そのレイヤにある CI 間の実際の関係ではなく、ビューのさらに深いレイヤにある CI 間の関係を反映することがあります。このような関係を **レイヤ間リンク** と呼びます。

たとえば次のビューでは、2つのノード CI が **dependency link** でお互いに関連し合っています。また、それぞれが **membership link** によって **IP Subnet** と関連するとともに、ノードが **IP Subnet** の下のレイヤになるようにビュー階層が定義されます。



ITユニバース・マネージャでビューを削除すると、実際の関係はビューの下層レイヤにある CI 間にだけ存在しますが、異なる **IP Subnet** 上にあるノード CI 間のリンクは、親 **IP Subnet** 間のリンクとしてビューの上層レイヤに表示されます。**IP Subnet** 間のフル・パスを表示するには、リンクをダブルクリックしてください。

---

---

## タスク

---

---

### **CMDB での CI と関係の作成**

このタスクでは、関連 CI と非関連 CI，および CI 間の関係を CMDB 内に作成する方法について説明します。

このタスクには次の手順が含まれます。

- ▶ 217 ページの「新しい非関連 CI の定義」
- ▶ 217 ページの「新しい関連 CI の定義」
- ▶ 217 ページの「既存の CI の関係付け」



## 新しい非関連 CI の定義



ツールバーの **[新規 CI]** ボタンをクリックします。**[新規関連 CI]** ダイアログ・ボックスで、CI タイプをツリーから選択し、新しい CI のプロパティを定義します。詳細については、253 ページの「**[新規 CI] / [新規関連 CI]** ダイアログ・ボックス」を参照してください。

## 新しい関連 CI の定義



ツールバーの **[新規関連 CI]** ボタンをクリックします。**[新規関連 CI]** ダイアログ・ボックスで、CI タイプをツリーから選択し、新しい CI のプロパティを定義します。ダイアログ・ボックスの **[関係]** ページで、関係のタイプを選択してプロパティを定義します。詳細については、253 ページの「**[新規 CI] / [新規関連 CI]** ダイアログ・ボックス」を参照してください。

## 既存の CI の関係付け

ビューで CI を選択します。CI を右クリックして **[CI に関連付け]** を選択します。**[関係を挿入]** ダイアログ・ボックスで、ターゲット CI を選択します。ダイアログ・ボックスの **[関係]** ページで、関係のタイプを選択してプロパティを定義します。詳細については、240 ページの「**[関係を挿入]** ダイアログ・ボックス」を参照してください。

## アプリケーション・ディスカバリのステータス・チェック (ビューの再検出)

アプリケーションの所有者または管理者は、アプリケーションに発生する問題を常に把握する必要があります。たとえば、ディスカバリが正しく機能していて、現在の設定でアプリケーション・データベースに接続できることを知っておく必要があります。本項では、アプリケーションのディスカバリの現在のステータスをチェックする再検出手順を実行する方法について説明します。

---

### 注：

- ▶ セットアップと設定は、UCMDB 管理者が実行します。詳細については、218 ページの「前提条件」を参照してください。
- ▶ 再検出は、アプリケーションの所有者または管理者が実行します。詳細については、219 ページの「ビューへのアクセス」を参照してください。

- ▶ この手順を実行するのに、データ・フロー管理 (DFM) の知識は必要ありません。
  - ▶ 標準設定では、10,000 個より少ない CI を含むビューに対して再検出手順を実行できます。この数値を変更する方法の詳細については、238 ページの「重要情報」を参照してください。
- 

このタスクには次の手順が含まれます。

- ▶ 218 ページの「前提条件」
- ▶ 219 ページの「ビューへのアクセス」
- ▶ 219 ページの「ビューに結果を表示」
- ▶ 220 ページの「再検出のスケジュール設定」

## 1 前提条件

---

**注：**この手順は、UCMDB 管理者が実行します。

---

- a** DFM で、アプリケーションを検出する必要があるジョブを含むモジュールを作成します。詳細については、『HP Universal CMDB データ・フロー管理ガイド』の「ディスカバリ・コントロール・パネルのアドバンス・モード・ワークフロー」を参照してください。
- b** モジュールとすべてのジョブをアクティブにします。ジョブは、アクティブな状態にしておく必要があります。
- c** モジュールがエラーなく実行されたことを確認します。詳細については、『HP Universal CMDB 開発者向けリファレンス・ガイド』の「エラー・メッセージの概要」、および『HP Universal CMDB データ・フロー管理ガイド』の「[ディスカバリ ステータス] 表示枠」を参照してください。
- d** アプリケーションのエラーを修正し、次の実行時に DFM でエラーが検出されないことを確認します。

---

**注意：**アプリケーションの所有者は、DFMによってエラーが報告されている場合は、ビューを再検出できません。エラーのないベースラインを設定する必要があります。

---

- e モデリング・スタジオで、再検出対象のアプリケーション CI (1 つまたは複数) を含むビューを定義します。これらは、アプリケーションを検出するジョブをアクティブにするときに作成される CI です。詳細については、285 ページの「パターン・ビューの作成」を参照してください。
- f アプリケーションの所有者にビューの名前を通知します。

## 2 ビューへのアクセス

---

**注：**このステップは、アプリケーションの所有者または管理者が実行します。

---

IT ユニバース・マネージャで、再検出対象のアプリケーション CI を含むビューにアクセスします。詳細については、145 ページの「[検索] モードでの CI の検索」を参照してください。

## 3 ビューに結果を表示

- a **完全なアプリケーションをチェックする必要があります** : [CI の選択] ツールバーで **[ディスカバリおよび変更のサマリを表示]** ボタンをクリックします。**[ディスカバリのステータスおよびビューの変更を表示]** ダイアログ・ボックスが表示されます。ダイアログ・ボックスには、DFM によってジョブのディスカバリが最後に実行されたときの、ビュー内で CI を検出したジョブとトリガ CI に関する情報が表示されます。詳細については、238 ページの「[ディスカバリおよび変更のサマリ] ダイアログ・ボックス」を参照してください。

ディスカバリを実行するには、**[検出を再実行]** ボタンをクリックします。ジョブとトリガ CI に関する情報を表示するには、リンクを使用してドリルダウンします。詳細については、『HP Universal CMDB 開発者向けリファレンス・ガイド』の「エラー・メッセージの概要」を参照してください。



- b アプリケーションの特定のコンポーネントをチェックする必要があります**  
: コンポーネントの CI を [トポロジマップ] 表示枠で選択し, [詳細] 表示枠に [ディスカバリ] タブを表示します。詳細については, 238 ページの「[ディスカバリおよび変更のサマリ] ダイアログ・ボックス」を参照してください。

複数の CI を再検出するには, CTRL キーを押して CI を選択し, [ディスカバリ] タブを表示します。

ディスカバリを実行するには, [検出を再実行] ボタンをクリックします。

#### 4 再検出のスケジュール設定

再検出手順を実行する頻度について, スケジュールを設定できます。[ジョブ定義] ウィンドウで, [ビューでディスカバリを再実行] アクションを選択します。詳細については, 86 ページの「[ジョブ定義] ダイアログ・ボックス」を参照してください。

### 影響分析結果シナリオの取得

影響分析マネージャでは, 特定のインフラストラクチャの変化がシステムに及ぼす影響をシミュレートできる影響ルールを作成できます。影響ルールの結果は, IT ユニバース・マネージャに表示されます。このタスクの影響分析結果は, 接続されているノードに CPU 操作の変化がどのような影響を与えるかを示しています。

このタスクには次の手順が含まれます。

- ▶ 221 ページの「影響分析 TQL クエリの定義」
- ▶ 221 ページの「影響ルールの定義」
- ▶ 223 ページの「モデリング・スタジオでのビューの作成」
- ▶ 223 ページの「影響分析結果の取得」

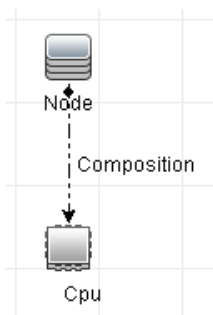
## 1 影響分析 TQL クエリの定義

影響分析 TQL クエリを定義するには、影響ルールを作成し、次にクエリを定義する TQL クエリ・ノードと関係を追加する必要があります。

影響分析 TQL クエリを作成するには、[マネージャ] > [モデリング] > [影響分析マネージャ] を選択します。クエリにクエリ・ノードと関係を追加する方法の詳細については、28 ページの「TQL クエリへのクエリ・ノードと関係の追加」を参照してください。

### 影響分析 TQL クエリの例：

この影響分析 TQL クエリでは、CPU とノードを Composition 関係でリンクします。



## 2 影響ルールの定義

影響ルールを定義するときは、クエリ・ノード間で必須の因果関係を指定する必要があります。1つのクエリ・ノードをトリガすなわちシステムに加える変更を示すクエリ・ノードとして、別のクエリ・ノードをその影響を受けるものとして定義します。

トリガとして定義するクエリ・ノードを右クリックし、[影響を受けるものを定義] を選択して、[影響を受けるクエリ ノード] ダイアログ・ボックスを開きます。トリガ・クエリ・ノードの影響を受けるクエリ・ノードを選択します。次に、[追加] ボタンをクリックして、[影響ルール定義] ダイアログ・ボックスを開き、影響を受けるクエリ・ノードを定義する条件を設定します。影響ルールを定義する方法の詳細については、457 ページの「[影響ルール定義] ダイアログ・ボックス」を参照してください。

---

**注：**影響ルール定義の [**変更**] 状態オプションは影響分析には関係しなくなりました。サポートされる状態は [**操作**] のみです。

---

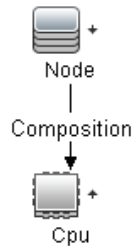
### 影響ルールの例：

[影響ルール定義] ダイアログ・ボックスの [条件] 領域で、システムの変更シミュレーションがトリガされる条件を定義します。ダイアログ・ボックスの下部で、影響を受けるクエリ・ノードに対する影響の重要度を定義します。

この例の状態の影響ルールでは、CPU 動作が標準状態でないときにノードに影響があります。トリガの重要度が 100% に設定されているため、ノードの重大度は CPU の重大度と同じになります。この重大度は影響分析の実行時に決まります。

詳細:	CPU usage	
条件		
状態:	cpu_usage	▼
演算子:	不等値	▼
値の比較:	10% load	▼
対象範囲		
<input checked="" type="radio"/> 任意		
<input type="radio"/> すべて		
<input type="radio"/> 範囲	0 %	- 100 %
<input checked="" type="radio"/> 固定された重大度:	50% load	▼
<input type="radio"/> 重大度はトリガの重大度との相対値 (%)	100	

結果の TQL クエリでは、トリガ・クエリ・ノードとして定義されたクエリ・ノードの横に上向き矢印が表示され、影響を受けるクエリ・ノードとして定義されたクエリ・ノードの横に下向き矢印が表示されます。



### 3 モデリング・スタジオでのビューの作成

モデリング・スタジオに移動し、定義した影響ルール of TQL クエリと一致するビューを作成します。詳細については、333 ページの「パターン・ビュー・エディタ」を参照してください。

### 4 影響分析結果の取得

[マネージャ] > [モデリング] > [ITユニバース マネージャ] を選択し、[CI の選択] から必要なビューを選択します。影響分析結果を取得するには、トポロジ・マップ内のトリガとなる CI インスタンスに対して影響ルールを実行する必要があります。トリガ CI を右クリックし、[影響分析を実行] を選択して [影響分析を実行] ダイアログ・ボックスを開きます。影響ルールを実行する方法の詳細については、260 ページの「[影響分析を実行] ダイアログ・ボックス」を参照してください。

**影響分析結果の取得例：**

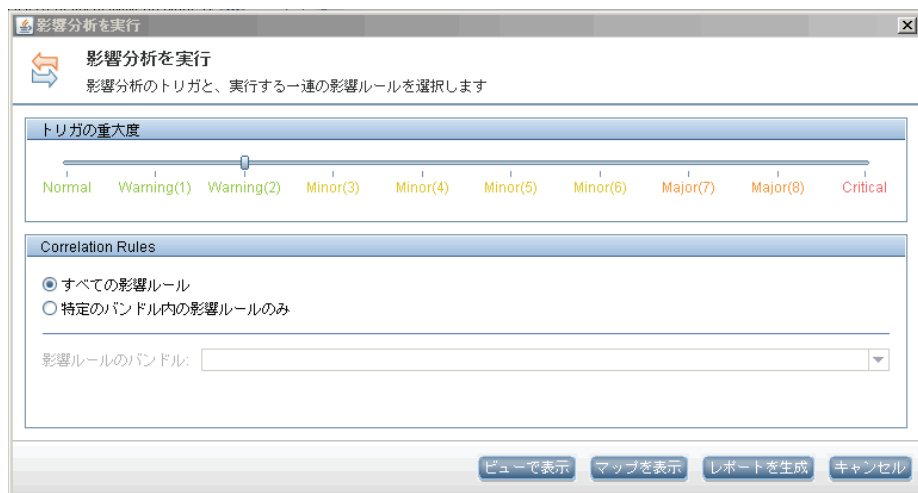
Composition の関係によって接続されている CPU とノードを含む、影響分析 TQL クエリが作成されています。CPU クエリ・ノードはトリガ・クエリ・ノードとして定義され、タイプ・ノードのクエリ・ノードは影響を受けるクエリ・ノードとして定義されています。

このクエリには、次の影響ルールが定義されています。

詳細:	CPU usage	
条件		
状態:	cpu_usage	▼
演算子:	不等値	▼
値の比較:	10% load	▼
対象範囲		
<input checked="" type="radio"/> 任意		
<input type="radio"/> すべて		
<input type="radio"/> 範囲	0 %	- 100 %
<input checked="" type="radio"/> 固定された重大度:	50% load	▼
<input type="radio"/> 重大度はトリガの重大度との相対値 (%):	100	

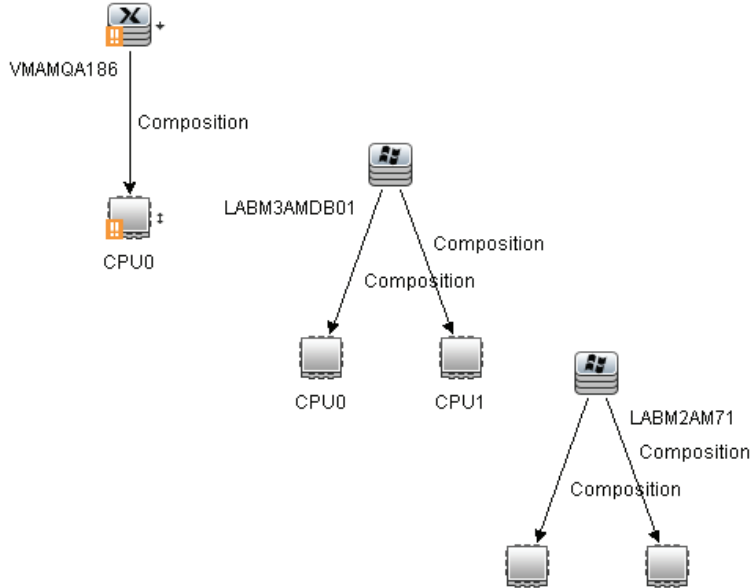


ビューから CPU CI を右クリックし、**[影響分析を実行]** を選択して **[影響分析を実行]** ダイアログ・ボックスを開きます。トリガの重大度を、**[標準]** 以外の値に設定します。



結果を表示するには、以下のいずれかをクリックします。

- ▶ **ビューで表示**：この場合は、ビュー内のすべての CI にステータスが割り当てられます。CPU CI（重大度が変更されたもの）に接続しているノード CI だけが影響を受けます。[影響分析を実行] ダイアログ・ボックスで、トリガの重大度がオレンジ色を割り当てた [重大 (7)] に設定されているため、トリガ CI と影響を受けた CI がオレンジ色に変わります。

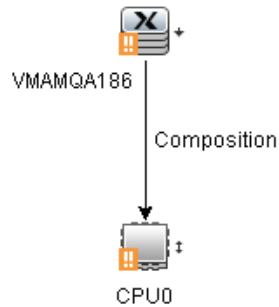


- ▶ **マップを表示**：トリガ CPU CI とその影響を受けるノード CI だけを含むマップが、別のウィンドウに表示されます。2 つの CI を接続する関係には、影響分析マネージャで定義された影響ルール名を使った名前が付けられます。

---

**注：**必要に応じて、マップを埋め込むための URL を作成できます。詳細については、120 ページの「[ダイレクトリンクパラメータ - 影響マップ] ページ」120 ページの「[ダイレクトリンクパラメータ - 影響マップ] ページ」を参照してください。

---



- ▶ **レポートを生成：**シミュレートされた変化の結果として影響を受けるシステム内の CI のリストを表示する影響分析レポートを生成します詳細については、260 ページの「[影響分析を実行] ダイアログ・ボックス」を参照してください。

## ビューのスナップショットの取得

ITユニバース・マネージャでビューのスナップショットを取って保存し、スナップショット比較レポートを使って、異なる時間にとられた同じビューのスナップショットどうしを比較できます。ビューのスナップショットを取る方法の詳細については、262ページの「[スナップショットを保存する] ダイアログ・ボックス」を参照してください。比較したビューの実際の差異を表示する方法の詳細については、393ページの「スナップショット比較レポート」を参照してください。

## トポロジ・マップの印刷とファイルへの保存

トポロジ・マップの内容を印刷し、それをファイルに保存できます。印刷する前に、要件に従って印刷設定を定義し、トポロジ・マップの内容を整列することをお勧めします。印刷設定を定義する方法の詳細については、187ページの「[印刷設定] ダイアログ・ボックス」を参照してください。印刷の前にトポロジ・マップの内容をプレビューする方法の詳細については、187ページの「[印刷プレビュー] ダイアログ・ボックス」を参照してください。トポロジ・マップの内容を印刷する方法の詳細については、186ページの「[印刷] ダイアログ・ボックス」を参照してください。トポロジ・マップをファイルに保存する方法の詳細については、260ページの「[影響分析を実行] ダイアログ・ボックス」を参照してください。

---

---

## 参照先

---

---



### IT ユニバース・マネージャのユーザ・インタフェース

本項の内容



- ▶ 230 ページの「[時間枠を変更] ダイアログ・ボックス」
- ▶ 231 ページの「[CI/ 関係履歴] ダイアログ・ボックス」
- ▶ 233 ページの「[構成アイテムのプロパティ] ダイアログ・ボックス」
- ▶ 238 ページの「[ディスカバリおよび変更のサマリ] ダイアログ・ボックス」
- ▶ 240 ページの「[関係を挿入] ダイアログ・ボックス」
- ▶ 244 ページの「[IT ユニバース マネージャ] ページ」
- ▶ 253 ページの「[新規 CI] / [新規関連 CI] ダイアログ・ボックス」
- ▶ 259 ページの「関連 CI マップ」
- ▶ 260 ページの「[影響分析を実行] ダイアログ・ボックス」
- ▶ 262 ページの「[スナップショットを保存する] ダイアログ・ボックス」
- ▶ 263 ページの「[影響を表示] 表示枠」

## [時間枠を変更] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、トポロジ・マップの変更を表示するとともに、表示する変更の時間枠を設定できます。

<p><b>利用方法</b></p>	<p>[マネージャ] &gt; [モデリング] &gt; [ITユニバース マネージャ] を選択します。メイン・ツールバーまたは [ITユニバース] ステータス・バーで、[変更時間枠の設定] ボタン  をクリックします。</p>
<p><b>重要情報</b></p>	<p>トポロジ・マップに変更インジケータが表示されている場合、[ITユニバース] ステータス・バーには <b>[変更時間枠はアクティブです]</b> というメッセージが表示されます。</p> <p>インジケータを非表示にするには、ダイアログ・ボックスを開き [変更を表示しない] を選択するか、[ITユニバース] ステータス・バーから <b>[変更時間枠のリセット]</b> ボタン  を選択します。</p>

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。



UI 要素 (A-Z)	説明
<p><b>選択した時間枠に応じた変更の表示</b></p>	<p>このオプションを選択すると、選択した期間中に追加または変更された各 CI の横に、次のインジケータを表示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶  追加された CI のインジケータ</li> <li>▶  変更された CI のインジケータ</li> </ul> <p>ドロップダウン・リストから期間を選択します。ビューの CI に対するこの期間中の変更がマップに表示されます。</p> <p>インジケータが表示されているときにそのインジケータをクリックすると、選択した期間中のその CI の履歴を表示する [CI 履歴] ダイアログ・ボックスが開きます。</p>
<p><b>変更を表示しない</b></p>	<p>このオプションを選択すると、変更インジケータを非表示にできます。</p>


## [CI/ 関係履歴] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスには、変更があった属性のリスト、および2つの構成ファイルの違いが表示されます。

<b>利用方法</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ ITユニバース・マネージャのCIの選択またはトポロジ・マップで、選択したCIまたは関係を右クリックし、<b>[CI履歴]</b>を選択します。</li> <li>▶ データ・フロー管理で、<b>[検出済み CIs]</b> ダイアログ・ボックスでCIを右クリックし、<b>[CI履歴]</b>を選択します。</li> </ul>
-------------	---

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素 (A-Z)	説明
	<b>[更新]</b> をクリックするとテーブル内のデータが更新されます。
	2つの設定ファイルの差異が表示されます。 <b>configfile</b> タイプのCIを2つ選択し、 <b>[相違を表示]</b> ボタンをクリックすると <b>Visualdiff</b> レポートが開きます。このレポートには、2つのファイルの比較が表示されます。2つ目のファイルに追加したテキストは、黄色で強調表示されます。1つ目のファイルから削除したテキストは、赤色で強調表示されます。ファイル間の違いは、緑色で強調表示されます。

UI 要素 (A-Z)	説明
	<p>テーブルのデータをエクスポートする形式を選択します。次のオプションを使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>Excel</b> : テーブルのデータは、スプレッドシートに表示できる .xls (Excel) ファイル形式に整形されます。</li> <li>▶ <b>PDF</b> : テーブルのデータは、PDF 形式でエクスポートされます。</li> <li>▶ <b>RTF</b> : テーブルのデータは、リッチ・テキスト形式でエクスポートされます。</li> <li>▶ <b>CSV</b> : テーブルのデータは、スプレッドシートに表示できるカンマ区切り (CSV) テキスト・ファイル形式に整形されます。  <b>注</b> : CSV 形式のテーブルのデータを正しく表示するには、カンマ (,) を区切り文字として定義する必要があります。Windows では、区切り文字の値を確認または変更するには、コントロール・パネルの [地域のオプション] を開いて、[数値] タブでカンマが区切り文字の値として定義されていることを確認します。Linux では、区切り文字は CSV ファイルを開くアプリケーションで指定できます。</li> <li>▶ <b>XML</b> : テーブルのデータは、テキスト・エディタまたは XML エディタで開くことができる XML ファイルとして整形されます。  <b>ヒント</b> : HTML コードをレポートから抽出するには、次の手順で行います。 <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ ファイルを HTML として保存します。</li> <li>▶ ファイルを HTML エディタで開きます。</li> <li>▶ 関連するテーブルをターゲット・ファイルにコピーします。</li> </ul> </li> </ul>
<b>属性</b>	属性の名前です。
<b>日付の変更</b>	最後に変更が行われた日付です。
<b>適用フィルタ</b>	<p>次のフィルタの 1 つまたは複数を使って、テーブル内のデータがフィルタ処理されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>[時間範囲でフィルタ]</b> : [CI 履歴] を表示する期間を選択します。</li> <li>▶ <b>[変更タイプ]</b> : テーブルに表示する変更のタイプを選択します。</li> <li>▶ <b>[属性]</b> : テーブルに表示する属性のタイプを選択します。</li> </ul>



UI 要素 (A-Z)	説明
更新者	変更理由が示されます。たとえば、このフィールドにはユーザまたは DFM ジョブの名前が含まれます。
新規値	属性の新しい値です。
旧値	属性の古い値です。






## [構成アイテムのプロパティ] ダイアログ・ボックス


このダイアログ・ボックスでは、既存の CI または関係の基本情報を表示、編集できます。

利用方法	<p>[マネージャ] &gt; [モデリング] &gt; [IT ユニバース マネージャ] の順に選択し、次のいずれかを実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ トポロジ・マップまたは CI の選択で CI を選択します。[詳細] 表示枠で、[プロパティ] タブを選択し [編集] をクリックします。</li> <li>▶ CI の選択またはトポロジ・マップで CI を右クリックし、[プロパティ] を選択します。</li> </ul>
------	---

<p><b>重要情報</b></p>	<p>[構成アイテムのプロパティ] ダイアログ・ボックスには、次の2種類のプロパティがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 一般プロパティ：CIまたは関係に関する一般情報が含まれています。これらのプロパティは、すべてのCITに共通しており、後述のようにドキュメント化されています。</li> <li>▶ CIT固有のプロパティ：特定のCIに固有のプロパティが含まれています。これらのプロパティは、CIまたは関係のタイプによって異なるため、ドキュメント化されていません。</li> </ul> <p>プロパティをカテゴリごとに並べ替える場合、CIT固有のプロパティはリストの上部に表示され、一般プロパティは下部に表示されます。</p> <p>選択したプロパティの説明は、ダイアログ・ボックスの下部にある説明領域に表示されます。説明領域を表示するには、<b>[説明表示の切り替え]</b> ボタンをクリックします。</p> <p>必須フィールドにはアスタリスクが示されています。</p>
<p><b>関連情報</b></p>	<p>『HP Universal CMDB 管理ガイド』の「CI ライフサイクルおよびエイジング・メカニズム」</p>

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素 (A-Z)	説明
	<p>クリックすると、プロパティがカテゴリごとに表示されます。</p>
	<p>クリックすると、プロパティがアルファベット順に表示されます。</p>
	<p>[CI プロパティ] ダイアログ・ボックスの下部にある説明領域の表示と非表示が切り替わります。</p>
	<p><b>[展開]</b> をクリックすると、プロパティをカテゴリごとに表示したときに、プロパティ・ツリーが展開されます。</p>
	<p><b>[折りたたみ]</b> をクリックすると、プロパティをカテゴリごとに表示したときに、プロパティ・ツリーが折りたたまれます。</p>

UI 要素 (A-Z)	説明
 エクスポート ▾	<p>テーブルのデータをエクスポートする形式を選択します。次のオプションを使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>Excel</b> : テーブルのデータは、スプレッドシートに表示できる .xls (Excel) ファイル形式に整形されます。</li> <li>▶ <b>PDF</b> : テーブルのデータは、PDF 形式でエクスポートされます。</li> <li>▶ <b>RTF</b> : テーブルのデータは、リッチ・テキスト形式でエクスポートされます。</li> <li>▶ <b>CSV</b> : テーブルのデータは、スプレッドシートに表示できるカンマ区切り (CSV) テキスト・ファイル形式に整形されます。  <b>注</b> : CSV 形式のテーブルのデータを正しく表示するには、カンマ (,) を区切り文字として定義する必要があります。  <b>Windows</b> では、区切り文字の値を確認または変更するには、コントロール・パネルの [地域オプション] を開いて、[数値] タブでカンマが区切り文字の値として定義されていることを確認します。  <b>Linux</b> では、区切り文字は CSV ファイルを開くアプリケーションで指定できます。</li> <li>▶ <b>XML</b> : テーブルのデータは、テキスト・エディタまたは XML エディタで開くことができる XML ファイルとして整形されます。  <b>ヒント</b> : HTML コードをレポートから抽出するには、次の手順で行います。 <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ ファイルを HTML として保存します。</li> <li>▶ ファイルを HTML エディタで開きます。</li> <li>▶ 関連するテーブルをターゲット・ファイルにコピーします。</li> </ul> </li> </ul>
<b>Actual Deletion Period</b>	CI または関係が削除されるまでの日数です。
<b>Allow CI Update</b>	<p>このオプションを選択すると、DFM プロセスが検出した情報を使用して、CI または関係のプロパティを自動的に更新できます。DFM プロセスによって提供されたプロパティの値を変更した場合、値は検出された値によって上書きされます。</p> <p>このオプションをオフにすると、CI または関係のプロパティは、DFM プロセスによって上書きされません。</p>
<b>適用</b>	[適用] をクリックすると、CI または関係のプロパティに加えた変更内容が保存されます。

UI 要素 (A-Z)	説明
<b>CI タイプ</b>	CI または関係のタイプ (読み取り専用の値)。HP Universal CMDB の CIT の詳細については、465 ページの「CI タイプ・マネージャ」を参照してください。
<b>Created By</b>	CI または関係を手動で作成した管理者のユーザ名です (該当する場合) (読み取り専用の値)。
<b>Create Time</b>	CI または関係が作成された日時です。
<b>Deletion Candidate Period</b>	エイジング・メカニズムが有効なときに CI が削除候補になってからの期間です。
<b>説明</b>	CI または関係の簡単な説明です。
<b>表示ラベル</b>	CI の選択に表示される CI または関係の名前です。
<b>編集</b>	[詳細] 表示枠の [プロパティ] タブでは CI のプロパティを表示できますが、編集することはできません。[編集] をクリックして [構成アイテムのプロパティ] ダイアログ・ボックスを開き、そこでプロパティを編集できます。
<b>Enable Aging</b>	<p>CI または関係が一定期間、更新またはリフレッシュされていない場合 (CI が DFM によって再検出されておらず、かつ手動更新が実施されていないときなど)、エイジング・メカニズムによって CI が CMDB から削除されます。詳細については、『HP Universal CMDB 管理ガイド』の「CI ライフサイクルおよびエイジング・メカニズム」を参照してください。</p> <p><b>True</b> : この CI または関係のエイジング・メカニズムは有効になっています。</p> <p><b>標準設定値</b> : <b>False</b>。DFM CI の標準設定値は <b>True</b> です。</p> <p><b>注</b> :</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ エイジング メカニズムが無効の場合、このフィールドは無視されます。</li> <li>▶ このフィールドは、特定の CI に対してのみ表示されます。</li> </ul>
<b>Global Id</b>	CMDB 内の CI または関係の内部 ID (読み取り専用の値) です。


UI 要素 (A-Z)	説明
Last Access Time	DFM による更新または検出時に、CI または関係が最後にアクセスされた時刻です。このフィールドは、特定の CI または関係に対してのみ表示されます。  このパラメータは、エイジング・メカニズムによって使用されます。詳細については、『HP Universal CMDB 管理ガイド』の「CI ライフサイクルおよびエイジング・メカニズム」を参照してください。
Last Modified Time	CI または関係のプロパティが最後に更新された日時です。
Name	CI または関係の名前です。
Note	CI または関係に関する、ほかの情報を入力できます。
Origin	CI または関係を自動的に作成したソース、あるいは CI または関係が作成されたアプリケーションの ID (読み取り専用の値) です。
リセット	[リセット] ボタンをクリックすると、CI または関係の元のプロパティ設定が復元されます。
Updated by	CI または関係のプロパティを更新した管理者のユーザ名です。
User Label	CI または関係の表示ラベルを定義できます。値が入力されていない場合、CI 名が標準設定ラベルとして表示されます。

### ショートカット・メニュー



メニュー項目	説明
プロパティ名をコピー	選択したプロパティの名前がメモリにコピーされます。
プロパティ値をコピー	選択したプロパティの値がメモリにコピーされます。

## [ディスカバリおよび変更のサマリ] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、CI およびジョブをビューで再検出することによって、アプリケーションなどに対する最近の変更を調べることができます。


<p><b>利用方法</b></p>	<p>IT ユニバース・マネージャで、次の手順を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ ビューの CI をすべて再検出するには、[CI の選択] ツールバーで <b>[ディスカバリおよび変更のサマリを表示]</b> ボタン  をクリックします。<b>ディスカバリおよび変更サマリ</b>ダイアログ・ボックスが表示されます。</li> <li>▶ 1 つまたは複数の CI をビューで再検出するには、CI を選択して、[詳細] 表示枠の <b>[ディスカバリ]</b> タブを表示します。</li> </ul> <p>CI を再検出するには、<b>[操作] &gt; [ディスカバリおよび変更のサマリを表示]</b> の順に選択することもできます。</p>
<p><b>重要情報</b></p>	<p>標準設定では、10,000 個より少ない CI を含むビューに対して再検出手順を実行できます。</p> <p><b>ビューで再検出できる CI の数を増やすには、次の手順を実行します。</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li><b>1</b> インフラストラクチャ設定マネージャにアクセスします ([管理] &gt; [インフラストラクチャ設定マネージャ])。</li> <li><b>2</b> インフラストラクチャ設定テーブルで、<b>[再検出をサポートするビュー内の最大 CI 数]</b> 設定を選択します。</li> <li><b>3</b> <b>[値]</b> カラムをクリックして数値を変更します。</li> <li><b>4</b> サーバを再起動して変更内容を反映させます。</li> </ol> <p>インフラストラクチャ設定マネージャの操作の詳細については、『HP Universal CMDB 管理ガイド』の「インフラストラクチャ設定」を参照してください。</p>
<p><b>関連タスク</b></p>	<p>217 ページの「アプリケーション・ディスカバリのステータス・チェック (ビューの再検出)」</p>
<p><b>関連情報</b></p>	<p>『HP Universal CMDB データ・フロー管理ガイド』の「[ディスカバリ ステータス] 表示枠」</p>

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。



UI 要素 (A-Z)	説明
	クリックすると、選択した CI のステータスが更新されます。 このボタンは、再ロードするデータがないときには無効になっています。
	クリックすると、ディスカバリが再実行されます。
<b>ビュー上のディスカバリ進行ステータス</b>	詳細については、『HP Universal CMDB データ・フロー管理ガイド』の「[ディスカバリ ステータス] 表示枠」を参照してください。
<b>ビューに関する変更履歴</b>	詳細については、231 ページの「[CI/ 関係履歴] ダイアログ・ボックス」を参照してください。

## [関係を挿入] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、CIの選択で選択したCIに、CIを関係付けることができます。

<b>利用方法</b>	ITユニバース・マネージャで、トポロジ・マップまたはCIの選択でCIを右クリックして、 <b>[CIに関連付け]</b> を選択します。
<b>重要情報</b>	<p>2つのCIの間に関係を作成するには、CIの選択またはトポロジ・マップでソースCIを選択し、ショートカット・メニューで<b>[CIに関連付け]</b>を選択します。ダイアログ・ボックスの最初のページ（<b>[CIの選択]</b> ページ）で、ターゲットCI（1つまたは複数）を選択します。次に、<b>[関係]</b>をクリックし、ダイアログ・ボックスの2ページ目で関係のタイプを選択します。</p> <p>また、ツールバーの<b>[関係を作成]</b> ボタンをクリックし、2つのCIの間に線を引くことによって、2つのCIの間に関係を視覚的に作成することもできます。この場合、<b>[関係を挿入]</b> ダイアログ・ボックスの小型版が開き、次のタブが表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>[関係の選択]</b>：利用可能な関係のタイプを含むツリーが表示されます。必要な関係を選択してください。</li> </ul> <p><b>注</b>：選択した関係をダブルクリックすると、標準設定のプロパティを使用して保存できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>[関係のプロパティ]</b>：選択した関係のプロパティが表示されます。242 ページの「<b>[関係のプロパティの定義]</b> 表示枠」に説明されている方法で、プロパティを編集できます。</li> </ul>
<b>関連タスク</b>	216 ページの「CMDB での CI と関係の作成」
<b>関連情報</b>	151 ページの「CI の選択」

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素 (A-Z)	説明
	クリックすると、左側の表示枠で選択したCIが <b>[ターゲットCI]</b> 表示枠に追加されます。
	クリックすると、選択したCIが <b>[ターゲットCI]</b> 表示枠から削除されます（CIはCMDBからは削除されません）。



UI 要素 (A-Z)	説明
ターゲット CI の選択	ビュー ツリーに表示するビューを選択し、[ターゲット CI] 表示枠に移動する CI を選択します。 [ターゲット CI の選択] 表示枠の詳細については、151 ページの「CI の選択」を参照してください。
ソース CI	ソース CI として選択した CI です。
ターゲット CI	選択した CI が関係のターゲット CI として表示されます。

### [関係] ページ

このページでは、元の CI と、ダイアログ・ボックスの [CI の選択] ページで選択した CI の間に作成する関係を定義できます。

利用方法	[関係を挿入] ダイアログ・ボックスで [関係] ボタンをクリックします。
重要情報	複数の関係を定義するときは、関係ごとに異なる説明とプロパティ値を定義できます。その場合は、ここではプロパティの定義は省略して、関係の作成後に各関係を個別に編集します。

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

### [関係の選択] 表示枠

UI 要素 (A-Z)	説明
方向	関係の方向を選択します。 一部の関係タイプ ( <b>Composition</b> , またはグループ CI とモニタ CI の間など) については、1 方向しか利用できません。
関係	元の CI と関係付け先の CI の間に作成する関係のタイプを定義します。リストからオプションを選択してください。

UI 要素 (A-Z)	説明
ソース CI	関係の 1 つ目の CI の名前が表示されます。これはビューで選択した CI です。
ターゲット CI	元の CI に関連付けられる、関係の 2 つ目の CI の名前が表示されます。

### [関係のプロパティの定義] 表示枠

UI 要素 (A-Z)	説明
Actual Deletion Period	エイジング・メカニズムが有効なときに、関係を削除するまでの期間です。
Allow CI Update	値が true に設定されていると、DFM プロセスによって関係が自動的に更新されます。
Created By	関係を手動で作成した管理者のユーザ名 (該当する場合) です。
Create Time	関係が作成された日時です。
Deletion Candidate Period	関係が削除候補になった後の日数です。
説明	関係の詳細な説明です。
Destination Network Address	ルートリンクに対してのみ定義します。このルートの設定先となる宛先のネットワーク・アドレスを示します。
Enable Aging	<p>CI または関係が一定期間、更新またはリフレッシュされていない場合 (CI が DFM によって再検出されておらず、かつ手動更新が実施されていないときなど)、エイジング・メカニズムによって CI が CMDB から削除されます。詳細については、『HP Universal CMDB 管理ガイド』の「CI ライフサイクルおよびエイジング・メカニズム」を参照してください。</p> <p><b>True :</b> この CI または関係のエイジング・メカニズムは有効になっています。</p> <p><b>標準設定値 :</b> False。DFM CI の標準設定値は True です。</p> <p><b>注 :</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ エイジング・メカニズムが無効の場合、このフィールドは無視されます。</li> <li>▶ このフィールドは、特定の CI に対してのみ表示されます。</li> </ul>

UI 要素 (A-Z)	説明
Last Access Time	<p>DFM による更新または検出時に、関係が最後にアクセスされた時刻です。このフィールドは、特定の CI に対してのみ表示されます。</p> <p>このパラメータは、エイジング・メカニズムによって使用されます。詳細については、『HP Universal CMDB 管理ガイド』の「CI ライフサイクルおよびエイジング・メカニズム」を参照してください。</p>
Last Modified Time	<p>関係のプロパティが最後に更新された日時です。</p>
Must	<p>値を <b>true</b> に設定すると、親 CI のステータスの計算にパーセンテージ・ルールを使用するとき子 CI が有力になります。CI のステータスが低い場合、親は子 CI のステータスを取り、必要な場合にはパーセンテージ・ルールの計算を上書きする必要があります。これは、重要な CI に重点を置くのに便利です。たとえば、データベースに障害が発生した場合に、サブツリー内のほかの CI のステータスに関係なく、データベース CI に <b>[Must]</b> を定義して、サブツリーの上位までステータスを <b>[致命的]</b> にする必要がある場合があります。</p> <p>関係に定義した <b>must</b> ステータスは、その関係にのみ適用され、子 CI のほかの関係では使用されません。</p>
Name	<p>関係の簡単な説明です。値を入力しなければ、名前の代わりに関係のタイプが使用されます。</p>
Note	<p>関係に関する、ほかの情報を入力できます。</p>
Origin	<p>関係を自動的に作成したソース、または関係が作成されたアプリケーションの ID です。</p>
Updated By	<p>CI のプロパティを更新した管理者のユーザ名です。</p>

UI 要素 (A-Z)	説明
User Label	関係の表示ラベルを定義できます。値が入力されていない場合、関係名が標準設定ラベルとして表示されます。
Weight	<p>重み付けの値を入力すると、親 CI のステータスの計算にパーセンテージ・ルールを使用するときに、パーセンテージの計算で子 CI に重みが付けられます。たとえば、子 CI に 3 の重みを付けると、重み付けのない兄弟と比べて、親のステータスの計算に 3 倍の影響があります。</p> <p>関係に対して定義した重み付けは、その関係にのみ適用され、子 CI が持っているほかの関係では使用されません。</p>

## [IT ユニバース マネージャ] ページ

このページでは、CI と関係をビューで定義、管理できます。

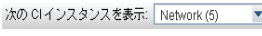
利用方法	[ナビゲーション] メニューから [IT ユニバース マネージャ] を選択するか、[マネージャ] > [モデリング] > [IT ユニバース マネージャ] を選択します。
重要情報	<p>[IT ユニバース マネージャ] ページには、次の表示枠があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>CI の選択</b>：選択したビューの CI が表示されます。ドロップダウン・リストからビューを選択するか、特定の CI を検索できます。詳細については、151 ページの「CI の選択」を参照してください。</li> <li>▶ <b>[トポロジ マップ]</b>：選択したビューの CI がマップ・モードまたはテキスト・モードで表示されます。</li> <li>▶ <b>[詳細] 表示枠</b>：選択した CI またはビューのプロパティ、履歴、およびディスカバリが表示されます。</li> </ul> <p>IT ユニバース・マネージャでは、新しい CI の作成、既存の CI の変更、または CI の削除を行えます。これらのアクションはすべて、IT ユニバースの全モデルに直接影響します。たとえば、ビューで CI を削除すると、その CI は IT ユニバース・モデルから削除され、いずれのビューにも表示されなくなります。</p>


## トポロジ・マップ



この領域には、現在選択しているビューの CI がグラフィック形式またはテーブル形式で表示されます。標準設定では、CI はグラフィック形式で表示されます。

<b>利用方法</b>	<p>[マネージャ] &gt; [モデリング] &gt; [ITユニバース マネージャ] を選択します。</p>
<b>重要情報</b>	<p>CI の選択またはトポロジ・マップで CI を選択すると、メニュー・メニューの [構成アイテム] ドロップダウン・リストがアクティブになります。このドロップダウン・リストで利用できるオプションは、CI を右クリックして利用できるオプションと同じです。</p> <p>[トポロジマップ] ショートカット・メニューをカスタマイズすると、ほかのコマンド (ping, プログラムの実行, URL の表示など) を CI タイプ・マネージャ内から追加できます。詳細については、486 ページの「[構成アイテム・タイプを作成 / 関係を作成 / 計算済み関係の作成]」を参照してください。</p> <p><b>注:</b> グループ化されている CI およびその関係については、ショートカット・メニューの全オプションがアクティブになるわけではありません。グループ化されている CI は、CI の選択およびトポロジ・マップで括弧内に表示されます。グループ化されている CI へのリンクをダブルクリックすると、リンク・マップを開いて個々の CI と関係を表示することができます。リンク・マップで CI または関係を右クリックすると、通常ショートカット・メニューを表示できます。グループ化されている CI の詳細については、344 ページの「[クエリ ノードのグループ化] ダイアログ・ボックス」を参照してください。</p>
<b>関連情報</b>	<p>163 ページの「トポロジ・マップの使用」</p>




ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

UI 要素（A-Z）	説明
	<p>テーブルに表示する CIT を指定します。テーブルには、選択した CIT の子も含まれます。</p> <p><b>注：</b>このオプションは、テキスト・モードでのみ表示されます。</p>
<p>&lt; 現在位置表示リスト &gt;</p>	<p>トポロジ・マップ上部にある現在位置表示リストは、選択したレイヤへのパスに対する、ビューの各レイヤ内の関連するクエリ・ノードを示します。パス内の最初の項目は<b>最上位レイヤ</b>です。また、下のレイヤから CI を選択するとき、親 CI が現在位置表示パス内の次の項目になります。パス内のいずれかの項目をクリックすると、トポロジ・マップ内のそのレイヤが表示されます。</p>
<p>&lt; CI タイプ属性 &gt;</p>	<p>テキスト・モードで表示されるカラムは、選択した CI の CIT 属性を表しています。</p>
<p>&lt; [IT ユニバース] ステータス・バー &gt;</p>	<p>トポロジ・マップ下のステータス・バーには、次のプロセスのステータスが表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 影響分析がアクティブかどうか</li> <li>▶ 変更時間枠がアクティブかどうか</li> <li>▶ 削除の候補が表示されているかどうか</li> <li>▶ データが最後に更新された時刻</li> </ul>

UI 要素 (A-Z)	説明
< 凡例 >	<p>CI の横に表示されるアイコンは、次の特別な状態を表します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>追加済み</b>：変更時間枠がアクティブなとき、CI が追加されたことを表します。</li> <li>▶ <b>影響済み</b>：影響分析がアクティブなとき、影響を受けた CI を示します。</li> <li>▶ <b>影響済みかつトリガ</b>：影響分析がアクティブなとき、影響を受けたトリガ CI を示します。</li> <li>▶ <b>削除の候補</b>：CI が削除の候補であることを表します。</li> <li>▶ <b>変更済み</b>：変更時間枠がアクティブなとき、CI が変更されたことを表します。</li> <li>▶ <b>メモ</b>：CI にメモが追加されたことを表します。</li> <li>▶ <b>トリガ</b>：影響分析がアクティブなとき、トリガ CI を示します。</li> </ul>
< メイン・メニュー >	<p>詳細については、185 ページの「メイン・メニュー」を参照してください。</p>
< クエリ・ノード >	<p>トポロジ・マップ内のクエリ・ノードは、CI を表します。ポインタをクエリ・ノードの上に置くと、CI のタイプを説明するツールチップが表示されます。</p>
< 関係 >	<p>トポロジ・マップ内のリンクは、関係を表します。ポインタを関係の上に置くと、関係のタイプを説明するツールチップが表示されます。</p> <p><b>注</b>：計算された関係を選択すると、ツールバーの [削除] ボタン  が無効になります。</p>
< ツールバー >	<p>詳細については、189 ページの「ツールバー・オプション」を参照してください。</p> <p><b>注</b>：ダイレクト・リンクを通じてトポロジ・マップにアクセスするときは、関連 CI マップからのオプションがツールバーに表示されます。詳細については、259 ページの「関連 CI マップ」を参照してください。</p>
< [トポロジマップ] サイドバー >	<p>詳細については、197 ページの「トポロジ・マップのサイドバー」を参照してください。</p>

UI 要素 (A-Z)	説明
<p><b>関連 CI を取得</b></p>	<p>クリックするとトポロジ・マップが再描画され、選択した CI に関連する CI が表示されます。このとき、[オプションの選択]の選択内容に応じてトポロジ・マップが再描画されます。</p> <p><b>注：</b>このオプションは、[ビュー内の関連項目] タブまたは [データベース内の関連項目] タブが選択されているときのみ有効な、[関連 CI を取得] ツールバーに表示されます。このツールバーを表示するには、[関連 CI を取得] ボタン  をクリックします。</p>
<p><b>マップ</b></p>	<p>[<b>マップ</b>] をクリックすると、CI の選択したレイヤがトポロジ・マップ形式で表示されます。</p> <p><b>注：</b>ビューで選択したレイヤが大きすぎてトポロジ・マップ形式で表示できない場合は、テキスト形式でレイヤを表示するためのリンクとともにメッセージが表示されます。</p>
<p><b>データベース内の関連項目</b></p>	<p>[<b>データベース内の関連項目</b>] タブをクリックすると、CMDB 全体に対して、選択した CI の相互依存関係が表示されます。</p>
<p><b>ビュー内の関連項目</b></p>	<p>[<b>ビュー内の関連項目</b>] タブをクリックすると、現在のビューに対して、選択した CI の相互依存関係が表示されます。</p>
<p><b>オプションの選択</b></p>	<p>次の各オプションで、必要な状態を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>フィルタ関連 CI :</b> このオプションを選択すると、[関連 CI を取得] は関連 CI を表示する前に [フィルタ関連 CI] ダイアログ・ボックスを開きます。選択されていない場合は、[関連 CI を取得] は自動的にすべての関連 CI を表示します。</li> <li>▶ <b>Clear before execution :</b> このオプションを選択すると、[関連 CI を取得] は関連 CI を表示する前に、トポロジ・マップの現在の内容をクリアします。選択されていない場合は、関連 CI を現在のトポロジ・マップに追加します。</li> </ul> <p><b>注：</b>このオプションは、[ビュー内の関連項目] タブまたは [データベース内の関連項目] タブが選択されているときのみ有効な、[関連 CI を取得] ツールバーに表示されます。このツールバーを表示するには、[関連 CI を取得] ボタン  をクリックします。</p>



UI 要素 (A-Z)	説明
<b>範囲の選択</b>	<p>トポロジ・マップの選択したモードを表示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶  ビュー内の関連項目モード。</li> <li>▶  データベース内の関連項目モード。</li> </ul> <p><b>注:</b> このオプションは、[ビュー内の関連項目] タブまたは [データベース内の関連項目] タブが選択されているときのみ有効な、[関連 CI を取得] ツールバーに表示されます。このツールバーを表示するには、[関連 CI を取得] ボタン  をクリックします。</p>
<b>テキスト</b>	<p>[<b>テキスト</b>] をクリックすると、選択したレイヤにある CI の属性プロパティがテーブル形式で表示されます。</p> <p>テキスト・モードのツールバー・アイコンの詳細については、73 ページの「要素インスタンス ダイアログ・ボックス」を参照してください。</p>
<b>結果の表示</b>	<p>[<b>結果の表示</b>] タブをクリックすると、ビュー内の全レイヤが表示されます。</p>

**ITユニバース・マネージャのショートカット・メニュー**

ITユニバース・マネージャのページには次の要素があり，[CIの選択]表示枠または[トポロジマップ]で，CIまたは関係を右クリックすると表示されます。

メニュー項目	説明
アクション	<p>次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>[ディスカバリ ジョブへの CI の追加]</b>：[ディスカバリ ジョブへの CI の追加] ダイアログ・ボックスが表示され，選択した CI の DFM ジョブを手動で呼び出すことができます。このオプションを使用すると，利用可能な DFM ジョブの 1 つを通じて，CI に関する追加の情報を検出できます。</li> <li>▶ <b>[ディスカバリジョブからの CI の削除]</b>：[ディスカバリ ジョブからの CI の削除] ダイアログ・ボックスが表示され，CI を DFM ジョブから手動で削除できます。</li> <li>▶ <b>[資格情報を開く]</b>：[プロトコル パラメータ] ダイアログ ボックスが表示され，選択した CI の資格情報を入力できます。このオプションは，資格情報を表示する必要のある CI に関係しています。詳細については、『HP Universal CMDB データ・フロー管理ガイド』の「ドメイン資格情報リファレンス」を参照してください。</li> <li>▶ <b>[ディスカバリ ステータスの表示]</b>：選択した CI の [ディスカバリ ステータス] ダイアログ・ボックスが開きます。</li> </ul>
CI 関係履歴	<p>[CI 履歴] ダイアログ・ボックスが表示されます。詳細については，231 ページの「[CI/ 関係履歴] ダイアログ・ボックス」を参照してください。</p>
CI 比較レポート	<p>選択した CI に対して CI 比較レポートを実行します。詳細については，387 ページの「CI 比較レポート」を参照してください。</p>
CMDB から削除	<p>選択した CI または関係をビューおよび CMDB から削除できます。</p> <p><b>注：</b>親 CI を削除すると，選択した CI およびその子はビューから削除されますが，データベースからは選択した CI のみが削除されます。</p>

メニュー項目	説明
関連 CI を取得	<p>次のオプションを利用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>[ビューから]</b>: ビュー マップの関連 CI が開きます。</li> <li>▶ <b>[フィルタなしデータベースから]</b>: フィルタ・マップなしでデータベースの関連 CI が開きます。</li> <li>▶ <b>[フィルタ付きデータベースから]</b>: 関連 CI の数をタイプごとに表示するダイアログ・ボックスが開きます。関連 CI マップに表示する CI タイプを選択し、<b>[OK]</b> をクリックします。</li> </ul>
ラベル	<p>次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>[ラベルを編集]</b>: [ラベルを編集] ダイアログ・ボックスが開き、CI の名前を編集できます。</li> <li>▶ <b>[標準設定ラベルに戻す]</b>: CI 名が CMDB の標準設定値にリセットされます。</li> </ul>
メモ	<p>次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>[メモを追加]</b>: 編集ボックスが開き、メモを CI に追加できます。</li> <li>▶ <b>[メモを削除]</b>: 選択した CI のメモに保存されているテキストがすべて削除されます。</li> </ul>
プロパティ	<p>選択した CI または関係の [プロパティ] ページが表示されます。詳細については、233 ページの「[構成アイテムのプロパティ] ダイアログ・ボックス」を参照してください。</p>
CI に関連付け	<p>[関係を挿入] ダイアログ・ボックスが開きます。詳細については、240 ページの「[関係を挿入] ダイアログ・ボックス」を参照してください。</p>
影響分析を実行	<p>影響分析マネージャで定義した影響ルールを実行できます。[影響分析を実行] ダイアログ・ボックスが表示されます。詳細については、439 ページの「影響分析マネージャ」を参照してください。</p> <p><b>注</b>: 影響分析結果を表示できるのは、影響分析マネージャで該当するビューに影響ルールを定義した場合のみです。</p>
複合パスを表示	<p>複合関係に対してのみ表示されます。選択した関係のリンクマップが表示され、複合関係に含まれる CI が表示されます。</p>

メニュー項目	説明
<p><b>影響を表示</b></p>	<p>影響ルールで根本原因 CI として定義された CI を選択し、その影響を受けたすべての CI とそのステータスを別のウィンドウに表示できます。</p> <p>このオプションが表示されるのは、以下の場合だけです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 影響分析マネージャで選択したビューの影響ルールを定義した後（詳細については、439 ページの「影響分析マネージャ」を参照してください）。</li> <li>▶ [影響分析を実行] ダイアログ・ボックスで [ビューで表示] をクリックした後。</li> <li>▶ 影響分析結果がトポロジ・マップに表示された後。</li> </ul> <p>たとえば (IP Address CI に対して) 影響ルールが定義され、その IP Address にリンクされたノード、ポート、およびクライアント・サーバ・システムがそのルールから影響を受けるように指定されたとします。</p> <p>この場合は、[影響を表示] オプションを使用すると、IP Address CI の影響を受けるすべての CI を表示できます。</p>
<p><b>根本原因を表示</b></p>	<p>このオプションを使用すると、一連の影響ルールから影響を受ける CI に関する根本原因情報を取得できます。[根本原因を表示] の出力には、CI に影響を与える一連のトリガ CIT または影響を受ける CIT を示す論理マップが表示されます。</p> <p>根本原因 CI は、別のウィンドウに表示されます。この CI に影響ルールが 1 つだけ定義されている場合は、[影響分析] ウィンドウが直接表示されます。</p> <p>このオプションが表示されるのは、以下の場合だけです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 影響分析マネージャで選択したビューの影響ルールを定義した後（詳細については、439 ページの「影響分析マネージャ」を参照してください）。</li> <li>▶ [影響分析を実行] ダイアログ・ボックスで [ビューで表示] をクリックした後。</li> <li>▶ 影響分析結果がトポロジ・マップに表示された後。</li> </ul> <p>表示されるウィンドウには、根本原因 CI と影響ルール・チェーン内のほかのすべての CIT が含まれます。</p> <p>影響ルールによってトリガまたは影響を受ける、特定の CI に関する情報を表示するには、CI に接続している関係をダブルクリックします。マップが表示されます。</p>



## 詳細表示枠

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素 (A-Z)	説明
<b>[ディスカバリ] タブ</b>	選択した CI の DFM 実行ステータスが表示されます。詳細については、『HP Universal CMDB データ・フロー管理ガイド』の 238 ページの「[ディスカバリおよび変更のサマリ] ダイアログ・ボックス」および「[ディスカバリ ステータス] 表示枠」を参照してください。
<b>[履歴] タブ</b>	選択した CI の履歴が表示されます。詳細については、231 ページの「[CI/ 関係履歴] ダイアログ・ボックス」を参照してください。
<b>[プロパティ] タブ</b>	選択した CI のプロパティ（[構成アイテムのプロパティ] ダイアログ・ボックスに表示されるのと同じプロパティ）を表示します。プロパティは [プロパティ] タブで表示できますが、プロパティを編集するにはこのダイアログ・ボックスを開く必要があります。詳細については、233 ページの「[構成アイテムのプロパティ] ダイアログ・ボックス」を参照してください。

## [新規 CI] / [新規関連 CI] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、新しい CI または新しい関連 CI を定義できます。

<b>利用方法</b>	IT ユニバース・マネージャで、ツールバーの <b>[新規 CI]</b> アイコン  をクリックして非関連 CI を作成します。トポロジ・マップで CI を選択し、 <b>[新規関連 CI]</b> アイコン  をクリックして関連 CI を作成します。
<b>重要情報</b>	<p>新しい CI を定義するには、ダイアログ・ボックスの上部のツリーで CI タイプを選択します。インスタンスを作成できるツリーの CI タイプは、黒色に表示されます。淡い色のテキストで表示されている CI タイプは、インスタンスを作成できません。</p> <p>[新規 CI プロパティの定義] 領域でプロパティを編集します。下のテーブルには、すべての CI に共通するプロパティが表示されます。また、各 CI に固有のプロパティもあります。</p> <p>関連 CI を作成する場合は、<b>[関係]</b> ボタンをクリックしてダイアログ・ボックスの関係モードに移動します。関係を選択してプロパティを編集します。</p>

<b>関連タスク</b>	216 ページの「CMDB での CI と関係の作成」
<b>関連情報</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 151 ページの「CI の選択」</li> <li>▶ 『HP Universal CMDB 管理ガイド』の「CI ライフサイクルおよびエイジング・メカニズム」</li> </ul>

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素 (A-Z)	説明
<b>Actual Deletion Period</b>	エイジング・メカニズムが有効なときに、CI を削除してからの期間です。
<b>Allow CI Update</b>	<p>値が <b>true</b> に設定されている場合、このオプションは、DFM プロセスが検出した情報を使用して CI プロパティを自動的に更新できます。DFM プロセスによって提供されたプロパティの値を変更した場合、値は検出された値によって上書きされます。</p> <p>値が <b>false</b> に設定されていると、CI プロパティは DFM プロセスによって上書きされません。</p>
<b>Created By</b>	手動で CI を作成した管理者のユーザ名（該当する場合）です。
<b>Create Time</b>	CI が作成された日時です。
<b>Deletion Candidate Period</b>	エイジング・メカニズムが有効なときに CI が削除候補になってからの期間です。
<b>Description</b>	CI の説明です。
<b>Display Label</b>	トポロジ・マップに表示される CI のラベルです。

UI 要素 (A-Z)	説明
Enable Aging	<p>CI または関係が一定期間、更新またはリフレッシュされていない場合 (CI が DFM によって再検出されておらず、かつ手動更新が実施されていないときなど)、エイジング・メカニズムによって CI が CMDB から削除されます。詳細については、『HP Universal CMDB 管理ガイド』の「CI ライフサイクルおよびエイジング・メカニズム」を参照してください。</p> <p><b>True</b> : この CI または関係のエイジング・メカニズムは有効になっています。</p> <p><b>標準設定値</b> : <b>False</b>。DFM CI の標準設定値は <b>True</b> です。</p> <p><b>注</b> :</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ エイジング メカニズムが無効の場合、このフィールドは無視されます。</li> <li>▶ このフィールドは、特定の CI に対してのみ表示されます。</li> </ul>
Last Access Time	<p>DFM による更新または検出時に、CI が最後にアクセスされた時刻です。このフィールドは、特定の CI に対してのみ表示されます。</p> <p>このパラメータは、エイジング・メカニズムによって使用されます。詳細については、『HP Universal CMDB 管理ガイド』の「CI ライフサイクルおよびエイジング・メカニズム」を参照してください。</p>
Last Modified Time	CI のプロパティが最後に更新された日時です。
Name	CI の名前です。
Note	CI に関する、ほかの情報を入力できます。
Origin	CI を自動的に作成したソース、または CI が作成されたアプリケーションの ID です。
関係	関連 CI については、[関係] をクリックしてダイアログ ボックスの関係モードに移動します。
CI タイプの選択	<p>新しい CI の CI タイプをツリーから選択できます。選択した CI またはビューに利用できる CI タイプが、CI タイプ・ツリーでアクティブになります。ほかの CI タイプは、淡い色のテキストで表示されて選択できません。</p> <p>CI タイプ・ツリーを現在のビューからの CI タイプに制限するには、右側の [現在のビューからの CI タイプ] を選択します。すべての CI タイプをツリーに表示するには、[すべての CI タイプ] を選択します。</p>

UI 要素 (A-Z)	説明
Updated By	CIのプロパティを更新した管理者のユーザ名です。
User Label	CIの表示ラベルを定義できます。値が入力されていない場合、CI名が標準設定ラベルとして表示されます。

### [関係] ダイアログ・ボックス

このページでは、新しいCIとビューで選択したCI間の関係、および関係のプロパティを定義できます。

利用方法	[新規関連CI] ダイアログ・ボックスで [関係] ボタンをクリックします。
重要情報	このページは、新しい関連CIでのみ表示されます。

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素 (A-Z)	説明
Allow CI Update	値が true に設定されていると、DFM プロセスによって関係が自動的に更新されます。
CI の定義	[CI 定義] をクリックすると、ダイアログ・ボックスの CI プロパティ・モードに戻ります。
Created By	関係を手動で作成した管理者のユーザ名 (該当する場合) です。
Create Time	関係が作成された日時です。
Description	関係の説明です。
方向	ドロップダウン・リストで関係の方向を選択します。



UI 要素 (A-Z)	説明
<b>Enable Aging</b>	<p>CI または関係が一定期間、更新またはリフレッシュされていない場合 (CI が DFM によって再検出されておらず、かつ手動更新が実施されていないときなど)、エイジング・メカニズムによって CI が CMDB から削除されます。詳細については、『HP Universal CMDB 管理ガイド』の「CI ライフサイクルおよびエイジング・メカニズム」を参照してください。</p> <p><b>True</b> : この CI または関係のエイジング・メカニズムは有効になっています。</p> <p><b>標準設定値</b> : <b>False</b>。DFM CI の標準設定値は <b>True</b> です。</p> <p><b>注</b> :</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ エイジング メカニズムが無効の場合、このフィールドは無視されます。</li> <li>▶ このフィールドは、特定の CI に対してのみ表示されます。</li> </ul>
<b>Last Access Time</b>	<p>DFM による更新または検出時に、関係が最後にアクセスされた時刻です。このフィールドは、特定の関係に対してのみ表示されます。</p> <p>このパラメータは、エイジング・メカニズムによって使用されます。詳細については、『HP Universal CMDB 管理ガイド』の「CI ライフサイクルおよびエイジング・メカニズム」を参照してください。</p>
<b>Must</b>	<p>値を <b>true</b> に設定すると、親 CI のステータスの計算にパーセンテージ・ルールを使用するとき子 CI が有力になります。CI のステータスが低い場合、親は子 CI のステータスを取り、必要な場合にはパーセンテージ・ルールの計算を上書きする必要があります。これは、重要な CI に重点を置くのに便利です。たとえば、データベースに障害が発生した場合に、サブツリー内のほかの CI のステータスに関係なく、データベース CI に <b>[Must]</b> を定義して、サブツリーの上位までステータスを致命的にする必要がある場合があります。</p> <p>関係に定義した <b>Must</b> ステータスは、その関係にのみ適用され、子 CI のほかの関係では使用されません。</p>
<b>Name</b>	CI の名前です。
<b>Network Address</b>	ルートリンクに対してのみ定義します。このルートの設定先となる宛先のネットワーク・アドレスを示します。
<b>Note</b>	CI に関する、ほかの情報を入力できます。

UI 要素 (A-Z)	説明
<b>Origin</b>	関係を自動的に作成したソース, または関係が作成されたアプリケーションの ID です。
<b>関係</b>	2 つの CI の間に作成する関係のタイプを定義できます。
<b>ソース CI</b>	関係の 1 つ目の CI の名前です。これはビューで選択した CI です。
<b>ターゲット CI</b>	関係の 2 つ目の CI の名前です。これは作成中の新しい CI です。
<b>Updated By</b>	関係のプロパティを更新した管理者のユーザ名です。
<b>Update Time</b>	CI のプロパティが最後に更新された日時です。
<b>User Label</b>	関係の表示ラベルを定義できます。
<b>Weight</b>	<p>重み付けの値を入力すると, 親 CI のステータスの計算にパーセンテージ・ルールを使用するときに, パーセンテージの計算で子 CI に重みが付けられます。たとえば, 子 CI に 3 の重みを付けると, 重み付けのない兄弟と比べて, 親のステータスの計算に 3 倍の影響があります。</p> <p>関係に定義した重み付けは, その関係にのみ適用され, 子 CI のほかの関係では使用されません。</p>


## 関連 CI マップ

このダイアログ・ボックスでは、ビューまたは CMDB で指定した CI に関連する CI を、マップ形式またはテーブル形式で表示できます。

<p><b>利用方法</b></p>	<p>IT ユニバース・マネージャで、必要な CI を右クリックして <b>[関連 CI を取得]</b> &gt; <b>[ビューから]</b> または <b>[フィルタ付きデータベースから]</b> または <b>[フィルタなしデータベースから]</b> を選択します。</p>
<p><b>重要情報</b></p>	<p><b>[ビューから]</b> を選択すると、関連 CI マップにより現在のビューの関連 CI が表示されます。<b>[フィルタなしでデータベースから]</b> を選択すると、関連 CI マップに CMDB の関連 CI が表示されます。<b>[フィルタありでデータベースから]</b> を選択する場合、マップに表示する CI タイプを最初に選択します。すると、CMDB 内の選択したタイプの関連 CI が表示されます。</p> <p>関連 CI マップのツールバー、サイドバー、凡例、ショートカット・メニューの詳細については、244 ページの「[IT ユニバース マネージャ] ページ」を参照してください。</p> <p>関連 CI は、マップ・モードまたはテキスト・モードに表示できます。マップのテキスト・モード形式には、[要素インスタンス] ダイアログ・ボックスで使われているアイコンが使われず、詳細については、73 ページの「要素インスタンスダイアログ・ボックス」を参照してください。</p>

## [影響分析を実行] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、影響分析マネージャで該当のビューに定義した影響ルールを実行できます。

<p><b>利用方法</b></p>	<p>[マネージャ] &gt; [モデリング] &gt; [ITユニバース マネージャ] を選択します。トポロジ・マップでトリガ・クエリ・ノードを右クリックして [影響分析を実行] を選択するか、[ITユニバース] ステータス・バーで [直ちに影響分析を実行] ボタン  をクリックします。</p>
<p><b>重要情報</b></p>	<p>次のことが行えます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ トリガ CI の影響を受けるすべての CI を新しいウィンドウに表示できます。マップ内の関係は、影響ルールを表します。関係の名前は、影響分析マネージャで定義された影響ルールの名前です。詳細については、262 ページの「マップを表示」を参照してください。</li> <li>▶ 影響を受ける CI のステータスがどのように影響を受けるかをシミュレートできます。詳細については、261 ページの「ビューで表示」を参照してください。</li> <li>▶ シミュレートされた変化の結果として影響を受けるシステム内の CI のリストを表示するレポートを生成できます。詳細については、261 ページの「レポートを生成」を参照してください。</li> </ul> <p><b>注:</b> このダイアログ・ボックスは、該当のビューに影響ルールが定義されている場合にのみ表示されます。詳細については、439 ページの「影響分析マネージャ」を参照してください。</p>
<p><b>関連タスク</b></p>	<p>220 ページの「影響分析結果シナリオの取得」</p>

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。


UI 要素 (A-Z)	説明
<p><b>すべての影響ルール</b></p>	<p>選択すると、影響分析のすべての影響ルールを実行します。</p>
<p><b>影響ルールのバンドル</b></p>	<p>影響分析に必要な影響ルールを含むバンドルを選択します。</p>

UI 要素 (A-Z)	説明
レポートを生成	<p>影響分析レポートを生成します。このレポートに表示される情報は、次のように分かれています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>CIT 別のグループ化</b>：影響を受けるすべての CI（シミュレートされた変化の結果として影響を受けるシステム内の CI）。CIT で並べ替えられます。</li> <li>▶ <b>影響を受けるアプリケーション</b>：影響を受けるすべての CI のうち、特定のビジネス サービスに属するもの。</li> <li>▶ <b>トリガ CI</b>：システムに加える変化を表す CI。</li> </ul> <p>影響分析レポートの詳細については、411 ページの「影響分析レポート」を参照してください。</p>
特定のバンドル内の影響ルールのみ	<p>影響分析の指定されたバンドルから影響ルールを実行する場合に選択します。</p>
ビューで表示	<p>選択した状態に関して、影響を受ける CI のステータスがどのように影響を受けるかをシミュレートできます。トポロジ・マップには、トリガ CI のステータスに加えて、その影響を受ける CI の全ステータスが表示されます。</p> <p>トポロジ・マップには、次の影響分析インジケータも表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ トリガ CI は、この <input type="checkbox"/> インジケータでマークされます。</li> <li>▶ 影響を受け、トリガにもなる CI は、この <input type="checkbox"/> インジケータでマークされます。</li> <li>▶ 影響を受ける CI は、この <input type="checkbox"/> インジケータでマークされます。</li> </ul> <p><b>注</b>：ここに表示されるステータスと各ステータスを表す色は、システム・タイプ・マネージャでその状態の重大度リストに定義されたものです。詳細については、502 ページの「[リスト / 列挙定義の作成 / 更新] ダイアログ・ボックス」を参照してください。</p>

UI 要素 (A-Z)	説明
<p><b>マップを表示</b></p>	<p>影響ルールを選択して、選択した状態に関してトリガ CI の影響を受けるすべての CI のシミュレーションを、新しいウィンドウに表示できます。この CI に影響ルールが 1 つだけ定義されている場合は、[影響ルール] ウィンドウが直接表示されます。詳細については、263 ページの「[影響を表示] 表示枠」を参照してください。</p> <p>マップ内の関係は、影響ルールを表します。また関係の名前は、影響分析マネージャで定義された影響ルールの名前です。</p> <p><b>注：</b> [マップを表示] では、複数のトリガの結果を表示できます。</p>
<p><b>トリガの重大度</b></p>	<p>スケールから必要な重大度を選択します。</p> <p><b>注：</b> 状態の重大度スケールは、システム・タイプ・マネージャで定義されます。詳細については、468 ページの「システム・タイプ・マネージャ」を参照してください。</p> <p>たとえば影響分析マネージャでは、トリガ・クエリ・ノードの重大度を [Warning (1)] 以外に定義する影響ルールを作成できます。この場合、[Warning (1)] 以外の重大度（たとえば [Minor (3)]）を選択すると、条件が一致し、シミュレートされたシステム内の変化がトリガされます。</p> <p>詳細については、457 ページの「[影響ルール定義] ダイアログ・ボックス」を参照してください。</p>

## [スナップショットを保存する] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、ビューのスナップショットを取り、保存できます。

<p><b>利用方法</b></p>	<p>IT ユニバース・マネージャで、CI の選択から [スナップショット] ボタン  をクリックし、[スナップショットを保存する] を選択します。</p>
<p><b>重要情報</b></p>	<p>スナップショット比較レポートを使うと、異なる時間に取りられた同じビューのスナップショットどうしを比較できます。詳細については、393 ページの「スナップショット比較レポート」を参照してください。</p>
<p><b>関連タスク</b></p>	<p>228 ページの「ビューのスナップショットの取得」</p>

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素 (A-Z)	説明
詳細	スナップショットの説明です (任意指定)。
注	スナップショットに関するメモです (任意指定)。
ビュー名	CI の選択に表示されるビューの名前です。このフィールドは編集できません。

## [影響を表示] 表示枠

このページでは、トリガ CI のステータスと、その影響を受ける CI のすべてのステータスを表示するウィンドウが開きます。

利用方法	<p>[影響分析を実行] ダイアログ・ボックスで <b>[マップを表示]</b> をクリックします。</p> <p>影響分析がすでにアクティブになっている場合は、[IT ユニバース] ステータス・バーから <b>[影響分析はアクティブです]</b> リンクをクリックします。</p>
重要情報	<p>次のタブを利用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>影響の結果</b>：選択した CI に影響を受けるすべての CI のマップを表示します。</li> <li>▶ <b>トリガ CI</b>：選択したトリガ CI の情報をテーブルで表示します。</li> </ul> <p>影響分析結果を表示できるのは、影響分析マネージャで該当するビューに影響ルールを定義した場合のみです。詳細については、439 ページの「影響分析マネージャ」を参照してください。</p> <p>影響ルールによってトリガまたは影響を受ける、特定の CI に関する情報を表示するには、CI に接続している関係をダブルクリックします。マップが表示されます。</p> <p>マップ内の関係は、影響ルールを表します。関係の名前は、影響分析マネージャで定義された影響ルールの名前です。</p>
関連タスク	220 ページの「影響分析結果シナリオの取得」

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

UI 要素 (A-Z)	説明
< 凡例 >	<p>CI の横に表示されるアイコンは、次の特別な状態を表します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>追加済み</b>：変更時間枠がアクティブなとき、CI が追加されたことを表します。</li> <li>▶ <b>影響済み</b>：影響分析がアクティブなとき、影響を受けた CI を示します。</li> <li>▶ <b>影響済みかつトリガ</b>：影響分析がアクティブなとき、影響を受けたトリガ CI を示します。</li> <li>▶ <b>削除の候補</b>：CI が削除の候補であることを表します。</li> <li>▶ <b>変更済み</b>：変更時間枠がアクティブなとき、CI が変更されたことを表します。</li> <li>▶ <b>メモ</b>：CI にメモが追加されたことを表します。</li> <li>▶ <b>トリガ</b>：影響分析がアクティブなとき、トリガ CI を示します。</li> </ul>
< 関係 >	<p>これらの関係は、影響分析マネージャで定義した影響ルールを表します。詳細については、457 ページの「[影響ルール定義] ダイアログ・ボックス」を参照してください。</p>
< ステータスと各ステータスを表す色 >	<p>表示されるステータスと各ステータスを表す色は、システム・タイプ・マネージャでその状態の重要度リストに定義されたものです。詳細については、502 ページの「[リスト / 列挙定義の作成 / 更新] ダイアログ・ボックス」を参照してください。</p>
< ツールバー >	<p>[影響を表示] 表示枠のツールバーには、[IT ユニバース マネージャ] ツールバーのボタンのほとんどがあります。</p>
< [トポロジマップ] サイドバー >	<p>詳細については、197 ページの「トポロジ・マップのサイドバー」を参照してください。</p>



# 8

---

## モデリング・スタジオ

本章の内容

### 概念

- ▶ 267 ページの「モデリング・スタジオの概要」
- ▶ 268 ページの「ビュー形式」
- ▶ 269 ページの「ビジネス・ビューの構築」
- ▶ 272 ページの「テンプレートとパースペクティブ」
- ▶ 273 ページの「定義済みのフォルダとビュー」
- ▶ 274 ページの「ビジネス CI モデル」
- ▶ 276 ページの「パースペクティブ・ベース・ビューの作成」
- ▶ 280 ページの「公開 CI と監視」

### タスク

- ▶ 285 ページの「パターン・ビューの作成」
- ▶ 286 ページの「テンプレートの作成」
- ▶ 288 ページの「パースペクティブの作成」
- ▶ 291 ページの「テンプレート ベース ビューの作成」
- ▶ 293 ページの「レポート設定の定義」
- ▶ 294 ページの「ビジネス CI モデルの作成」
- ▶ 296 ページの「パターン・ベース・モデルの作成」
- ▶ 297 ページの「モデルに基づいたパースペクティブ・ベース・ビューの作成」

## 第8章・モデリング・スタジオ

- ▶ 298 ページの「CI のコレクションに基づいたパースペクティブ・ベース・ビューの作成」

### 参照先

- ▶ 300 ページの「モデリング・スタジオのユーザ・インタフェース」

---

---

## 概念

---

---

### モデリング・スタジオの概要

モデリング・スタジオは、ビューを作成、管理するためのツールです。独自のビューを作成することも、HP Universal CMDB に付属する用意済みのビュー（ファクトリ・ビュー）を利用することもできます。

構成管理データベース内の IT ユニバース・モデル（IT ユニバース・モデル）は、何千もの configuration item（構成アイテム）（CI）（構成アイテム）（CI）を保持する大規模なモデルになることがあります。ビューでは、IT ユニバース・モデル全体のサブセットを構築して、特定の対象領域に関連する CI だけを保持できます。独自のビューを定義することにより、組織のビジネス・ニーズに関連する情報だけを表示できます。

HP Universal CMDB では、パターン・ビュー、テンプレート・ベース・ビュー、およびパースペクティブ・ベース・ビューの 3 つのビュー形式がサポートされます。これらのビューは、異なるプロセスを介してポピュレートされます。詳細については、268 ページの「ビュー形式」を参照してください。

## ビュー形式

HP Universal CMDB では、ビューを設定するための形式として次の 3 つのビュー形式がサポートされます。

- ▶ **パターン・ビュー**は、ビューの構造を定義する TQL (Topology Query Language) クエリから構築されます。ビューを構築するときに新しい TQL クエリを作成することも、既存のクエリに基づいてビューを構築することもできます。ビューには、クエリ定義に適合する CI と関係だけが表示されます。ビューを表示または更新すると、モデリング・スタジオはクエリに適合するすべての要素を CMDB から検索し、それらの要素でビューを自動的に更新します。
- ▶ **テンプレート・ベース・ビュー**は、TQL クエリに基づいて作成され、さらにテンプレートが適用されます。テンプレートは、パラメータを含む再利用可能なビューです。これらの設定は、テンプレートの一部として保存されます。これにより、パラメータ情報を入力し直すことなく、同じ設定を持つビューを複数構築できます。ビューには、クエリ定義とテンプレートの条件に適合する CI と関係だけが表示されます。テンプレートの詳細については、272 ページの「テンプレートとパースペクティブ」を参照してください。
- ▶ **パースペクティブ・ベース・ビュー**は、個々の CI のコレクションを選択し、それにパースペクティブと呼ばれる特殊なテンプレートを適用することによって構築されます。インスタンス・ビューは廃止され、パースペクティブ・ベース ビューに置き換えられました。パースペクティブの詳細については、272 ページの「テンプレートとパースペクティブ」を参照してください。

左表示枠のビュー・ツリーから編集するビューを選択すると、ビューが対応するエディタの編集表示枠で開きます。

## ビジネス・ビューの構築

モデリング・スタジオでは、独自のビューを定義して、ビジネス環境をモデル化できます。

本項の内容

- ▶ 269 ページの「ビューの構造」
- ▶ 270 ページの「ビュー階層の設定」
- ▶ 271 ページの「トポロジ・レポート」

### ビューの構造

作成したビューは、ビジネス・ユーザに自社の構造、プロセス、および目標の論理的な表現を提供します。これらの要件を満たすには、通常、ビジネスのさまざまな側面を表現する複数のビューを構築します。たとえば、次の側面を中心とするビジネス・ビューを構築できます。

- ▶ **企業の構造**：支店の地理的な位置やデータ・センターなどを基準にしてデータが分類されます。
- ▶ **ビジネス プロセス**：ビジネス ラインやアプリケーションを基準にしてデータが分類されます。
- ▶ **ビジネスの目標**：売り上げや主要カスタマを基準にしてデータが分類されます。

ビューは組織の個々の要求によって異なり、ビューの実際の階層構造にはそれらの要求が反映されます。

ビューの通常の間層形式は次のとおりです。

- ▶ **最上位レベル**：ビューの最上位レベルは、ルート CI とその下の分岐で構成され、通常は**場所**、**ビジネス ライン**、**カスタマ**、**アプリケーション**などの論理的な**ビジネス CI** タイプから構築されます。
- ▶ **中間レベル**：ビューの中間の分岐は、通常、実際のハードウェアやソフトウェアを表す**システム CI** タイプ、またはモニタを含むグループを表す**モニタ・グループ CI** タイプ、あるいはその両方で構成されます。

- ▶ **最下位レベル**：ビューの最下位レベルは、サブツリーの末端にあるリーフ CI で構成され、**モニタ CI** タイプから構築されます。

---

**注**：最下位レベルは、HP Business Service Management などの監視ソリューションが CMDB に接続され、モデル化されている場合にのみ関連します。

---

## ビュー階層の設定

パターン・ビュー・エディタでは、画面右側の [階層] 表示枠を使用してビュー階層を設定できます。階層を設定するには、**手動**と**ルール・ベース**の 2 つの方法を使用できます。標準設定では、手動メソッドが選択されています。

### 手動の階層メソッド

手動の階層メソッドでは、ビューのクエリ・ノードはツリー形式で表示されます。階層を作成するには、選択したクエリ・ノードを手動で別のクエリ・ノードの下にドラッグするか、ツールバー・ボタンを使用します。クエリ・ノードを別のクエリ・ノードの下に移動できるのは、作成後の階層が有効な場合のみです。詳細については、334 ページの「[階層] 表示枠」を参照してください。

ビューから階層に 1 つのクエリ・ノードを複数回配置することができます。配置したら、必要なレイアウトに応じて、クエリ・ノードが異なるレイヤに表示されるように階層を調整できます。作成されたビューは、別のクエリ・ノードを TQL クエリに追加した場合と同じになります。階層で同じクエリ・ノードを 2 回使用すると、より簡単な TQL クエリを使用して必要なビューを作成できます。

## クエリ ノードのグループ化



ビュー階層を手動で設定する場合、表示が見やすくなるようにサブグループを作成して異なる基準で CI をグループ化できます。[次の項目別にグループを追加] ボタンをクリックして、いずれかのオプションを選択します。トポロジ・マップ内に同じタイプの CI のサブグループを作成するには、[タイプ別グループを追加] オプションを使用します。特定のクエリ・ノードのサブグループを作成するには、[クエリ ノード別グループを追加] オプションを選択します。共通の属性で CI をグループ化するには、[属性別グループを追加] ボタンを使用し、344 ページの「[クエリ ノードのグループ化] ダイアログ・ボックス」で説明されている方法で正規表現を入力します。正規表現の詳細については、561 ページの「正規表現の例」を参照してください。

ネストされたグループ（内部に別のクエリ・ノード・グループを含むクエリ・ノード・グループ）を作成することにより、トポロジ・マップに表示される TQL クエリの結果を微調整することもできます。

たとえば、ノード・タイプのクエリ・ノードを CIT でグループ化した後、**operation state** 属性を使用してより焦点を絞ったグループを作成できます。

## ルール・ベースの階層メソッド

ルール・ベースの階層メソッドでは、[階層ルール] ダイアログ・ボックスを使用して階層ルールを定義します。ソース CIT、ターゲット CIT、関係タイプ、関係の方向を選択して、階層ルールの条件を定義します。定義した条件を満たす CI がビュー内にあった場合、その CI はルールの対象となります。つまり、ターゲット CI がソース CI の配下のレイヤに配置されます。階層ルールの定義の詳細については、310 ページの「[階層ルール] ダイアログ・ボックス」を参照してください。

## トポロジ・レポート

レポート・モジュールでは、ビューのデータをレポート形式で表示できます。このようなレポートは、ビューの**トポロジ・レポート**と呼ばれます。トポロジ・レポート設定は、モデリング・スタジオのパターン・ビュー・エディタの [レポート] タブで定義します。トポロジ・レポートの詳細については、364 ページの「トポロジ・レポートの概要」を参照してください。

## テンプレートとパースペクティブ

テンプレートは、定義されたパラメータを持つ再利用可能なパターンです。テンプレートを使用してテンプレート・ベース・ビューの構築し、個々のビューのパラメータ値を設定します。テンプレートに対して行った変更は、そのテンプレートに基づいて作成された既存のすべてのビューに影響します。

テンプレート・ベース・ビューは、パターン・ビューと同様に IT ユニバース・マネージャで開くことができます。IT ユニバース・マネージャでは、テンプレート自体を開いてさまざまなパラメータ値の結果を表示することもできます。結果を保存する場合は、テンプレート・ベース・ビューとして保存する必要があります。テンプレート、テンプレート・ベース・ビュー、パターン・ビューはパターン・ビュー・エディタで定義します。

パースペクティブは、特定の CI のコレクションに適用するために設計されたテンプレート的一种で、パターン・ビューのパターンと似ています。たとえば、パースペクティブを IP Address が含まれるノードで構成できます。その場合、作成されたパースペクティブ・ベース・ビューには、含まれる IP Address と一緒に CI の選択にある CI のすべてのノード CI が表示されます。

最も基本的なパースペクティブは **Content Only** パースペクティブと呼ばれるもので、クエリ・ノードそのものだけで構成されます。**Content Only** パースペクティブを CI のコレクションに適用した場合、結果のビューに含まれるのは選択された CI のみです。

パースペクティブは、パターン・ビュー・エディタでも作成、編集されます。パターン・ビュー・エディタでは、複数のビュー、テンプレート、パースペクティブを同時に開くことができます。それぞれ別個のタブに表示されます。

パースペクティブは、IT ユニバース・マネージャのビューのリストには表示されませんが、パースペクティブ・ベース・ビューは、ほかのビューと同様に IT ユニバース・マネージャで開くことができます。詳細については、276 ページの「パースペクティブ・ベース・ビューの作成」を参照してください。

テンプレートとパースペクティブをレポート・モジュールで開くことはできませんが、レポート・モジュールにはテンプレート・ベース・ビューとパースペクティブ・ベース・ビューのトポロジ・レポートが表示されます。



このように、モデリング・スタジオの CI の選択にある [リソース] タブのビュー・ツリーには、次の 5 つの個別のエンティティを含めることができます。

- ▶ パターン・ビュー
- ▶ テンプレート
- ▶ テンプレート・ベース・ビュー
- ▶ パースペクティブ
- ▶ パースペクティブ・ベース・ビュー

ツリーにフィルタを設定して、表示するビューまたはテンプレートのタイプを選択できます。

次の表には、ビューのタイプと、作成および表示する場所がまとめられています。

ビューのタイプ	作成場所	IT ユニバース・マネージャで開けるか
パターン・ビュー	パターン・ビュー・エディタ	はい
テンプレート	パターン・ビュー・エディタ	はい (現在のセッションでのみ)
テンプレート・ベース・ビュー	パターン・ビュー・エディタ	はい
パースペクティブ	パターン・ビュー・エディタ	なし
パースペクティブ・ベース・ビュー	パースペクティブ・ベース・ビュー・エディタ	はい

## 定義済みのフォルダとビュー

モデリング・スタジオの CI の選択にある [リソース] タブのビュー・ツリーには、以降のセクションで説明するように、定義済みのフォルダとビューが含まれています。

- ▶ 274 ページの「定義済みのフォルダ」
- ▶ 274 ページの「ファクトリ・ビュー」
- ▶ 274 ページの「定義済みのパースペクティブ」

## 定義済みのフォルダ

CI の選択の階層ファイル・フォルダ・システムは、ビューの整理に役立ちます。定義済みのフォルダは、用意済みのビューのために提供されています。これらのフォルダを変更したり、組織の要件に合わせてフォルダを追加したりできます。

## ファクトリ・ビュー

HP Universal CMDB には、用意済みのパターン・ビュー、テンプレート、およびパースペクティブが含まれています。これらのビューを使って、CMDB の使用を簡単に始めることができます。

用意済みのビューは、初期状態では空です。各パターン・ビューに組み込まれた TQL クエリは、いずれかの CI ジェネレータによって CI が CMDB に追加された直後から、パターンの要件に適合する CI を認識し、それらをビューに追加できるようになります。

CI のビューは、検出プロセスが実行されたときに作成されます。付属する用意済みのビューは、関連するデータ・フロー管理 (DFM) パッケージに対応しています。たとえば、Oracle ビュー ([Root] > [Database] > [Oracle] > [Oracle]) には、データ・フロー管理で Database - Oracle モジュールがアクティブ化されたときに作成された CI が設定されます。DFM の実行の詳細については、『HP Universal CMDB データ・フロー管理ガイド』の「ディスカバリ・コントロール・パネルのアドバンス・モード・ワークフロー」を参照してください。

用意済みのビューの一部は、システムにとって基本的なものとみなされ、フォルダから削除できません。

## 定義済みのパースペクティブ

HP Universal CMDB には、用意済みのパースペクティブも用意されています。その一例として、追加の CI がなく、ビュー・コンテンツ自体の要素だけが含まれている Content Only パースペクティブがあります。

## ビジネス CI モデル

- ▶ 275 ページの「モデルの作成」
- ▶ 276 ページの「パターン・ベース・モデル」

パースペクティブ・ベース・ビューのビュー・コンテンツを構成する CI のコレクションの選択方法は 2 つあります。1 つは、CI の選択から CI を選択し、それを編集表示枠にドラッグするという方法です。この場合、パースペクティブをコレクションに適用することによってビューを作成できます。このコレクションをほかのビューで再利用するには、選択プロセスを繰り返す必要があります。ビューに表示する CI を選択するもう 1 つの方法は、モデルを作成するというものです。

モデルとは、ビジネス・サービスやビジネス内容などのビジネス・エンティティを定義する CI インスタンスの再利用可能コレクションです。モデルを作成することで、異なるビューを作成するほかのパースペクティブで再利用可能な CI のコレクションが作成されます。その後モデルに加えた変更は、そのモデルをベースとしているすべてのビューに反映されます。

## モデルの作成

モデルの作成では、まずベースとなるビジネス CI を選択します。使用可能なビジネス CI は、グループ、アプリケーション、ビジネス・サービス、ビジネス単位、ビジネス内容などです。そして、次の方法で CI をモデルに追加します。

- ▶ CI の選択から Model Editor に手動で CI をドラッグします。
- ▶ 公開パスを使用して関連 CI を公開して選択し、モデルに追加します。
- ▶ 選択した CI に監視を定義して、自動的に CI をモデルに追加します。

また、CI を空のキャンバスにドラッグし、[新規モデルの作成] を選択するという方法でもモデルの作成を開始できます。

作成したモデルは CI そのものであり、モデル内の CI は **Contains** 関係によってそのモデルに関連付けられます。ビューの作成のためにパースペクティブをモデルに適用する前に、モデルを保存しておく必要があります。

---

**注意:** モデルに加えた変更は、そのモデルに基づいているビューだけでなくユニバース全体に影響します。したがって、モデルから CI を削除すると、CI 間に存在していた関係が CMDB から削除されることになります。

---

## パターン・ベース・モデル

もう 1 つの構築可能なモデルは、パターン・ベース・モデルです。パターン・ベース・モデルでは、含まれる CI を手動で選択するのではなく、それらを判別する TQL クエリを定義します。パターン・ベース・モデルを既存の TQL クエリに基づいて構築することも、新しい TQL クエリを作成することもできます。

モデルの TQL クエリには少なくとも 1 つのクエリ・ノードをモデルの出力として指定する必要があります。そのタイプの CI が TQL クエリのパターンに一致すれば、その CI がモデル出力に含まれます。

通常のモデルと同様、作成したパターン・ベース・モデルは、CI として保存されます。また、パースペクティブ・ベース・ビューのコンテンツを構成するために使用されます。作成された新しい TQL クエリは通常のクエリとして保存され、パターン・ビューのベースとして使用されます。

## パースペクティブ・ベース・ビューの作成

パースペクティブ・ベース・ビューは、モデルまたは CI のコレクションに適用されるパースペクティブによって構成されます。パースペクティブは、IT ユニバース・モデルのサブセットに適用されるように設計された特別なタイプのテンプレートです。

パースペクティブ・ベース・ビュー・エディタの [コンテンツ] 表示枠には、ビューのベースとするために選択したモデルまたは CI が表示されます。[パースペクティブ] 表示枠には選択したパースペクティブが表示されます。[結果の表示] 表示枠には、選択したコンテンツとパースペクティブに基づいた結果のビューが表示されます。コンテンツまたはパースペクティブの選択を変更すると、それに応じて [結果の表示] 表示枠のビューが更新されます。詳細については、338 ページの「パターン・ベース・ビュー・エディタ」を参照してください。

本項の内容

- ▶ 277 ページの「コンテンツ」
- ▶ 277 ページの「パースペクティブ」
- ▶ 278 ページの「複数のパースペクティブに基づいたビュー」
- ▶ 279 ページの「子 CI の包含と除外」

## コンテンツ

パースペクティブ・ベース・ビューのコンテンツは、次の2つの方法で選択できます。

- ▶ CI の選択を使用して、個々の CI を手動でビューに追加できます。コレクションの CI は互いに独立しています。この場合、CI のコレクションはモデルとして定義されず、ほかのビューで再利用できません。
- ▶ CI の選択を使用して、1 つ以上のモデルをビューに追加できます。あるいは、**Model Editor** でモデルを扱うところから始めて、[選択したモデルのビューを生成] を選択し、そのモデルに基づいたビューを作成することもできます。この場合、同じモデルを選択することによって、同一のコンテンツで別のビューを作成できます。

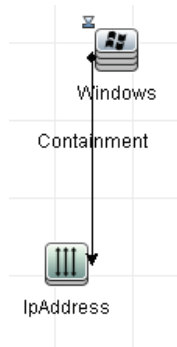
パースペクティブ・ベース・ビューのコンテンツを構成する際、個々の CI とモデルの両方を選択できます。ただし、その場合、モデルは普通の CI として扱われます。モデル自体は、子 CI の階層なしでビューに含まれます。

## パースペクティブ

ビューに対して選択したパースペクティブによって、ビューに含まれる CI が決まります。パースペクティブは、テンプレートに似た再利用可能なパターンです。パースペクティブと通常のテンプレートの違いは、パースペクティブにはコンタクト・クエリ・ノードとして指定されている1つ以上のクエリ・ノードが含まれるという点です。コンタクト・クエリ・ノードとは、パターン内のクエリ・ノードで、特定のコンテンツにパターンを適用するのに使用され、クエリ・ノードの横に表示される小さいアイコンで示されます。



たとえば、次のパースペクティブでは、Windows タイプのクエリ・ノードがコンタクト・クエリ・ノードとして指定されており、IP Address が Containment 関係によって関連付けられています。



このパースペクティブが CI コレクションに適用された場合、結果のビューには、そのコレクションのすべての Windows CI と含まれている IP Address が表示されます。IP Address を含んでおらず、コレクションのほかのタイプの CI も含んでいない Windows CI は、ビューに表示されません。

パースペクティブには複数のコンタクト・クエリ・ノードを含めることができますが、パースペクティブ内の切断されたグラフごとに少なくとも 1 つのコンタクト・クエリ・ノードが必要です。

パースペクティブに変更を加えると、そのパースペクティブに基づいているすべてのビューが影響を受けます。

## 複数のパースペクティブに基づいたビュー

複数のパースペクティブを選択してビューのコンテンツに適用できます。複数のパースペクティブを選択するには、次の 2 つの方法があります。

- ▶ パースペクティブ・グループ
- ▶ パースペクティブ・チェーン

**パースペクティブ・グループ**では、複数のパースペクティブを選択して同じ入力コンテンツに同時に適用します。

**パースペクティブ・チェーン**では、複数のパースペクティブをビュー作成の異なるレベルで選択します。第1レベルのパースペクティブは元のビュー・コンテンツに適用され、CIコレクションの形式で結果を生成します。このCIコレクションが次のレベルの入力コンテンツになります。第2レベルのパースペクティブはこのコンテンツに適用され、ビューの結果を生成します。複数レベルのパースペクティブに基づいてビューを構築し、各レベルで次のレベルの入力コンテンツを生成することができます。

パースペクティブ・グループとパースペクティブ・チェーンの両方を同時に適用することもできます。この場合、パースペクティブ適用対象のレベルごとに複数のパースペクティブを選択します。

たとえば、**IP Subnet CI**のコレクションを入力コンテンツとして選択し、**IP Subnet**に関連する**ノード CI**を追加するパースペクティブを第1レベルのパースペクティブとして選択します。この段階の結果は、元の**IP Subnet**とそれに関連するノードで構成されます。次に、第2パースペクティブ・レベルを追加し、それに対して2つのパースペクティブを選択します。一方はノードに関連する**CPU CI**を追加し、もう一方はノードに関連する**ファイル・システム CI**を追加します。最終結果には、元の**IP Subnet**とそれに関連するノード、それらのノードに関連するCPUおよびファイル・システムが含まれます。

このようなオプションによって、パースペクティブの機能が各構成部分に分解されるため、パースペクティブ・ベース・ビューを作成するプロセスが簡略化されます。必要なビューごとに別個の大きく複雑なパースペクティブを構築するのではなく、小さく基本的なパースペクティブから特定のケースの要件に合わせてカスタム・パースペクティブを構築できます。

## 子 CI の包含と除外

子が存在するCIをビューに追加するとき、選択したCIタイプの子がパースペクティブのパターンに含まれている場合にのみ、CIとその子がビューに含まれるようになります。この場合、そのタイプのすべてのCIの子が含まれます。ビューの作成後、ビュー上で特定のCIを非表示にできます。それには、[結果の表示]表示枠でCIを選択し、ショートカット・メニューから[**ビューからCIを非表示**]を選択するか、ツールバーの[**ビューからCIを非表示**]ボタンをク

リックします。このオプションは、パースペクティブを介してビューに追加され、ビューの基礎となっている元のコンテンツの一部ではない CI に対してのみ有効です。したがって、ビューが CI のコレクションに基づいている場合、そのコレクションの CI はビューで非表示にできません。ビューがモデルに基づいている場合、そのモデルはビューで非表示にできませんが、そのモデルに含まれている CI は非表示にできます。

### 公開 CI と監視

モデリング・スタジオでは、関連 CI の隣接検索およびウォッチポイントの定義という 2 つの高度な方法で既存のモデルに CI を追加できます。

本項の内容

- ▶ 280 ページの「CI の公開」
- ▶ 283 ページの「監視」

#### CI の公開

モデルを作成する方法の 1 つは、モデル内で CI に関連する CI を追加することです。モデリング・スタジオには、そのような CI を公開するのに役立つツールが用意されています。関連 CI を公開するプロセスには、公開パスの作成が含まれます。公開パスは、互いに関連する CI タイプのチェーンです。公開パスの最初のアイテムは、CI の公開を開始した CI の CI タイプです。モデリング・スタジオは、関連 CI をすべて探し出し、その CI タイプを一覧表示します。いずれかのタイプを選択して、パスの次のステップを作成します。ダイアログ・ボックス下部の表示枠に、そのタイプの関連 CI がすべて表示されます。ここで、モデルに含める CI を選択できます。パスの次のステップを作成するには、このプロセスを繰り返します。



たとえば、Windows タイプの CI から CI の公開を開始する場合、インタフェース、ネットワーク、IP といったタイプの関連 CI が公開されるかもしれません。ネットワークを選択すると、下部の表示枠にネットワーク・タイプの関連 CI が表示されます。その関連 CI を CI バスケットにドラッグするか、CI バスケットアイコンをクリックすれば、モデルに追加することができます。



[次へ] をクリックすると、選択したネットワークを使用してパスの次のステップが作成されます。Windows, UNIX, IP といったタイプの関連 CI が公開されます。UNIX を選択すると、下部の表示枠に UNIX の CI が表示されます。選択した CI を [CI バスケット] 表示枠にドラッグすれば、モデルに追加することができます。



[次へ] をクリックすると、選択した UNIX を使用してパスの次のステップが作成されます。



この場合、**Windows > ネットワーク > Unix** の公開パスが作成されます。各ステップで、公開されている関連 CI をモデルに追加するというオプションもあります。CI の公開の詳細については、346 ページの「[CI を公開] ダイアログ・ボックス」を参照してください。

CI を公開せずに公開パスを作成することも可能です。詳細については、307 ページの「[公開パスの作成/編集/保存] ダイアログ・ボックス」を参照してください。

## 監視

モデルに追加する関連 CI を探し出すもう一つの方法は、モデル内の選択した CI に監視を定義するというものです。監視は、指定されたタイプの関連 CI が新しく作成されたときにトリガされるメカニズムです。どの監視も公開パスと関連付けて定義されます。公開パスに含まれる CI タイプの関連 CI が新しく作成されると、監視がトリガされ、モデルの横にインジケータが表示されます。監視の定義の詳細については、328 ページの「[新規監視] ダイアログ・ボックス」を参照してください。

---

**注:** 新しいモデルは、CI に監視を定義する前に保存しておく必要があります。

---

監視によって検出された関連 CI はすべて、[監視の更新] ダイアログ・ボックスに表示されます。このダイアログ・ボックスでは、モデルに追加する関連 CI を選択したり、抑制する、つまりモデルから除外する関連 CI を選択したりできます。詳細については、360 ページの「[監視の更新] ダイアログ・ボックス」を参照してください。

また、検出された CI を自動的にモデルに含めるというオプションもあります。それには、[新規監視] ダイアログ・ボックスのチェック・ボックスを選択します。この場合、監視で検出されたすべての CI がモデルに追加されます。

監視は、モデルに関連しなくなったモデル内の CI を検出するのにも使用できます。このような CI は、監視に関連付けられている公開パスをたどって探し出された場合、[監視の更新] ダイアログ・ボックスにも表示されます。モデルから CI を削除するという提案を受け入れることができます。また、その提案を受け入れず、モデルに CI を残しておくこともできます。

---

**注:** 監視は個々の CI に定義されますが、監視の結果、モデル内のすべての CI の公開パスに含まれている CI タイプの関連 CI が表示されます。

---

---

---

## タスク

---

---


### パターン・ビューの作成

このタスクでは、パターン・ビューを作成してその TQL クエリを定義する方法について説明します。

このタスクには次の手順が含まれます。

- ▶ 285 ページの「パターン・ビュー・エディタで新規ビューを開く」
- ▶ 285 ページの「TQL クエリへのクエリ・ノードと関係の追加」
- ▶ 286 ページの「ビュー階層の設定」
- ▶ 286 ページの「レポート設定の定義 - 任意指定」
- ▶ 286 ページの「権限の設定」

#### 1 パターン・ビュー・エディタで新規ビューを開く

[**新規作成**] ボタン  をクリックして [**パターン ビュー**] を選択します。[新規パターン ビュー] ダイアログ・ボックスで、新しいビューの基にするベース TQL クエリを選択するか、[**新規クエリの作成**] を選択して新しい TQL クエリを作成します。パターン・ビュー・エディタが開きます。詳細については、327 ページの「[新規パターン ビュー] / [新規テンプレート] / [新規パースペクティブ] ダイアログ・ボックス」を参照してください。

#### 2 TQL クエリへのクエリ・ノードと関係の追加

クエリを定義するクエリ・ノードと関係を追加します。TQL クエリにクエリ・ノードと関係を追加する方法の詳細については、28 ページの「TQL クエリへのクエリ・ノードと関係の追加」を参照してください。


---

**注:** 空のビューで開始する場合、ビューを保存するには、クエリ・ノードを少なくとも 1 つ追加する必要があります。

---

### 3 ビュー階層の設定

ビューの階層を設定するには、[階層] 表示枠で必要なクエリ・ノードを移動します。詳細については、270 ページの「ビュー階層の設定」を参照してください。

終了したら、[保存]  をクリックしてビューを保存します。

### 4 レポート設定の定義 – 任意指定

パターン・ビュー・エディタで [レポート] タブを選択します。ビューのクエリ・ノードごとに、レポートに含める属性を選択します。レポートのカラムの順序の設定、各カラムの並べ替え順序の設定、グラフの追加もできます。詳細については、293 ページの「レポート設定の定義」を参照してください。

### 5 権限の設定

新しいビューのユーザやユーザ・グループに表示権限と編集権限を適用します。[マネージャ] > [管理] > [セキュリティ マネージャ] で権限を設定します。詳細については、『HP Universal CMDB 管理ガイド』の「[セキュリティ マネージャ] ページ」を参照してください。


## テンプレートの作成

このタスクでは、新しいテンプレートを定義する方法について説明します。

このタスクには次の手順が含まれます。

- ▶ 287 ページの「パターン・ビュー・エディタで新規テンプレートを開く」
- ▶ 287 ページの「TQL クエリへのクエリ・ノードと関係の追加」
- ▶ 287 ページの「パラメータ値の設定」
- ▶ 287 ページの「テンプレート階層の設定」
- ▶ 288 ページの「レポート設定の定義 - 任意指定」
- ▶ 288 ページの「権限の設定」

## 1 パターン・ビュー・エディタで新規テンプレートを開く

[**新規作成**] ボタン  をクリックして [テンプレート] を選択します。[新規テンプレート] ダイアログ・ボックスで、新しいテンプレートの基にするベース TQL クエリを選択するか、[**新規クエリの作成**] を選択して新しい TQL クエリを作成します。詳細については、327 ページの「[新規パターンビュー] / [新規テンプレート] / [新規パースペクティブ] ダイアログ・ボックス」を参照してください。

## 2 TQL クエリへのクエリ・ノードと関係の追加

クエリを定義するクエリ・ノードと関係を追加します。TQL クエリにクエリ・ノードと関係を追加する方法の詳細については、28 ページの「TQL クエリへのクエリ・ノードと関係の追加」を参照してください。

---

**注:** 空のテンプレートで開始する場合、テンプレートを保存するには、クエリ・ノードを少なくとも 1 つ追加する必要があります。

---

## 3 パラメータ値の設定

TQL クエリ内のノードまたは関係を右クリックして、[クエリ ノードのプロパティ] を選択します。[属性] タブで、パラメータ化された値を持つ属性を追加します。詳細については、80 ページの「[クエリ ノード / 関係のプロパティ] ダイアログ・ボックス」を参照してください。

---

**注:** パラメータを設定しない場合、テンプレートを保存するときにパターン・ビューとして保存する必要があります。

---

## 4 テンプレート階層の設定

テンプレートの階層を設定するには、[階層] 表示枠で必要なクエリ・ノードを移動します。詳細については、270 ページの「ビュー階層の設定」を参照してください。

終了したら、[保存]  をクリックしてテンプレートを保存します。

## 5 レポート設定の定義 - 任意指定

パターン・ビュー・エディタで [レポート] タブを選択します。ビューのクエリ・ノードごとに、レポートに含める属性を選択します。レポートのカラムの順序の設定、各カラムの並べ替え順序の設定、グラフの追加もできます。詳細については、293 ページの「レポート設定の定義」を参照してください。

## 6 権限の設定

新しいテンプレートのユーザやユーザ・グループに表示権限と編集権限を適用します。[マネージャ] > [管理] > [セキュリティ マネージャ] で権限を設定します。詳細については、『HP Universal CMDB 管理ガイド』の「[セキュリティ マネージャ] ページ」を参照してください。

## パースペクティブの作成


このタスクでは、新しいパースペクティブを定義する方法について説明します。

このタスクには次の手順が含まれます。

- ▶ 289 ページの「パターン・ビュー・エディタで新規パースペクティブを開く」
- ▶ 289 ページの「TQL クエリへのクエリ・ノードと関係の追加」
- ▶ 289 ページの「コンタクト・クエリ・ノードの選択」
- ▶ 289 ページの「パースペクティブ階層の設定」
- ▶ 290 ページの「レポート設定の定義 - 任意指定」
- ▶ 290 ページの「権限の設定」



## 1 パターン・ビュー・エディタで新規パースペクティブを開く

[**新規作成**] ボタン  をクリックして [**パースペクティブ**] を選択します。  
[**新規パースペクティブ**] ダイアログ・ボックスで、新しいパースペクティブの基にするベース TQL クエリを選択するか、[**新規クエリの作成**] を選択して新しい TQL クエリを作成します。詳細については、327 ページの「[新規パターン ビュー] / [新規テンプレート] / [新規パースペクティブ] ダイアログ・ボックス」を参照してください。

## 2 TQL クエリへのクエリ・ノードと関係の追加

クエリを定義するクエリ・ノードと関係を追加します。TQL クエリにクエリ・ノードと関係を追加する方法の詳細については、28 ページの「TQL クエリへのクエリ・ノードと関係の追加」を参照してください。

## 3 コンタクト・クエリ・ノードの選択

TQL クエリでコンタクト・クエリ・ノードにするクエリ・ノードを少なくとも 1 つ選択します。クエリ・ノードを右クリックし、[**コンタクトクエリノードとして設定**] を選択します。

---

**注:** コンタクト・クエリ・ノードを選択しない場合、パースペクティブを保存するときにパターン・ビューとして保存する必要があります。

---

## 4 パースペクティブ階層の設定

パースペクティブの階層を設定するには、[階層] 表示枠で必要なクエリ・ノードを移動します。詳細については、270 ページの「ビュー階層の設定」を参照してください。

終了したら、[**保存**]  をクリックしてパースペクティブを保存します。

## 5 レポート設定の定義 - 任意指定

パターン・ビュー・エディタで [レポート] タブを選択します。ビューのクエリ・ノードごとに、レポートに含める属性を選択します。レポートのカラムの順序の設定、各カラムの並べ替え順序の設定、グラフの追加もできます。詳細については、293 ページの「レポート設定の定義」を参照してください。

## 6 権限の設定

新しいパースペクティブのユーザやユーザ・グループに表示権限と編集権限を適用します。[マネージャ] > [管理] > [セキュリティ マネージャ] で権限を設定します。詳細については、『HP Universal CMDB 管理ガイド』の「[セキュリティ マネージャ] ページ」を参照してください。

## テンプレート ベース ビューの作成

このタスクでは、新しいテンプレート・ベース・ビューを定義する方法について説明します。


このタスクには次の手順が含まれます。

- ▶ 291 ページの「前提条件」
- ▶ 291 ページの「新しいテンプレート・ベース・ビューの定義」
- ▶ 291 ページの「テンプレートの選択」
- ▶ 291 ページの「パラメータの設定」
- ▶ 292 ページの「権限の設定」

### 1 前提条件

新しいテンプレートに基づいてビューを作成する場合は、最初にテンプレートを作成します。詳細については、286 ページの「テンプレートの作成」を参照してください。

### 2 新しいテンプレート・ベース・ビューの定義

新しいテンプレート・ベース・ビューは、[テンプレート ベース ビュー] ウィザードを使って定義します。[新規作成] ボタン  をクリックして [テンプレート ベース ビュー] を選択します。


### 3 テンプレートの選択

ウィザードの [テンプレートの選択] ページで、ビューの基になるテンプレートを選択します。詳細については、353 ページの「[テンプレートの選択] ページ」を参照してください。


### 4 パラメータの設定

[パラメータ] ページで、ビューのパラメータ値を入力します。詳細については、354 ページの「[パラメータ] ページ」を参照してください。

---

**注:** ビューの作成後、エディタのツールバーまたはショートカット・メニューから [パラメータの編集]  を選択して、パラメータを編集することもできます。

---

終了したら、[保存]  をクリックしてビューを保存します。

## 5 権限の設定

ビューのユーザやユーザ・グループに表示権限と編集権限を適用します。[マネージャ] > [管理] > [セキュリティ マネージャ] で権限を設定します。詳細については、『HP Universal CMDB 管理ガイド』の「[セキュリティ マネージャ] ページ」を参照してください。

## レポート設定の定義

このタスクでは、ビュー、テンプレート、またはパースペクティブのレポート設定を定義する方法について説明します。

このタスクには次の手順が含まれます。

- ▶ 293 ページの「前提条件」
- ▶ 293 ページの「レポートのカラムとして表示する属性の選択」
- ▶ 294 ページの「レポートへの関数カラムの追加 - 任意指定」
- ▶ 294 ページの「カラム・コンテンツの並べ替え順序の設定」
- ▶ 294 ページの「レポートへのグラフの追加 - 任意指定」


### 1 前提条件

ビュー、テンプレート、またはパースペクティブのコンテンツと階層を定義したら、レポート設定を定義できます。パターン・ビュー・エディタで [レポート] タブを選択します。


### 2 レポートのカラムとして表示する属性の選択

ビューのクエリ・ノードごとに、[階層] 表示枠で該当するクエリ・ノードを選択し、そのクエリ・ノードのレポートにカラムとして表示する属性を選択します。[クエリ ノード定義] 表示枠で属性を選択するには、属性を [属性] リストから [レポートのレイアウト] リストに移動します。[レポートのレイアウト] リストの矢印ボタンを使用してカラムの順序を設定します。詳細については、336 ページの「[クエリ ノード定義] 表示枠」を参照してください。

### 3 レポートへの関数カラムの追加 - 任意指定

選択したクエリ・ノードを構成するデータが、子クエリ・ノードのいずれかで実行される関数から派生する場合、任意でそのクエリ・ノードにカラムを追加することができます。[関数の追加] ボタン  をクリックして [関数の追加] ダイアログ・ボックスを開き、そこから関連する設定を選択できます。詳細については、301 ページの「[機能の追加], [機能の編集] ダイアログ・ボックス」を参照してください。

### 4 カラム・コンテンツの並べ替え順序の設定

[並べ替え順を設定] ボタン  をクリックして [カラム コンテンツの並べ替え] ダイアログ・ボックスを開きます。レポートの並べ替えに使用するカラムを決定するには、カラムを [利用可能なカラム] リストから [並べ替えられたカラム] リストに移動します。矢印ボタンを使用してカラムの並べ替え順序を設定します。各カラムの並べ替え方向を設定するには、[昇順ソート] ボタンまたは [降順ソート] ボタンを使用します。詳細については、352 ページの「[カラム コンテンツの並べ替え] ダイアログ・ボックス」を参照してください。

### 5 レポートへのグラフの追加 - 任意指定

任意でレポートにグラフを追加できます。グラフは、ビューの選択したレイヤに対してテーブルの代わりに追加します。グラフの追加に必要な条件が満たされると、[クエリ ノード定義] 表示枠の [グラフのプロパティ] セクションで **[グラフを定義]** リンクがアクティブになります。リンクをクリックしてグラフ設定を入力します。詳細については、338 ページの「グラフのプロパティ」を参照してください。

## ビジネス CI モデルの作成

本タスクでは、ビューのベースとして使用できるビジネス CI モデルの作成方法について説明します。

このタスクには次の手順が含まれます。

- ▶ 295 ページの「新規モデルの作成」
- ▶ 295 ページの「手動での CI へのモデルの追加」
- ▶ 296 ページの「CI を公開する」
- ▶ 296 ページの「モデルの CI に監視を定義する」

## 1 新規モデルの作成

モデリング・スタジオで、[新規作成] \* ボタンをクリックし、[インスタンスベースモデル] を選択して、[新規モデル] ダイアログ・ボックスを開きます。CI タイプを選択し、プロパティの値を入力します。詳細については、327 ページの「[新規モデル] ダイアログ・ボックス」を参照してください。

## 2 手動での CI へのモデルの追加

CI の選択で、モデルに含める CI を検索します。CI を選択してモデルにドラッグします。

---

**ヒント：**CTRL キーを押しながら CI を選択すれば、複数の CI を選択できます。

---

### 3 CI を公開する

モデルの CI を選択し、公開パスをたどって関連 CI を公開します。公開 CI の中から選択した CI をモデルに追加します。完了したらモデルを保存します。詳細については、346 ページの「[CI を公開] ダイアログ・ボックス」を参照してください。

### 4 モデルの CI に監視を定義する

モデルの CI を右クリックし、[監視] > [新規監視] を選択します。[新規監視] ダイアログ・ボックスが開きます。公開パスを選択し、[OK] をクリックします。CI の横に、監視が定義されていることを示す小さいアイコンが表示されます。詳細については、328 ページの「[新規監視] ダイアログ・ボックス」を参照してください。


## パターン・ベース・モデルの作成

このタスクでは、パースペクティブ・ベース・ビューのベースとして使用できるパターン・ベース・モデルの作成方法について説明します。

このタスクには次の手順が含まれます。

- ▶ 296 ページの「新規モデルの定義」
- ▶ 297 ページの「モデルの詳細の入力」
- ▶ 297 ページの「TQL クエリの選択」
- ▶ 297 ページの「TQL クエリへのクエリ・ノードと関係の追加」
- ▶ 297 ページの「出力クエリ・ノードの設定」
- ▶ 297 ページの「モデルの保存」

### 1 新規モデルの定義

パターン・ベース・モデルは、[パラメータ ベース モデル] ウィザードを使って定義します。[新規作成] ボタン  をクリックして [パターン ベース モデル] を選択します。



## 2 モデルの詳細の入力

最初のウィザード・ページで、モデルの CI タイプを選択し、プロパティを入力します。詳細については、331 ページの「[CI タイプの選択] ページ」を参照してください。

## 3 TQL クエリの選択

次のウィザード・ページで、モデルの TQL クエリを選択します。新しい TQL クエリを作成することも、ツリーから既存のクエリを選択することもできます。TQL クエリ・エディタが開き、選択したクエリが表示されます。詳細については、331 ページの「[クエリの選択] ページ」を参照してください。

## 4 TQL クエリへのクエリ・ノードと関係の追加

クエリを定義するクエリ・ノードと関係を追加します。TQL クエリにクエリ・ノードと関係を追加する方法の詳細については、28 ページの「TQL クエリへのクエリ・ノードと関係の追加」を参照してください。

## 5 出力クエリ・ノードの設定

TQL クエリで、モデルの出力として使用するクエリ・ノードを 1 つ以上選択します。該当するクエリ・ノードを右クリックし、[モデル出力に追加] を選択します。クエリ・ノードは、横にある小さいアイコンで示されます。

## 6 モデルの保存

終了したら、モデルに一意の名前を付けて保存します。新しい TQL クエリを作成した場合、クエリもモデルとは別に保存され、通常の TQL クエリとして再利用できます。

## モデルに基づいたパースペクティブ・ベース・ビューの作成


本タスクでは、モデリング・スタジオでモデルおよびパースペクティブに基づいたビューを作成する方法について説明します。

このタスクには次の手順が含まれます。

- ▶ 298 ページの「モデルを開く」
- ▶ 298 ページの「パースペクティブの選択」

- ▶ 298 ページの「ビューを保存する」

## 1 モデルを開く

モデリング・スタジオの左表示枠で [リソース タイプ] として [モデル] を選択し、関連するモデルを選択してから、左表示枠のツールバーで [モデルを開く]  をクリックします。

## 2 パースペクティブの選択

Model Editor でモデルを右クリックし、[選択したモデルのビューを生成] を選択します。[新規ビューの作成] ダイアログ・ボックスが開きます。モデルに適用するパースペクティブを選択します。詳細については、308 ページの「[新規ビューの作成] ダイアログ・ボックス」を参照してください。

## 3 ビューを保存する

パースペクティブ・ベース・ビュー・エディタが開いて新しいビューが表示されます。任意で、作成するビューのほかのレベルに対してパースペクティブを選択し、パースペクティブ・チェーンを作成します。ビューの名前を変更し、適切なフォルダに保存します。詳細については、338 ページの「パターン・ベース・ビュー・エディタ」を参照してください。

## CI のコレクションに基づいたパースペクティブ・ベース・ビューの作成

本タスクでは、モデリング・スタジオで CI のコレクションおよびパースペクティブに基づいたビューを作成する方法について説明します。

このタスクには次の手順が含まれます。

- ▶ 299 ページの「新規ビューの作成」
- ▶ 299 ページの「CI のビューへの追加」
- ▶ 299 ページの「パースペクティブの選択とビューの保存」

## 1 新規ビューの作成

モデリング・スタジオで、[新規作成] \* ボタンをクリックし、[パースペクティブベースビュー]を選択して、パースペクティブ・ベース・ビュー・エディタを開きます。詳細については、338 ページの「パターン・ベース・ビュー・エディタ」を参照してください。

## 2 CI のビューへの追加

CI の選択で、ビューに含める CI を検索します。CI を選択してビューにドラッグします。CI の選択の詳細については、151 ページの「CI の選択」を参照してください。

---

**ヒント** : CTRL キーを押しながら CI を選択すれば、複数の CI を選択できます。

---

## 3 パースペクティブの選択とビューの保存

[パースペクティブ] 表示枠で、CI コレクションに適用するパースペクティブを選択します。任意で、作成するビューのほかのレベルに対してパースペクティブを選択し、パースペクティブ・チェーンを作成できます。ビューの名前を変更し、適切なフォルダに保存します。詳細については、338 ページの「パターン・ベース・ビュー・エディタ」を参照してください。

---

---

## 参照先

---

---

### モデリング・スタジオのユーザ・インタフェース

本項の内容

- ▶ 301 ページの「[機能の追加], [機能の編集] ダイアログ・ボックス」
- ▶ 303 ページの「[ノード要素タイプ / 関係タイプを変更] ダイアログ・ボックス」
- ▶ 304 ページの「[選択した項目に対する操作の選択] ダイアログ・ボックス」
- ▶ 305 ページの「[関連 CI の条件] ダイアログ・ボックス」
- ▶ 307 ページの「[公開パスの作成 / 編集 / 保存] ダイアログ・ボックス」
- ▶ 308 ページの「[新規ビューの作成] ダイアログ・ボックス」
- ▶ 309 ページの「[サイクル定義] ダイアログ・ボックス」
- ▶ 310 ページの「[非表示 CI] ダイアログ・ボックス」
- ▶ 310 ページの「[階層ルール] ダイアログ・ボックス」
- ▶ 311 ページの「左表示枠」
- ▶ 316 ページの「[CI 監視の管理] ダイアログ・ボックス」
- ▶ 317 ページの「Model Editor」
- ▶ 324 ページの「[モデリング スタジオ] ページ」
- ▶ 326 ページの「[選択済みの CI を含むモデル] ダイアログ・ボックス」
- ▶ 327 ページの「[新規モデル] ダイアログ・ボックス」
- ▶ 327 ページの「[新規パターン ビュー] / [新規テンプレート] / [新規パースペクティブ] ダイアログ・ボックス」
- ▶ 328 ページの「[新規監視] ダイアログ・ボックス」
- ▶ 329 ページの「[公開パスを開く] ダイアログ・ボックス」
- ▶ 330 ページの「[パターン ベース モデル] ウィザード」
- ▶ 333 ページの「パターン・ビュー・エディタ」
- ▶ 338 ページの「パターン・ベース・ビュー・エディタ」

- ▶ 344 ページの「[クエリ ノードのグループ化] ダイアログ・ボックス」
- ▶ 345 ページの「[クエリ / ビュー定義プロパティ] ダイアログ・ボックス」
- ▶ 346 ページの「[CI を公開] ダイアログ・ボックス」
- ▶ 348 ページの「[クエリを保存] ダイアログ・ボックス」
- ▶ 349 ページの「[ビュー / テンプレート / パースペクティブを保存] ダイアログ・ボックス」
- ▶ 351 ページの「[データ ソースの選択] ダイアログ・ボックス」
- ▶ 352 ページの「[カラム コンテンツの並べ替え] ダイアログ・ボックス」
- ▶ 353 ページの「[テンプレート ベース ビュー] ウィザード」
- ▶ 355 ページの「[テンプレート パラメータ値] ダイアログ・ボックス」
- ▶ 355 ページの「TQL クエリ・エディタ」
- ▶ 359 ページの「[選択済みの CI を含むビューを表示] ダイアログ・ボックス」
- ▶ 360 ページの「[監視の更新] ダイアログ・ボックス」

## [機能の追加], [機能の編集] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、レポートに含めるクエリ・ノードの関数およびパラメータを定義できます。

<b>利用方法</b>	パターン・ビュー・エディタで、[クエリ ノード定義] 表示枠の [レポートのレイアウト] ボックスの下にある <b>[関数の追加]</b> ボタンをクリックします。
<b>重要情報</b>	ビュー、テンプレート、またはパースペクティブの選択したクエリ・ノードに対してレポート・カラムを定義する場合、いずれかの子クエリ・ノードに定義された関数から派生するデータで構成されるカラムを定義できます。定義対象とする関連の子クエリ・ノード、属性、関数を選択します。  最初に、必要なクエリ・ノードと関数を選択します。属性リストが調整され、選択した組み合わせについて関連属性が表示されます。必要な属性を選択します。
<b>関連タスク</b>	293 ページの「レポート設定の定義」

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。




UI 要素 (A-Z)	説明
<b>属性</b>	リストから属性を選択します。
<b>関数</b>	<p><b>関数</b>リストから、カラムに関する結果の計算に使用する関数を選択します。</p> <p>次のオプションを使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>平均</b>: 選択したクエリ・ノードのすべての CI インスタンスを対象とした、選択した属性の平均値です。</li> <li>▶ <b>連結リスト</b>: 選択したクエリ・ノードのすべての CI インスタンスを対象とした、選択した属性の値のリストを表示します。</li> <li>▶ <b>数量</b>: 選択したクエリ・ノードの CI インスタンス数を計算します。</li> <li>▶ <b>明確なリスト</b>: 選択したクエリ・ノードのすべての CI インスタンスを対象とした、選択した属性の一意的値のリストを表示します。</li> <li>▶ <b>最大</b>: 選択したクエリ・ノードのすべての CI インスタンスを対象とした、選択した属性の最大値です。</li> <li>▶ <b>最小</b>: 選択したクエリ・ノードのすべての CI インスタンスを対象とした、選択した属性の最小値です。</li> <li>▶ <b>合計</b>: 選択したクエリ・ノードのすべての CI インスタンスを対象とした、選択した属性の値の合計です。</li> </ul>
<b>関連クエリノード</b>	関数を実行する子クエリ・ノードです。
<b>タイトル</b>	レポートに表示されている関数属性の名前です。

## [ノード要素タイプ / 関係タイプを変更] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、TQL クエリの作成後に TQL クエリ・ノードまたは関係の CI タイプを変更できます。

利用方法	TQL クエリ・エディタまたはパターン・ビュー・エディタで、必要なクエリ・ノードを右クリックし、 <b>[ノード要素タイプの変更]</b> を選択します。関係の場合は、必要な関係を右クリックし、 <b>[関係タイプを変更]</b> を選択します。
重要情報	選択したクエリ・ノードの CI タイプは、そのクエリ・ノードの既存の関係および条件に基づいてほかの有効なタイプに変更できます。
関連タスク	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 27 ページの「TQL クエリの定義」</li> <li>▶ 『HP Universal CMDB 開発者向けリファレンス・ガイド』の「ディスカバリ・アダプタの実装」</li> <li>▶ 285 ページの「パターン・ビューの作成」</li> </ul>

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

UI 要素 (A-Z)	説明
	<b>[すべてを展開]</b> をクリックすると、ツリー内のすべてのフォルダが展開されます。
	<b>[すべてを折りたたむ]</b> をクリックすると、ツリー内のすべてのフォルダが折りたたまれます。
 ツリー ビュー	CI タイプ / 関係ツリーの表示形式を選択するには、 <b>[ツリービュー]</b> をクリックします。次のオプションを利用できます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 表示ラベル</li> <li>▶ クラス名</li> <li>▶ 旧クラス名</li> </ul>
<CI タイプ / 関係ツリー>	必要な CI タイプまたは関係を選択します。
関係の方向	関係の方向を選択します。 <b>注：</b> 関係にのみ関連します。

UI 要素 (A-Z)	説明
関係名	<p>関係の名前です。</p> <p><b>注:</b> 関係にのみ関連します。</p>
関係の制限	<p>クエリ結果において同一クエリ・ノード間の関係、または自己関係を処理する方法を定義するオプションを選択します。自己関係とは、あるクエリ・ノードから、そのノード自身につながっている関係のことです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>全関係を許可:</b> すべての関係がクエリ結果に表示されます。</li> <li>▶ <b>自己関係のみを許可:</b> 自己関係（自身へとつながる関係）のみが、クエリ結果に表示されます。</li> <li>▶ <b>非自己関係のみを許可:</b> 自己関係は、クエリ結果に表示されません。</li> </ul> <p><b>注:</b> 関係にのみ関連します。</p>

## [選択した項目に対する操作の選択] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、選択した CI からモデルおよびビューを作成できます。

利用方法	<p>モデリング・スタジオで、[CI の選択] で検索した CI を空のキャンバスにドラッグします。</p>
重要情報	<p>個々の CI または複数の CI をキャンバスにドラッグできます。また、通常の CI またはモデル、あるいはその両方を選択してキャンバスにドラッグできます。複数の CI を選択するには、CTRL キーを押しながら CI を選択します。</p>



ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。







UI 要素 (A-Z)	説明
新規モデルの作成	選択した CI から成るモデルを作成するときに選択します。キャンバスにドラッグした CI の中に、モデル CI タイプへの有効なリンクを持たない CI が少なくとも 1 つ含まれている場合、このオプションは無効になります。
新規ビューの作成	選択によって形成された CI のコレクションに基づいたビューを作成するときに選択します。
選択した CI のモデルの編集	選択したモデルを Model Editor で編集するときに選択します。 <b>注:</b> このオプションは、キャンバスに単一のモデルがドラッグされている場合にのみ表示されます。

## [関連 CI の条件] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、隣接検索パスの CI タイプに条件を定義することができます。


利用方法	[CI を公開] ダイアログ・ボックスの条件カラムにある [条件の追加] ボタンまたは [定義を編集] ボタンをクリックします。
------	--

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。


UI 要素 (A-Z)	説明
	定義した属性条件を追加します。
	属性条件を削除します。
	選択した行を上へ移動します。
	選択した行を下へ移動します。
	条件定義を表示します。
<b>AND/OR</b>	複数の条件をリンクさせるには、[AND/OR] フィールド内をクリックし、[AND] または [OR] を選択します。
<b>属性名</b>	リストから属性を選択します。
 <b>大括弧</b>	[ <b>大括弧</b> ] ボックス内をクリックすると、より複雑な論理ステートメントを作成するのに使用できる括弧のリストが表示されます。
<b>条件</b>	[要素インスタンス] ダイアログ・ボックスで定義した属性条件の定義が含まれています。
<b>NOT</b>	定義した内容と反対の条件構文を使用する場合に [NOT] を選択します。 <b>注:</b> [NOT] を選択した場合、クエリの結果には、値が割り当てられていない CI インスタンスのデータは含まれません。たとえば、システム内に 3 つのノード CI があり、ノード 1 には値 A が割り当てられ、ノード 2 には値 B が割り当てられ、ノード 3 には値が割り当てられていないとします。A に等しい値を持つすべてのノードを取得するクエリを作成し、[NOT] を選択した場合、ノード 3 には値が割り当てられていないため、クエリの結果にはノード 2 のみが含まれます。
<b>演算子</b>	必要な演算子を選択します。詳細については、42 ページの「属性演算子の定義」を参照してください。
<b>値</b>	属性の値を入力または選択します。[値] オプションは、選択した属性タイプに応じて変わります。

## [公開パスの作成 / 編集 / 保存] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、新規隣接検索パスの定義または既存パスの編集を行うことができます。


<b>利用方法</b>	<p>新しい隣接検索パスを定義するには、モデル・エディタで [隣接検索]  ボタンをクリックし、[隣接検索パスの作成] を選択します。</p> <p>既存の公開パスを編集するには、[公開パスを開く] ダイアログ・ボックスで公開パスを選択し、[編集] をクリックします。</p> <p>公開パスを保存するには、[CI を公開] ダイアログ・ボックスの [パスの保存] をクリックします。</p>
-------------	---

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素 (A-Z)	説明
<b>説明</b>	パスの説明を入力します。
<b>名前</b>	パスの名前を入力します。
<b>プレビュー</b>	<p>[CI を公開] ダイアログ・ボックスが開き、パスの関連 CI が表示されます。</p> <p><b>注:</b> このボタンは [隣接検索パスの保存] ダイアログ・ボックスには表示されません。</p>
<b>パスを公開</b>	<p> アイコンをクリックして CI タイプのツリーが表示されたダイアログ・ボックスを開き、パスを作成します。パスの次のアイテムの CI タイプを選択します。</p> <p>公開パス・アイテムの上にポインタを置くと、次のオプションが有効になります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>削除:</b> 公開パスからアイテムを削除します。</li> <li>▶ <b>条件の追加:</b> [関連 CI の条件] ダイアログ・ボックスが開きます。ここで公開パス アイテムの条件を設定できます。</li> <li>▶ <b>クエリ ノード タイプの再設定:</b> CI タイプのツリーが開きます。ここで公開パス アイテムの CI タイプを変更できます。</li> </ul>

## [新規ビューの作成] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、モデルからビューを作成するためのパースペクティブを選択できます。

<b>利用方法</b>	モデリング・スタジオのモデル・エディタ、パースペクティブ・ベース・ビュー・エディタ、または CI の選択でモデルを右クリックして「 <b>選択したモデルのビューを生成</b> 」を選択するか、モデル・エディタから「 <b>選択したモデルのビューを生成</b> 」アイコン  をクリックします。
<b>重要情報</b>	左表示枠でパースペクティブを選択し、矢印ボタンを使用して右表示枠に移動します。
<b>関連タスク</b>	297 ページの「モデルに基づいたパースペクティブ・ベース・ビューの作成」

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

<b>UI 要素 (A-Z)</b>	<b>説明</b>
<b>利用可能なパースペクティブ</b>	モデルへの適用対象として選択可能なパースペクティブのリストです。
<b>選択したパースペクティブ</b>	モデルへの適用対象として選択したパースペクティブです。

## [サイクル定義] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、ビューにサイクル階層を定義できます。

<b>利用方法</b>	モデリング・スタジオのパターン・ビュー・エディタで、[階層] 表示枠のクエリ・ノードを右クリックし、[ <b>サイクルの定義</b> ] を選択します。
<b>重要情報</b>	ビュー階層にサイクルを定義することで、ビューの TQL クエリ定義を拡張できます。[階層] 表示枠でソース・クエリ・ノードにするクエリ・ノードを選択します。[サイクル定義] ダイアログ・ボックスにそのソースに対して有効なターゲット・クエリ・ノードが表示されます。サイクル内のターゲット・クエリ・ノードとその階層は、ソース・クエリ・ノードの子または兄弟（選択した折りたたみルールに応じて異なる）として扱われます。

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

UI 要素 (A-Z)	説明
<b>折りたたみルール</b>	次のオプションのいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>ソースの下で折りたたまれたサイクル</b>: ターゲット・クエリ・ノードはソース・クエリ・ノードの子になります。</li> <li>▶ <b>親の下で平均化されたサイクル</b>: ターゲット・クエリ・ノードはソース・クエリ・ノードの兄弟になります。</li> </ul>
<b>ターゲット</b>	選択したソース・クエリ・ノードに対して有効なターゲット・クエリ・ノードが表示されます。この場合の有効なターゲット・クエリ・ノードとは、次の条件すべてを満たすクエリ・ノードです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ ソース・クエリ・ノードに関連付けられている</li> <li>▶ ソース・クエリ・ノードの祖先（またはソース・クエリ・ノード自体）である</li> <li>▶ クエリ・ベース・ノードである（グループ化ノードではない）</li> </ul>

## [非表示 CI] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、非表示 CI をビューに戻すことができます。


<b>利用方法</b>	パースペクティブ・ベース・ビュー・エディタで、[結果の表示] 表示枠のツールバーにある <b>[非表示 CI を表示]</b> アイコンをクリックします。
-------------	---

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。



UI 要素 (A-Z)	説明
<チェック ボックス>	元に戻す CI のチェック・ボックスを選択します。
CI タイプ	除外された CI の CI タイプです。
名前	除外された CI の名前です。
復元	選択した CI をビューに含めるときに、 <b>[復元]</b> をクリックします。
すべて選択	ビューに含めるためにリスト内のすべての CI を選択するとき、 <b>[すべて選択]</b> をクリックします。
すべて選択解除	リスト内のすべての CI のチェック・ボックスをクリアするとき、 <b>[すべて選択解除]</b> をクリックします。

## [階層ルール] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、階層ルールを定義してビューの階層を設定できます。

<b>利用方法</b>	パターン・ビュー・エディタの [階層] 表示枠で、階層メソッドとして [ルールベース] を選択しているには、ツールバーから <b>[階層ルールを追加]</b> ボタン  をクリックします。
<b>重要情報</b>	定義する階層ルールごとに、ソース CI タイプ、ターゲット CI タイプ、関係、方向を選択します。

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

UI 要素 (A-Z)	説明
	階層ルールを追加するときにクリックします。
	選択した階層ルールを削除するときにクリックします。
<b>関係</b>	選択した階層ルールを編集するときに、ドロップダウン・リストから関係を選択します。
<b>関係の方向</b>	選択した階層ルールを編集するときに、ドロップダウン・リストから方向を選択します。
<b>ソース</b>	選択した階層ルールを編集するときに、ドロップダウン・ツリーからソース CI タイプの CI タイプを選択します。
<b>ターゲット</b>	選択した階層ルールを編集するときに、ドロップダウン・ツリーからターゲット CI タイプの CI タイプを選択します。


## 左表示枠

この領域では、ビューと TQL クエリの参照、エディタ表示枠で開く CI またはモデルの検索、TQL クエリ・エディタまたはパターン・ビュー・エディタで使用する CI タイプの選択ができます。








<b>利用方法</b>	モデリング・スタジオのエディタ表示枠の左側にあります。
<b>重要情報</b>	<p>次のタブを利用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>CI の選択</b>：詳細については、151 ページの「CI の選択」を参照してください。</li> <li>▶ <b>リソース</b>：エディタ表示枠で開くモデル、ビュー、または TQL クエリを選択できます。</li> <li>▶ <b>CI タイプ</b>：エディタ表示枠で TQL クエリにクエリ・ノードとして追加する CI タイプをツリーから選択できます。</li> </ul>






## [リソース] タブ

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

UI 要素 (A-Z)	説明
	<p>リソース・ツリーに新しいフォルダを作成するには、<b>[新規フォルダ]</b> をクリックします。</p> <p><b>注:</b> このボタンは、リソース・タイプとして [クエリ] または [ビュー] を選択している場合にのみ表示されます。</p>
	<p>CMDB から選択したリソースを削除するには、<b>[削除]</b> をクリックします。</p>
	<p>リソースのツリーを更新するには、<b>[更新]</b> をクリックします。</p>
	<p>ツリー内のすべてのフォルダを展開するには、<b>[すべてを展開]</b> をクリックします。</p> <p><b>注:</b> このボタンは、リソース・タイプとして [クエリ] または [ビュー] を選択している場合にのみ表示されます。</p>
	<p>リソース・ツリー内のすべてのフォルダを折りたたむには、<b>[すべてを折りたたむ]</b> をクリックします。</p> <p><b>注:</b> このボタンは、リソース・タイプとして [クエリ] または [ビュー] を選択している場合にのみ表示されます。</p>
	<p>モデル、ビュー、または TQL クエリが含まれるフォルダのみを表示するには、<b>[空のフォルダを非表示]</b> をクリックします。</p>
	<p>リソース・タイプとして <b>[ビュー]</b> を選択している場合、ツリーに表示されるビューおよびテンプレートのタイプを絞り込むには、<b>[フィルタ ツリー]</b> をクリックします。</p> <p>リソース・タイプとして <b>[クエリ]</b> を選択している場合は、ツリーに表示される TQL クエリをクエリ・タイプで絞り込むことができます。</p> <p>リソース・タイプとして <b>[モデル]</b> を選択している場合、テーブル内のモデルを CI タイプで絞り込むには、<b>[フィルタ ツリー]</b> をクリックします。</p>



UI 要素 (A-Z)	説明
	<p>選択した TQL クエリをエディタ表示枠で開くには、<b>[クエリを開く]</b> をクリックします。</p> <p><b>注:</b> このボタンは、リソース・タイプとして [クエリ] を選択している場合にのみ表示されます。</p>
	<p>選択したビューをエディタ表示枠で開くには、<b>[ビューを開く]</b> をクリックします。</p> <p><b>注:</b> このボタンは、リソース・タイプとして [ビュー] を選択している場合にのみ表示されます。</p>
	<p>選択したモデルのプロパティを表示するには、<b>[CI のプロパティ]</b> をクリックします。</p> <p><b>注:</b> このボタンは、リソース・タイプとして [モデル] を選択している場合にのみ表示されます。</p>
	<p>選択した CI またはモデルを含むビューのリストを表示するには、<b>[選択済みの CI/ モデルを含むビューを表示]</b> をクリックします。</p> <p><b>注:</b> このボタンは、リソース・タイプとして [モデル] を選択している場合にのみ表示されます。</p>
	<p>選択したモデルをモデル・エディタで開くには、<b>[モデルを開く]</b> をクリックします。</p> <p><b>注:</b> このボタンは、リソース・タイプとして [モデル] を選択している場合にのみ表示されます。</p>
	<p>保存したビューまたはクエリを含む XML ファイルをモデリング・スタジオにインポートするには、<b>[XML からインポート]</b> をクリックします。</p> <p><b>注:</b> このボタンは、リソース・タイプとして [クエリ] または [ビュー] を選択している場合にのみ表示されます。</p>
	<p>ビューまたはクエリを XML スクリプトとしてエクスポートするには、<b>[XML へエクスポート]</b> をクリックします。このオプションは、ビューまたはクエリをあるワークステーションから別のワークステーションへ移動するとき 사용됩니다。</p> <p><b>注:</b> このボタンは、リソース・タイプとして [クエリ] または [ビュー] を選択している場合にのみ表示されます。</p>

UI 要素 (A-Z)	説明
<リソース ツリー>	<p>使用可能なビュー、モデル、または TQL クエリがそれぞれのフォルダの下にツリー形式で表示されます。</p> <p>次のビュー・タイプが含まれます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶  パターン・ビューを表します。</li> <li>▶  テンプレートを表します。</li> <li>▶  テンプレート・ベース・ビューを表します。</li> <li>▶  パースペクティブを表します。</li> <li>▶  パースペクティブ・ベース・ビューを表します。</li> </ul>
リソース タイプ	<p>リソース・ツリーに表示するリソース・タイプを選択します。選択できるオプションは、[モデル]、[ビュー]、[クエリ] です。</p>






### [リソース] タブのショートカット・メニュー

[リソース] タブでは、リソースを右クリックすると次の要素を選択できます。

メニュー項目	説明
削除	CMDB から選択したリソースを削除します。
エクスポート	ビューまたはクエリを XML スクリプトとしてエクスポートします。このオプションは、ビューまたはクエリをあるワークステーションから別のワークステーションへ移動するとき可以使用できます。
新規フォルダ	リソース・ツリーに新しいフォルダを作成します。
新規テンプレートベース ビュー	<p>選択したテンプレートのパラメータを編集して、新しいテンプレート・ベース・ビューを定義します。</p> <p><b>注:</b> このオプションは、ビュー・ツリーでテンプレートを選択している場合にのみアクティブになります。</p>
クエリを開く / ビューを開く	選択したビューまたは TQL クエリをエディタ表示枠で開きます。
更新	リソース・ツリーを更新します。
フォルダの名前の変更	選択したフォルダの名前を変更します。
名前を付けて保存	<p>選択した TQL クエリに新しい名前を付けて保存します。</p> <p><b>注:</b> このオプションはクエリにのみ関連します。</p>

## [CI タイプ] タブ

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

UI 要素 (A-Z)	説明
	CI タイプ・ツリー内のすべてのフォルダを展開するには、 <b>[すべてを展開]</b> をクリックします。
	CI タイプ・ツリー内のすべてのフォルダを折りたたむには、 <b>[すべてを折りたたむ]</b> をクリックします。
 <b>ツリー ビュー</b>	[ツリー ビュー] をクリックして、CI タイプ・ツリーの表示形式を選択します。次のオプションを利用できます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 表示ラベル</li> <li>▶ クラス名</li> <li>▶ 旧クラス名</li> </ul>
	選択した CI タイプをエディタ表示枠で開いている TQL クエリに追加するときにクリックします。 <b>注:</b> このボタンは、エディタ表示枠でビューまたは TQL クエリを開いている場合にのみアクティブになります。
	CI タイプ・ツリーを更新するには、 <b>[更新]</b> をクリックします。
<CI タイプ ツリー>	使用可能な CI タイプがツリー形式で表示されます。


## [CI タイプ] タブのショートカット・メニュー

[CI タイプ] タブでは、CI タイプを右クリックして次の要素を選択できます。



メニュー項目	説明
<b>選択した CIT をクエリに追加</b>	選択した CI タイプをエディタ表示枠で開いている TQL クエリに追加するときに選択します。
<b>CI タイプの定義へ移動</b>	CIT マネージャ内の選択した CI タイプに直接移動します。
<b>要素インスタンスの表示</b>	[CI インスタンス] ウィンドウが開き、選択した CIT のすべてのインスタンスが表示されます。詳細については、73 ページの「要素インスタンス ダイアログ・ボックス」を参照してください。

## [CI 監視の管理] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、モデルの CI に対するウォッチポイントを追加または削除できます。


<p><b>利用方法</b></p>	<p>モデル・エディタのモデル内から、[ウォッチポイント]  ボタンをクリックして [CI ウォッチポイントの管理] を選択するか、モデルの CI を右クリックして [ウォッチポイント] &gt; [CI ウォッチポイントの管理] を選択します。</p>
--------------------	--

ユーザ・インターフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素 (A-Z)	説明
<p> <b>追加</b></p>	<p>新しい監視の追加が行える [新規監視] ダイアログ・ボックスを開くときにクリックします。</p>
<p> <b>削除</b></p>	<p>選択した監視を削除するときにクリックします。</p>
<p><b>自動</b></p>	<p>チェック・マークは、監視で見つかった新しい CI が自動的にビューに追加されることを示します。</p>
<p><b>ソース CI</b></p>	<p>公開パスの開始部分となる CI が表示されます。</p>
<p><b>監視名</b></p>	<p>監視に関連付けられている公開パスの名前です。</p>
<p><b>監視パス</b></p>	<p>監視の公開パスが表示されます。</p>





## Model Editor






この機能では、モデルを作成および編集できます。






<b>利用方法</b>	モデリング・スタジオで、新しいモデルを作成する場合は [新規作成] ボタン  をクリックし、[インスタンス ベース モデル] を選択します。または、[リソース タイプ] として [モデル] を選択し、既存のモデルを開きます。
<b>重要情報</b>	<p>Model Editor には次の表示枠があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>【内容】表示枠</b>：モデルに含まれている CI およびモデルが一覧表示されます。</li> <li>▶ <b>【情報表示枠】</b>：選択した CI またはモデルのプロパティ、関連 CI、監視が表示されます。</li> </ul> <p>モデルに CI を追加するには、CI の選択から既存モデルの内容表示枠に CI をドラッグします。ただし、すでにモデルに含まれている CI はドラッグできません。</p> <p>選択したソース CI とターゲット CI を <b>Usage</b> 関係で関連付けることができるのであれば、CI の選択から情報表示枠の [関連 CI] タブに CI をドラッグできます。</p>







### 【内容】表示枠

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素 (A-Z)	説明
 マップ	CI を図にアイコンで表示する場合は [マップ モード] を選択します。
 テキスト	CI をリスト形式で表示する場合は [テキスト モード] を選択します。
	[CI のプロパティ] をクリックすると、選択した CI の [構成アイテムのプロパティ] ダイアログ・ボックスが開きます。
	[選択済みの CI を含むモデルを表示] をクリックすると、選択した CI を含むモデルのリストが表示されます。

UI 要素 (A-Z)	説明
	<p>[<b>選択済みの CI/ モデルを含むビューを表示</b>] をクリックすると、選択した CI または モデルを含むビューのリストが表示されます。</p>
	<p>[<b>選択したモデルを新しいタブで開く</b>] をクリックすると、選択したモデルが別の Model Editor タブで開きます。</p>
	<p>現在のモデルに基づいてビューを作成する場合は、[<b>選択したモデルの ビューを生成</b>] をクリックします。適用するパースペクティブを選択できる [新規ビューの作成] ダイアログ・ボックスが開きます。</p>
	<p>選択した CI をモデルから削除するときにクリックします (CI は CMDB に残ります)。</p>
	<p>[<b>新規モデルの挿入</b>] をクリックすると、既存モデル内に新規モデルを定義できる [新規モデル] ダイアログ・ボックスが開きます。</p>
	<p>[<b>すべてを展開</b>] をクリックすると、モデルの階層が展開します。</p>
	<p>[<b>すべてを折りたたむ</b>] をクリックすると、モデルの階層が折りたたまれます。</p>
	<p>次のオプションを使用する場合は[<b>公開</b>]をクリックします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>公開を開始</b>：[CI を公開] ダイアログ・ボックスが開きます。詳細については、[CI を公開] ダイアログ・ボックスを参照してください。</li> <li>▶ <b>公開パスの作成</b>：[公開パスの作成] ダイアログ・ボックスが開きます。詳細については、[公開パスの作成] ダイアログ・ボックスを参照してください。</li> <li>▶ <b>公開パスを開く</b>：[公開パスを開く] ダイアログ・ボックスが開きます。詳細については、[公開パスを開く] ダイアログ・ボックスを参照してください。</li> </ul>

UI 要素 (A-Z)	説明
	<p>次のオプションを使用する場合は<b>【監視】</b>をクリックします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>監視の更新</b>: 監視結果を表示し、モデルに追加する CI を選択します。詳細については、<b>【監視の更新】</b> ダイアログ・ボックスを参照してください。</li> <li>▶ <b>新規監視</b>: 選択した CI に新しい監視を定義します。詳細については、<b>【新規監視】</b> ダイアログ・ボックスを参照してください。</li> <li>▶ <b>CI 監視の管理</b>: 新しい監視を CI に追加します。または、既存の監視を削除します。詳細については、<b>【CI 監視の管理】</b> ダイアログ・ボックスを参照してください。</li> </ul>
	<p>モデルの配下のコレクションに CI をグループ化する場合は、<b>【CI コレクション】</b>をクリックします。次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>新規 CI コレクションの挿入</b>: 空の新しい CI コレクションが作成されます。コレクションの作成後は、CI の選択、<b>【関連 CI】</b> タブ、またはモデル自体からコレクションに CI をドラッグできます。</li> <li>▶ <b>CI コレクションに結合</b>: モデルの CI を 1 つまたはいくつか選択し、その CI を既存の CI コレクションに結合するか、新しいコレクションを作成します。</li> <li>▶ <b>CI コレクションの解除</b>: CI コレクションを選択して解除します。CI は、メイン・モデルの直下に存在するようになります。</li> </ul>
	<p><b>【検索】</b> ボックスと矢印コントロールの表示と非表示を切り替えるときに、<b>【検索】</b> をクリックします。</p> <p><b>注</b>: このボタンはテキスト・モードの場合にのみ表示されます。</p>
	<p>マップを更新し、マップのレイアウトを最適化するときにクリックします。</p> <p><b>注</b>: このボタンはマップ・モードの場合にのみ表示されます。</p>
	<p>表示枠のサイズに合わせてマップのサイズを変更するときには、<b>【ウィンドウに合わせる】</b> をクリックします。</p> <p><b>注</b>: このボタンはマップ・モードの場合にのみ表示されます。</p>

UI 要素 (A-Z)	説明
	<p><b>モード</b>・ドロップダウン・リストからカーソルの機能を選択します。次のオプションを利用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 選択</li> <li>▶ マップをドラッグ</li> <li>▶ ズーム</li> </ul> <p><b>注</b>：この機能はマップ・モードの場合にのみ表示されます。</p>
	<p>[印刷] ボタンをクリックして、[印刷]、[印刷プレビュー]、[印刷設定] のいずれかを選択します。</p>
	<p>CI を選択して [<b>外部関係の表示</b>] をクリックすると、その CI の関連 CI が表示されます。</p> <p><b>注</b>：このボタンはマップ・モードの場合にのみ表示されます。</p>
	<p>[<b>外部関係を非表示</b>] をクリックすると、関連 CI が非表示になります。</p> <p><b>注</b>：このボタンはマップ・モードの場合にのみ表示されます。</p>
	<p>現在の CI に監視が定義されていることを示します。</p>
	<p>監視が、現在のモデルに関連付けられた新しい CI を検出したことを示します。クリックすると、[監視の更新] ダイアログ・ボックスが開きます。</p>
<p><b>[CI タイプ] カラム</b></p>	<p>モデルの各 CI のタイプが表示されます。</p>
<p><b>検索</b></p>	<p>[検索] ボックスに CI 名または CI 名の一部を入力して、モデル内の CI を検索します。</p>
<p><b>次を検索</b></p>	<p>選択した検索フレーズに一致する、モデル内の次の項目を検索するときにクリックします。</p>
<p><b>前回を検索</b></p>	<p>選択した検索フレーズに一致する、モデル内の前の項目を検索するときにクリックします。</p>
<p><b>ハイライト表示</b></p>	<p>検索フレーズに一致する、モデル内のすべての項目を強調表示するときにクリックします。</p>
<p><b>[名前] カラム</b></p>	<p>モデルの各 CI の名前が表示されます。</p>



## ショートカット・メニュー・オプション

メニュー項目	説明
CI コレクション	<p>モデルの配下のコレクションに CI をグループ化する場合は、[CI コレクション] をクリックします。次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>新規 CI コレクションの挿入</b>：空の新しいコレクションが作成されます。コレクションの作成後は、CI の選択、[関連 CI] タブ、またはモデル自体からコレクションに CI をドラッグできます。</li> <li>▶ <b>CI コレクションに結合</b>：モデルの CI を 1 つまたはいくつか選択し、その CI を既存の CI コレクションに結合するか、新しいグループを作成します。</li> <li>▶ <b>CI コレクションの解除</b>：CI コレクションを選択して解除します。CI は、メイン・モデルの直下に存在するようになります。</li> </ul>
ウィンドウに合わせる	<p>表示枠のサイズに合わせてマップのサイズが変更されます。</p> <p><b>注</b>：このオプションはマップ・モードの場合にのみ表示されます。</p>
選択したモデルのビューを生成	<p>選択すると、現在のモデルに基づいてビューが作成されます。[新規ビューの作成] ダイアログ・ボックスが開き、適用するパースペクティブを選択できます。</p>
外部関係を非表示	<p>マップ上の関連 CI が非表示になります。</p> <p><b>注</b>：このオプションはマップ・モードの場合にのみ表示されます。</p>
新規モデルの挿入	<p>既存モデル内に新規モデルを作成できる [新規モデル] ダイアログ・ボックスが開きます。</p>
選択したモデルを新しいタブで開く	<p>選択したモデルが別の Model Editor タブで開きます。</p>
印刷	<p>次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 印刷</li> <li>▶ 印刷プレビュー</li> <li>▶ 印刷設定</li> </ul>
プロパティ	<p>選択した CI の [構成アイテムのプロパティ] ダイアログ・ボックスが開きます。</p>
レイアウト更新	<p>マップが更新され、マップのレイアウトが最適化されます。</p> <p><b>注</b>：このオプションはマップ・モードの場合にのみ表示されます。</p>

メニュー項目	説明
公開	<p>次のオプションを利用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>公開を開始</b>：[CI を公開] ダイアログ・ボックスが開きます。詳細については、[CI を公開] ダイアログ・ボックスを参照してください。</li> <li>▶ <b>公開パスを開く</b>：[公開パスを開く] ダイアログ・ボックスが開きます。詳細については、[公開パスを開く] ダイアログ・ボックスを参照してください。</li> </ul>
選択した CI をモデルから削除	<p>選択した CI がモデルから削除されます (CI は CMDB に残ります)。</p>
選択	<p>カーソルの機能を選択します。次のオプションを利用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 選択</li> <li>▶ マップをドラッグ</li> <li>▶ ズーム</li> </ul> <p><b>注</b>：このオプションはマップ・モードの場合にのみ表示されます。</p>
含まれるモデルを表示	<p>選択した CI を含むモデルのリストを表示するときにクリックします。</p>
含まれるビューを表示	<p>選択した CI またはモデルを含むビューのリストを表示するときにクリックします。</p>
外部関係の表示	<p>選択した CI の関連 CI を表示します。</p> <p><b>注</b>：このオプションはマップ・モードの場合にのみ表示されます。</p>
監視	<p>次のオプションを利用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>監視の更新</b>：監視結果を表示し、モデルに追加する CI を選択します。詳細については、[監視の更新] ダイアログ・ボックスを参照してください。</li> <li>▶ <b>新規監視</b>：選択した CI に新しい監視を定義します。詳細については、[新規監視] ダイアログ・ボックスを参照してください。</li> <li>▶ <b>CI 監視の管理</b>：新しい監視を CI に追加します。または、既存の監視を削除します。詳細については、[CI 監視の管理] ダイアログ・ボックスを参照してください。</li> </ul>
ズーム	<p>パーセントのリストからマップのサイズを選択します。</p> <p><b>注</b>：このオプションはマップ・モードの場合にのみ表示されます。</p>

## 情報表示枠 – [プロパティ] タブ



この領域には、選択した CI のプロパティが表示されます。

<b>重要情報</b>	この表示枠は、IT ユニバース・マネージャの情報表示枠の [プロパティ] タブとまったく同じです。詳細については、233 ページの「[構成アイテムのプロパティ] ダイアログ・ボックス」を参照してください。
-------------	--

## 情報表示枠 – [関連 CI] タブ

この領域には、Impacted By (Potentially) 関係が含まれるいずれかのトリプレットによって、モデルに関連付けられている CI が表示されます。


ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

UI 要素 (A-Z)	説明
	選択した CI への関係を削除するときにクリックします。
	[ <b>反転方向</b> ] をクリックすると、選択した CI の関係の方向が切り替わります。 <b>注:</b> このオプションは、CI が <b>Usage</b> 関係によって関連付けられている場合にのみアクティブになります。
<CI リスト>	Usage 関係によってモデルに関連付けられている CI の名前と CI タイプのリストが、関係の方向とともに表示されます。
<b>適用フィルタ</b>	結果をフィルタする際の基準となるフィールドを選択し、[ <b>適用</b> ] ボックスに値を入力します。

## 情報表示枠 - [監視] タブ

この領域には、選択した CI に対して定義されているウォッチポイントが表示されます。

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。







UI 要素 (A-Z)	説明
	監視を編集できる [CI 監視の管理] ダイアログ・ボックスを開くときにクリックします。
自動	監視で見つかった新しい CI が自動的にビューに追加されるかどうかを示します。
ソース CI	公開パスの開始部分となる CI が表示されます。
監視名	監視に関連付けられている公開パスの名前です。
監視パス	監視の公開パスが表示されます。

## [モデリング スタジオ] ページ

このページでは、モデルとビューを作成および編集できます。


利用方法	ナビゲーション・メニューから [モデリング スタジオ] を選択するか、[マネージャ] > [モデリング] > [モデリング スタジオ] を選択します。
重要情報	<p>[モデリング スタジオ] ページには次の表示枠があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>左表示枠</b> : CI を検索したり、開くビュー、モデル、または TQL クエリを選択したりできます。詳細については、311 ページの「左表示枠」を参照してください。</li> <li>▶ <b>エディタ表示枠</b> : 選択したビュー、モデル、または TQL クエリのトポロジ・マップが表示されます。</li> </ul> <p>ビューまたはモデルを開くまで、エディタ表示枠は空のキャンバスになっています。ビュー、モデル、または TQL クエリを開くと、それぞれに関連するエディタが表示されます。エディタ表示枠では同時に複数のビュー、モデル、クエリを開くことができます。それぞれ別のタブに表示されます。</p>
関連情報	Model Editor, パターン・ベース・ビュー・エディタ, パターン・ビュー・エディタ, TQL クエリ・エディタ

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。




UI 要素 (A-Z)	説明
 <b>新規作成</b>	<p>[<b>新規作成</b>] ボタンをクリックし、次のどちらかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>インスタンス ベース モデル</b>: 新しいインスタンス・ベース・モデルを作成する場合。</li> <li>▶ <b>パターン ベース モデル</b>: 新しいパターン・ベース・モデルを作成する場合。</li> <li>▶ <b>パターン ビュー</b>: 新しいパターン・ビューを作成する場合。</li> <li>▶ <b>テンプレート ベース ビュー</b>: 新しいテンプレート・ベース・ビューを作成する場合。</li> <li>▶ <b>パースペクティブ ベース ビュー</b>: 新しいパースペクティブ・ベース・ビューを作成する場合。</li> <li>▶ <b>テンプレート</b>: 新しいテンプレートを作成する場合。</li> <li>▶ <b>パースペクティブ</b>: 新しいパースペクティブを作成する場合。</li> <li>▶ <b>クエリ</b>: 新しい TQL クエリを作成する場合。</li> </ul>
	<p>ビュー、モデル、またはクエリに加えた変更を保存するときに、[<b>保存</b>] をクリックします。</p> <p>ビューの場合は、ビューの名前を変更し、そのビューを適切なフォルダに保存できるダイアログ・ボックスが開きます。</p>
	<p>ビュー、モデル、または TQL クエリに新しい名前を付けて保存する場合は、[<b>名前を付けて保存</b>] をクリックします。</p>
	<p>最後に加えた変更を取り消すときに、[<b>元に戻す</b>] をクリックします。</p>
	<p>最後に行った操作を繰り返すときに、[<b>やり直す</b>] をクリックします。</p>
	<p>エディタの通常表示と全画面表示を切り替えるときに、[<b>ワークスペースの最大化</b>] をクリックします。</p>
<p>&lt;メニュー&gt;</p>	<p>詳細については、185 ページの「メイン・メニュー」を参照してください。</p>

## [選択済みの CI を含むモデル] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、選択した CI を含むモデルのリストが表示されます。


<b>利用方法</b>	モデル・エディタで <b>[選択済みの CI を含むモデルを表示]</b>  ボタンをクリックするか、ショートカット・メニューから <b>[含まれるモデルを表示]</b> を選択します。
-------------	--

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。


UI 要素 (A-Z)	説明
	[ <b>CI のプロパティ</b> ] をクリックすると、選択したモデルの [ <b>構成アイテムのプロパティ</b> ] ダイアログ・ボックスが開きます。
	[ <b>選択済みの CI/ モデルを含むビューを表示</b> ] をクリックすると、選択したモデルを含むビューのリストが表示されます。
	[ <b>モデルの削除</b> ] をクリックすると、選択したモデルが削除されます。
<b>CI タイプ</b>	選択した CI を含むモデルの CI タイプが表示されます。
<b>検索</b>	[ <b>検索</b> ] ボックスにモデル名またはモデル名の一部を入力して、リスト内でモデルを検索します。
<b>次を検索</b>	選択した検索フレーズに一致する、リスト内の次の項目を検索するときにクリックします。
<b>前回を検索</b>	選択した検索フレーズに一致する、リスト内の前の項目を検索するときにクリックします。
<b>名前</b>	選択した CI を含むモデルの名前が表示されます。 <b>注:</b> 現在のモデルの名前は淡い色のテキストで表示されます。

## [新規モデル] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、CI のコレクションを含む再利用可能なモデルを定義できます。


利用方法	[ <b>新規作成</b> ]  ボタンをクリックして [ <b>インスタンス ベース モデル</b> ] を選択するか、CI の選択のツリーから編集表示枠に CI をドラッグして [ <b>新規モデルの作成</b> ] を選択します。
関連タスク	294 ページの「ビジネス CI モデルの作成」

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。




UI 要素 (A-Z)	説明
<b>新規 CI プロパティの定義</b>	CI プロパティの値を入力します。キー・プロパティと必須プロパティの値を入力する必要があります。キー・プロパティには鍵のマーク  が付き、必須プロパティにはアスタリスクが付いています。
<b>CI タイプの選択</b>	モデルのベースとなる CI タイプをリストから選択します。

## [新規パターン ビュー] / [新規テンプレート] / [新規パースペクティブ] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、パターン・ビュー・エディタを使用して新しいパターン・ビュー、テンプレート、またはパースペクティブを定義できます。


利用方法	モデリング・スタジオで、[ <b>新規作成</b> ]  ボタンをクリックし、ドロップダウン・メニューから [ <b>パターン ビュー</b> ]、[ <b>テンプレート</b> ]、または [ <b>パースペクティブ</b> ] を選択します。
重要情報	選択して [OK] をクリックした後、直接パターン・ビュー・エディタに移動してビューの作成を開始します。詳細については、333 ページの「パターン・ビュー・エディタ」を参照してください。
関連タスク	285 ページの「パターン・ビューの作成」、286 ページの「テンプレートの作成」、288 ページの「パースペクティブの作成」

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

UI 要素 (A-Z)	説明
	選択した検索フレーズに一致する、TQL クエリのリスト内の次の項目に移動するときにクリックします。
	選択した検索フレーズに一致する、TQL クエリのリスト内の前の項目に移動するときにクリックします。
	検索フレーズに一致する、TQL クエリのリスト内のすべての項目を強調表示するときにクリックします。
<TQL クエリ・ツリー>	既存の TQL クエリがツリー形式で表示されます。
ベース クエリの選択	既存の TQL クエリに基づいて新しいビューを作成する場合、このオプションを選択し、ツリーから TQL クエリを選択します。パターン・ビュー・エディタが開き、選択した TQL クエリがキャンバスに表示されます。
新規クエリの作成	新しい TQL クエリに基づいて新しいビューを作成する場合、このオプションを選択します。パターン・ビュー・エディタが開き、空のキャンバスが表示されます。
検索	[検索] ボックスに TQL クエリ名または TQL クエリ名の一部を入力して、リスト内の TQL クエリを検索します。

## [新規監視] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、モデルの CI に対するウォッチポイントを定義できます。

利用方法	モデル・エディタのモデル内から、[ウォッチポイント]  ボタンをクリックして [ウォッチポイントの新規作成] を選択するか、モデルの CI を右クリックして [ウォッチポイント] > [ウォッチポイントの新規作成] を選択します。
------	--




<b>重要情報</b>	<p>選択した CI の公開パスが見つからなかった場合は、監視を定義できません。</p> <p>新規モデルの場合、モデルを保存しないうちは CI に監視を定義できません。</p>
<b>関連タスク</b>	294 ページの「ビジネス CI モデルの作成」

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素 (A-Z)	説明
<b>モデルを自動的に更新</b>	選択したパスで公開された CI をすべて自動的にモデルに追加するときに選択します。
<b>更新を手動で制御</b>	隣接検索された CI を選択したパスからモデルに手動で追加するときに選択します。
<b>監視公開パスを選択</b>	ドロップダウン・リストから公開パスを選択します。
<b>CI タイプに対する公開パスを表示</b>	ドロップダウン・リストから CI タイプを選択します。下部のドロップダウン・ボックスのリストに、この CI タイプで始まるすべての公開パスが表示されます。

## [公開パスを開く] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、既存のパスを開くことができます。


<b>利用方法</b>	モデル・エディタのモデル内から、[隣接検索]  ボタンをクリックして [隣接検索パスを開く] を選択するか、モデルの CI を右クリックして [隣接検索] > [隣接検索パスを開く] を選択します。
<b>重要情報</b>	使用する公開パスを選択したら、[実行] をクリックします。選択したパスで CI が見つかった場合、そのパスの [CI を公開] ダイアログ・ボックスが開きます。CI が見つからなかった場合は、当該パスで CI が見つからなかったことを伝えるメッセージが表示されます。

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素 (A-Z)	説明
詳細カラム	既存パスの説明が表示されます。
編集	選択したパスを編集できる [公開パスの編集] ダイアログ・ボックスが開きます。
実行	選択した公開パスの [CI を公開] ダイアログ・ボックスが開きます。
検索	[検索] ボックスにパス名またはパス名の一部を入力して、リスト内のパスを検索します。
次を検索	選択した検索フレーズに一致する、パスのリスト内の次の項目を検索するときにクリックします。
前回を検索	選択した検索フレーズに一致する、パスのリスト内の前の項目を検索するときにクリックします。
ハイライト表示	検索フレーズに一致する、パスのリスト内のすべての項目を強調表示するときにクリックします。
[名前] カラム	既存パスの名前が表示されます。
削除	選択したパスが削除されます。
CI タイプに対する公開パスを表示	ドロップダウン・リストから CI タイプを選択します。下部のテーブルに、選択した CI で始まるすべてのパスが表示されます。

## [パターン ベース モデル] ウィザード

このウィザードでは、パターン・ベース・モデルを作成できます。

利用方法	モデリング・スタジオで、[新規作成]  ボタンをクリックし、ドロップダウン・メニューから [パターン ベース モデル] を選択します。
重要情報	パターン・ベース・モデルを作成すると、通常のモデルと同様に、モデルは CI として保存されます。新しい TQL クエリに基づいてモデルを作成する場合、クエリも保存され、TQL クエリ・ツリーに表示されます。
関連タスク	296 ページの「パターン・ベース・モデルの作成」


ウィザード・マップ	[パターン ベース モデル] ウィザードには次のページが含まれています。 [CI タイプの選択] ページ > [クエリの選択] ページ
関連情報	276 ページの「パターン・ベース・モデル」

### [CI タイプの選択] ページ

このウィザードでは、モデルの CI タイプを選択し、詳細を定義できます。

ウィザード・マップ	[パターン ベース モデル] ウィザードには次のページが含まれています。 [CI タイプの選択] ページ > [クエリの選択] ページ
-----------	--

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。




UI 要素 (A-Z)	説明
新規 CI プロパティの定義	CI プロパティの値を入力します。キー・プロパティと必須プロパティの値を入力する必要があります。キー・プロパティには鍵のマーク  が付き、必須プロパティにはアスタリスクが付いています。
CI タイプの選択	モデルのベースとなる CI タイプをリストから選択します。

### [クエリの選択] ページ

このウィザード・ページでは、モデルのベースとなる TQL クエリを選択できます。


ウィザード・マップ	[パターン ベース モデル] ウィザードには次のページが含まれています。 [CI タイプの選択] ページ > [クエリの選択] ページ
-----------	--

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

UI 要素 (A-Z)	説明
	選択した検索フレーズに一致する, TQL クエリのリスト内の次の項目に移動するときにクリックします。
	選択した検索フレーズに一致する, TQL クエリのリスト内の前の項目に移動するときにクリックします。
	検索フレーズに一致する, TQL クエリのリスト内のすべての項目を強調表示するときにクリックします。
<TQL クエリ ツリー>	既存の TQL クエリがツリー形式で表示されます。
<b>ベース クエリの選択</b>	既存の TQL クエリに基づいてモデルを作成する場合、このオプションを選択し、ツリーからクエリを選択します。TQL クエリ・エディタが開いて、選択したクエリがキャンバスに表示されます。
<b>新規クエリの作成</b>	新しい TQL クエリに基づいてモデルを作成する場合、このオプションを選択します。TQL クエリ・エディタが開き、空のキャンバスが表示されます。
<b>検索</b>	[検索] ボックスに TQL クエリ名または TQL クエリ名の一部を入力して、リスト内のクエリを検索します。








## パターン・ビュー・エディタ



この機能では、パターン・ビュー、テンプレート、パースペクティブを作成できます。

<p><b>利用方法</b></p>	<p>パターン・ビュー・エディタで新しいビューを開くには、モデリング・スタジオに移動し、<b>[新規作成]</b>  ボタンをクリックし、必要なタイプのビューを選択します。</p> <p>パターン・ビュー・エディタで既存のビューを開くには、モデリング・スタジオの左表示枠にある<b>[リソース]</b> タブに移動し、<b>[リソース タイプ]</b> として <b>[ビュー]</b> を選択します。ツリーでビューを右クリックして <b>[ビューを開く]</b> を選択します。または、ビューをダブルクリックするか、ビューをエディタ表示枠にドラッグします。エディタ表示枠にビューのトポロジ・マップが開きます。</p>
<p><b>重要情報</b></p>	<p>エディタには、<b>ビュー・モード</b>、または<b>レポート・モード</b>でアクセスできます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>ビュー・モード</b>では、次の表示枠が表示されます。             <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>編集表示枠</b>：詳細については、355 ページの「TQL クエリ・エディタ」を参照してください。</li> <li>▶ <b>[詳細] 表示枠</b>：詳細については、357 ページの「詳細表示枠」を参照してください。</li> <li>▶ <b>[階層] 表示枠</b>：ビューの階層を設定できます（エディタ・ページの右側部分にあります）。</li> </ul> </li> <li>▶ <b>レポート・モード</b>では、次の表示枠が表示されます。             <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>[階層] 表示枠</b>：ビューの階層を設定できます（エディタ・ページの左側部分にあります）。</li> <li>▶ <b>クエリ ノード定義</b>：レポートに含める属性を選択し、その順序を設定できます。</li> </ul> </li> </ul> <p><b>注</b>：ビュー、テンプレート、またはパースペクティブを保存するには、モデリング・スタジオのメイン・ツールバーにある <b>[保存]</b> ボタンを使用します。</p>
<p><b>関連タスク</b></p>	<p>285 ページの「パターン・ビューの作成」、286 ページの「テンプレートの作成」、288 ページの「パースペクティブの作成」</p>

## 【階層】表示枠

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

UI 要素 (A-Z)	説明
	<p>階層内にサブグループを作成するには、<b>[次の項目別にグループを追加]</b> をクリックします。次のオプションを利用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>属性別グループを追加</b>: [クエリ ノードのグループ化] ダイアログ・ボックスが開き、階層内のサブグループの属性を選択できます。</li> <li>▶ <b>タイプ別グループを追加</b>: 選択したクエリ・ノードの CI タイプに対して階層内にサブグループが作成されます。</li> <li>▶ <b>クエリ ノード別グループを追加</b>: 選択したクエリ・ノードのみに対して階層内にサブグループが作成されます。</li> </ul>
	<p><b>[属性別グループを編集]</b> をクリックすると、[クエリ ノードのグループ化] ダイアログ・ボックスが開き、階層内のサブグループの属性を編集できます。</p>
	<p>選択したクエリ・ノードの名前を変更するには、<b>[名前の変更]</b> をクリックします。</p>
	<p>階層ツリーから選択したクエリ・ノードを削除するには、<b>[クエリ ノードの削除]</b> をクリックします。</p>
	<p>選択したクエリ・ノードを階層の 1 つ上のレイヤに配置するには、<b>[クエリ ノード レイヤを上へ移動]</b> をクリックします。</p>
	<p>選択したクエリ・ノードを階層でその上にあるクエリ・ノードの配下に配置するには、<b>[クエリ ノード レイヤを下へ移動]</b> をクリックします。</p> <p><b>注</b>: 選択したクエリ・ノードが階層ツリーの最上位にある場合、<b>[クエリ ノード レイヤを下へ移動]</b> をクリックすると、階層でそのすぐ下にあるクエリ・ノードの配下に移動します。</p>
	<p>選択したクエリ・ノードを階層ツリーで上に移動するには、<b>[クエリ ノードを上へ移動]</b> をクリックします。階層内のクエリ・ノードの順序によって、[レポート] でビューに対して生成されるレポートでのクエリ・ノードの順序が決まります。</p>

UI 要素 (A-Z)	説明
	選択したクエリ・ノードを階層ツリーで下に移動するには、 <b>[クエリノードを下へ移動]</b> をクリックします。階層内のクエリ・ノードの順序によって、 <b>[レポート]</b> でビューに対して生成されるレポートでのクエリ・ノードの順序が決まります。
	トポロジ・レポートのプレビューを表示するには、 <b>[プレビュー]</b> をクリックします。 <b>注:</b> このオプションは、レポート・モードが選択されている場合にのみ <b>[階層]</b> 表示枠に表示されます。
< 階層ツリー >	階層ツリー内での TQL クエリのクエリ・ノードの配置には、ビューに対して定義された階層が反映されます。 クエリ・ノードをクリックしてドラッグすると、階層を変更できます。クエリ・ノードをクリックしてドラッグを開始すると、そのクエリ・ノードを配下に配置できるクエリ・ノードが緑で強調表示されます。
階層メソッド	階層を設定するメソッドを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>手動:</b> 階層を手動で設定します。クエリ・ノードをドラッグするか、ツールバー・ボタンを使用します。</li> <li>▶ <b>ルールベース:</b> <b>[階層ルール]</b> ダイアログ・ボックスが開き、階層のルールを設定できます。</li> </ul>

### ショートカット・メニュー



**[階層]** 表示枠では、階層ツリーでクエリ・ノードを右クリックすると次の要素を選択できます。

メニュー項目	説明
属性別グループを追加	<b>[属性別グループを編集]</b> を選択すると、 <b>[クエリノードのグループ化]</b> ダイアログ・ボックスが開き、階層内のサブグループの属性を編集できます。
タイプ別グループを追加	<b>[タイプ別グループを追加]</b> を選択すると、選択したクエリ・ノードの CI タイプに対して階層内にサブグループを作成できます。
クエリノード別グループを追加	<b>[クエリノード別グループを追加]</b> を選択すると、選択したクエリ・ノードに対してのみ階層内にサブグループを作成できます。




メニュー項目	説明
サイクルの定義	[ <b>サイクルの定義</b> ] を選択すると、サイクル階層を定義できます。詳細については、309 ページの「[サイクル定義] ダイアログ・ボックス」を参照してください。
クエリ ノードの削除	階層ツリーから選択したクエリ・ノードを削除するときに選択します。
クエリ ノードを下へ移動	階層ツリーで選択したクエリ・ノードを下に移動するときに選択します。
クエリ ノード レイヤを下へ移動	選択したクエリ・ノードを階層ツリーでその上にあるクエリ・ノードの配下に配置するときに、[ <b>クエリ ノード レイヤを下へ移動</b> ] を選択します。 <b>注:</b> 選択したクエリ・ノードが階層ツリーの最上位にある場合、[ <b>クエリ ノード レイヤを下へ移動</b> ] を選択すると、階層でそのすぐ下にあるクエリ・ノードの配下に配置します。
クエリ ノード レイヤを上へ移動	選択したクエリ・ノードを階層ツリーの 1 つ上のレイヤに配置するときに、[ <b>クエリ ノード レイヤを上へ移動</b> ] を選択します。
クエリ ノードを上へ移動	階層ツリーで選択したクエリ・ノードを上に移動するときに選択します。
名前の変更	選択したクエリ・ノードの名前を変更するときに選択します。
サブグラフ階層	選択したクエリ・ノードに対して定義したサブグラフをフラット表示するか、クエリ・ノードの下に折りたたんで表示するかを定義できます。 <b>注:</b> このオプションは、サブグラフが定義されているクエリ・ノードにのみ適用されます。

### [クエリ ノード定義] 表示枠

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。


UI 要素 (A-Z)	説明
	選択した属性をレポートのレイアウト順序で上に移動するには、[ <b>上</b> ] をクリックします。
	選択した属性をレポートのレイアウト順序で下に移動するには、[ <b>下</b> ] をクリックします。



UI 要素 (A-Z)	説明
	選択した属性の関数を編集するには、[編集] をクリックします。
	選択した属性をレポート・レイアウトから削除するには、[削除] をクリックします。
	選択した属性を [レポートのレイアウト] リストに移動するときにクリックします。
<b>関数の追加</b>	<p>[関数の追加] をクリックすると、[関数の追加] ダイアログ・ボックスが開き、選択したクエリ・ノードについて、レポートに含める関数を定義できます。追加した各関数は属性として扱われ、レポートのカラムになります。</p> <p><b>注:</b> このボタンは、ビュー階層で選択したクエリ・ノードの配下にクエリ・ノードがある場合にのみアクティブになります。</p>
<b>属性</b>	選択したクエリ・ノードに使用できる属性のリストです。
<b>グラフを定義</b>	<p>ビューの現在のレイヤのデータをグラフ形式で表示するには、[グラフを定義] をクリックします。[グラフのプロパティ] フィールドが表示されます。</p> <p>[グラフを定義] オプションは、次の条件を満たすクエリ・ノードまたはグループ化ノードに対してのみアクティブになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ ビュー階層で配下にレイヤがある</li> <li>▶ 属するビューのレイヤで唯一のクエリ・ノードである</li> <li>▶ レポート・レイアウトに対して数値属性が少なくとも1つ選択されている</li> </ul>
<b>レポートのレイアウト</b>	レポートの表示対象として選択された属性のリストが表示されます。レポートでの属性の順序を変更する場合や、関数を追加する場合は、ツールバー・ボタンを使用します。
<b>並べ替え順を設定</b>	クリックすると、[カラムの並べ替え順序の設定] ダイアログ・ボックスが開き、レポート・カラムの順序を設定できます。



### グラフのプロパティ

表示枠の [グラフのプロパティ] 部分には、次の要素が含まれています。

UI 要素 (A-Z)	説明
	グラフをレポートから削除するには、[グラフを削除] をクリックします。レポートはテーブル形式で生成されます。
次でブレークダウン	グラフは、CI またはグループ化ノードの表示ラベル別にブレークダウンされます。すべてのレポートについてこの設定が適用されます。
グラフのタイプ	円グラフを作成するには [円] を、棒グラフを作成するには [棒] を選択します。
値	ドロップダウン・リストから値を選択します。

### パターン・ベース・ビュー・エディタ








この機能では、パースペクティブ・ベース・ビューを作成および編集できます。



利用方法	<p>モデリング・スタジオで、[新規作成] ボタン  をクリックし、[パースペクティブ ベース ビュー] を選択して新しいビューを作成するか、CI の選択から空のキャンバスに CI をドラッグして [新規ビューの作成] を選択します。</p> <p>エディタで既存のビューを開くには、[リソース] 表示枠でリソース・タイプとして [ビュー] を選択し、ツリーから必要なパースペクティブ・ベース・ビューを選択して [ビューを開く]  をクリックするか、ビューをダブルクリックします。</p>
------	--

重要情報	<p>パースペクティブ・ベース・ビュー・エディタには次の表示枠があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>【内容】表示枠</b>：CI またはモデル、あるいはその両方をビューに含めるには、それらをこの表示枠にドラッグします。</li> <li>▶ <b>【パースペクティブ】表示枠</b>：ビューの作成のためにコンテンツに適用するパースペクティブを選択します。</li> <li>▶ <b>【結果の表示】表示枠</b>：現在のビューのプレビューが示されたトポロジ・マップが表示されます。この表示枠には、ITユニバース・マネージャの機能のほとんどが含まれています。</li> </ul>
関連タスク	<p>297 ページの「モデルに基づいたパースペクティブ・ベース・ビューの作成」、298 ページの「CI のコレクションに基づいたパースペクティブ・ベース・ビューの作成」</p>

### 【内容】表示枠

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素 (A-Z)	説明
	現在のビューの確認のために IT ユニバース・マネージャに直接移動します。
	[CI のプロパティ] をクリックすると、選択した CI の [構成アイテムのプロパティ] ダイアログ・ボックスが開きます。
	[選択済みの CI を含むモデルを表示] をクリックすると、選択した CI を含むモデルのリストが表示されます。
	[選択済みの CI/ モデルを含むビューを表示] をクリックすると、選択した CI または モデルを含むビューのリストが表示されます。
	[選択したモデルを新しいタブで開く] をクリックすると、選択したモデルが別の Model Editor タブで開きます。
	選択したモデルに基づいてビューを作成する場合は、[選択したモデルのビューを生成] をクリックします。[新規ビューの作成] ダイアログ・ボックスが開き、適用するパースペクティブを選択できます。
	選択した CI をビュー・コンテンツから削除するときにクリックします。






UI 要素 (A-Z)	説明
	[定義プロパティの表示] をクリックすると、[定義プロパティの表示] ダイアログ・ボックスが開き、ビューのプロパティを設定できます。
	[検索] ボックスと矢印コントロールの表示と非表示を切り替えるときに、[検索] をクリックします。
[CI タイプ] カラム	ビューの各 CI のタイプが表示されます。
検索	[検索] ボックスに CI 名または CI 名の一部を入力して、ビュー内の CI を検索します。
次を検索	選択した検索フレーズに一致する、ビュー内の次の項目を検索するときにクリックします。
前回を検索	選択した検索フレーズに一致する、ビュー内の前の項目を検索するときにクリックします。
ハイライト表示	検索フレーズに一致する、ビュー内のすべての項目を強調表示するときにクリックします。
[名前] カラム	ビューの各 CI の名前が表示されます。

### ショートカット・メニュー・オプション

メニュー項目	説明
選択したモデルのビューを生成	選択したモデルに基づいてビューを作成するときに選択します。[新規ビューの作成] ダイアログ・ボックスが開き、適用するパースペクティブを選択できます。
選択したモデルを新しいタブで開く	選択したモデルが別の Model Editor タブで開きます。
プロパティ	選択した CI の [構成アイテムのプロパティ] ダイアログ・ボックスが開きます。
ベース CI の削除	選択した CI またはモデルがビュー・コンテンツから削除されます。
含まれるモデルを表示	選択した CI を含むモデルのリストを表示するときにクリックします。
含まれるビューを表示	選択した CI またはモデルを含むビューのリストを表示するときにクリックします。

## [パースペクティブ] 表示枠












ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素 (A-Z)	説明
	選択したパースペクティブの選択したレベルを削除します。
	選択したパースペクティブを現在のレベルから前のレベルに移動します。
	選択したパースペクティブを現在のレベルから次のレベルに移動します。
	選択したパースペクティブに新しいレベルを追加します。前のパースペクティブ・レベルの結果は、新しいレベルの入力コンテンツとして使用されます。
	ダイアログ・ボックスを開き、使用可能なパースペクティブが表示されます。矢印ボタンを使用して、必要なパースペクティブを利用可能なカラムから選択済みカラムに移動します。
<b>モデル階層の上に適用</b>	<p>モデルに基づくビューの場合、<b>[モデル階層の上に適用]</b> チェック・ボックスを選択すると、ビューにモデル階層が組み込まれ、モデルに含まれている CI およびモデル自体にパースペクティブが適用されます。このチェック・ボックスをクリアすると、モデル階層がビューから除外され、モデル自体にのみパースペクティブが適用されるようになります。この場合、モデルは通常の CI として扱われます。</p> <p><b>注:</b> CI コレクション、またはモデルと CI コレクションに基づくビューの場合、このオプションは無効です。</p>
<b>パースペクティブ</b>	選択したパースペクティブのリストが表示されます。

## [結果の表示] 表示枠

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

UI 要素 (A-Z)	説明
<b>マップ</b>	マップ・モードで結果を表示するときにクリックします。
<b>テキスト</b>	テキスト・モードで結果を表示するときにクリックします。

UI 要素 (A-Z)	説明
	ビューの 2 つの CI 間に関係を作成します。
	トポロジ・マップの凡例の表示/非表示を切り替えます。
	トポロジ・マップ内の 1 つ上のレベルに移動します。
	トポロジ・マップ内の 1 つ下のレベルに移動します。
	選択した CI をビューから削除します。
	<b>CI のプロパティを表示</b> をクリックすると、選択した CI の [構成アイテムのプロパティ] ダイアログ・ボックスが開きます。
	[更新] をクリックすると、ビューの結果が更新されます。
	[ビューから CI を非表示] をクリックすると、選択した CI がビューで非表示になります。このオプションは、パースペクティブを介してビューに追加された CI へのみ関係します。元のビュー・コンテンツの CI をビューで非表示にすることはできません。 <b>注</b> ：非表示になっている CI は [非表示 CI] ダイアログ・ボックスで復元できます。
	[非表示 CI を表示] をクリックすると、ビューで非表示になっている CI を手動で復元できる [非表示 CI] ダイアログ・ボックスが開きます。
	[選択された CI に基づいてビューを作成] をクリックすると、[結果の表示] 表示枠から選択した CI に基づいて新しいビューが作成されます。
	[プレビュー表示の展開] をクリックすると、プレビューが別の表示枠で表示されます。
<b>&lt;現在位置表示リスト&gt;</b>	トポロジ・マップ上部にある現在位置表示リストは、選択したレイヤへのパスに対する、ビューの各レイヤ内の関連するクエリ・ノードを示します。パス内の最初の項目は <b>最上位レイヤ</b> です。また、下のレイヤから CI を選択するとき、親 CI が現在位置表示パス内の次の項目になります。パス内のいずれかの項目をクリックすると、トポロジ・マップ内のそのレイヤが表示されます。

UI 要素 (A-Z)	説明
<凡例>	<p>CI の横に表示されるアイコンは、次の特別な状態を表します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>追加済み</b>：変更時間枠がアクティブなとき、CI が追加されたことを表します。</li> <li>▶ <b>影響を受ける</b>：[影響分析] がアクティブの場合、影響を受ける CI を示します。</li> <li>▶ <b>影響を受けてトリガする</b>：[影響分析] がアクティブの場合、影響を受けるトリガ CI を示します。</li> <li>▶ <b>削除の候補</b>：CI が削除の候補であることを表します。</li> <li>▶ <b>変更済み</b>：変更時間枠がアクティブなとき、CI が変更されたことを表します。</li> <li>▶ <b>メモ</b>：CI にメモが追加されたことを表します。</li> <li>▶ <b>トリガ</b>：影響分析がアクティブなとき、トリガ CI を示します。</li> </ul>
<トポロジマップ>	<p>[結果の表示] 表示枠のトポロジ・マップは、IT ユニバース・マネージャのトポロジ・マップのレイアウトに従います。詳細については、245 ページの「トポロジ・マップ」を参照してください。</p>
< [トポロジマップ] サイドバー >	<p>詳細については、197 ページの「トポロジ・マップのサイドバー」を参照してください。</p>


### ショートカット・メニュー・オプション

メニュー項目	説明
<IT ユニバースのショートカット・メニュー・オプション>	<p>IT ユニバース・マネージャでは、ショートカット・メニュー・オプションを使用できます。詳細については、250 ページの「IT ユニバース・マネージャのショートカット・メニュー」を参照してください。</p>
選択された CI に基づいてビューを作成	<p>[<b>選択された CI に基づいてビューを作成</b>] を選択すると、[結果の表示] 表示枠から選択した CI に基づいて新しいビューが作成されます。</p>

メニュー項目	説明
ビューから CI を非表示	選択した CI をビューで非表示にするときにクリックします。このオプションは、パースペクティブを介してビューに追加された CI にのみ関係します。元のビュー・コンテンツの CI をビューで非表示にすることはできません。モデルに基づくビューの場合、モデルは非表示にできませんが、その CI は非表示にできます。
非表示 CI を表示	非表示の CI をビューに復元します。

## [クエリ ノードのグループ化] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、新しい CI のグループを定義したり、既存のグループを編集したりできます。

利用方法	パターン・ビュー・エディタの [階層] 表示枠で [次の項目別にグループを追加] ボタン  をクリックして [属性別グループを追加] を選択するか、必要なクエリ・ノードを右クリックしてショートカット・メニューから [属性別グループを追加] を選択します。
------	--


ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素 (A-Z)	説明
表現キャプチャグループ インデックス	正規表現の関連部分の番号を入力します。表現全体が関連する場合は「0」を入力します。
グループ化	ドロップダウン・リストから属性を選択します。
グループ化のマスク	選択した属性の構造を表す正規表現パターンを入力します。詳細については、271 ページの「クエリ ノードのグループ化」を参照してください。



## [クエリ / ビュー定義プロパティ] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、TQL クエリまたはビューのプロパティを設定できます。

<b>利用方法</b>	モデリング・スタジオの TQL クエリ・エディタまたはパターン・ビュー・エディタで、 <b>[クエリ / ビュー定義プロパティ]</b>  ボタンをクリックします。
-------------	---


ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素 (A-Z)	説明
<b>ベース クエリ</b>	新しいクエリの基にする既存の TQL クエリを選択します。 <b>注:</b> ▶ このフィールドは TQL クエリにのみ関連します。 ▶ このフィールドはオプションです。
<b>バンドル</b>	TQL クエリまたはビューをカテゴリ別にグループ化する方法です。現在のクエリまたはビューに関連付けられたバンドルを選択するか、現在のクエリまたはビュー用に新しいバンドルを作成します。 <b>注意:</b> このフィールドは任意指定です。
<b>説明</b>	TQL クエリまたはビューの説明です。
<b>レイヤ間リンク</b>	トポロジ結果にレイヤ間リンクを表示する場合に選択します。 <b>注:</b> このフィールドはビューにのみ関連します。
<b>永続</b>	TQL クエリを永続として定義する場合に選択します。永続クエリは、常にメモリに保持されます。 <b>注:</b> このフィールドは TQL クエリにのみ関連します。
<b>優先度</b>	TQL クエリまたはビューの優先度をドロップダウン・リストから選択します (低, 中, 高, 至急, 非アクティブ)。この設定により、システムが CMDB から更新情報を取り込むためにこのクエリを自動的に再実行する頻度が決定します。 <b>注:</b> ビューの優先度を変更すると、ビューの基になる TQL クエリの優先度も変更されます。





UI 要素 (A-Z)	説明
対象範囲	TQL クエリの対象範囲をドロップダウン・リストから選択します。 <b>注:</b> このフィールドは統合 TQL クエリにのみ関連します。
タイプ	TQL クエリのタイプをドロップダウン・リストから選択します。 <b>注:</b> このフィールドは TQL クエリにのみ関連します。


## [CI を公開] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、モデルの CI に関連する CI を検索し、モデルに追加することができます。

利用方法	モデリング・スタジオのモデル・エディタで、CI を選択し、 <b>[隣接検索]</b>  ボタンをクリックして <b>[隣接検索を開始]</b> を選択するか、モデルの CI を右クリックして <b>[隣接検索]</b> > <b>[隣接検索を開始]</b> を選択します。
重要情報	上部の表示枠には、選択した CI に関連する CI の CI タイプが表示されます。下部の表示枠には、上部の表示枠で選択したタイプの CI が表示されます。  公開の始点にした CI の CI タイプが公開の最初ステップとなります。上部の表示枠のリストから CI タイプを選択すると、その CI タイプがパスの 2 番目のステップになります。 <b>[次へ]</b> をクリックすると、パスの次のステップで使用できる CI タイプが表示されます。  ボックスの上部に表示される括弧で囲まれた数字は、それまでに作成されたパスの長さを表します。
関連タスク	294 ページの「ビジネス CI モデルの作成」


ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

UI 要素 (A-Z)	説明
	選択した項目を CI バスケットから削除するときをクリックします。
	下部の表示枠で選択した CI を CI バスケットに追加するときをクリックします。
	選択した検索フレーズに一致する、CI のリスト内の次の項目を検索するときをクリックします。
	選択した検索フレーズに一致する、CI のリスト内の前の項目を検索するときをクリックします。
< 下部の表示枠 >	上部の表示枠で選択したタイプの関連 CI のリストが表示されます。
CI 数	各タイプの関連 CI がいくつ見つかったかを示します。
CI バスケット	モデルに含めるために選択した関連 CI が表示されます。
CI タイプ	選択した CI に関連する CI の、CI タイプのリストが表示されます。
条件	チェック・マークは、選択した CI タイプに条件が定義されていることを示します。選択する CI タイプの [条件] カラムをクリックし、[条件の追加] ボタンまたは [定義を編集] ボタンをクリックすると、[関連 CI の条件] ダイアログ・ボックスが開きます。ここで、CI タイプに条件を定義したり、CI タイプの条件を編集したりできます。
検索	[検索] ボックスに CI 名または CI 名の一部を入力して、CI のリストで CI を検索します。
完了	CI バスケットへの CI の追加が完了したときに [完了] をクリックします。
次へ	[次へ] をクリックすると、パスの次のステップで使用できる CI タイプが表示されます。



UI 要素 (A-Z)	説明
パスを公開	<p>作成中の公開パスが表示されます。</p> <p>パス内の青い矢印  をクリックすると、パスの次のステップで使用できる CI タイプのドロップダウン・リストが表示されます。</p> <p>パス内の CI タイプをクリックすると、次のオプションが表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>ページへ移動</b>：パス内の選択したステップで使用できる CI タイプでテーブルが更新されます。</li> <li>▶ <b>定義を編集</b>：[関連 CI の条件] ダイアログ・ボックスが開きます。</li> <li>▶ <b>選択した項目の削除</b>：選択した CI タイプが公開パスから削除されます (パスは前の CI タイプで終了します)。</li> </ul>
パスの保存	<p>パスを保存できる [公開パスの保存] ダイアログ・ボックスが開きます。このオプションは、一意の公開パスが作成された場合にかぎり有効になります。</p>







## [クエリを保存] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、新しい TQL クエリを保存できます。

利用方法	<p>モデリング・スタジオで、新しい TQL クエリの定義時に [保存]  ボタンをクリックします。</p>
------	---


ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します (ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します)。

UI 要素 (A-Z)	説明
	<p>リソース・ツリーに新しいフォルダを作成するには、[新規フォルダ] をクリックします。</p>
	<p>CMDB から選択したリソースを削除するには、[削除] をクリックします。</p>









UI 要素 (A-Z)	説明
	リソースのツリーを更新するには、[更新]をクリックします。
	ツリー内のすべてのフォルダを展開するには、[すべてを展開]をクリックします。
	リソース・ツリー内のすべてのフォルダを折りたたむには、[すべてを折りたたむ]をクリックします。
	選択した検索フレーズに一致する、クエリのリスト内の次の項目を検索するときにクリックします。
	選択した検索フレーズに一致する、クエリのリスト内の前の項目を検索するときにクリックします。
	検索フレーズに一致する、クエリのリスト内のすべての項目を強調表示するときにクリックします。
< リソース ツリー >	クエリの保存先とするツリー内のフォルダを選択します。
検索	[検索] ボックスにビュー名またはビュー名の一部を入力して、リスト内のクエリを検索します。
クエリ名	新しい TQL クエリの名前を入力します。

## [ビュー / テンプレート / パースペクティブを保存] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、新しいパターン・ビュー、テンプレート・ベース・ビュー、パースペクティブ・ベース・ビュー、テンプレート、またはパースペクティブを保存できます。

利用方法	モデリング・スタジオで、新しいパターン・ビュー、テンプレート・ベース・ビュー、パースペクティブ・ベース・ビュー、テンプレート、またはパースペクティブの定義時に、  [保存] ボタンをクリックします。
------	--

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

UI 要素 (A-Z)	説明
	リソース・ツリーに新しいフォルダを作成するには、 <b>[新規フォルダ]</b> をクリックします。
	CMDB から選択したリソースを削除するには、 <b>[削除]</b> をクリックします。
	リソースのツリーを更新するには、 <b>[更新]</b> をクリックします。
	ツリー内のすべてのフォルダを展開するには、 <b>[すべてを展開]</b> をクリックします。
	リソース・ツリー内のすべてのフォルダを折りたたむには、 <b>[すべてを折りたたむ]</b> をクリックします。
	選択した検索フレーズに一致する、ビューのリスト内の次の項目を検索するときにクリックします。
	選択した検索フレーズに一致する、ビューのリスト内の前の項目を検索するときにクリックします。
	検索フレーズに一致する、ビューのリスト内のすべての項目を強調表示するときにクリックします。
<b>&lt;リソース ツリー&gt;</b>	ビュー、テンプレート、またはパースペクティブの保存先とするツリー内のフォルダを選択します。
<b>検索</b>	[検索] ボックスにビュー名またはビュー名の一部を入力して、リスト内のビューを検索します。
<b>新規クエリ</b>	新しい TQL クエリに基づいてビューを作成する場合、 <b>[新規クエリ]</b> を選択します。 <b>注:</b> このフィールドはテンプレート・ベース・ビューおよびパースペクティブ・ベース・ビューには適用されません。
<b>ビュー名</b>	新しいビュー、テンプレート、またはパースペクティブの名前を入力します。

## [データ ソースの選択] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、TQL クエリ・ノードに必要なデータ・ソースを選択できます。

<b>利用方法</b>	モデリング・スタジオで、TQL クエリ・ノードを右クリックし、[データ ソースの設定] を選択します。
<b>重要情報</b>	TQL クエリが各クエリ・ノードの結果を生成するために使用するデータ・ソースを選択できます。データ・ソースの詳細については、『HP Universal CMDB データ・フロー管理ガイド』の「Integration Studio の概要」を参照してください。

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。









UI 要素 (A-Z)	説明
< データ ソース リスト >	使用可能なデータ・ソースのリストです。
すべてのデータ ソース	選択したクエリ・ノードについて、すべての UCMDb および外部ソースの CI を TQL クエリの結果に含めるときに選択します。
標準設定のデータ ソース	選択したクエリ・ノードについて、標準設定のデータ・ソースの CI を TQL クエリの結果に含めるときに選択します。 選択した CIT に対してフェデレーション・ソースが定義されている場合、標準設定は「すべて」です。選択した CIT の子に対してフェデレーション・ソースが定義されている場合、標準設定は「UCMDb」のみです。
データ ソースの選択	選択したクエリ・ノードについて、選択したソースのみの CI を TQL クエリの結果に含めるときに選択します。

## [カラム コンテンツの並べ替え] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、レポートでのカラム・コンテンツの順序を設定できます。

<b>利用方法</b>	モデリング・スタジオで、パターン・ビュー・エディタ（レポート・モード）の [クエリ ノード定義] 表示枠から [ <b>並べ替え順を設定</b> ] をクリックします。
<b>重要情報</b>	レポートは [並べ替えられたカラム] 表示枠の属性の順序に従って各カラムで並べ替えられます。選択した各カラムは、指定に従って昇順または降順に並べ替えられます。
<b>関連タスク</b>	293 ページの「レポート設定の定義」

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。


UI 要素 (A-Z)	説明
	選択した属性を [並べ替えられたカラム] 表示枠に移動するには、 [ <b>並べ替えられたカラムへ移動</b> ] をクリックします。
	選択した属性を [利用可能なカラム] 表示枠に移動するには、 [ <b>利用可能なカラムへ移動</b> ] をクリックします。
	すべての属性を [並べ替えられたカラム] 表示枠に移動するときにクリックします。
	すべての属性を [利用可能なカラム] 表示枠に移動するときにクリックします。
	選択した属性を [並べ替えられたカラム] リストの中で下に移動するときにクリックします。
	選択した属性を [並べ替えられたカラム] リストの中で上に移動するときにクリックします。
	選択したカラムを昇順で並べ替えるには、 [ <b>昇順ソート</b> ] をクリックします。
	選択したカラムを降順で並べ替えるには、 [ <b>降順ソート</b> ] をクリックします。



UI 要素 (A-Z)	説明
[利用可能なカラム]	レポートの表示対象カラムとして選択した属性です。
[並べ替えられたカラム]	並べ替え対象として選択したカラムです。

## [テンプレート ベース ビュー] ウィザード

このウィザードでは、テンプレート・ベース・ビューを定義できます。




利用方法	[新規作成]  ボタンをクリックして [テンプレート ベース ビュー] を選択します。
関連タスク	291 ページの「テンプレート ベース ビューの作成」
ウィザード・マップ	[テンプレート ベース ビュー] ウィザードには次のページが含まれます。 [テンプレートの選択] ページ > [パラメータ] ページ

## [テンプレートの選択] ページ

このウィザード・ページでは、ビューの基にするテンプレートを選択できます。

重要情報	ツリー内のテンプレートを使用しない場合、最初に新しいテンプレートを作成し、それに基づいてビューを作成できます。テンプレートの作成の詳細については、286 ページの「テンプレートの作成」を参照してください。
ウィザード・マップ	[テンプレート ベース ビュー] ウィザードには次のページが含まれます。 [テンプレートの選択] ページ > [パラメータ] ページ

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

UI 要素 (A-Z)	説明
	選択した検索フレーズに一致する、テンプレートのリスト内の次の項目を検索するときにクリックします。
	選択した検索フレーズに一致する、テンプレートのリスト内の前の項目を検索するときにクリックします。
	検索フレーズに一致する、テンプレートのリスト内のすべての項目を強調表示するときにクリックします。
< テンプレート ツリー >	既存のテンプレートがツリー形式で表示されます。
検索	[検索] ボックスにテンプレート名またはテンプレート名の一部を入力して、リスト内のテンプレートを検索します。

### [パラメータ] ページ

このウィザード・ページでは、テンプレート・パラメータの値を設定できます。

ウィザード・マップ	[テンプレート ベース ビュー] ウィザードには次のページが含まれます。 [テンプレートの選択] ページ > [パラメータ] ページ
-----------	---

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。


UI 要素 (A-Z)	説明
標準設定値	パラメータの標準設定値です。パラメータの値を入力しないと、この値が割り当てられます。
名前	パラメータの名前です。
値	パラメータの名前を入力します。

## [テンプレート パラメータ値] ダイアログ・ボックス





[Edit Parameter Values] ダイアログ・ボックスの詳細については、354 ページの「[パラメータ] ページ」を参照してください。




## TQL クエリ・エディタ

この機能では、TQL クエリを作成および編集できます。

<b>利用方法</b>	<p>TQL クエリ・エディタで新しい TQL クエリを開くには、モデリング・スタジオに移動し、[新規作成]  ボタンをクリックし、[クエリ] を選択します。</p> <p>TQL クエリ・エディタで既存の TQL クエリを開くには、モデリング・スタジオの左表示枠にある [リソース] タブに移動し、[リソース タイプ] として [クエリ] を選択します。ツリーで TQL クエリを右クリックして [クエリを開く] を選択します。または、TQL クエリをダブルクリックするか、TQL クエリをエディタ表示枠にドラッグします。エディタ表示枠で TQL クエリが開きます。</p>
<b>重要情報</b>	<p>TQL クエリを保存するには、モデリング・スタジオのメイン・ツールバーにある [保存] ボタンを使用します。</p>
<b>関連タスク</b>	<p>27 ページの「TQL クエリの定義」</p>


ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

UI 要素 (A-Z)	説明
	<p>クエリ・ノード間に関係を設定するには、[関係を作成] をクリックします。</p>
	<p>トポロジ・マップの凡例の表示と非表示を切り替えるには、[凡例を表示] / [凡例の非表示] をクリックします。</p>
	<p>各 TQL クエリ・ノードまたは関係について、見つかったインスタンスの数を計算するには、[クエリ結果数を計算する] をクリックします。</p>
	<p>IT ユニバース・マネージャに表示されるとき TQL クエリの結果をプレビューするには、[プレビュー] をクリックします。</p>



UI 要素 (A-Z)	説明
	<p>クエリの場合, [クエリ定義プロパティ] ダイアログ・ボックスが開き, TQL クエリのタイプ, 範囲, および優先度を編集できます。</p> <p>ビューの場合, [定義プロパティの表示] ダイアログ・ボックスが開きます。</p>
	<p>選択したクエリ・ノードまたは関係をクエリから削除するには, <b>[削除]</b> をクリックします。</p>
	<p>[テンプレート パラメータ値] ダイアログ・ボックスが開き, テンプレート・ベース・ビューでクエリ・ノードのパラメータを編集できます。</p> <p><b>注:</b> このボタンは, テンプレート・ベース・ビューの場合にのみ表示されます。</p>
<p>&lt;凡例&gt;</p>	<p>CI の横に表示されるアイコンが次の特殊な意味を持つことを示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ パースペクティブ内のコンタクト・クエリ・ノードとして定義されている</li> <li>▶ パターン・ベース・モデルの出力クエリ・ノードとして定義されている</li> <li>▶ 属性が定義されている</li> <li>▶ 選択した ID が定義されている</li> <li>▶ 非表示要素として設定されている</li> <li>▶ サブグラフが定義されている</li> </ul>
<p>&lt;メインメニュー&gt;</p>	<p>詳細については, 185 ページの「メイン・メニュー」を参照してください。</p>
<p>&lt;ショートカット・メニュー・オプション&gt;</p>	<p>詳細については, 37 ページの「ショートカット・メニュー・オプション」を参照してください。</p>
<p>&lt; [トポロジマップ] サイドバー &gt;</p>	<p>詳細については, 197 ページの「トポロジ・マップのサイドバー」を参照してください。</p>

## 詳細表示枠

この領域には、選択したクエリ・ノードおよび関係のプロパティ、条件、およびカーディナリティが表示されます。

<b>重要情報</b>	<p>[詳細] 表示枠は、DFM のモデリング・スタジオ、影響分析マネージャ、エンリッチメント・マネージャ、入力クエリ・エディタ、トリガ・クエリ・エディタのマネージャおよびユーザ・インタフェースのウィンドウ下部に表示されます。</p> <p>データを含んでいるタブの横には、小さな緑色のインジケータ  が表示されます。</p>
<b>関連タスク</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 442 ページの「影響ルールの定義 - ワークフロー」</li> <li>▶ 510 ページの「エンリッチメント・ルールの定義 - シナリオ」</li> <li>▶ 27 ページの「TQL クエリの定義」</li> <li>▶ 285 ページの「パターン・ビューの作成」</li> <li>▶ 286 ページの「テンプレートの作成」</li> <li>▶ 288 ページの「パースペクティブの作成」</li> </ul>


ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素 (A-Z)	説明
	ウィンドウの幅が狭くてすべてのタブが表示されない場合は、左矢印または右矢印を使って必要なタブに移動します。
	[リストを表示する] をクリックすると、現在のモジュールで使用できるタブのリストが表示されます。このリストからタブを選択できます。
<b>属性</b>	クエリ・ノードまたは関係に対して定義された属性条件が表示されます。詳細については、82 ページの「属性タブ」を参照してください。
<b>カーディナリティ</b>	カーディナリティは、関係のもう一方の端にあることが期待されるクエリ・ノードの数を定義します。たとえば、ノードと IP Address の関係でカーディナリティが 1 : 3 である場合、TQL クエリは 1 ~ 3 個の IP Address に接続されているノードのみを取得します。詳細については、84 ページの「カーディナリティタブ」を参照してください。




UI 要素 (A-Z)	説明
データ ソース	<p>選択したクエリ・ノードのデータ・ソース・セットが表示されます。</p> <p><b>注:</b> このタブはモデリング・スタジオにのみ表示されます。</p>
詳細	<p>次の情報が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>CI タイプ:</b> 選択したクエリ・ノード/関係の CIT です。</li> <li>▶ <b>可視:</b> 緑色のチェック記号は、選択したクエリ・ノード/関係がトポロジ・マップに表示されることを示します。赤色のマークは、表示されないことを示します。</li> <li>▶ <b>サブタイプを含める:</b> 緑色のチェック記号は、選択した CI とその子の両方がトポロジ・マップに表示されることを示します。赤色のマークは、選択した CI だけが表示されることを示します。</li> </ul>
編集	<p>[<b>編集</b>] をクリックすると、選択したタブに対応するダイアログ・ボックスが開きます。</p>
エンリッチメント ルール	<p>選択したクエリ・ノード / 関係に対して定義されたエンリッチメント・ルールが表示されます。エンリッチメント・ルールを使って CI の属性を更新する場合は、必要に応じて [<b>編集</b>] をクリックして [クエリ ノード / 関係の定義] ダイアログ・ボックスを開き、ルールを編集します。詳細については、531 ページの「[クエリ ノード定義], [関係の定義] ダイアログ・ボックス」を参照してください。</p> <p><b>注:</b> このタブはエンリッチメント・マネージャにのみ表示されます。</p>
影響を受けるクエリ ノード	<p>選択したトリガ・クエリ・ノードに発生した変更の影響を受けるクエリ・ノードが表示されます。必要な場合は、[<b>編集</b>] をクリックして [影響を受けるクエリ ノード] ダイアログ・ボックスを開き、影響を受けるクエリ・ノードを編集できます。詳細については、455 ページの「[影響を受けるクエリ ノード] ダイアログ・ボックス」を参照してください。</p> <p><b>注:</b> このタブは影響分析マネージャにのみ表示されます。</p>
修飾子	<p>クエリ・ノードまたは関係に対して定義された修飾子条件が表示されます。詳細については、87 ページの「修飾子タブ」を参照してください。</p>
選択された ID	<p>TQL クエリ結果に含める必要があるものを定義するために使用される要素インスタンスが表示されます。詳細については、90 ページの「ID タブ」を参照してください。</p>

## [選択済みの CI を含むビューを表示] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、選択した CI を含むビューのリストを表示できます。


<b>利用方法</b>	モデル・エディタで <b>[選択済みの CI/ モデルを含むビューを表示]</b>  ボタンをクリックするか、ショートカット・メニューから <b>[含まれるビューを表示]</b> を選択します。
-------------	--

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素 (A-Z)	説明
	IT ユニバース・マネージャの選択したビューに直接移動するには、 <b>[ビュー結果を IT ユニバースに表示]</b> をクリックします。
	選択したビューを削除するには、 <b>[選択した項目の削除]</b> をクリックします。
	選択したビューをパースペクティブから切断するには、 <b>[パースペクティブからビューを接続解除する]</b> をクリックします。ビューは、パターン・ビューになります。
<b>検索</b>	<b>[検索]</b> ボックスにビュー名またはビュー名の一部を入力して、リスト内のビューを検索します。
<b>次を検索</b>	選択した検索フレーズに一致する、リスト内の次の項目を検索するときにクリックします。
<b>前回を検索</b>	選択した検索フレーズに一致する、リスト内の前の項目を検索するときにクリックします。
<b>ハイライト表示</b>	検索フレーズに一致する、リスト内のすべての項目を強調表示するときにクリックします。
<b>ビュー名</b>	選択したテンプレートまたはパースペクティブに依存するビューのリストが表示されます。 <b>注：</b> 現在のビューの名前は淡い色のテキストで表示されます。

## [監視の更新] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスには、モデルに定義されたウォッチポイントにより、関連 CI で見つかった変更が表示されます。

<b>利用方法</b>	モデル・エディタのモデル内から、[ウォッチポイント]  ボタンをクリックして [ウォッチポイントの更新] を選択するか、モデルの CI を右クリックして [ウォッチポイント] > [ウォッチポイントの更新] を選択します。
<b>重要情報</b>	[監視の更新] ダイアログ・ボックスには、関連付けられた公開パスを介し、モデルに関連する CI について見つかった変更が表示されます。モデルに含まれていない新しい関連 CI が見つかった場合、推奨更新は CI の追加となります。モデルの CI がパスを介して関連しなくなったことがわかった場合、推奨更新は CI の削除となります。  このオプションは、モデルに監視が定義されていて、CI が見ついている場合にのみ有効となります。

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素 (A-Z)	説明
<b>承認</b>	モデルに追加する CI のチェック・ボックス、またはモデルから削除する CI のチェック・ボックスを選択します。
<b>すべて承認</b>	推奨された変更をすべてモデルに適用するときに、[ <b>すべて承認</b> ] をクリックします。
<b>CI</b>	監視により見つかった CI の名前です。
<b>CI タイプ</b>	監視により見つかった CI のタイプです。
<b>すべてクリア</b>	見つかったすべての CI のチェック・ボックスをクリアするときに、[ <b>すべてクリア</b> ] をクリックします。
<b>復元</b>	[抑制された CI] 表示枠で、モデルに含めることを検討する CI のチェック・ボックスを選択します。
<b>抑制の表示/非表示</b>	ダイアログ・ボックスの [抑制された CI] 表示枠の表示と非表示を切り替えます。



UI 要素 (A-Z)	説明
推奨更新	推奨された変更が CI の追加か CI の削除かを示します。
抑制	モデルから除外する CI のチェック・ボックス、またはモデルに残す CI のチェック・ボックスを選択します。
すべて抑制	モデルに対する推奨された変更をすべて受け入れないときに、 <b>[すべて抑制]</b> をクリックします。



# 9

---

## レポート

本章の内容

### 概念

- ▶ 364 ページの「トポロジ・レポートの概要」
- ▶ 364 ページの「カスタム・レポートの概要」

### タスク

- ▶ 365 ページの「トポロジ・レポートの表示」
- ▶ 365 ページの「カスタム・レポートの生成」
- ▶ 366 ページの「CI の比較」
- ▶ 368 ページの「スナップショットの比較」

### 参照先

- ▶ 371 ページの「[レポート] のユーザ・インタフェース」

---

---

## 概念

---

---

### トポロジ・レポートの概要

トポロジ・レポートでは、ビューのデータをレポート形式で表示できます。モデリング・スタジオで定義されているすべてのビューには、レポート・モジュールの対応するトポロジ・レポートがあります。レポート設定は、パターン・ビュー・エディタのレポート・モードでビュー定義を使用して定義します。詳細については、333 ページの「パターン・ビュー・エディタ」を参照してください。

ビューに表示される CI の選択の詳細については、143 ページの「CI の選択を使った作業」を参照してください。

テンプレートとパースペクティブには、トポロジ・レポートはありません。ただし、テンプレート・ベース・ビューには、トポロジ・レポートがあります。このようなビューのレポート設定は、ベース・テンプレートまたはパースペクティブで定義される設定に基づいています。

### カスタム・レポートの概要

カスタム・レポートは、監視対象環境の状況を追跡 / 分析できるグラフとテーブルで構成されています。カスタム・レポートでは、HP Universal CMDB によって収集され、CMDB に保管されたパフォーマンス・データを表示 / 評価できます。レポートを作成するときに、時間範囲や位置など、さまざまなレポート設定を指定できるだけでなく、ドリルダウンして詳細情報を確認できます。

---

---

## タスク

---

---

### トポロジ・レポートの表示

このタスクでは、以前に保存したビューまたはパターンに基づいてレポートを作成する方法について説明します。

#### 1 前提条件

(任意指定) モデリング・スタジオを使用してビューを定義します。詳細については、265 ページの「モデリング・スタジオ」を参照してください。

#### 2 ビューを選択する

以前にモデリング・スタジオで作成したビューをダブルクリックするか、既存のトポロジ・レポートのいずれかを選択します。

#### 3 結果


要求されたデータを示すレポートが右表示枠に表示されます。詳細については、434 ページの「トポロジ・レポート」を参照してください。

### カスタム・レポートの生成

このタスクでは、カスタム・レイアウトに基づいてレポートを定義および生成する方法について説明します。

#### 1 レポート・タイプを選択する

[カスタム レポート] 表示枠で、次のいずれかを行います。

- ▶ レポート名を右クリックし、[新規レポートの作成] を選択する。
- ▶  [新規レポートの作成] ボタンをクリックし、必要なレポートを選択する。
- ▶ レポート名をダブルクリックする。

## 2 必須パラメータを指定する

選択したレポート・タイプの必須パラメータを指定します。各レポート・タイプの必須パラメータの詳細については、371 ページの「[レポート] のユーザ・インタフェース」に記載されている関連するレポートを参照してください。

## 3 レポートを生成する

[生成] をクリックして、レポートを作成します。必要であれば、パラメータを再設定して[生成]を再度クリックし、更新されたレポートを表示できます。

## CI の比較

このタスクでは、2 つの複合 CI の階層を比較し、CI の構成ファイルを表示して、2 つの構成ファイル間の相違を示す方法について説明します。

### 1 必要な CI を選択する

比較する 2 つの CI を選択します。2 つの複合 CI の階層が CI 比較レポートで比較されます（詳細については、387 ページの「CI 比較レポート」を参照してください）。選択したビューまたは CMDB に表示される 2 つの CI を比較できます。詳細については、151 ページの「CI の選択」を参照してください。

#### 一致しない CI の例：

この例では次のように表示されます。

他方に一致する CI がないため CI LABM3QCRNDDB03 の横に [一致する CI なし] アイコンが表示されます。

CI LABM3QCRNDDB02 と LABM3ASTDB01 の MemorySize の値が異なるため、MemorySize プロパティの横に異なる属性値を表示アイコンが表示されます。

The screenshot displays two network configuration panels side-by-side. The left panel shows a tree view for IP address 10.0.0.0, with a search bar containing '検索(E):'. Below it is a table of properties for CI LABM3QCRNDDB02. The right panel shows a tree view for IP address 192.168.226.0, with a search bar containing '検索(E):'. Below it is a table of properties for CI LABM3ASTDB01. In both tables, the 'MemorySize' property value is highlighted with a red box.

Name	Value
DiscoveredVen...	
DiscoveredOsN...	Windows 2003
DiscoveredOsV...	Microsoft
Host Operating ...	3790
MemorySize	2,045

Name	Value
DiscoveredVen...	
DiscoveredOs...	Windows 2003
DiscoveredOs...	Microsoft
Host Operating ...	3790
MemorySize	4,093

## 2 CIの構成ファイルを表示する

CIT **構成ファイル**のCIを選択して、構成ファイルを表示します。詳細については、387ページの「CI比較レポート」を参照してください。

## 3 2つの構成ファイルの相違を表示する

CIT **構成ファイル**のCIを選択して、2つの構成ファイルの相違を表示します。詳細については、387ページの「CI比較レポート」を参照してください。

## スナップショットの比較

このタスクでは、ビューのスナップショットを取り、異なる時刻に取った特定ビューの2つのスナップショットを比較する方法について説明します。

### 1 ビューのスナップショットを取る

a トポロジ・レポートを選択します。



b **[スナップショット]** ボタンをクリックして **[スナップショットを保存する]** を選択し、ビューのスナップショットを取って保存します。詳細については、262ページの「[スナップショットを保存する] ダイアログ・ボックス」を参照してください。

### 2 スナップショットを定期的に保存する

オプションで、タスクを定義することによって、指定の時刻に特定ビューのスナップショットを取るようスケジュールできます。詳細については、427ページの「[ジョブのスケジュール] ダイアログ・ボックス」を参照してください。

### 3 スナップショットを比較する

異なる時刻に取ったビューのスナップショットを比較します。**[モデリング]** > **[レポート]** を選択し、スナップショット比較レポートを作成します。詳細については、393ページの「スナップショット比較レポート」を参照してください。



## 異なる時刻に取ったビューのスナップショットの例：

次の例では、右表示枠の **192.168.163.0** CI の横にある「削除された項目」アイコンが、新しいビューで CI が削除されたことを示しています。

凡例: ✖ 削除された項目 ✱ 新規項目 ↻ 更新された項目 ⊕ 更新された項目を含む

NetworkTopology	Tue Jul 07 11:37:31 GMT+08:00 2009
<ul style="list-style-type: none"> <li>⊕-⊕ 172.16.7.0</li> <li>⊕-✖ 192.168.111.0</li> <li>⊕-✖ 192.168.196.0</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>⊕-⊕ 172.16.7.0</li> </ul>
検索(E): <input type="text"/>	検索(E): <input type="text"/>

---



---

## 参照先

---



---

### Cron 式

cron 式は、6～7 個のフィールドを空白文字で区切った文字列です。これらのフィールドのうち、6 個は必須であり、1 個は任意です。

次の表は、cron 式に使用されるフィールドを示します。

フィールド名	使用できる値	使用できる特殊文字
秒	0-59	, - * /
分	0-59	, - * /
時間	0-23	, - * /
日	1-31	, - * ? / L W C
月	1-12 または JAN-DEC	, - * /
曜日	1-7 または SUN-SAT	, - * ? / L C #
年（任意指定）	空, 1970-2099	, - * /

次の表は、cron 式の使用例を示します。

Cron 式	意味
<b>0 0 12 * * ?</b>	このタスクは、毎週水曜日の午後 12:00 に実行されます。
<b>0 15 10 ? * *</b>	このタスクは、毎日午前 10:15 に実行されます。
<b>0 15 10 * * ? 2005</b>	このタスクは、2005 年中の毎日午前 10:15 に実行されます。
<b>0 0/5 14 * * ?</b>	このタスクは、毎日午後 2 時から午後 2:55 までの間、5 分間隔で実行されます。
<b>0 15 10 15 * ?</b>	このタスクは、毎月 15 日の午前 10:15 に実行されます。

Cron 式	意味
0 15 10 ? * 6L	このタスクは、毎月最後の金曜日の午前 10:15 に実行されます。
0 15 10 ? * 6#3	このタスクは、毎月第 3 金曜日の午前 10:15 に実行されます。

cron 式の詳細については、次の URL にアクセスしてください。

<http://confluence.zutubi.com/display/pulse0101/Project+Cron+Triggers> (英語サイト)

## [レポート] のユーザ・インタフェース

本項の内容

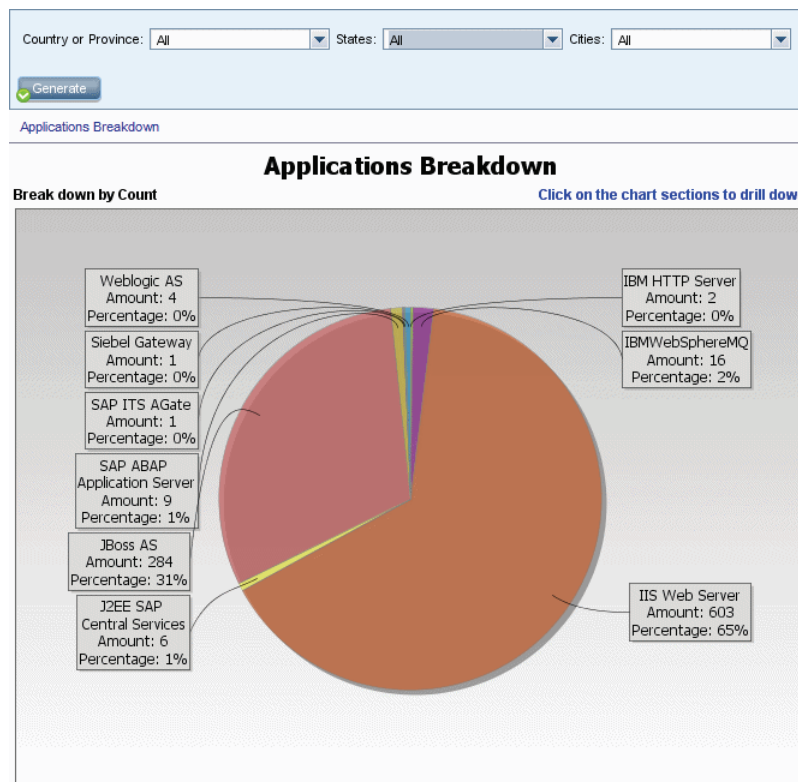
- ▶ 373 ページの「アプリケーション・ブレイクダウン・レポート」
- ▶ 375 ページの「アセット・レポート」
- ▶ 377 ページの「変更済みアプリケーション・レポート」
- ▶ 379 ページの「変更されたビューのレポート」
- ▶ 381 ページの「CI 変更レポート」
- ▶ 385 ページの「CMDB 使用率レポート」
- ▶ 387 ページの「CI 比較レポート」
- ▶ 393 ページの「スナップショット比較レポート」
- ▶ 399 ページの「データベース・ブレイクダウン・レポート」
- ▶ 401 ページの「削除候補レポート」
- ▶ 403 ページの「依存関係レポート」
- ▶ 405 ページの「汎用ブレイクダウン・レポート」
- ▶ 407 ページの「ゴールド・マスタ・レポート」
- ▶ 411 ページの「影響分析レポート」
- ▶ 413 ページの「[ジョブ リスト] ダイアログ・ボックス」
- ▶ 416 ページの「ネットワーク・デバイス・ブレイクダウン・レポート」

## 第9章・レポート

- ▶ 418 ページの「ノード O/S ブレークダウン・レポート」
- ▶ 420 ページの「変更数レポート」
- ▶ 422 ページの「[レポート] ページ」
- ▶ 427 ページの「[ジョブのスケジュール] ダイアログ・ボックス」
- ▶ 431 ページの「ツールバー・オプション」
- ▶ 434 ページの「トポロジ・レポート」
- ▶ 436 ページの「変更レポートを表示」

## 🔍 アプリケーション・ブレイクダウン・レポート

このレポートには、アプリケーション・ブレイクダウンとそのバージョンが表示されます。メジャー・アプリケーションは、**MAJOR\_APP** クラス修飾子を割り当てられた **Running Software CIT** です。詳細については、492 ページの「[[修飾子] ページ」を参照してください。



<p><b>利用方法</b></p>	<p>[マネージャ] &gt; [モデリング] &gt; [レポート] を選択します。 [カスタム レポート]表示枠で、次のいずれかを行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ [アプリケーション ブレークダウン レポート]を右クリックし、[新規レポートの作成] を選択する。</li> <li>▶ [新規レポートの作成] * ボタンをクリックし、[アプリケーション ブレークダウン レポート] を選択する。</li> <li>▶ [アプリケーション ブレークダウン レポート]をダブルクリックする。</li> <li>▶ [カスタム レポート] 表示枠の [アプリケーション ブレークダウン レポート] を選択し、右表示枠にドラッグする。</li> </ul>
<p><b>関連タスク</b></p>	<p>365 ページの「カスタム・レポートの生成」</p>

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。


<p><b>UI 要素 (A-Z)</b></p>	<p><b>説明</b></p>
<p>&lt; 現在位置表示リスト &gt;</p>	<p>現在のレベルに到達するまでに移動してきたレベルが表示されます。グラフの最上部に横方向に表示されます。</p> <p><b>注：</b> 現在位置表示リストの各レベルはクリック可能なリンクになっています。</p>
<p>&lt; 棒グラフ / 円グラフ &gt;</p>	<p>円グラフの各セグメント / 棒グラフの各カラムは、異なるアプリケーションを示します。</p> <p>スライス / 棒をクリックするとバージョンごとに並べ替えられたアプリケーションが表示され、ドリルダウンするとアプリケーション・インスタンスとその属性が表示されます。</p> <p>各セグメント / 棒の上にマウスを置くと、アプリケーション名、各アプリケーションの CI インスタンス数、全体に対するセグメントの割合 (円グラフ形式で情報を表示している場合)、およびスライス / 棒で表される CI タイプがツールチップに表示されます。</p> <p>円グラフの下にある凡例には、各 CI の名前とその下のレベルにバージョンが表示されます。</p>
<p>&lt; ツールバー &gt;</p>	<p>詳細については、431 ページの「ツールバー・オプション」を参照してください。</p>
<p><b>市町村</b></p>	<p>現在サポートされていません。</p>


UI 要素 (A-Z)	説明
国または地域	現在サポートされていません。
状態	現在サポートされていません。

## アセット・レポート

このレポートには、指定したビューのすべての CI、その属性値、および CMDB におけるその子 CI のリストが表示されます。アセット・レポートは、ビューの内容を表示 / 分析して、関心のあるデータに重点的に取り組むのに使います。たとえば、アセット・レポートでは、ビューに含まれている特定アプリケーションの一部であるすべてのサーバのリストを表示できます。

ビュー:   次に基づく情報を検索  CMDB  ビュー

Display Label	...	...	...	...	PrimaryDnsName	...	...	...	...
 000E7FFD99F1					LABM3MAM11.devlab.ad				
 16.59.56.213									

<b>利用方法</b>	<p>[マネージャ] &gt; [モデリング] &gt; [レポート] を選択します。[カスタム レポート] 表示枠で、次のいずれかを行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ [アセット レポート] を右クリックし、[新規レポートの作成] を選択する。</li> <li>▶ [新規レポートの作成]  ボタンをクリックし、[アセット レポート] を選択する。</li> <li>▶ [アセット レポート] をダブルクリックする。</li> <li>▶ [カスタム レポート] 表示枠の [アセット レポート] を選択し、右表示枠にドラッグする。</li> </ul>
<b>重要情報</b>	<p>レポートには、CI タイプ・マネージャの [属性] タブで [アセット データ] チェック・ボックスを選択した属性のみが含まれます。詳細については、478 ページの「属性の追加 / 属性の編集ダイアログ・ボックス」を参照してください。</p>
<b>関連タスク</b>	365 ページの「カスタム・レポートの生成」

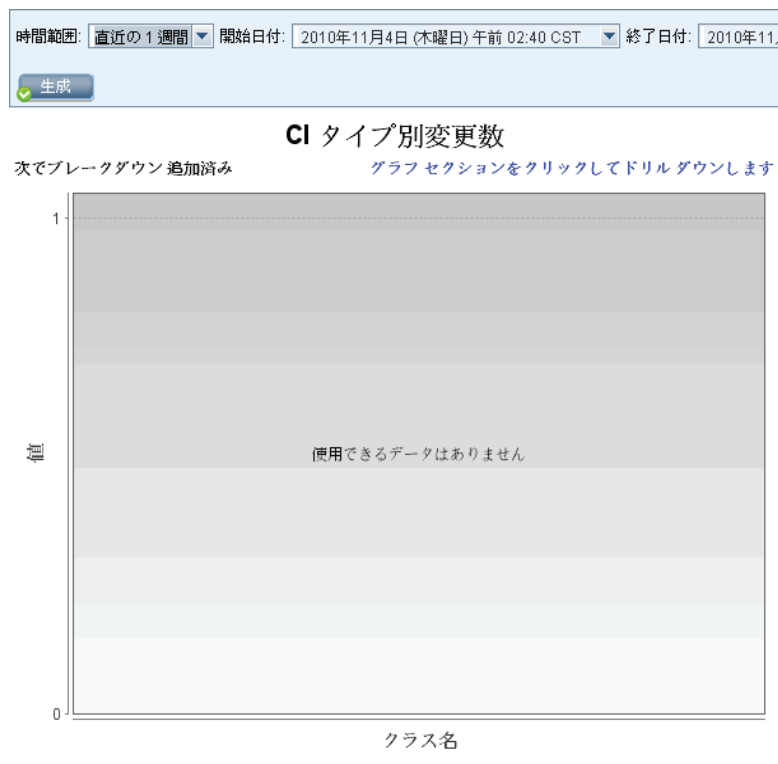
ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

UI 要素 (A-Z)	説明
< ツールバー >	詳細については、431 ページの「ツールバー・オプション」を参照してください。
< ショートカット・メニュー >	詳細については、250 ページの「IT ユニバース・マネージャのショートカット・メニュー」を参照してください。
<b>次に基づく情報を検索</b>	<p>次のいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>CMDB.</b> 選択したビューからの情報に加えて、CMDB における子 CI とその属性値に関する情報も含めます。 このオプションを選択すると、選択したビューの CI に <b>Container</b> 修飾子で接続されている CI がレポートに含まれます。たとえば、ビューに含まれているサーバの CPU とメモリがレポートに含まれます。</li> <li>▶ <b>[ビュー]:</b> 選択したビューに含まれている CI とその属性に関する情報のみが含まれます。</li> </ul>
<b>ビュー</b>	<p>ビュー・セレクタを開いてビューを選択できます。詳細については、151 ページの「CI の選択」を参照してください。</p> <p><b>注:</b> 特定のビューからアセット・レポートを生成すると、レポートにはトポロジ・マップの関連ビューと同じ階層構造が保持されます。</p>



## 🔗 変更済みアプリケーション・レポート

このレポートには、定義した期間内にアプリケーションで検出された変更件数を示す棒グラフが表示されます。



<b>利用方法</b>	<p>[マネージャ] &gt; [モデリング] &gt; [レポート] を選択します。[カスタム レポート] 表示枠で、次のいずれかを行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ [変更済みアプリケーション レポート] を右クリックし、[新規レポートの作成] を選択する。</li> <li>▶ [新規レポートの作成] * ボタンをクリックし、[変更済みアプリケーション レポート] を選択する。</li> <li>▶ [変更済みアプリケーション レポート] をダブルクリックする。</li> <li>▶ [カスタム レポート] 表示枠の [変更済みアプリケーション レポート] を選択し、右表示枠にドラッグする。</li> </ul>
-------------	--

<b>関連タスク</b>	365 ページの「カスタム・レポートの生成」
--------------	------------------------

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

<b>UI 要素 (A-Z)</b>	<b>説明</b>
<b>&lt; 棒グラフ &gt;</b>	<p>それぞれの棒が異なるアプリケーション・タイプを示します。各棒の色は、アプリケーションで発生したさまざまなタイプの変更を示します。</p> <p>凡例の各色は、異なるタイプの変更を示します。各アプリケーションの CI タイプは関連する棒の下に表示されます。</p> <p>各棒の上にマウスを置くと、追加、削除、更新（色が異なる）された CI の数や棒で表される CI タイプがツールチップに表示されます。</p> <p>棒の必要な色をクリックすると、ドリルダウンしてテーブル形式で情報が表示されます。</p>
<b>&lt; 現在位置表示リスト &gt;</b>	<p>現在のレベルに到達するまでに移動してきたレベルが表示されます。グラフの最上部に横方向に表示されます。</p> <p><b>注：</b> 現在位置表示リストの各レベルはクリック可能なリンクになっています。</p>
<b>&lt; ツールバー &gt;</b>	<p>詳細については、431 ページの「ツールバー・オプション」を参照してください。</p>
<b>開始日付</b>	レポートの開始日時を設定します。
<b>終了日付</b>	レポートの終了日時を設定します。
<b>時間範囲</b>	<p>検出された変更を表示する時間範囲を選択します。開始日付と終了日付は、システムによって <b>[開始日付]</b> および <b>[終了日付]</b> ボックスに自動的に表示されます。</p> <p><b>注：</b> <b>[カスタム]</b> を選択すれば、<b>[開始日付]</b> および <b>[終了日付]</b> ボックスの開始日付と終了日付を手動で設定できます。</p>

## 🔍 変更されたビューのレポート

このレポートには、定義した期間内に特定ビューで発生した変更件数が表示されます。

### ビュー別にグループ化

次でブレークダウン追加済み

グラフセクションをクリックしてドリルダウンします



<b>利用方法</b>	<p>[マネージャ] &gt; [モデリング] &gt; [レポート] を選択します。[カスタム レポート]表示枠で、次のいずれかを行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ [変更されたビューのレポート] を右クリックし、[新規レポートの作成] を選択する。</li> <li>▶ [新規レポートの作成] * ボタンをクリックし、[変更されたビューのレポート] を選択する。</li> <li>▶ [変更されたビューのレポート] をダブルクリックする。</li> <li>▶ [カスタム レポート] 表示枠の [変更されたビューのレポート] を選択し、右表示枠にドラッグする。</li> </ul>
<b>関連タスク</b>	365 ページの「カスタム・レポートの生成」

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

UI 要素 (A-Z)	説明
< ツールバー >	詳細については、431 ページの「ツールバー・オプション」を参照してください。
<b>棒グラフ</b>	<p>それぞれの棒は異なるビューを示します。各ビューの名前は関連する棒の下に表示されます。各棒の色は、ビューで発生したさまざまなタイプの変更（追加、削除、更新）を示します。各棒の関連する色の上にマウスを置くと、ビュー名、変更タイプ、およびビューで変更された CI インスタンスの数がツールチップに表示されます。</p> <p>各色で表される変更タイプを確認するには、凡例を参照してください。</p> <p>ビューのスナップショットが異なる時刻に取られた場合、棒をクリックして [ビューをスナップショットで比較する] ダイアログ・ボックスを開き、ビューの相違点を表示できます。詳細については、393 ページの「スナップショット比較レポート」を参照してください。</p> <p><b>注：</b> 変更されたビューのレポートの [開始日付] の日付前に取られたスナップショット（利用できない場合は [開始日付] の日付後）と [終了日付] の日付前に取られた別のスナップショット、2つのスナップショットの相違を示す変更のあるビューだけがレポートに表示されます。</p>
<b>開始日付</b>	レポートの開始日時を設定します。
<b>終了日付</b>	レポートの終了日時を設定します。
<b>時間範囲</b>	<p>変更を表示する時間範囲を選択します。開始日付と終了日付は、システムによって [開始日付] および [終了日付] ボックスに自動的に表示されます。</p> <p><b>注：</b> [カスタム] を選択すれば、[開始日付] および [終了日付] ボックスの開始日付と終了日付を手動で設定できます。</p>

## 🔍 CI 変更レポート

CI 変更レポートでは、特定の CI とその子に加えられた実際の変更を表示 / 分析できます。変更レポートは、該当の CI に関する問題のトラブルシューティングに役立ちます。たとえば、CI の変更で、それらの変更が問題の原因であると判断できることもあります。同様に、トラブルシューティング問題の原因が、期待されていたのに発生しなかった変更に関連している可能性もあります。このレポートでは、CI 属性の変更や、CI とその子の追加または削除された CI を表示できます。

時間範囲: 直近の 1 日 ▼ 開始日付: 2009年11月29日 (日曜日) 午後 03:39 PST ▼ 終了日付: 2009年11月30日 (月曜日) 午後 03:39 PST ▼

選択された CI: 172.16.7.0 ... 次に基づく情報を検索:  CMDB  ビュー

生成

Display Label	Class Name	Attribute Name	Value
16.59.56.0\	Windows	MemorySize	8,192
16.59.56.0\	Windows	SwapMemorySize	4,092
16.59.56.0\	Windows	DiscoveredOsName	Windows 2003
16.59.56.0\	Windows	DiscoveredOsName	Windows 2003 R2
16.59.64.0\	IpAddress	AuthoritativeDnsName	labm2am175.devlab.ad
16.59.64.0\	IpAddress	IP Network Mask	255.255.254.0
16.59.66.0\	IpAddress	AuthoritativeDnsName	labm2hp2-rm.devlab.ad
16.59.66.0\	IpAddress	IP Network Mask	255.255.255.0
16.59.56.0\	Windows	PrimaryDnsName	labm3am255.devlab.ad
16.59.56.0\	Windows	MemorySize	8,192

### 利用方法

- [マネージャ] > [モデリング] > [レポート] を選択します。[カスタム レポート] 表示枠で、次のいずれかを行います。
- ▶ [CI 変更レポート] を右クリックし、[新規レポートの作成] を選択する。
  - ▶ [新規レポートの作成] \* ボタンをクリックし、[CI 変更レポート] を選択する。
  - ▶ [CI 変更レポート] をダブルクリックする。
  - ▶ [カスタム レポート] 表示枠の [CI 変更レポート] を選択し、右表示枠にドラッグする。

<p><b>重要情報</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ CIのプロパティが「<b>変更をモニタ</b>」または「<b>比較可能</b>」とマークされているCIのみがレポートに表示されます。詳細については、478ページの「属性の追加/属性の編集ダイアログ・ボックス」を参照してください。</li> </ul> <p>CI 変更レポートの表示内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ CI 変更レポートには、選択したCI とすべての子（標準設定で、<b>impact_link</b> によってリンクされている）に発生した変更が表示されます。生成されるレポートのCI は、インフラストラクチャ設定マネージャの設定に従って取得されます。[<b>マネージャ</b>] &gt; [<b>管理</b>] &gt; [<b>インフラストラクチャ設定</b>] &gt; [<b>アプリケーション</b>] &gt; [<b>MAMWeb</b>] に移動します。詳細については、『HP Universal CMDB 管理ガイド』の「インフラストラクチャ設定」を参照してください。</li> <li>▶ [<b>Change Report relationship name</b>] を選択して、選択した計算された関係にリンクしているCI を取得します。[<b>値</b>] ボックスには、CI タイプ・マネージャで選択した関係の[<b>詳細</b>] ページで（[<b>表示名</b>] ボックスではなく）[<b>名前</b>] ボックスに表示されているとおり、関係の名前を入力します。詳細については、487ページの「[<b>詳細</b>] ページ」を参照してください。</li> <li>▶ [<b>Change Report relationship qualifier</b>] を選択して、修飾子で定義されているCI を取得します。[<b>値</b>] ボックスに、必要な修飾子の名前を入力します。修飾子の詳細については、492ページの「[<b>修飾子</b>] ページ」を参照してください。</li> <li>▶ CI に追加または削除された <b>Container link</b> 関係のあるCI。</li> <li>▶ 関係が <b>TRACK_LINK_CHANGES</b> 修飾子で定義され、CI に追加または削除されたCI。修飾子の詳細については、492ページの「[<b>修飾子</b>] ページ」を参照してください。</li> </ul>
<p><b>関連タスク</b></p>	<p>365 ページの「カスタム・レポートの生成」</p>

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素 (A-Z)	説明
<p><b>開始日付</b></p>	<p>レポートの開始日時を設定します。</p>
<p><b>終了日付</b></p>	<p>レポートの終了日時を設定します。</p>

UI 要素 (A-Z)	説明
次に基づく情報を検索	次のいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>CMDB</b>. CMDB 全体で CI とその子に発生した変更が表示されます。</li> <li>▶ <b>[ビュー]</b>: 選択したビューで CI とその子に発生した変更が表示されます。</li> </ul>
選択した CI	必要な CI を選択します。[CI の選択] ダイアログ・ボックスを開きます。詳細については、143 ページの「CI の選択を使った作業」を参照してください。
時間範囲	変更を表示する時間範囲を選択します。開始日付と終了日付は、システムによって [開始日付] および [終了日付] ボックスに自動的に表示されます。  <b>注:</b> [カスタム] を選択すれば、[開始日付] および [終了日付] ボックスの開始日付と終了日付を手動で設定できます。

### [CI 変更] タブ

<b>重要情報</b>	CI の変更履歴を表示するには、必要な CI の行の任意の部分をクリックし、[CI 履歴] を選択します。
-------------	---

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

UI 要素 (A-Z)	説明
< ツールバー >	詳細については、431 ページの「ツールバー・オプション」を参照してください。
< ショートカット・メニュー >	詳細については、250 ページの「IT ユニバース・マネージャのショートカット・メニュー」を参照してください。
属性名	変更された CI 属性の名前です。
日付の変更	変更の発生した日付です。
変更	CI のプロパティを手動で変更したユーザの名前、または CI のプロパティに対する変更を自動検出した Data Flow Probe の名前です。

UI 要素 (A-Z)	説明
クラス名	変更された CI の CI タイプです。
表示ラベル	ルートから CI へのパスのラベルです。 <b>注</b> : CI 名のバックスラッシュ (¥) は、親子関係を <parent_CI>¥<child_CI> という形式で示します。たとえば、エントリ 16.59.63.0¥Windows は、16.59.63.0 CI の子である Windows CI に関する変更情報を提供します。
新規値	CI 属性の新しい値です。
旧値	CI 属性の以前の値です (変更前)。

### [関係の変更] タブ

<b>重要情報</b>	CI の変更履歴を表示するには、必要な CI の行の任意の部分を右クリックし、[CI 履歴] を選択します。
-------------	--

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します (ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します)。

UI 要素 (A-Z)	説明
< ツールバー >	詳細については、431 ページの「ツールバー・オプション」を参照してください。
< ショートカット・メニュー >	詳細については、250 ページの「IT ユニバース・マネージャのショートカット・メニュー」を参照してください。
日付の変更	更新が実行された日付です。
変更	CI のプロパティを手動で変更したユーザの名前、または CI のプロパティに対する変更を自動検出した Data Flow Probe の名前です。
コンテナラベル	ルートからコンテナ CI へのパスのラベルです。 CI 名のバックスラッシュ (¥) は、親子関係を <parent_CI>¥<child_CI> という形式で示します。たとえば、エントリ 16.59.63.0¥Windows は、dancer.hp.com CI の子である WindowsCI に関する変更情報を提供します。



UI 要素 (A-Z)	説明
イベント タイプ	次の値のいずれかを設定できます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>関連 CI を追加</b> : Container link 関係を使用して, contained CI がコンテナ CI に追加されます。</li> <li>▶ <b>関連 CI を削除</b> : Container link 関係を使用してコンテナ CI にリンクされていた contained CI が削除されます。</li> </ul>
関連するラベル	ルートから包含 CI へのパスのラベルです。

## CMDB 使用率レポート

このレポートには、一般的な CMDB 統計データが表示されます。たとえば、統計データには、作成された影響ルールの数、CMDB にある CI の数、または取られたスナップショットの数が含まれます。

Name	Value
CIs and Relationships	11
Views and Reports	0
Enrichment Rules	26
Correlation Rules	13
Snapshots	0
Connected users	4
Running Discovery Jobs	0

利用方法	<p>[マネージャ] &gt; [モデリング] &gt; [レポート] を選択します。[カスタム レポート] 表示枠で、次のいずれかを行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ [CMDB 使用率レポート] を右クリックし、[新規レポートの作成] を選択する。</li> <li>▶ [新規レポートの作成] * ボタンをクリックし、[CMDB 使用率レポート] を選択する。</li> <li>▶ [CMDB 使用率レポート] をダブルクリックする。</li> <li>▶ [CMDB 使用率レポート] を選択し、右表示枠にドラッグする。</li> </ul>
関連タスク	365 ページの「カスタム・レポートの生成」

## 第9章・レポート

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

UI 要素 (A-Z)	説明
< ツールバー >	詳細については、431 ページの「ツールバー・オプション」を参照してください。
名前	CMDB 統計の名前です。
値	システムで検出された CMDB 統計のインスタンス数です。

## 🔍 CI 比較レポート

このレポートでは、2つの複合 CI の階層を比較できます。複合 CI は、CONTAINER 修飾子のある関係によって別の CI にリンクされている CI です。選択したビューまたは CMDB に表示される複合 CI とその子 CI を表示できます。

比較 000129F42269

比較 16.59.50.88 DefaultDomain

相互ビュー: unix\_View\_1

比較:  ビュー  CMDB

生成

凡例: \* 一致する CI なし ◀ 更新された項目 ⊕ 更新された項目を含む




000129F42269	16.59.50.88 DefaultDomain
<ul style="list-style-type: none"> <li>000129F42269           <ul style="list-style-type: none"> <li>Interface</li> <li>IpAddress               <ul style="list-style-type: none"> <li>16.44.49.38</li> </ul> </li> <li>SNMP               <ul style="list-style-type: none"> <li>SNMP (000129F42269)</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>16.59.50.88 DefaultDomain           <ul style="list-style-type: none"> <li>IpAddress               <ul style="list-style-type: none"> <li>16.59.50.88</li> </ul> </li> <li>SNMP               <ul style="list-style-type: none"> <li>SNMP (16.59.50.88 Default)</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul>





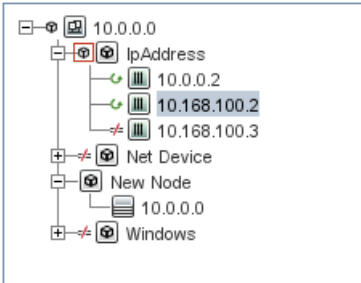
検索(E):

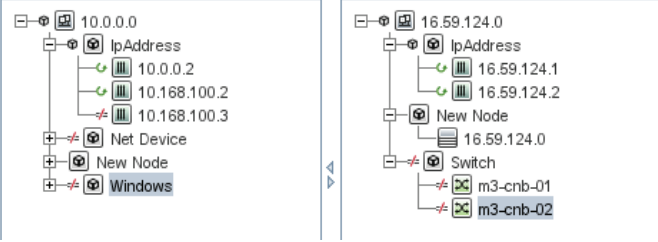
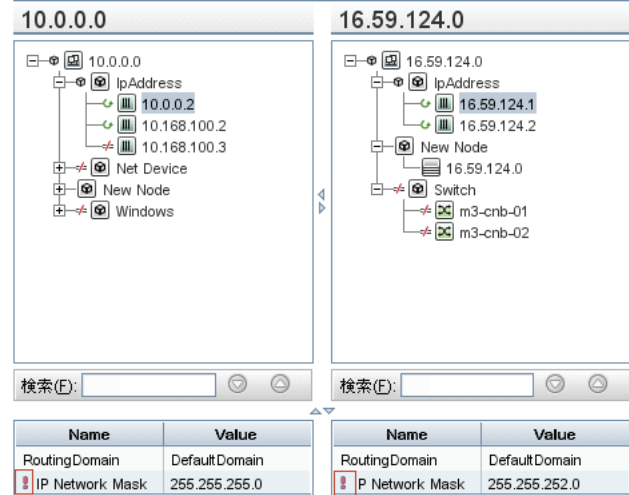
検索(E):



<p><b>利用方法</b></p>	<p>[マネージャ] &gt; [モデリング] &gt; [レポート] を選択します。[カスタム レポート]表示枠で、次のいずれかを行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ [CI 比較レポート] を右クリックし、[新規レポートの作成] を選択する。</li> <li>▶ [新規レポートの作成] * ボタンをクリックし、[CI 比較レポート] を選択する。</li> <li>▶ [CI 比較レポート] をダブルクリックする。</li> <li>▶ [CI 比較レポート] を選択し、右表示枠にドラッグする。</li> </ul>
<p><b>重要情報</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ [CI を比較] ページは 2 つの表示枠に分かれています。各表示枠に、選択した CI の階層ツリー構造が表示されます。[選択を同期化] を押していれば、一方の表示枠で CI を選択すると、他方の表示枠で対応する CI が自動的に選択されます。</li> <li>▶ 比較できるのは、同じ CI タイプの 2 つの CI、または階層内にある同じ CI タイプの子のいずれかです。</li> </ul>
<p><b>関連タスク</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 366 ページの「CI の比較」</li> <li>▶ 365 ページの「カスタム・レポートの生成」</li> </ul>

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

UI 要素 (A-Z)	説明
	<p>「変更あり」とマークされた前の項目を検索します。</p>
	<p>「変更あり」とマークされた次の項目を検索します。</p>
	<p><b>設定ファイルの相違を表示</b> : 2 つの構成ファイルの内容の相違を表示します。構成ファイルには、<b>xml</b>、<b>txt</b>、または <b>ini</b> 拡張子が使用されています。</p> <p>2 つの表示枠で <b>CIT Configuration File</b> の CI を選択し、[相違を表示] ボタンをクリックします。ウィンドウが開いて、構成ファイルの相違が（青でマークされて）表示されます。</p>

UI 要素 (A-Z)	説明
	<p><b>ツリー内の異なる CI のみを表示 :</b> &lt; [プロパティ] 表示枠 &gt; に、一致していない CI を含むツリー構造部分のみが表示されます。</p>
	<p><b>異なる属性値のみを表示 :</b> &lt; [プロパティ] 表示枠 &gt; で、選択した CI の比較可能なすべての属性値が表示されている状態と、異なる属性値のみが表示されている状態が切り替わります。</p>
	<p>一方の表示枠で CI を選択すると、他方の表示枠で対応する CI を自動的に選択できます。</p> <p>標準設定の状態では、[選択を同期化] ボタンが選択されています。このボタンの選択を解除すると、2つの各ツリーで異なる CI を選択できます。これで、2つの異なる CI を比較して、異なるプロパティを確認できます。</p>
	<p><b>更新された項目を含む :</b> CI 属性値が変更されたことを示します。たとえば、次の図では <b>IpAddress</b> CI の横に [更新された項目を含む] アイコンが表示されています。これは <b>IpAddress</b> の子である <b>CI 10.168.100.2</b> アイコンの属性が変更されたためです。</p> <div data-bbox="615 894 972 1177" style="border: 1px solid black; padding: 5px;">  </div>

UI 要素 (A-Z)	説明												
<p>≠</p>	<p><b>一致する CI なし</b> : ある表示枠の CI が別の表示枠の対応する CI と一致しないことを示します。</p> <p>次の例では、他方の表示枠に対応する CI がいないため、<b>Windows</b> アイコンの横に <b>[一致する CI なし]</b> アイコンが表示されています。</p> 												
<p>↻</p>	<p><b>更新された項目</b> : CI の属性値が変更されたことを示します。</p> <p>たとえば、次の図では CI <b>10.0.0.2</b> と <b>16.59.124.1</b> に <b>[更新された項目]</b> アイコンが表示されています。これは、CI <b>10.0.0.2</b> と <b>16.59.124.1</b> が <b>[異なる属性値のみを表示]</b> アイコンで示されるように新しい IP ネットワーク・マスク値で更新されたためです (ツリー構造の下にある表示枠の <b>[名前]</b> カラムと <b>[値]</b> カラムを参照)。</p>  <table border="1" data-bbox="582 1380 882 1454"> <thead> <tr> <th>Name</th> <th>Value</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>RoutingDomain</td> <td>DefaultDomain</td> </tr> <tr> <td>IP Network Mask</td> <td>255.255.255.0</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="896 1380 1196 1454"> <thead> <tr> <th>Name</th> <th>Value</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>RoutingDomain</td> <td>DefaultDomain</td> </tr> <tr> <td>IP Network Mask</td> <td>255.255.252.0</td> </tr> </tbody> </table>	Name	Value	RoutingDomain	DefaultDomain	IP Network Mask	255.255.255.0	Name	Value	RoutingDomain	DefaultDomain	IP Network Mask	255.255.252.0
Name	Value												
RoutingDomain	DefaultDomain												
IP Network Mask	255.255.255.0												
Name	Value												
RoutingDomain	DefaultDomain												
IP Network Mask	255.255.252.0												

UI 要素 (A-Z)	説明
	[検索] フィールドに入力した文字列の次または前の検索結果に移動できます。
< ツールバー >	詳細については、431 ページの「ツールバー・オプション」を参照してください。
< ショートカット・メニュー >	詳細については、250 ページの「IT ユニバース・マネージャのショートカット・メニュー」を参照してください。
< [プロパティ] 表示枠 >	<p>選択した CI の属性を表示します。</p> <p>[プロパティ] 表示枠には次のフィールドがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>名前</b> : CI タイプ・マネージャで <b>[比較可能]</b> とマークされていて、選択した CI の属性名を表示します。486 ページの「[構成アイテム・タイプを作成 / 関係を作成 / 計算済み関係の作成]」</li> <li>▶ <b>値</b> : 現在選択している CI の属性値を表示します。</li> </ul>
< 左右表示枠 >	[ビュー] または [CMDDB] のどちらを選択したかに応じて、選択したビューまたは CMDDB に表示される比較された CI とその子 CI のツリーを表示します。
比較	<p>次のいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>CMDDB</b>. CMDDB 全体に表示される選択した CI とその子 CI が含まれます。</li> <li>▶ <b>[ビュー]</b> : 特定のビューにのみ表示される選択した CI とその子 CI が含まれます。</li> </ul>
比較 CI	比較する 2 つの CI を選択できます。  をクリックすると、[CI の選択] ダイアログ・ボックスが開きます。詳細については、151 ページの「CI の選択」を参照してください。上のボックスで選択した CI は左表示枠に表示され、下のボックスで選択した CI は右表示枠に表示されます。
検索	<b>検索</b> : [検索] フィールドに検索名または検索名の一部を入力して、リスト内の CI を検索します。

UI 要素 (A-Z)	説明
相互ビュー	比較する CI が同じビュー内に両方とも存在している場合、ビューの名前がこのフィールドに表示されます。両方とも存在していない場合、このフィールドには「 <b>相互ビューがありません</b> 」と表示されます。



## 🔍 スナップショット比較レポート

この機能を使用すると、異なる時刻に取った特定ビューの2つのスナップショットを比較できます。これにより、スナップショットを取った時刻におけるビューのステータスを比較して、ビューの相違を視覚化できます。

[スナップショットを比較] は、1つのスナップショットに含まれるビューの状態を異なる時間に取得した状態と比較して表示します。現在のスナップショットと以前のスナップショット、または過去に取得した2つのスナップショットを比較できます。

スナップショット比較レポート1\* x

レポートのパラメータ

スナップショットを持つビュー NetworkTopology

利用可能なスナップショット

	時間	詳細	所有者	サイズ	メモ
<input checked="" type="checkbox"/>	現在	現在		0	
<input checked="" type="checkbox"/>	2009...			13	
<input type="checkbox"/>	2009...			13	

生成

凡例: ✖ 削除された項目 ✨ 新規項目 🔄 更新された項目 🕒 更新された項目を含む

NetworkTopology




- 172.16.7.0
- 192.168.111.0
- 192.168.196.0






Sat Jun 27 15:24:36 GMT...


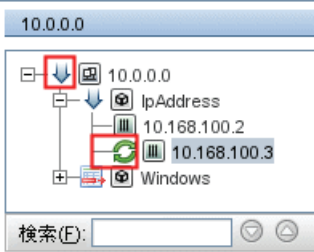




- 172.16.7.0
- 192.168.111.0
- 192.168.196.0


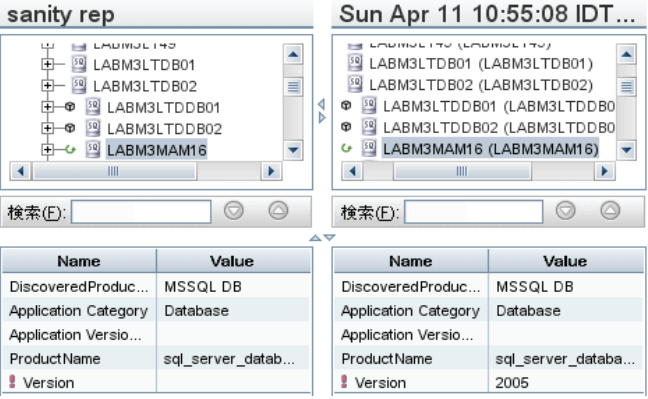
<p><b>利用方法</b></p>	<p>[マネージャ] &gt; [モデリング] &gt; [レポート] を選択します。 [カスタム レポート]表示枠で、次のいずれかを行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ [スナップショット比較レポート] を右クリックし、[新規レポートの作成] を選択する。</li> <li>▶ [新規レポートの作成] * ボタンをクリックし、[スナップショット比較レポート] を選択する。</li> <li>▶ [スナップショット比較レポート] をダブルクリックする。</li> <li>▶ [スナップショット比較レポート] を選択し、右表示枠にドラッグする。</li> </ul> <p><b>注:</b> IT ユニバースでスナップショットを取って比較することもできます (詳細については、262 ページの「[スナップショットを保存する] ダイアログ・ボックス」を参照してください)。</p>
<p><b>重要情報</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 現在のスナップショットと以前のスナップショット、または過去に取得した 2 つのスナップショットを比較できます。</li> <li>▶ 定期的に特定ビューのスナップショットを取って保存するスケジュールを定義できます。詳細については、427 ページの「[ジョブのスケジュール] ダイアログ・ボックス」を参照してください。</li> <li>▶ 「変化を追跡する」とマークされたビューのスナップショットは毎日作成されます。</li> </ul>
<p><b>関連タスク</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 368 ページの「スナップショットの比較」</li> <li>▶ 365 ページの「カスタム・レポートの生成」</li> </ul>
<p><b>関連情報</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 262 ページの「[スナップショットを保存する] ダイアログ・ボックス」</li> <li>▶ 427 ページの「[ジョブのスケジュール] ダイアログ・ボックス」</li> </ul>

ユーザ・インターフェース要素の説明を次に示します (ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します)。

UI 要素 (A-Z)	説明
	選択した CI の階層ツリー構造全体を展開します。
	選択した CI の階層ツリー構造を折りたたみます。
	「変更あり」とマークされた前の項目を検索します。

UI 要素 (A-Z)	説明
	「変更あり」とマークされた次の項目を検索します。
	<p><b>設定ファイルの相違を表示</b> : 2 つの構成ファイルの内容の相違を表示します。構成ファイルには, <b>xml</b>, <b>txt</b>, または <b>ini</b> 拡張子が使用されています。</p> <p>2 つの表示枠で <b>CIT Configuration File</b> の CI を選択し, [<b>相違を表示</b>] ボタンをクリックします。ウィンドウが開いて, 構成ファイルの相違が (青でマークされて) 表示されます。</p>
	<b>ツリー内の異なる CI のみを表示</b> : < [プロパティ] 表示枠 > に, 一致していない CI を含むツリー構造部分のみが表示されます。
	<b>異なる属性値のみを表示</b> : < [プロパティ] 表示枠 > で, 選択した CI のすべての属性値が表示されている状態と, 変更された属性値のみが表示されている状態が切り替わります。
	<p>一方の表示枠で CI を選択すると, 他方の表示枠で対応する CI を自動的に選択できます。</p> <p>標準設定の状態では, [<b>選択を同期化</b>] ボタンが選択されています。このボタンの選択を解除すると, 2 つの各ツリーで異なる CI を選択できます。これで, 2 つの異なる CI を比較して, 異なるプロパティを確認できます。</p>

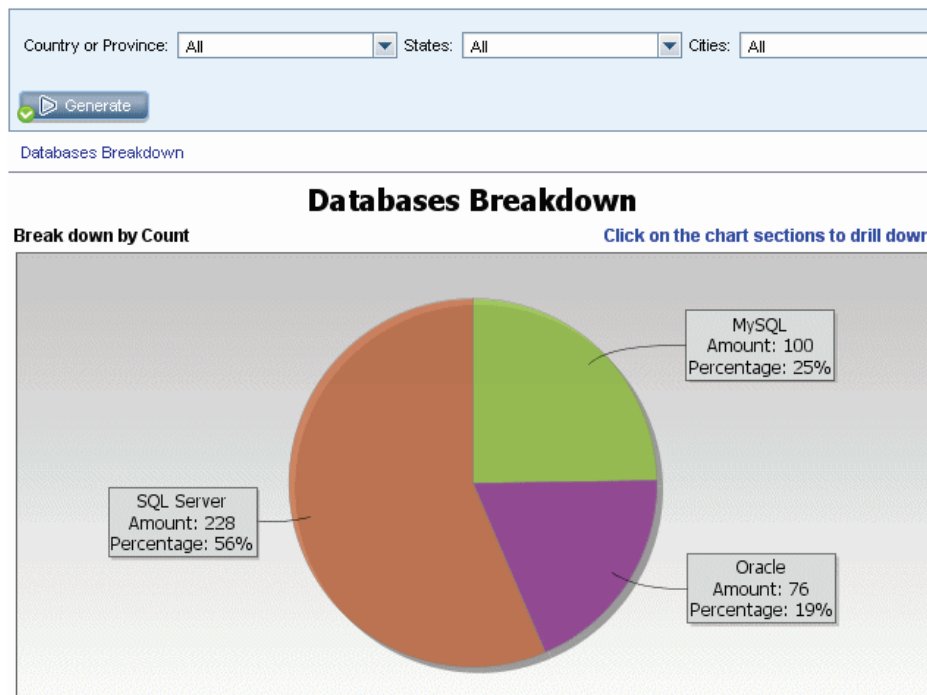
UI 要素 (A-Z)	説明						
	<p><b>更新された項目を含む</b> : CI 属性値が変更されたことを示します。たとえば, 次の図では <b>10.0.0.0</b> CI の横に <b>[更新された項目を含む]</b> アイコンが表示されています。これは <b>10.0.0.0</b> の子である CI <b>10.168.100.3</b> アイコンの属性が変更されたためです。</p>  <table border="1" data-bbox="586 699 896 791"> <thead> <tr> <th>Name</th> <th>Value</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>RoutingDomain</td> <td>DefaultDom...</td> </tr> <tr> <td> P Network Mask</td> <td>255.0.0.0</td> </tr> </tbody> </table>	Name	Value	RoutingDomain	DefaultDom...	 P Network Mask	255.0.0.0
Name	Value						
RoutingDomain	DefaultDom...						
 P Network Mask	255.0.0.0						
	<p><b>削除された項目</b> : CI がビューから削除されたことを示します。</p>						
	<p><b>新規項目</b> : CI がビューに追加されたことを示します。</p> 						

UI 要素 (A-Z)	説明
	<p><b>更新された項目</b> : CI の属性値が変更されたことを示します。</p> <p>たとえば、次の図では CI LABM3MAM16 に <b>[更新された項目]</b> アイコンが表示されています。これは、CI LABM3MAM16 が <b>[異なる属性値のみを表示]</b> アイコンで示されるように新しいバージョン値で更新されたためです (ツリー構造の下にある表示枠の <b>[名前]</b> カラムと <b>[値]</b> カラムを参照)。</p> 
< 左右表示枠 >	<p>該当のスナップショットのビューにあるすべての CI の階層ツリー構造が表示されます。左側の表示枠には、2 つのスナップショットのうち必ず新しいほうが表示されます。</p>
< [プロパティ] 表示枠 >	<p>選択した CI の属性を表示します。</p> <p>[プロパティ] 表示枠には次のフィールドがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>名前</b> : CI のラベルに定義されている選択した CI の名前が表示されます。</li> <li>▶ <b>値</b> : 現在選択している CI の属性値を表示します。</li> </ul>
< ツールバー >	<p>詳細については、431 ページの「ツールバー・オプション」を参照してください。</p>

UI 要素 (A-Z)	説明
<p><b>利用可能なスナップショット</b></p>	<p>[<b>スナップショットを持つビュー</b>] フィールドで選択したビューの現在のステータスと以前に保存したスナップショットが表示されます。比較する 2 つのスナップショットを選択します。</p> <p><b>注:</b> [<b>レポートのパラメータ</b>] ボタンが押されている場合にのみ表示されます。</p>
<p><b>スナップショットを持つビュー</b></p>	<p>比較するスナップショットのビューの名前を表示します。スナップショットを取ったビューだけが表示されます。</p> <p><b>注:</b> [<b>レポートのパラメータ</b>] ボタンが押されている場合にのみ表示されます。</p>

## 🔍 データベース・ブレイクダウン・レポート

このレポートには、データベース・タイプとバージョンのブレイクダウンが表示されます。システムにデプロイされているすべてのデータベース、または特定の場所にあるデータベースを表示できます。



<p><b>利用方法</b></p>	<p>[マネージャ] &gt; [モデリング] &gt; [レポート] を選択します。[カスタム レポート]表示枠で、次のいずれかを行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ [データベース ブレイクダウン レポート] を右クリックし、[新規レポートの作成] を選択する。</li> <li>▶ [新規レポートの作成] * ボタンをクリックし、[データベース ブレイクダウン レポート] を選択する。</li> <li>▶ [データベース ブレイクダウン レポート]をダブルクリックする。</li> <li>▶ [データベース ブレイクダウン レポート] を選択し、右表示枠にドラッグする。</li> </ul>
<p><b>関連タスク</b></p>	<p>365 ページの「カスタム・レポートの生成」</p>

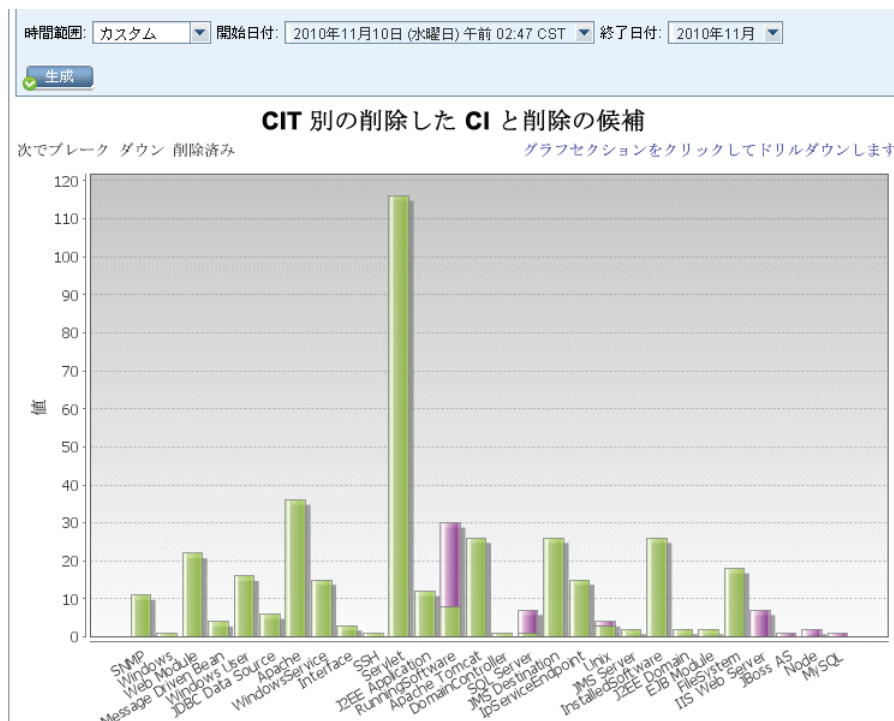
ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

UI 要素 (A-Z)	説明
<p>&lt; 棒グラフ / 円グラフ &gt;</p>	<p>円グラフの各セグメント / 棒グラフの各カラムは、異なるデータベースを示します。</p> <p>スライス / 棒をクリックするとバージョンごとに並べ替えられたデータベースが表示され、再度クリックするとドリルダウンしてテーブル形式でバージョン情報が表示されます。</p> <p>各セグメント / 棒の上にマウスを置くと、データベース名、各データベースの CI インスタンス数、全体に対するセグメントの割合（円グラフ形式で情報を表示している場合）、およびスライス / 棒で表される CI タイプがツールチップに表示されます。</p> <p>円グラフの下にある凡例には、各 CI の名前とその下のレベルにバージョンが表示されます。</p>
<p>&lt; ツールバー &gt;</p>	<p>詳細については、431 ページの「ツールバー・オプション」を参照してください。</p>
<p>市町村</p>	<p>現在サポートされていません。</p>
<p>国または地域</p>	<p>現在サポートされていません。</p>
<p>状態</p>	<p>現在サポートされていません。</p>



## 🔗 削除候補レポート

このレポートには、定義した期間内に削除された CIT と関係、および削除される予定の CIT と関係が表示されます。



<b>利用方法</b>	<p>[マネージャ] &gt; [モデリング] &gt; [レポート] を選択します。[カスタム レポート] 表示枠で、次のいずれかを行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ [削除候補レポート] を右クリックし、[新規レポートの作成] を選択する。</li> <li>▶ [新規レポートの作成] * ボタンをクリックし、[削除候補レポート] を選択する。</li> <li>▶ [削除候補レポート] をダブルクリックする。</li> <li>▶ [削除候補レポート] を選択し、右表示枠にドラッグする。</li> </ul>
<b>関連タスク</b>	365 ページの「カスタム・レポートの生成」

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

UI 要素 (A-Z)	説明
< 棒グラフ >	<p>棒グラフのカラムの各セグメントは、CI または関係の CIT を示します。</p> <p>棒をクリックすると、ドリルダウンして削除された CIT と関係、および削除される予定の CIT と関係が表形式で表示されます。</p> <p>各棒の関連する色の上にマウスを置くと、削除された CI と関係の数または削除される予定の CI と関係の数、および棒で表される CI タイプがツールチップに表示されます。</p> <p>凡例には、削除された CI と関係を示す色、削除される予定の CI と関係を示す色が表示されます。各 CI または関係の CIT は下に表示されます。</p>
< ツールバー >	<p>詳細については、431 ページの「ツールバー・オプション」を参照してください。</p>
開始日付	<p>レポートの開始日時を設定します。</p>
終了日付	<p>レポートの終了日時を設定します。</p>
時間範囲	<p>検出された変更を表示する時間範囲を選択します。開始日付と終了日付は、システムによって [開始日付] および [終了日付] ボックスに自動的に表示されます。</p> <p><b>注：</b> [カスタム] を選択すれば、[開始日付] および [終了日付] ボックスの開始日付と終了日付を手動で設定できます。</p>

## 依存関係レポート

このレポートでは、選択したビューのサーバ同士、または CMDB のサーバと選択したビューのサーバを接続するすべてのタイプの**依存関係**のリストを生成できます。

このレポートには次の関係が含まれます。

- ▶ データベースとクライアント間に存在する関係
- ▶ クライアントとサーバ間に存在する関係

▶ MQ 接続の結果として作成される関係

ビュー: Weblogic\_To...  次に基づく情報を検索  CMDB  ビュー

Node	Relationship	Counter	Clients
DR3	Talk	2	[DR3, DR3]
ilo-labm3amrddb06.devlab.ad	Talk	2	[ilo-labm3amrddb06.devlab.ad, ilo-labm3amrddb06.d
VMAMRND91	Talk	2	[VMAMRND91, VMAMRND91]
LABM3AM202	Talk	2	[LABM3AM202, LABM3AM202]
LABM2AM31	Talk	2	[LABM2AM31, LABM2AM31]
ilo-illabesx23.devlab.ad	Talk	2	[ilo-illabesx23.devlab.ad, ilo-illabesx23.devlab.ad]
ilo-labm3erp01.devlab.ad	Talk	2	[ilo-labm3erp01.devlab.ad, ilo-labm3erp01.devlab.ad]
VMFTRND27	Talk	2	[VMFTRND27, VMFTRND27]
ilo-labm3ccm29.devlab.ad	Talk	2	[ilo-labm3ccm29.devlab.ad, ilo-labm3ccm29.devlab.ad]
ilogb8920rfc6.devlab.ad	Talk	2	[ilogb8920rfc6.devlab.ad, ilogb8920rfc6.devlab.ad]
ilo-illabac011.devlab.ad	Talk	2	[ilo-illabac011.devlab.ad, ilo-illabac011.devlab.ad]
ilo-labm3amrnd57.devlab.ad	Talk	2	[ilo-labm3amrnd57.devlab.ad, ilo-labm3amrnd57.devl
ilo-labm3am235.devlab.ad	Talk	2	[ilo-labm3am235.devlab.ad, ilo-labm3am235.devlab.ad]
illabesx60.devlab.ad	Talk	2	[illabesx60.devlab.ad, illabesx60.devlab.ad]
IMPULSE	Talk	2	[IMPULSE, IMPULSE]
ilo-labm3am241.devlab.ad	Talk	2	[ilo-labm3am241.devlab.ad, ilo-labm3am241.devlab.ad]
ilo-labm1rac02.devlab.ad	Talk	2	[ilo-labm1rac02.devlab.ad, ilo-labm1rac02.devlab.ad]

<p><b>利用方法</b></p>	<p>[マネージャ] &gt; [モデリング] &gt; [レポート] を選択します。[カスタム レポート] 表示枠で、次のいずれかを行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ [依存関係レポート] を右クリックし、[新規レポートの作成] を選択する。</li> <li>▶ [新規レポートの作成] * ボタンをクリックし、[依存関係レポート] を選択する。</li> <li>▶ [依存関係レポート] をダブルクリックする。</li> <li>▶ [依存関係レポート] を選択し、右表示枠にドラッグする。</li> </ul>
<p><b>重要情報</b></p>	<p>エンリッチメント・マネージャで新しい TQL クエリを作成するには、<b>Dependency</b> 関係を使ってノード間の接続を記述します。新しい<b>依存関係</b>が使用されるたびに、依存関係レポートに表示されます。</p>
<p><b>関連タスク</b></p>	<p>365 ページの「カスタム・レポートの生成」</p>

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

UI 要素 (A-Z)	説明
<ショートカット・メニュー>	詳細については、250 ページの「IT ユニバース・マネージャのショートカット・メニュー」を参照してください。
<ツールバー>	詳細については、431 ページの「ツールバー・オプション」を参照してください。
次に基づく情報を検索	次のいずれかを選択します。 ▶ <b>CMDB</b> . 選択したビューのサーバに依存している CMDB のサーバがすべて表示されます。 ▶ <b>[ビュー]</b> : 選択したビューのサーバ間の依存関係がすべて表示されます。
ビュー	必要なビューを選択します。

生成されるレポートには、次の要素が含まれています。

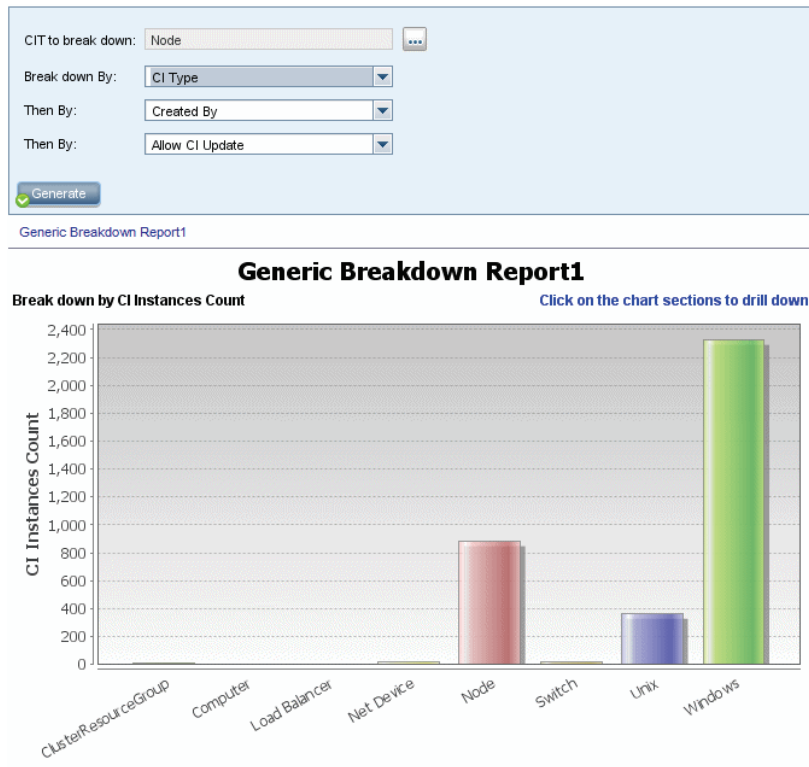
UI 要素 (A-Z)	説明
クライアント	サーバにリンクされているクライアントのリストです。
カウンタ	サーバが接続されているクライアントの数です。
ノード	選択したビューのサーバです。
関係	トポロジ・マップにおける関係の表示ラベルです。

## 汎用ブレイクダウン・レポート

このレポートには、次の情報による CI タイプのブレイクダウンが表示されます。

- ▶ CIT ツリーの選択した CIT でグループ化される CIT
- ▶ CIT 属性

CI タイプの詳細については、465 ページの「CI タイプ・マネージャ」を参照してください。



<p><b>利用方法</b></p>	<p>[マネージャ] &gt; [モデリング] &gt; [レポート] を選択します。[カスタム レポート] 表示枠で、次のいずれかを行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ [汎用ブレイクダウン レポート] を右クリックし、[新規レポートの作成] を選択する。</li> <li>▶ [新規レポートの作成] * ボタンをクリックし、[汎用ブレイクダウン レポート] を選択する。</li> <li>▶ [汎用ブレイクダウン レポート] をダブルクリックする。</li> <li>▶ [汎用ブレイクダウン レポート] を選択し、右表示枠にドラッグする。</li> </ul>
<p><b>関連タスク</b></p>	<p>365 ページの「カスタム・レポートの生成」</p>

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

UI 要素 (A-Z)	説明
< 棒グラフ / 円グラフ >	<p>円グラフの各セグメント / 棒グラフの各カラムは、CIT または CIT 属性を示します。これは、ブレイクダウンしたレベルによって異なります。</p> <p>スライス / 棒をクリックすると、次のレベルにドリルダウンします（定義されている場合）。最大 3 つの異なるレベルがあるレポートを生成できます。情報をテーブル形式で表示することもできます。</p> <p>関連するセグメント / 棒の上にマウスを置くと、CIT または CIT 属性の CI インスタンス数、全体に対するセグメントの割合（円グラフ形式で情報を表示している場合）、およびスライス / 棒で表される CIT または CIT 属性がツールチップに表示されます。</p>
< ツールバー >	<p>詳細については、431 ページの「ツールバー・オプション」を参照してください。</p>
次でブレイクダウン	<p>最初のレベルに必要なブレイクダウンを選択します。</p>
続いて次で並べ替え	<p>(任意指定) 2 番目および 3 番目のレベルに必要なブレイクダウンを選択します。</p>

## ゴールド・マスタ・レポート

このレポートは、1 つ以上の CI とゴールド・マスタとして指定されている別の CI を比較し、比較 CI のどの設定がゴールド・マスタ CI と異なるのかを示します。

このレポートは、ゴールド マスタ CI の属性値を同じ CIT の比較 CI の属性値と比較します。

---

**注:** ゴールド・マスタ・レポートでは、値が異なる場合にのみ CI 属性の比較結果が表示されます。

---

## 第9章・レポート

セクションが空の場合は、ゴールド・マスタ CI とその CIT の比較 CI のすべての属性値が同一であることを意味します。このような場合は、サブグラフの次のレイヤの属性が比較され、その後も同様に繰り返されます。



あるレイヤの比較 CI に異なる属性が見つかったら、ゴールド・マスタ・レポートはサブグラフ内のほかのレイヤを比較して相違点を見つける処理を中止します。

マスタ CI:  ...

比較 CI:  ... 除外クラス:  ...

類似アイテムを含める

Display Label	Attribute Name	Value in Goldmaster CI	Value in Compare
scdam036			
Windows	CI Instances Count	1	
labm3qcrnddb...	DiscoveredModel	ProLiant BL460c G1	none
labm3qcrnddb...	Windows Physical Memory Size	2094960	none
labm3qcrnddb...	SwapMemorySize	4095	none
labm3qcrnddb...	DomainName	devlab.ad	none
labm3qcrnddb...	MemorySize	2048	none
labm3qcrnddb...	DiscoveredVendor	HP	none
scdam075			
Windows	CI Instances Count	2	
labm3qcrnddb...	DiscoveredModel	ProLiant BL460c G1	none
labm3qcrnddb...	Windows Physical Memory Size	2094960	none
labm3qcrnddb...	SwapMemorySize	4095	4092
labm3qcrnddb...	DomainName	devlab.ad	none
labm3qcrnddb...	MemorySize	2048	4097
labm3qcrnddb...	DiscoveredVendor	HP	none

利用方法	<p>[マネージャ] &gt; [モデリング] &gt; [レポート] を選択します。[カスタム レポート] 表示枠で、次のいずれかを行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ [ゴールド マスタ レポート] を右クリックし、[新規レポートの作成] を選択する。</li> <li>▶ [新規レポートの作成] * ボタンをクリックし、[ゴールド マスタ レポート] を選択する。</li> <li>▶ [ゴールド マスタ レポート] をダブルクリックする。</li> <li>▶ [ゴールド マスタ レポート] を選択し、右表示枠にドラッグする。</li> </ul>
重要情報	<p>比較できるのは、CIT マネージャで<b>比較可能</b>な修飾子を割り当てられた属性だけです。詳細については、465 ページの「CI タイプ・マネージャ」を参照してください。</p>
関連タスク	<p>368 ページの「スナップショットの比較」</p>

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素 (A-Z)	説明
< ツールバー >	詳細については、431 ページの「ツールバー・オプション」を参照してください。
< ショートカット・メニュー >	詳細については、250 ページの「IT ユニバース・マネージャのショートカット・メニュー」を参照してください。
属性名	CI 属性の名前です。
比較 CI	属性値をゴールド・マスタ CI と比較する CI を選択できます。[CI の選択] が開きます。詳細については、151 ページの「CI の選択」を参照してください。
表示ラベル	比較 CI の表示名です。
除外クラス	レポートから除外する CI タイプを選択します。
類似アイテムを含める	ゴールド・マスタ CI の設定と同じ設定の比較 CI を含む場合、このチェック・ボックスを選択します。
マスタ CI	ゴールド・マスタ CI として使用する CI を選択できます。[CI の選択] が開きます。詳細については、151 ページの「CI の選択」を参照してください。
比較 CI の値	比較 CI の属性の値です。
ゴールド・マスタ CI の値	ゴールド・マスタ CI の属性の値です。

## 🔑 影響分析レポート

このレポートには、シミュレートされた変化の結果として影響を受けるシステム内の CI のリストが表示されます。詳細については、260 ページの「[影響分析を実行] ダイアログ・ボックス」を参照してください。



<b>利用方法</b>	<p>[マネージャ] &gt; [モデリング] &gt; [レポート] を選択します。[カスタム レポート]表示枠で、次のいずれかを行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ [影響分析レポート] を右クリックし、[新規レポートの作成] を選択する。</li> <li>▶ [新規レポートの作成] * ボタンをクリックし、[影響分析レポート] を選択する。</li> <li>▶ [影響分析レポート] をダブルクリックする。</li> <li>▶ [影響分析レポート] を選択し、右表示枠にドラッグする。</li> </ul>
<b>関連タスク</b>	<p>365 ページの「カスタム・レポートの生成」</p>
<b>関連情報</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 439 ページの「影響分析マネージャ」</li> <li>▶ 260 ページの「[影響分析を実行] ダイアログ・ボックス」</li> </ul>

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

UI 要素 (A-Z)	説明
< ツールバー >	詳細については、431 ページの「ツールバー・オプション」を参照してください。
ルールバンドル	影響の分析ルールで使用するルール・グループを選択できます。
重大度	トリガ CI をシミュレートする重大度レベルを設定します。
トリガされた CI	システムに加える変化を表す CI を選択します。[CI の選択] が開きます。

### 【影響を受けるアプリケーション】タブ

このタブには、トリガ CI の重大度の変更による影響を受けた特定のビジネス・アプリケーションに属するすべての CI が表示されます。

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素 (A-Z)	説明
表示ラベル	トポロジ・マップに表示される CI または関係の名前です。
トリガの重大度	[重大度] ボックスで選択された重大度です。

### 【CIT 別のグループ化】タブ

このタブには、シミュレートされた変化の結果として影響を受けるシステム内のトリガ CI に関連するすべての CI が CI タイプごとに並べ替えられた状態で表示されます。

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素 (A-Z)	説明
表示ラベル	トポロジ・マップに表示される CI または関係の名前です。
トリガの重大度	[重大度] ボックスで選択された重大度です。

## [トリガ CI] タブ



このタブには、システムに加える変化を表す CI がすべて表示されます。このタブの CI は、[トリガ CI] ボックスで選択した CI です。

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。



UI 要素 (A-Z)	説明
表示ラベル	トポロジ・マップに表示される CI または関係の名前です。









## [ジョブ リスト] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスには、427 ページの「[ジョブのスケジュール] ダイアログ・ボックス」で実行するようスケジュールされたレポート/スナップショットのリストが表示されます。

利用方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 実行するようスケジュールされたレポートのリストを表示するには、[マネージャ] &gt; [モデリング] &gt; [レポート] を選択します。[レポート] ページで、[スケジュールされたレポート ジョブを表示]  ボタンをクリックします。</li> <li>▶ スナップショットを取るスケジュールを定義するには、[マネージャ] &gt; [モデリング] &gt; [レポート] を選択します。[トポロジ レポート] 表示枠で、必要なビューを選択して [スナップショット]  ボタンをクリックし、[スケジュールされたスナップショット ジョブを表示] を選択します。</li> </ul>
関連タスク	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 365 ページの「トポロジ・レポートの表示」</li> <li>▶ 365 ページの「カスタム・レポートの生成」</li> </ul>

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素 (A-Z)	説明
	<b>新規のスケジュールされたレポートを挿入：</b> [ジョブのスケジュール] ダイアログ・ボックスを使用して新しいジョブを定義します。
	<b>ジョブを編集：</b> [ジョブのスケジュール] ダイアログ・ボックスを使用して、選択したジョブを編集します。

UI 要素 (A-Z)	説明
	<b>コピーを作成</b> : 選択したジョブのコピーを作成できます。選択したジョブの詳細を使用する [ジョブのスケジュール] ダイアログ・ボックスで新しいジョブを開きます。
	<b>ジョブを削除</b> : 選択したジョブをスケジュールされたジョブのリストから削除します。
	<b>直ちにジョブを実行</b> : 選択したジョブを実行します。
	<b>ジョブの中断</b> : 選択したジョブを中断します。ジョブのステータスが [保留] の場合にのみ有効になります。
	<b>ジョブの再開</b> : 選択したジョブを再開します。 <b>注</b> : [ジョブの再開] ボタンは、ステータスが [中断] のジョブの場合にのみ有効になります。
	スケジュールされたジョブのリストを更新します。
	現在のフィルタをクリアします。
	<b>Change visible columns</b> : 表示するカラムを選択できます。
<b>現在のステータス</b>	スケジュールされた各ジョブの現在のステータスです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>実行中</b> : このジョブは現在実行中です。</li> <li>▶ <b>保留</b> : このジョブはスケジュールの要件が満たされるのを待機しています。</li> <li>▶ <b>完了</b> : このジョブは実行が完了しています。</li> <li>▶ <b>一時停止</b> : このジョブは中断しています。</li> </ul> <p><b>メモ</b> : ステータスが [完了] になっているジョブの実行を再開する場合、[直ちにジョブを実行] をクリックするか、[次の実行時間] を現在時刻に変更します。未来の時刻に変更すると、ステータスが [保留] に変わります。</p>
<b>説明</b>	[ジョブのスケジュール] ダイアログ・ボックスで定義された、スケジュールされたジョブの説明です。

UI 要素 (A-Z)	説明
実行ステータス	ジョブの現在の実行ステータス： ▶ <b>Success (成功)</b> : このジョブは正常に完了しました。 ▶ <b>失敗</b> : このジョブは実行に失敗しました。 ▶ <b>なし</b> : このジョブはまだ実行されていません。
ジョブタイプ	スケジュールされたジョブは, [定期レポート] または [スナップショットをスケジュールする] のいずれかになります。
最終実行時間	レポートが最後に実行された時間です。
名前	[ジョブのスケジュール] ダイアログ・ボックスで定義された, スケジュールされたジョブの名前です。
次の実行時間	このレポートが次に実行される時間です。

## 🔗 ネットワーク・デバイス・ブレイクダウン・レポート

このレポートには、ネットワーク・デバイスのブレイクダウンが表示されます。次の条件を満たすネットワーク・デバイスのみがレポートに表示されます。

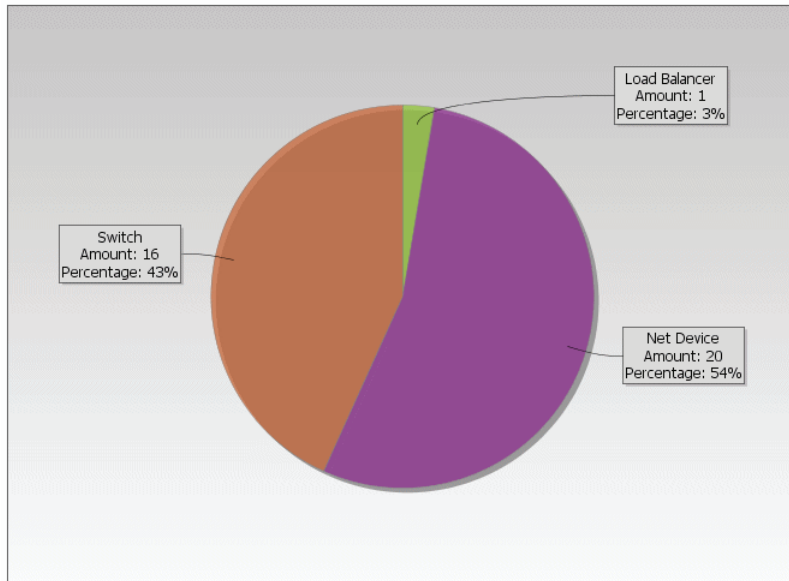
- ▶ ネットワーク・デバイスの CIT は修飾子 **NETWORK\_DEVICES** を割り当てられています。詳細については、87 ページの「修飾子タブ」を参照してください。
- ▶ ネットワーク・デバイスは **Host is complete = True** という属性条件で定義されています。詳細については、82 ページの「属性タブ」を参照してください。

Country or Province:  States:  Cities:

### Network Devices Breakdown

Break down by CI Instances Count

[Click on the chart sections to drill down](#)





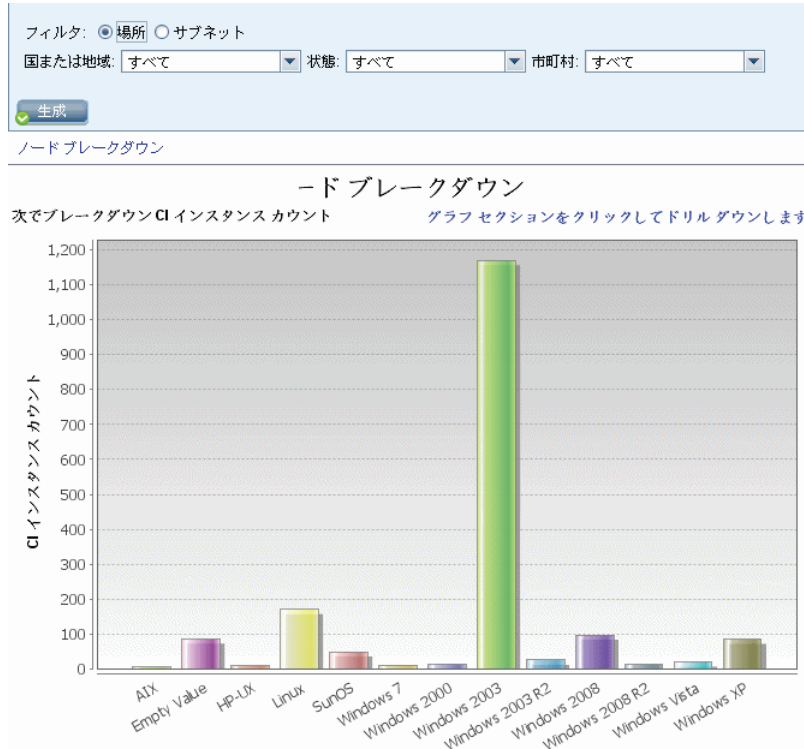
利用方法	<p>[マネージャ] &gt; [モデリング] &gt; [レポート] を選択します。[カスタム レポート]表示枠で、次のいずれかを行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ [ネットワーク デバイス ブレークダウン レポート] を右クリックし、[新規レポートの作成] を選択する。</li> <li>▶ [新規レポートの作成] * ボタンをクリックし、[ネットワーク デバイス ブレークダウン レポート] を選択する。</li> <li>▶ [ネットワーク デバイス ブレークダウン レポート] をダブルクリックする。</li> <li>▶ [ネットワーク デバイス ブレークダウン レポート] を選択し、右表示枠にドラッグする。</li> </ul>
関連タスク	365 ページの「カスタム・レポートの生成」

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

UI 要素 (A-Z)	説明
< 棒グラフ / 円グラフ >	<p>円グラフの各セグメント / 棒グラフの各カラムは、異なるネットワーク・デバイスを示します。</p> <p>スライス / 棒をクリックすると、ドリルダウンしてネットワーク・デバイスごとの CI インスタンス数が表示されます。</p> <p>各セグメント / 棒の上にマウスを置くと、ネットワーク・デバイス名、各ネットワーク・デバイスの CI インスタンス数、全体に対するセグメントの割合 (円グラフ形式で情報を表示している場合)、およびスライス / 棒で表される CI タイプがツールチップに表示されます。</p> <p>セグメント / 棒をクリックすると、メーカーで並べ替えられた特定のネットワーク・デバイスが表示されます。セグメント / 棒を再度クリックすると、そのメーカーの当該ネットワーク・デバイスの CI インスタンスに関する詳細がテーブル形式で表示されます。</p> <p>凡例の各色は異なるネットワーク・デバイスを示します。</p>
< ツールバー >	詳細については、431 ページの「ツールバー・オプション」を参照してください。
市町村	現在サポートされていません。
国または地域	現在サポートされていません。
状態	現在サポートされていません。

## 🔗 ノード O/S ブレークダウン・レポート

このレポートには、オペレーティング・システムのブレークダウンが表示されます。デプロイされたすべてのオペレーティング・システムを表示したり、特定の場所にあるか、一定のサブネットで稼動しているオペレーティング・システムのデータを表示できます。



#### 利用方法

- [マネージャ] > [モデリング] > [レポート] を選択します。[カスタム レポート] 表示枠で、次のいずれかを行います。
- ▶ [ノード O/S ブレークダウン レポート] を右クリックし、[新規レポートの作成] を選択する。
  - ▶ [新規レポートの作成] \* ボタンをクリックし、[ノード O/S ブレークダウン レポート] を選択する。
  - ▶ [ノード O/S ブレークダウン レポート] をダブルクリックする。
  - ▶ [ノード O/S ブレークダウン レポート] を選択し、右表示枠にドラッグする。

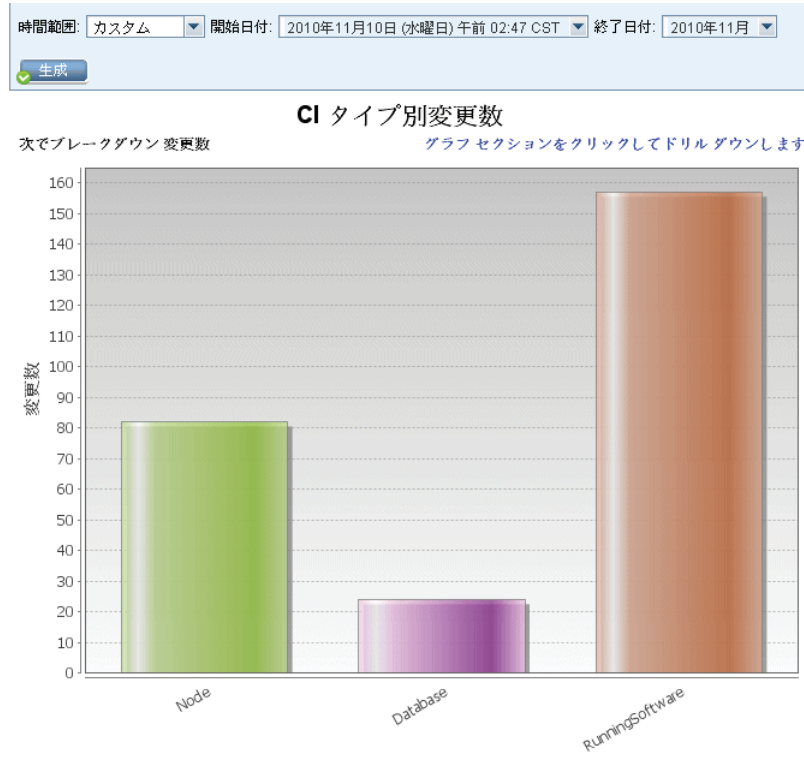
関連タスク	365 ページの「カスタム・レポートの生成」
-------	------------------------

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

UI 要素 (A-Z)	説明
< 棒グラフ / 円グラフ >	<p>円グラフの各セグメント / 棒グラフの各カラムは、異なるオペレーティング・システムを示します。</p> <p>スライス / 棒をクリックすると、ドリルダウンしてオペレーティング・システムごとの CI インスタンス数がテーブル形式で表示されます。</p> <p>各セグメント / 棒の上にマウスを置くと、オペレーティング・システム名、各オペレーティング・システムの CI インスタンス数、全体に対するセグメントの割合（円グラフ形式で情報を表示している場合）、およびスライス / 棒で表される CI タイプがツールチップに表示されます。</p>
< ツールバー >	詳細については、431 ページの「ツールバー・オプション」を参照してください。
市町村	現在サポートされていません。
国または地域	現在サポートされていません。
フィルタ	<p>次のいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>場所</b> : 必要な場所を選択します。</li> <li>▶ <b>サブネット</b> : 必要なサブネットを入力します。ワイルドカード文字にアスタリスク(*)を使用して複数のサブネットを含めることができます。たとえば、11* などです。</li> </ul>
状態	現在サポートされていません。

## 🔗 変更数レポート

このレポートには、定義した期間内に CIT で検出された変更（追加，削除，更新）の件数が表示されます。



#### 利用方法

- [マネージャ] > [モデリング] > [レポート] を選択します。[カスタム レポート] 表示枠で、次のいずれかを行います。
- ▶ [変更数] を右クリックし、[新規レポートの作成] を選択する。
  - ▶ [新規レポートの作成] \* ボタンをクリックし、[変更数] を選択する。
  - ▶ [変更数] をダブルクリックする。
  - ▶ [変更数] を選択し、右表示枠にドラッグする。

関連タスク	365 ページの「カスタム・レポートの生成」
-------	------------------------

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

UI 要素 (A-Z)	説明
< 棒グラフ / 円グラフ >	<p>最初のレベルで、円グラフの各セグメント / 棒グラフの各カラムは、変更が検出された CI または関係の CIT を示します。凡例には、各 CIT を表す色が表示されます。</p> <p>各セグメント / 棒の関連する色の上にマウスを置くと、該当の CIT で発生した変更の数、全体に対するセグメントの割合（円グラフ形式で情報を表示している場合）、およびスライス / 棒で表される CI タイプがツールチップに表示されます。</p> <p>スライス / 棒をクリックすると、2 番目のレベルにドリルダウンして各 CIT と CIT の子に発生した変更タイプが表示されます。各セグメント / 棒の色は、アプリケーションで発生したさまざまなタイプの変更を示します。各色で表される変更タイプを確認するには、凡例を参照してください。</p> <p>必要な色をクリックすると、ドリルダウンして該当の変更タイプの CI または関係の数がテーブル形式で表示されます。2 回目のドリルダウンを行うと、説明した変更を表すインスタンスが表示されます。</p> <p>変更タイプ [追加済み] または [更新済み] は CMDB から取得されます。変更タイプ [削除済み] は履歴データベースから取得されます。</p>
< ツールバー >	<p>詳細については、431 ページの「ツールバー・オプション」を参照してください。</p>
開始日付	レポートの開始日時を設定します。
終了日付	レポートの終了日時を設定します。


UI 要素 (A-Z)	説明
時間範囲	<p>検出された変更を表示する時間範囲を選択します。開始日付と終了日付は、システムによって <b>[開始日付]</b> および <b>[終了日付]</b> ボックスに自動的に表示されます。</p> <p><b>注:</b> <b>[カスタム]</b> を選択すれば、<b>[開始日付]</b> および <b>[終了日付]</b> ボックスの開始日付と終了日付を手動で設定できます。</p>

## [レポート] ページ

このページでは、ビューのデータや事前定義されている多数のカスタム・レポート・タイプに基づいてトポロジ・レポートを作成できます。

利用方法	[マネージャ] > [モデリング] > [レポート] を選択します。
関連タスク	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 365 ページの「トポロジ・レポートの表示」</li> <li>▶ 365 ページの「カスタム・レポートの生成」</li> <li>▶ 366 ページの「CI の比較」</li> <li>▶ 368 ページの「スナップショットの比較」</li> </ul>
関連情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 431 ページの「ツールバー・オプション」</li> <li>▶ 364 ページの「カスタム・レポートの概要」</li> <li>▶ 364 ページの「トポロジ・レポートの概要」</li> </ul>





ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。




UI 要素 (A-Z)	説明
	<p><b>スケジュールされたレポート ジョブを表示:</b> [ジョブ リスト] ダイアログ・ボックスが開き、実行するようスケジュールされたレポートが表示されます。詳細については、413 ページの「[ジョブ リスト] ダイアログ・ボックス」を参照してください。</p>

UI 要素 (A-Z)	説明
< 左側の表示枠 >	<p>含まれている表示枠は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>トポロジ レポート</b>：モデリング・スタジオを使用して作成されたビューおよびテンプレートのレポートが表示されます。詳細については、434 ページの「トポロジ・レポート」を参照してください。</li> <li>▶ <b>カスタム レポート</b>：あらかじめ設定されたさまざまなタイプのレポートがグラフ形式またはテーブル形式で表示されます。詳細については、371 ページの「[レポート]のユーザ・インタフェース」を参照してください。</li> </ul>
< 右表示枠 >	選択したレポートが表示されます。




## 左側の表示枠






ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素 (A-Z)	説明
	<p><b>新規レポートの作成</b>：作成するレポートのタイプを選択できます。</p> <p><b>注</b>：このオプションはカスタム・レポートにのみ関連します。</p>
	<p><b>レポートを開く</b>：[レポート] 表示枠の既存のレポートが生成されます。</p>
	<p><b>ビュー定義の表示</b>：選択したビュー定義がモデリング・スタジオで表示されます。詳細については、265 ページの「モデリング・スタジオ」を参照してください。</p> <p><b>注</b>：このオプションはトポロジ・レポートでのみ使用できます。</p>
	<p><b>レポートの削除</b>：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ [カスタム レポート] 表示枠では、選択したレポートが削除されます。</li> <li>▶ [トポロジ レポート] 表示枠では、アーカイブ・レポートが削除されます。</li> </ul>

UI 要素 (A-Z)	説明
	<p><b>定期レポート:</b> [ジョブのスケジュール] ダイアログ・ボックスが開き、ジョブの次の情報を定義できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ レポート生成のスケジュール</li> <li>▶ 1つ以上のレポート送信形式およびレポート受信者の指定</li> <li>▶ ジョブの繰り返しの指定</li> </ul> <p>[ジョブのスケジュール] ダイアログ・ボックスの詳細については、427 ページの「[ジョブのスケジュール] ダイアログ・ボックス」を参照してください。</p> <p><b>注:</b> このオプションは、レポートを生成する前または保存したレポートを開くときにのみ使用できます。</p>
	<p><b>メールを送信:</b> [メールを送信] ダイアログ・ボックスが開きます。さまざまな形式で生成されたレポートまたはダイレクト・リンクとして生成されたレポートを含む電子メールを送信できます。各種形式の詳細については、432 ページの「レポートのエクスポート:」を参照してください。</p> <p>添付ファイルとして電子メール受信者に送信される生成されたレポートの形式を1つ以上選択します。</p> <p><b>注:</b> 必須フィールドにはアスタリスクが付いています。</p>
	<p><b>ダイレクトリンクの生成:</b> 選択したレポートのサーバの特定の場所へのダイレクト・リンクまたは特定の形式でエクスポートしたデータへのダイレクト・リンクを作成します。</p>






UI 要素 (A-Z)	説明
	<p><b>レポートのエクスポート：</b> レポートのエクスポート形式を選択できます。次のオプションを使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>Excel：</b>レポートのデータは、スプレッドシートに表示できる .xls (Excel) ファイル形式に整形されます。</li> <li>▶ <b>PDF：</b>レポートのデータは、PDF 形式でエクスポートされます。</li> <li>▶ <b>CSV：</b>レポートのデータは、カンマで区切られた値 (CSV) のテキスト・ファイル形式に設定されます。これは、スプレッドシートで表示できます。 <b>注：</b>CSV 形式のテーブルのデータを正しく表示するには、カンマ (,) を区切り文字として定義する必要があります。Windows では、区切り文字の値を確認または変更するには、コントロール・パネルの [地域のオプション] を開いて、[数値] タブでカンマが区切り文字の値として定義されていることを確認します。Linux では、CSV ファイルを開くアプリケーションで区切り文字を指定できます。</li> <li>▶ <b>XML：</b>レポートのデータは、テキスト・エディタまたは XML エディタで開くことができる XML ファイルとして整形されます。 <b>ヒント：</b>HTML コードをレポートから抽出するには、次の手順で行います。 <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ ファイルを HTML エディタで開きます。</li> <li>▶ 関連するテーブルをターゲット・ファイルにコピーします。</li> </ul> </li> </ul>
	<p><b>スナップショット：</b>次の操作ができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ アクティブなレポートのスナップショットを保存する。詳細については、262 ページの「[スナップショットを保存する] ダイアログ・ボックス」を参照してください。</li> <li>▶ 以前に保存したスナップショットを、アクティブなレポートまたは別のスナップショットと比較する。詳細については、393 ページの「スナップショット比較レポート」を参照してください。</li> <li>▶ スケジュールされたスナップショットを保存する。詳細については、427 ページの「[ジョブのスケジュール] ダイアログ・ボックス」を参照してください。</li> <li>▶ 現在スケジュールされているスナップショット・ジョブや詳細情報を表示する (413 ページの「[ジョブリスト] ダイアログ・ボックス」を参照)。</li> </ul> <p><b>注：</b>このオプションはトポロジ・レポートでのみ使用できます。</p>
	<p><b>更新：</b>レポート・ツリーが更新されます。</p>


UI 要素 (A-Z)	説明
	<b>すべてを展開</b> ：ツリー構造が展開されます。
	<b>すべてを折りたたむ</b> ：ツリー構造が折りたたまれます。
	<b>空のフォルダを非表示</b> ：すべてのフォルダが表示されている状態とレポートを含むフォルダのみが表示されている状態が切り替わります。
	<b>フレーズの次回発生を検索/フレーズの前回発生を検索</b> ：[検索] フィールドに入力した文字列の次または前の検索結果に移動できます。
	<b>フレーズのすべての発生をハイライト表示</b> ：[検索] フィールドに入力した文字列に一致する、CI ツリー内のすべての項目が強調表示されます。
<b>検索</b>	<b>[検索]</b> フィールドに検索名または検索名の一部を入力して、リスト内の CI を検索します。

## [ジョブのスケジュール] ダイアログ・ボックス


このダイアログ・ボックスでは、レポートを実行するスケジュールを定義し、指定した受信者に電子メールで送信できます。また、特定のビューのスナップショットを取るようスケジュールを定義することもできます。413 ページの「[ジョブ リスト] ダイアログ・ボックス」では、実行するようスケジュールされたレポート / スナップショットのリストを表示できます。

<b>利用方法</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ レポートの実行をスケジュールするには、[マネージャ] &gt; [モデリング] &gt; [レポート] を選択します。[トポロジ レポート] 表示枠または [カスタム レポート] 表示枠で、レポートを選択して[定期レポート]  ボタンをクリックします。</li> <li>▶ スナップショットを取るスケジュールを定義するには、[マネージャ] &gt; [モデリング] &gt; [レポート] を選択します。[トポロジ レポート] 表示枠で、必要なビューを選択して [スナップショット]  ボタンをクリックし、[スナップショットをスケジュールする] を選択します。または、IT ユニバース・マネージャで、[CI の選択] の [スナップショット]  ボタンをクリックし、[スナップショットをスケジュールする] を選択します。</li> </ul>
<b>関連タスク</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 366 ページの「CI の比較」</li> <li>▶ 368 ページの「スナップショットの比較」</li> </ul>

含まれている要素は次のとおりです。

UI 要素 (A-Z)	説明
	クリックすると、[cron 式] ボックスで入力した cron 式が検証されます。
<b>アクション</b>	<p><b>注:</b> レポートを実行するスケジュールが定義されている場合にのみ使用できます。</p> <p>次のオプションを使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>メール:</b> [送信] ボックスのメール受信者にレポートが送信されます。</li> <li>▶ <b>アーカイブ:</b> レポート結果がデータベースにアーカイブされます。</li> </ul>
<b>Cron 式</b>	ジョブをスケジュールする cron 式を入力します。cron 式で使用されるフィールドとその使用例については、370 ページの「Cron 式」を参照してください。








UI 要素 (A-Z)	説明
説明	スケジュールされたジョブの説明です。
終了	次のオプションのいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>しない</b> : 終了日を指定しません。レポートを 1 回だけ実行するように定義している場合は関係ありません。</li> <li>▶ <b>次まで</b> : アクションの実行を停止する日時を選択します。cron 式を使用する場合にのみ関連します。</li> </ul>
形式	<p><b>注</b> : レポートを実行するスケジュールが定義されている場合にのみ使用できます。</p> <p>レポートを送信する形式を選択します。[メール] アクション・オプションを選択すると使用できます。</p> <p>次のオプションを使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>Excel</b> : レポートのデータは、スプレッドシートに表示できる .xls (Excel) ファイル形式に整形されます。</li> <li>▶ <b>PDF</b> : レポートのデータは、PDF 形式でエクスポートされます。</li> <li>▶ <b>CSV</b> : レポートのデータは、カンマで区切られた値 (CSV) のテキスト・ファイル形式に設定されます。これは、スプレッドシートで表示できます。  <b>注</b> : CSV 形式のテーブルのデータを正しく表示するには、カンマ (,) を区切り文字として定義する必要があります。  <b>Windows</b> では、区切り文字の値を確認または変更するには、コントロール・パネルの [地域オプション] を開いて、[数値] タブでカンマが区切り文字の値として定義されていることを確認します。<b>Linux</b> では、CSV ファイルを開くアプリケーションで区切り文字を指定できます。</li> <li>▶ <b>XML</b> : レポートのデータは、テキスト・エディタまたは XML エディタで開くことができる XML ファイルとして整形されます。</li> <li>▶ <b>ダイレクト リンク</b> : レポート・データを含む電子メールがダイレクト・リンクとして送信されます。</li> </ul>
ロケール	レポートの言語を選択します。
名前	スケジュール設定されたジョブの名前です。







UI 要素 (A-Z)	説明
繰り返し	<p>次のいずれかのアクションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>1 回</b> : ジョブを 1 回だけアクティブ化します。</li> <li>▶ <b>日ごと</b> : ジョブを毎日実行します。</li> <li>▶ <b>週ごと</b> : ジョブを毎週実行します。アクションを実行する曜日を 1 つまたは複数選択します。</li> <li>▶ <b>月ごと</b> : ジョブを毎月実行します。ジョブを実行する月を 1 つまたは複数選択します。</li> <li>▶ <b>年ごと</b> : ジョブを毎年実行します。</li> <li>▶ <b>Cron</b> : cron 式を使ってジョブのスケジュールを設定します。cron 式で使用されるフィールドとその使用例については、370 ページの「Cron 式」を参照してください。</li> </ul>
繰り返し間隔	<p>([日ごと], [週ごと], [月ごと] または [年ごと]) を選択すると表示されます) 連続する実行の間隔の値を選択します。たとえば, [週ごと] と [2] を選択すると, ジョブは隔週で実行されます。</p>
レポート	<p>実行するトポロジ・レポートまたはカスタム・レポートを選択できます。[レポートの選択] ダイアログ・ボックスが開きます。</p>
送信先	<p><b>注</b> : レポートを実行するスケジュールが定義されている場合にのみ使用できます。</p> <p>スケジュールされたレポートをメールで自動的に受信できる受信者を定義します。[アドレス帳を開く]  ボタンをクリックして [メッセージの受信者] ダイアログ・ボックスを開き, メール受信者を選択します。</p> <p>[メッセージの受信者] ダイアログ・ボックスの [追加], [編集], [削除] ボタンを使用して, メール・リストを変更できます。</p> <p><b>注</b> : [メッセージの受信者] ダイアログ・ボックスに表示される受信者は、『HP Universal CMDB 管理ガイド』の「[受信者マネージャ] ページ」で定義された電子メール受信者で更新されます。</p>
Server Time	<p>クライアントのタイムゾーンに基づいた正確なサーバの時刻です。</p>

UI 要素 (A-Z)	説明
開始	ジョブの実行を開始する日時を選択します。
タイムゾーン	必要なタイムゾーンを設定します。






## ツールバー・オプション

このセクションでは、[レポート] 表示枠のツールバー・オプションについて説明します。

UI 要素 (A-Z)	説明
 レポートのパラメータ	レポートに対して定義されたパラメータを表示します。
	<b>レポートを保存</b> ：選択したレポートを保存します。
	<p><b>定期レポート</b>：[ジョブのスケジュール] ダイアログ・ボックスが開き、ジョブの次の情報を定義できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ レポート生成のスケジュール</li> <li>▶ 1 つ以上のレポート送信形式およびレポート受信者の指定</li> <li>▶ ジョブの繰り返しの指定</li> </ul> <p>[ジョブのスケジュール] ダイアログ・ボックスの詳細については、427 ページの「[ジョブのスケジュール] ダイアログ・ボックス」を参照してください。</p> <p><b>注</b>：このオプションは、レポートを生成する前または保存したレポートを開くときにのみ使用できます。</p>
	<p><b>メールを送信</b>：[メールを送信] ダイアログ・ボックスが開きます。さまざまな形式で生成されたレポートまたはダイレクト・リンクとして生成されたレポートを含む電子メールを送信できます。各種形式の詳細については、432 ページの「レポートのエクスポート：」を参照してください。</p> <p>添付ファイルとして電子メール受信者に送信される生成されたレポートの形式を 1 つ以上選択します。</p> <p><b>注</b>：必須フィールドにはアスタリスクが付いています。</p>
	<p><b>階層レポート</b>：レポート結果をデータベースに保存できます。レポートがアーカイブされたら、 アイコンがレポート名の横に表示されます。</p> <p><b>注</b>：トポロジ・レポートおよびゴールド・マスタ・レポートでのみ有効になります。</p>
	<p><b>ダイレクトリンクの生成</b>：選択したレポートのサーバの特定の場所へのダイレクト・リンクまたは特定の形式でエクスポートしたデータへのダイレクト・リンクを作成します。</p>

UI 要素 (A-Z)	説明
	<p><b>レポートのエクспорт :</b></p> <p>レポートのエクспорт形式を選択できます。次のオプションを使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>Excel :</b> レポートのデータは、スプレッドシートに表示できる .xls (Excel) ファイル形式に整形されます。</li> <li>▶ <b>PDF :</b> レポートのデータは、PDF 形式でエクспортされます。</li> <li>▶ <b>CSV :</b> レポートのデータは、カンマで区切られた値 (CSV) のテキスト・ファイル形式に設定されます。これは、スプレッドシートで表示できます。</li> </ul> <p><b>注 :</b> CSV 形式のテーブルのデータを正しく表示するには、カンマ (,) を区切り文字として定義する必要があります。<b>Windows</b> では、区切り文字の値を確認または変更するには、コントロール・パネルの [地域のオプション] を開いて、[数値] タブでカンマが区切り文字の値として定義されていることを確認します。<b>Linux</b> では、CSV ファイルを開くアプリケーションで区切り文字を指定できます。 <li>▶ <b>XML :</b> レポートのデータは、テキスト・エディタまたは XML エディタで開くことができる XML ファイルとして整形されます。</li> <p><b>ヒント :</b> HTML コードをレポートから抽出するには、次の手順で行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ ファイルを HTML エディタで開きます。</li> <li>▶ 関連するテーブルをターゲット・ファイルにコピーします。</li> </ul> </p>
 棒グラフ	<p><b>棒グラフ :</b> 生成されたレポートが棒グラフとして表示されます。</p>
 円グラフ	<p><b>円グラフ :</b> 生成されたレポートが円グラフとして表示されます。</p>
 表	<p><b>テーブル :</b> 生成されたレポートがテーブル形式で表示されます。</p>
	<p><b>短いラベルを表示 :</b> グラフのラベルの情報の最大化 / 最小化が状態が切り替わります。</p> <p><b>注 :</b> このオプションは円グラフでのみ使用できます。</p>
	<p><b>凡例を表示 :</b> グラフの凡例の表示 / 非表示が切り替わります。</p> <p><b>注 :</b> このオプションは円グラフでのみ使用できます。</p>



UI 要素 (A-Z)	説明
	<p><b>スライス グラフ</b>: 円グラフのセグメントが切り離されている状態と切り離されていない状態が切り替わります。</p> <p><b>注</b>: このオプションは円グラフでのみ使用できます。</p>
	<p><b>すべてを展開</b>: ツリー構造が展開されます。</p>
	<p><b>すべてを折りたたむ</b>: ツリー構造が折りたたまれます。</p>
	<p><b>CMDB から削除</b>: 選択した CI が CMDB から削除されます。</p>
	<p>選択した CI の [構成アイテムのプロパティ] ダイアログ・ボックスが開きます。</p>
	<p><b>更新</b>: レポート・ツリーが更新されます。</p>
	<p><b>カラムの選択</b>: レポートに表示するカラムを選択します。</p>
	<p><b>カラム コンテンツの並べ替え</b>: 選択したカラム・コンテンツの並べ替え順を設定できます。</p>
	<p><b>検索</b>: [検索] ユーティリティの表示 / 非表示が切り替わります。</p>
	<p><b>フレーズの次回発生を検索 / フレーズの前回発生を検索</b>: [検索] フィールドに入力した文字列の次または前の検索結果に移動できます。</p>
	<p><b>フレーズのすべての発生をハイライト表示</b>: [検索] フィールドに入力した文字列に一致する、CI ツリー内のすべての項目が強調表示されます。</p>
	<p><b>レポートを生成</b>: 選択したレポートを生成できます。</p> <p><b>注</b>: このボタンは、レポート・パラメータを定義するまでは無効になっています。</p>

UI 要素 (A-Z)	説明
< 現在位置表示リスト >	現在のレベルに到達するまでに移動してきたレベルが表示されます。グラフの最上部に横方向に表示されます。 <b>注:</b> 現在位置表示リストの各レベルはクリック可能なリンクになっています。
< 生成されたレポート >	生成されたアクティブなレポートが表示されます。
検索	[ <b>検索</b> ] フィールドに検索名または検索名の一部を入力して、リスト内の CI を検索します。

## トポロジ・レポート

このレポートには、ビューのトポロジがレポート形式で表示されます。

利用方法	[ <b>モデリング</b> ] > [ <b>レポート</b> ] を選択します。[ <b>トポロジレポート</b> ] 表示枠で、ツリーから必要なレポートを選択します。
重要情報	UCMDB のすべてのビューはレポート形式で表示できます。モデリング・スタジオのビューの [ <b>レポート</b> ] タブでレポートの設定を定義します。
関連タスク	365 ページの「トポロジ・レポートの表示」

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素 (A-Z)	説明
< 棒グラフ / 円グラフ >	<p>円グラフの各セグメント / 棒グラフの各カラムは、選択したレベルのビューの CI を示します。</p> <p>スライス / 棒をクリックすると、次のレベルにドリルダウンします (存在する場合)。情報をテーブル形式で表示することもできます。</p> <p>関連するセグメント / 棒の上にマウスを置くと、CIT のインスタンス数、全体に対するセグメントの割合 (円グラフ形式で情報を表示している場合)、およびスライス / 棒で表される CIT または CIT 属性がツールチップに表示されます。</p>
< ツールバー >	詳細については、431 ページの「ツールバー・オプション」を参照してください。

## 変更レポートを表示

このレポートには、CI または関係が選択したビューで表示されます。このレポートは、該当の CI に関する問題のトラブルシューティングに役立ちます。たとえば、CI の変更で、それらの変更が問題の原因であると判断できることもあります。同様に、トラブルシューティング問題の原因が、期待されていたのに発生しなかった変更に関連している可能性もあります。

時間範囲: 直近の1日 ▼ 開始日付: 2009年11月29日(日曜日)午後 03:06 PST ▼ 終了日付: 2009年11月30日(月曜日)午後 03:01

ビュー: NetworkTopology ▼ ... 次に基づく情報を検索  CMDB  ビュー

生成

CI変更 | 関係

Display Label	Class Name	Attribute Name	Ne
16.59.70.0\abm1#21	Windows	DiscoveredOsName	Windows 20
16.59.70.0\abm1#21	Windows	DiscoveredOsVersion	5.2.3790
16.59.70.0\abm1#21	Windows	Host Operating System Installation type	Server Ente
16.59.70.0\abm1#21	Windows	Host Operating System Release	3790
16.59.70.0\abm1#21	Windows	Windows Service Pack	2.0
16.59.70.0\abm1#21	Windows	Host is Desktop	False
16.59.60.0\wmbto16	Windows	MemorySize	2,048
16.59.60.0\wmbto16	Windows	DiscoveredOsName	Windows 20

### 利用方法

[モデリング] > [レポート] を選択します。[カスタム レポート] 表示枠で、次のいずれかを行います。

- ▶ [変更レポートを表示] を右クリックし、[新規レポートの作成] を選択する。
- ▶ [新規レポートの作成] \* ボタンをクリックし、[変更レポートを表示] を選択する。
- ▶ [変更レポートを表示] をダブルクリックする。
- ▶ [変更レポートを表示] を選択し、右表示枠にドラッグする。

<p><b>重要情報</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ CIのプロパティが「<b>変更をモニタ</b>」または「<b>比較可能</b>」とマークされている CI のみがレポートに表示されます。詳細については、478 ページの「属性の追加 / 属性の編集ダイアログ・ボックス」を参照してください。</li> </ul> <p>[変更レポートを表示] の表示内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 該当のビューにのみ存在する CI の変更。</li> <li>▶ 選択した CI とすべての子（標準設定で、<code>impact_link</code> によってリンクされている）に発生した変更。生成されるレポートの CI は、インフラストラクチャ設定マネージャの設定に従って取得されます。[<b>マネージャ</b>] &gt; [<b>管理</b>] &gt; [<b>インフラストラクチャ設定</b>] &gt; [<b>アプリケーション</b>] &gt; [<b>MAMWeb</b>] に移動します。詳細については、『HP Universal CMDB 管理ガイド』の「インフラストラクチャ設定」を参照してください。</li> <li>▶ [<b>Change Report relationship name</b>] を選択して、選択した計算された関係にリンクしている CI を取得します。[<b>値</b>] ボックスには、CI タイプ・マネージャで選択した関係の [詳細] ページで ([<b>表示名</b>] ボックスではなく) [<b>名前</b>] ボックスに表示されているとおり、関係の名前を入力します。詳細については、487 ページの「[詳細] ページ」を参照してください。</li> <li>▶ [<b>Change Report relationship qualifier</b>] を選択して、修飾子で定義されている CI を取得します。[<b>値</b>] ボックスに、必要な修飾子の名前を入力します。修飾子の詳細については、492 ページの「[修飾子] ページ」を参照してください。</li> <li>▶ CI に追加または削除された <b>Container link</b> 関係のある CI。</li> <li>▶ 関係が <code>TRACK_LINK_CHANGES</code> 修飾子で定義され、CI に追加または削除された CI。修飾子の詳細については、492 ページの「[修飾子] ページ」を参照してください。</li> </ul>
<p><b>関連タスク</b></p>	<p>365 ページの「カスタム・レポートの生成」</p>

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素 (A-Z)	説明
< ツールバー >	詳細については、431 ページの「ツールバー・オプション」を参照してください。
開始日付	レポートの開始日時を設定します。
終了日付	レポートの終了日時を設定します。
時間範囲	変更を表示する時間範囲を選択します。開始日付と終了日付は、システムによって <b>【開始日付】</b> および <b>【終了日付】</b> ボックスに自動的に表示されます。 <b>注：</b> <b>【カスタム】</b> を選択すれば、 <b>【開始日付】</b> および <b>【終了日付】</b> ボックスの開始日付と終了日付を手動で設定できます。
ビュー	変更を確認するビューを選択します。 <b>【CI の選択】</b> ダイアログ・ボックスを開きます。詳細については、143 ページの「 <b>【CI の選択を使った作業】</b> 」を参照してください。

### **【CI 変更】 タブ**

**【CI 変更】** タブの詳細については、383 ページの「**【CI 変更】 タブ**」を参照してください。

### **【関係の変更】 タブ**

**【関係の変更】** タブの詳細については、384 ページの「**【関係の変更】 タブ**」を参照してください。

# 10

---

## 影響分析マネージャ

本章の内容

**概念**

- ▶ 影響分析マネージャの概要 (440 ページ)

**タスク**

- ▶ 影響ルールの定義 - ワークフロー (442 ページ)

**参照先**

- ▶ 影響分析マネージャのユーザ・インタフェース (446 ページ)

---

---

## 概念

---

---

### 影響分析マネージャの概要

影響分析マネージャでは、IT インフラストラクチャにおけるコンポーネント間の相互依存関係を定義して、インフラストラクチャの変更（新しいソフトウェアのインストールやアップグレードなど）がシステムにどのように影響するかをシミュレートできます。

TQL クエリに基づいて影響ルールを作成すると、問題の真の原因とそのビジネス・インパクトを究明できます。定義する各影響ルールは、個別の影響分析 TQL クエリに関連付けられます。TQL クエリの詳細については、19 ページの「トポロジクエリ言語」を参照してください。

影響ルールを定義して、複数の影響分析クエリ・ノード間の因果関係を指定します。1 つのクエリ・ノードをトリガすなわちシステムに加える変更を示すクエリ・ノードとして、別のクエリ・ノードをその影響を受けるものとして定義します。因果関係が確立されると、影響分析マネージャによって、根本原因クエリ・ノードで行われる変更の影響を究明できます。

次に、IT ユニバース・マネージャで影響ルールを実行し、変更がシステムに与える影響をシミュレートして、変更の根本原因を検出できます（詳細については、260 ページの「[影響分析を実行] ダイアログ・ボックス」を参照してください）。これで、アクション、更新、新規デプロイメント、またはサービス配信障害の関与の可能性を適宜に評価して処理できます。

影響を受ける CI での変更シミュレーションによって、CI のマップ・ステータスが増える可能性があります。これは CI のシンボルにステータス・アイコンを追加することで明らかになります。トポロジ・マップには、トリガ CI のステータスに加えて、その影響を受ける CI の全ステータスが表示されます。それぞれの色は異なるステータスを示します。

ステータス・アイコンとそれらを示す色の詳細については、263 ページの「[影響を表示] 表示枠」を参照してください。



また、次の情報を表示するレポートを作成できます。

- ▶ システムで変更の影響を受ける CI。
- ▶ トリガ CI (システムに加える変更を示す CI)。
- ▶ 特定のビジネス・サービスに属する CI。

---

---

## タスク

---

---

### 影響ルール の 定義 - ワークフロー

このセクションでは、「CPU 動作の変化が、接続されているノードに影響を与える」という影響ルールを定義する方法について説明します。

このタスクには次の手順が含まれます。

- ▶ 442 ページの「影響分析 TQL クエリの作成」
- ▶ 443 ページの「影響ルール の 定義」

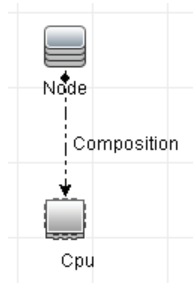
#### 1 影響分析 TQL クエリの作成

影響分析 TQL クエリを作成するには、影響分析 TQL を作成し、次にクエリを定義する TQL クエリ・ノードと関係を追加する必要があります。

[マネージャ] > [モデリング] > [影響分析マネージャ] を選択して、影響分析マネージャを開きます。影響分析 TQL クエリの作成方法の詳細については、459 ページの「[新規影響ルール / 影響ルールのプロパティ / 影響ルールとして名前を付けて保存] ウィザード」を参照してください。クエリにクエリ・ノードと関係を追加する方法の詳細については、28 ページの「TQL クエリへのクエリ・ノードと関係の追加」を参照してください。

### 影響分析 TQL クエリの例：

この影響分析 TQL クエリでは、CPU とノードを **Composition** 関係でリンクします。TQL クエリ結果は、矢印の方向に適合する必要があります。



**注：**影響分析 TQL クエリは一定の検証制限を受けます。詳細については、97 ページの「トラブルシューティングと制限事項」を参照してください。

## 2 影響ルールの定義

影響ルールを定義するときは、クエリ・ノード間で必須の因果関係を指定する必要があります。1 つのクエリ・ノードをトリガすなわちシステムに加える変更を示すクエリ・ノードとして、別のクエリ・ノードをその影響を受けるものとして定義します。

トリガ・クエリ・ノードとして定義するクエリ・ノードを右クリックし、**[影響を受けるものを定義]** を選択して、**[影響を受けるクエリ ノード]** ダイアログ・ボックスを開きます。トリガ・クエリ・ノードの影響を受けるクエリ・ノードを選択します。次に、**[追加]** ボタンをクリックして、**[影響ルール定義]** ダイアログ・ボックスを開き、影響を受けるクエリ・ノードを定義する条件を設定します。影響ルールを定義する方法の詳細については、457 ページの「**[影響ルール定義]** ダイアログ・ボックス」を参照してください。

---

**注：**影響ルール定義の **[変更]** 状態オプションは影響分析には関係なくなりました。サポートされる状態は **[操作]** のみです。

---

**影響ルールの例：**

[影響ルール定義] ダイアログ・ボックスの [条件] 領域で、システムの変更シミュレーションがトリガされる条件を定義します。ダイアログ・ボックスの下部で、影響を受けるクエリ・ノードに対する影響の重要度を定義します。

この例の状態の影響ルールでは、CPU 動作が標準状態でないときにノードに影響があります。トリガの重要度が 100% に設定されているため、ノードの重大度は CPU の重大度と同じになります。この重大度は影響分析の実行時に決まります。

詳細: CPU usage

条件

状態: cpu\_usage

演算子: 不等値

値の比較: 10% load

対象範囲

任意

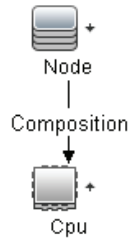
すべて

範囲 0 % - 100 %

固定された重大度: 50% load

重大度はトリガの重大度との相対値 (%): 100

結果の TQL クエリでは、トリガ・クエリ・ノードとして定義されたクエリ・ノードの横に上向き矢印が表示され、影響を受けるクエリ・ノードとして定義されたクエリ・ノードの横に下向き矢印が表示されます。



**注：**影響分析の結果を取得するには、IT ユニバース・マネージャで影響ルールを実行する必要があります。詳細については、220 ページの「影響分析結果シナリオの取得」を参照してください。

---

---

## 参照先

---

---

### 影響分析マネージャのユーザ・インタフェース

本項の内容

- ▶ 455 ページの「[影響を受けるクエリ ノード] ダイアログ・ボックス」
- ▶ 457 ページの「[影響ルール定義] ダイアログ・ボックス」
- ▶ 448 ページの「[影響分析マネージャ] ページ」
- ▶ 447 ページの「[詳細] ダイアログ・ボックス」
- ▶ 459 ページの「[新規影響ルール / 影響ルールのプロパティ / 影響ルールとして名前を付けて保存] ウィザード」

## [詳細] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスには、[影響ルール定義] ダイアログ・ボックスで作成した新しい影響ルールが表示されます。

<b>利用方法</b>	影響分析マネージャの [影響を受けるクエリ ノード] ダイアログ・ボックスで [次へ] をクリックします。
<b>関連タスク</b>	442 ページの「影響ルールの定義 - ワークフロー」

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素 (A-Z)	説明
<b>説明</b>	新しい影響ルールの詳細です。
<b>状態</b>	[影響ルール定義] ダイアログ・ボックスの [状態] リストで選択したカテゴリです。

## [影響分析マネージャ] ページ

このページでは、影響ルールを定義できます。




<b>利用方法</b>	[ナビゲーション] メニューで [影響分析マネージャ] を選択するか、[マネージャ] > [モデリング] > [影響分析マネージャ] を選択します。
<b>重要情報</b>	影響分析トリガとして機能するクエリ・ノードを選択するときは、一定の制限に従う必要があります。詳細については、97 ページの「トラブルシューティングと制限事項」を参照してください。
<b>関連タスク</b>	442 ページの「影響ルールの定義 - ワークフロー」
<b>関連情報</b>	440 ページの「影響分析マネージャの概要」

### [影響ルール] 表示枠







この領域には、定義済みフォルダおよび影響ルールの階層ツリー構造が表示されます。各影響ルールは TQL クエリと関連しています。

<b>重要情報</b>	独自のクエリを作成することも、HP Universal CMDB のインストールで提供される標準のクエリを使用することもできます。  標準設定クエリには定義済みフォルダが提供されるため、これらのフォルダを変更するか、組織の要件に従ってフォルダを追加できます。
-------------	---

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素 (A-Z)	説明
	新しいフォルダを作成します。
	影響ルールを作成します。[新規影響ルール] ウィザードが開きます。
	選択したフォルダまたは影響ルールを削除します。



UI 要素 (A-Z)	説明
	ほかのユーザによって変更された可能性がある階層ツリー構造のデータ内容が更新されます。
	(新規影響ルールを作成した場合、または既存のルールを変更した場合にのみ使用可能です) 影響ルールを CMDB に保存します。
	[影響ルールのプロパティ] ウィザードを開きます。ルールの説明を変更できます。
	選択した影響ルールの結果のプレビューを生成します。
	フォルダを表します。
	影響ルールを表します。

フォルダまたは影響ルールを右クリックすると、次の要素を使用できます。

UI 要素 (A-Z)	説明
<b>削除</b>	選択したフォルダまたは影響ルールを削除します。
<b>XML へエクスポート</b>	標準の [名前を付けて保存] ダイアログ・ボックスが表示され、影響ルールを XML スクリプトとして保存できます。このオプションは、関連する TQL クエリも再配置されるという条件で、ワークステーション間で影響ルールを移動するのに使用できます。
<b>XML からインポート</b>	保存された影響ルールを含む XML ファイルを影響分析マネージャにインポートします。
<b>新規作成</b>	影響ルールを作成します。[新規影響ルール] ウィザードが開きます。
<b>新規フォルダ</b>	新しいフォルダを作成します。
<b>プレビュー</b>	選択した影響ルールの結果のプレビューを生成します。
<b>プロパティ</b>	[影響ルールのプロパティ] ウィザードを開きます。ルールの説明を変更できます。



UI 要素 (A-Z)	説明
<b>フォルダの名前の変更</b>	フォルダ名を変更します。
<b>保存</b>	(新規影響ルールを作成した場合、または既存のルールを変更した場合にのみ使用可能です) 影響ルールを CMDDB に保存します。
<b>名前を付けて保存</b>	[影響ルールとして名前を付けて保存] ウィザードを表示し、既存のクエリをベースにして新しい影響ルールを作成できます。


### 編集表示枠

この領域には選択した影響ルールが表示されます。影響ルールは TQL クエリで定義したクエリ・ノードと、そのクエリ・ノード間の関係で構成されています。

<b>重要情報</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ [影響ルール] 表示枠でフォルダを選択すると、[編集] 表示枠は空の状態です。</li> <li>▶ [影響ルール] 表示枠で影響ルールを選択すると、[編集] 表示枠には選択したルールが表示されます。このルールは TQL クエリで定義した TQL クエリ・ノードと、そのクエリ・ノード間の関係で構成されています。</li> </ul>
<b>関連タスク</b>	28 ページの「TQL クエリへのクエリ・ノードと関係の追加」
<b>関連情報</b>	影響分析トリガとして機能するクエリ・ノードを選択するときは、一定の制限に従う必要があります。詳細については、97 ページの「トラブルシューティングと制限事項」を参照してください。

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します (ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します)。

UI 要素 (A-Z)	説明
	トリガ・クエリ・ノードを示します。トリガ・クエリ・ノードのアイコンの右にあります。
	影響を受けるクエリ・ノードを示します。影響を受けるクエリ・ノードのアイコンの右にあります。

UI 要素 (A-Z)	説明
	影響を受けるクエリ・ノードとトリガ・クエリ・ノードの両方であるクエリ・ノードを示します。
<メイン・メニュー>	詳細については、185 ページの「メイン・メニュー」を参照してください。
<クエリ・ノード>	TQL クエリの構築元となるコンポーネントです。
<関係>	2 つのクエリ・ノード間の関係を定義するエンティティです。
<ショートカット・メニュー・オプション>	詳細については、37 ページの「ショートカット・メニュー・オプション」を参照してください。
<ツールバー>	詳細については、189 ページの「ツールバー・オプション」を参照してください。
<ツールチップ>	<p>クエリ・ノードまたは関係の上にカーソルを置いたままにすると、そのノードまたは関係のツールチップが表示されます。このツールチップには次の情報が含まれます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>要素名</b> : クエリ・ノードの名前です。</li> <li>▶ <b>CI タイプ</b> : CI タイプ・マネージャで定義されているクエリ・ノードの CIT です。詳細については、465 ページの「CI タイプ・マネージャ」を参照してください。</li> <li>▶ <b>選択したクエリ・ノードと関係の定義</b> : 属性条件です。詳細については 80 ページの「[クエリ ノード / 関係のプロパティ] ダイアログ・ボックス」を参照してください。</li> <li>▶ <b>トリガ・クエリ・ノードと影響を受けるクエリ・ノードの名前</b> : これは、カーソルが置かれているクエリ・ノードがトリガ・クエリ・ノードである場合にのみ関係します。</li> </ul>
<b>影響を受けるものを定義</b>	[影響を受けるクエリ ノード] ダイアログ・ボックスを表示します。

## CI タイプ・セレクト

この領域には、CMDB に含まれる CI タイプの階層ツリー構造が表示されます。

<p><b>重要情報</b></p>	<p>CI タイプ・セレクトは、エンリッチメント・マネージャ、影響分析マネージャ、トリガ TQL エディタに含まれています。</p> <p>TQL クエリを作成または変更するには、クエリ・ノードをクリックして編集表示枠にドラッグし、ノード間の関係を定義します。変更が CMDB に保存されます。詳細については、28 ページの「TQL クエリへのクエリ・ノードと関係の追加」を参照してください。</p> <p><b>注：</b>各 CIT の右側に、CMDB 内の各 CIT のインスタンス数が表示されます。</p>
<p><b>関連タスク</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 442 ページの「影響ルールの定義 - ワークフロー」</li> <li>▶ 510 ページの「エンリッチメント・ルールの定義 - シナリオ」</li> <li>▶ 27 ページの「TQL クエリの定義」</li> <li>▶ 285 ページの「パターン・ビューの作成」</li> </ul>

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

UI 要素 (A-Z)	説明
	<p>[CI タイプをマップに追加] をクリックすると、選択した CI タイプが [編集] 表示枠に移動します。</p>
	<p>[更新] をクリックすると、CI タイプ・ツリーが更新されます。</p>
	<p>[検索] をクリックすると、入力した CI タイプが検索されます。</p>
	<p>[すべてを展開] をクリックすると、CI タイプ・ツリー内のすべてのサブツリーが展開されます。</p>
	<p>[すべてを折りたたむ] をクリックすると、CI タイプ・ツリー内のサブツリーが折りたたまれます。</p>
<p>&lt; 検索ウィンドウ &gt;</p>	<p>検索する CI タイプの名前または名前の一部を入力します。</p>

### ショートカット・メニュー・オプション

CI タイプ・セレクタでは、CI タイプを右クリックしたときに以下の要素を選択できます。



メニュー項目	説明
CI タイプをマップに追加	選択すると、選択した CI タイプが編集表示枠に追加されます。
CI タイプの定義へ移動	CIT マネージャ内の選択した CI タイプに直接移動します。
CIT インスタンスを表示	[CIT インスタンス] ウィンドウが開き、選択した CIT のすべてのインスタンスが表示されます。詳細については、73 ページの「要素インスタンス ダイアログ・ボックス」を参照してください。

### 詳細表示枠

この領域には、選択したクエリ・ノードおよび関係のプロパティ、条件、およびカーディナリティが表示されます。

重要情報	<p>[詳細] 表示枠は、DFM のモデリング・スタジオ、影響分析マネージャ、エンリッチメント・マネージャ、入力クエリ・エディタ、トリガ・クエリ・エディタのマネージャおよびユーザ・インタフェースのウィンドウ下部に表示されます。</p> <p>データを含んでいるタブの横には、小さな緑色のインジケータ★が表示されます。</p>
関連タスク	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 442 ページの「影響ルールの定義 - ワークフロー」</li> <li>▶ 510 ページの「エンリッチメント・ルールの定義 - シナリオ」</li> <li>▶ 27 ページの「TQL クエリの定義」</li> <li>▶ 285 ページの「パターン・ビューの作成」</li> <li>▶ 286 ページの「テンプレートの作成」</li> <li>▶ 288 ページの「パースペクティブの作成」</li> </ul>

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素 (A-Z)	説明
	ウィンドウの幅が狭くてすべてのタブが表示されない場合は、左矢印または右矢印を使って必要なタブに移動します。
	[リストを表示する] をクリックすると、現在のモジュールで使用できるタブのリストが表示されます。このリストからタブを選択できます。
<b>属性</b>	クエリ・ノードまたは関係に対して定義された属性条件が表示されます。詳細については、82 ページの「属性タブ」を参照してください。
<b>カーディナリティ</b>	カーディナリティは、関係のもう一方の端にあることが期待されるクエリ・ノードの数を定義します。たとえば、ノードと IP Address の関係でカーディナリティが 1 : 3 である場合、TQL クエリは 1 ~ 3 個の IP Address に接続されているノードのみを取得します。詳細については、84 ページの「カーディナリティタブ」を参照してください。
<b>データ ソース</b>	選択したクエリ・ノードのデータ・ソース・セットが表示されます。 <b>注：</b> このタブはモデリング・スタジオにのみ表示されます。
<b>詳細</b>	次の情報が表示されます。 ▶ <b>CI タイプ：</b> 選択したクエリ・ノード / 関係の CIT です。 ▶ <b>可視：</b> 緑色のチェック記号は、選択したクエリ・ノード / 関係がトポロジ・マップに表示されることを示します。赤色のマークは、表示されないことを示します。 ▶ <b>サブタイプを含める：</b> 緑色のチェック記号は、選択した CI とその子の両方がトポロジ・マップに表示されることを示します。赤色のマークは、選択した CI だけが表示されることを示します。
<b>編集</b>	[編集] をクリックすると、選択したタブに対応するダイアログ・ボックスが開きます。

UI 要素 (A-Z)	説明
<b>エンリッチメント ルール</b>	<p>選択したクエリ・ノード / 関係に対して定義されたエンリッチメント・ルールが表示されます。エンリッチメント・ルールを使って CI の属性を更新する場合は、必要に応じて <b>[編集]</b> をクリックして [クエリ ノード / 関係の定義] ダイアログ・ボックスを開き、ルールを編集します。詳細については、531 ページの「[クエリ ノード定義], [関係の定義] ダイアログ・ボックス」を参照してください。</p> <p><b>注:</b> このタブはエンリッチメント・マネージャにのみ表示されます。</p>
<b>影響を受けるクエリ ノード</b>	<p>選択したトリガ・クエリ・ノードに発生した変更の影響を受けるクエリ・ノードが表示されます。必要な場合は、<b>[編集]</b> をクリックして [影響を受けるクエリ ノード] ダイアログ・ボックスを開き、影響を受けるクエリ・ノードを編集できます。詳細については、455 ページの「[影響を受けるクエリ ノード] ダイアログ・ボックス」を参照してください。</p> <p><b>注:</b> このタブは影響分析マネージャにのみ表示されます。</p>
<b>修飾子</b>	<p>クエリ・ノードまたは関係に対して定義された修飾子条件が表示されます。詳細については、87 ページの「修飾子タブ」を参照してください。</p>
<b>選択された ID</b>	<p>TQL クエリ結果に含める必要があるものを定義するために使用される要素インスタンスが表示されます。詳細については、90 ページの「ID タブ」を参照してください。</p>

## [影響を受けるクエリ ノード] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、TQL クエリでトリガ影響分析クエリ・ノードになるクエリ・ノードと、システムで発生する変更の影響を受けるクエリ・ノードを定義できます。

<b>利用方法</b>	<p>トリガとして機能するクエリ・ノードまたは関係を右クリックして、<b>[影響を受けるものを定義]</b> を選択します。[影響を受けるクエリ ノード] ダイアログ・ボックスが開いて、TQL クエリのクエリ・ノードが表示されます。</p>
-------------	--

<b>重要情報</b>	TQL クエリを作成する前に、クエリでトリガ影響分析クエリ・ノードとなるクエリ・ノードと、変更の影響を受けるクエリ・ノードを事前に知っておく必要があります。定義はここで行います。
<b>関連タスク</b>	442 ページの「影響ルールの定義 - ワークフロー」

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素 (A-Z)	説明
<b>【影響を受けるクエリノード】表示枠</b>	影響分析クエリ・ノードのリストを影響ルールに含めます。トリガ・クエリ・ノードの影響を受けるクエリ・ノードを選択します。



## [影響ルール定義] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、影響を受けるクエリ・ノードを定義する条件の設定、トリガ条件の範囲の定義、影響の重大度の定義ができます。

<b>利用方法</b>	影響分析マネージャで、[詳細] ダイアログ・ボックスの [ <b>追加</b> ] をクリックします。
<b>重要情報</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ [条件] 領域で、影響を受けるクエリ・ノードを定義する条件を設定します。この条件が満たされると、システムの変更シミュレーションがトリガされます。 たとえば、クエリ・ノードの動作状態が標準でないことを示す影響分析条件を定義できます。クエリ・ノード・インスタンスの動作状態が変化して標準でなくなると、条件が満たされ、システムの変更シミュレーションがトリガされます。</li> <li>▶ [対象範囲] 領域では、どのくらいのインスタンスのトリガ・クエリ・ノードがシステムの変更をトリガする条件を満たすか定義します。 トリガ条件は、トリガ・クエリ・ノードの 1 つのインスタンス、一定割合のトリガ・インスタンス、またはすべてのインスタンスに適用できます。 たとえば、システムのノードが少なくとも 10% ダウンしたときに予測される影響を定義できます。</li> <li>▶ ダイアログ・ボックス下部で、影響分析の影響の重要度を定義します。</li> </ul>
<b>関連タスク</b>	442 ページの「影響ルールの定義 - ワークフロー」


ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素 (A-Z)	説明
<b>すべて</b>	すべてのインスタンスが条件を満たす必要があります。
<b>任意</b>	1 つ以上のインスタンスが条件を満たす必要があります。
<b>説明</b>	定義する影響ルールの詳細です。

UI 要素 (A-Z)	説明
<b>固定された重大度</b>	発生するすべてのシステム変更に対して一定の重要度を定義しておき、リストから必要な重要度を選択します。
<b>関数</b>	<p>[<b>関数</b>] ([<b>対象範囲</b>] 領域で [<b>すべて</b>] および [<b>範囲</b>] オプションを選択したときに表示) を選択し、範囲に含まれているすべてのトリガ・クエリ・ノード・インスタンスの重要度の関数として、システム変更の重要度を定義します。リストから、[<b>平均</b>] または [<b>最大</b>] を選択します。</p> <p>たとえば、[<b>平均</b>] を選択すると、システム変更の重要度はすべてのトリガ・インスタンスの平均重要度になります。</p>
<b>演算子</b>	必要な演算子を選択します。属性条件を定義するのに使える演算子のリストについては、42 ページの「属性演算子の定義」を参照してください。
<b>範囲</b>	一定割合のインスタンスがすべて、条件を満たす必要があります。たとえば、50% ~ 100% の範囲を入力した場合、50% 以上のインスタンスが条件を満たすと、変更がトリガされます。
<b>重大度はトリガの重大度との相対値 (%)</b>	<p>[<b>重大度はトリガの重大度との相対値 (%)</b>] ([<b>対象範囲</b>] 領域で [<b>任意</b>] オプションを選択すると表示) を選択して、トリガ・イベントの重要度に (パーセンテージとして) 関連する各システム変更の重要度を定義します。</p> <p>与えられたボックスにパーセンテージを入力します。</p>
<b>状態</b>	必要な状態を選択します。リストに表示される状態は、状態マネージャで定義した状態です。詳細については、『HP Universal CMDB 管理ガイド』の「状態マネージャ」を参照してください。
<b>値の比較</b>	必要な属性を選択します。

## [新規影響ルール / 影響ルールのプロパティ / 影響ルールとして名前を付けて保存] ウィザード

このウィザードでは、影響ルールを作成、変更できます。

<p><b>利用方法</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 影響ルールを作成するには、[影響ルール] 表示枠のどこかを右クリックして [新規作成] をクリックするか、[新規作成]  ボタンをクリックします。</li> <li>▶ 既存の影響ルールを変更するには、[影響ルール] 表示枠で影響ルールを右クリックして、[プロパティ] を選択します。</li> <li>▶ 既存のクエリに基づいて新しい影響ルールを作成するには、[影響ルール] 表示枠で影響ルールを右クリックして、[名前を付けて保存] を選択します。</li> </ul>
<p><b>重要情報</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 影響ルールを作成した後で、TQL クエリに大きな変更を加えると、システムによってそのルールが削除されます。これらの変更は、根本原因クエリ・ノードまたは影響を受けるクエリ・ノードの削除や、<b>最小</b>および<b>最大</b>関係定義の変更などです。詳細については、84 ページの「カーディナリティ タブ」を参照してください。</li> <li>▶ TQL クエリにクエリ・ノードを追加するなどの小さな変更では、ルールは削除されません。</li> <li>▶ 影響ルールの基礎となる影響分析 TQL クエリは一定の検証制限を受けます。詳細については、97 ページの「トラブルシューティングと制限事項」を参照してください。TQL クエリが有効でない場合、影響ルールの作成には使用できません。</li> </ul>
<p><b>関連タスク</b></p>	<p>442 ページの「影響ルールの定義 - ワークフロー」</p>
<p><b>ウィザード・マップ</b></p>	<p>[新規影響ルール / 影響ルールのプロパティ / 影響ルールとして名前を付けて保存] ウィザードには、次のページが含まれています。</p> <p>[影響ルールの一般属性] ページ &gt; [影響ルール ベース クエリ] ページ &gt; [影響ルール グループ] ページ</p>

## [影響ルールの一般属性] ページ

このウィザード・ページでは、影響ルールの一意の名前と詳細を入力できます。

<p><b>重要情報</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 影響ルールの基礎となる影響分析 TQL クエリは一定の検証制限を受けます。詳細については、97 ページの「トラブルシューティングと制限事項」を参照してください。TQL クエリが有効でない場合、影響ルールの作成には使用できません。</li> <li>▶ TQL クエリ作成後の変更の影響に関する重要な情報については、459 ページの「[新規影響ルール / 影響ルールのプロパティ / 影響ルールとして名前を付けて保存] ウィザード」を参照してください。</li> <li>▶ 標準設定では、このウィザードは [ようこそ] ページを表示するように設定されています。ユーザ・プリファレンスを変更して、[ようこそ] ページを表示しないようにできます。詳細については、97 ページの「[ユーザ プリファレンス] ダイアログ・ボックス」を参照してください。</li> </ul>
<p><b>ウィザード・マップ</b></p>	<p>[新規影響ルール / 影響ルールのプロパティ / 影響ルールとして名前を付けて保存] ウィザードには、次のページが含まれています。</p> <p>[影響ルールの一般属性] ページ &gt; [影響ルール ベース クエリ] ページ &gt; [影響ルール グループ] ページ</p>
<p><b>関連情報</b></p>	<p>201 ページの「IT ユニバース・マネージャ」</p>

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素 (A-Z)	説明
<p><b>ルールの詳細</b></p>	<p>影響ルールの詳細を入力します (任意指定)。</p>
<p><b>ルール名</b></p>	<p>影響ルールの一意の名前を入力します。</p> <p>ルール名には、\/: "&lt;&gt; %? の文字を含むことができません。</p> <p><b>注</b> : 影響ルール名が空の状態であるか、別の影響ルールで使用している名前が含まれているか、無効な文字が使用されている場合は、[次へ] および [完了] ボタンが使用不可になります。</p>

## [影響ルール ベース クエリ] ページ

このウィザード・ページでは、影響クエリの基礎とする TQL クエリのプロパティを定義できます。既存のクエリを使用するか、新しいクエリを作成できます。

<b>重要情報</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 影響ルールの基礎となる影響分析 TQL クエリは一定の検証制限を受けます。詳細については、97 ページの「トラブルシューティングと制限事項」を参照してください。TQL クエリが有効でない場合、影響ルールの作成には使用できません。</li> <li>▶ TQL クエリ作成後の変更の影響に関する重要な情報については、459 ページの「[新規影響ルール / 影響ルールのプロパティ / 影響ルールとして名前を付けて保存] ウィザード」を参照してください。</li> </ul>
<b>ウィザード・マップ</b>	<p>[新規影響ルール / 影響ルールのプロパティ / 影響ルールとして名前を付けて保存] ウィザードには、次のページが含まれています。</p> <p>[影響ルールの一般属性] ページ &gt; <b>[影響ルール ベース クエリ] ページ</b> &gt; [影響ルール グループ] ページ</p>
<b>関連情報</b>	201 ページの「IT ユニバース・マネージャ」

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素 (A-Z)	説明
<b>新しいクエリの影響ルールに基づく</b>	新しい TQL クエリを影響ルールのベースにする場合は、このチェック・ボックスを選択します。クエリ結果は、新しい TQL クエリに定義した属性に基づいたものになります。
<b>既存のクエリの影響ルールに基づく</b>	既存の TQL クエリを影響ルールのベースにする場合は、このチェック・ボックスを選択します。必要な影響分析 TQL クエリをドロップダウン・リストから選択します。
<b>ベース クエリ詳細</b>	TQL クエリの説明を入力します (任意指定)。

UI 要素 (A-Z)	説明
ベース クエリ名	影響分析 TQL クエリの一意の名前を入力します。 [新しいクエリの影響ルールに基づく] オプションを選択した場合、ルールの基礎とする影響分析 TQL クエリを選択します。
ベース クエリの優先度	新しい TQL クエリの優先度 (低, 中, 高, 至急) を選択します。この設定により、システムが CMDB から更新情報を取り込むためにこのクエリを自動的に再実行する頻度が決定します。

### [影響ルール グループ] ページ

このウィザード・ページでは、影響ルールを実行できる場所を定義できます。

重要情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 影響ルールの基礎となる影響分析 TQL クエリは一定の検証制限を受けます。詳細については、97 ページの「トラブルシューティングと制限事項」を参照してください。TQL クエリが有効でない場合、影響ルールの作成には使用できません。</li> <li>▶ TQL クエリ作成後の変更の影響に関する重要な情報については、459 ページの「[新規影響ルール / 影響ルールのプロパティ / 影響ルールとして名前を付けて保存] ウィザード」を参照してください。</li> <li>▶ 標準設定では、このウィザードは、このページで [次へ] をクリックすると [ウィザードの完了] ページを表示するよう設定されています。ユーザ・プリファレンスを変更して、[ウィザードの完了] ページを表示しないようにできます。詳細については、97 ページの「[ユーザ プリファレンス] ダイアログ・ボックス」を参照してください。</li> </ul>
ウィザード・マップ	<p>[新規影響ルール / 影響ルールのプロパティ / 影響ルールとして名前を付けて保存] ウィザードには、次のページが含まれています。</p> <p>[影響ルールの一般属性] ページ &gt; [影響ルール ベース クエリ] ページ &gt; <b>[影響ルール グループ] ページ</b></p>
関連情報	201 ページの「IT ユニバース・マネージャ」

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素 (A-Z)	説明
UCMDB	IT ユニバース・マネージャで影響ルールを実行できるようにします。詳細については、202 ページの「IT ユニバース・マネージャの概要」を参照してください。





# 11

---

## CI タイプ・マネージャ

本章の内容

### 概念

- ▶ CI タイプの概要 (466 ページ)
- ▶ CI タイプの属性 (467 ページ)
- ▶ CI タイプの関係 (468 ページ)
- ▶ システム・タイプ・マネージャ (468 ページ)

### タスク

- ▶ CI タイプの作成 (470 ページ)
- ▶ 関係タイプの作成 (471 ページ)
- ▶ 計算された関係タイプの作成 (473 ページ)
- ▶ リストおよび列挙定義の作成 (474 ページ)
- ▶ 列挙定義の作成 - ワークフロー (475 ページ)

### 参照先

- ▶ CI タイプと関係の詳細を表示 (477 ページ)
- ▶ CI タイプ・マネージャのユーザ・インタフェース (477 ページ)

---

**HP Software-as-a-Service のカスタマに対する注:** CI タイプ・マネージャのデータは表示できますが、編集できません。

---

---

---

## 概念

---

---

### CI タイプの概要

構成アイテム (CI) によって、IT インフラストラクチャのハードウェア、ソフトウェア、サービス、ビジネス・プロセス、またはコンポーネントを表すことができます。同様のプロパティを持つ CI は、1 つの CI タイプ (CIT) にグループ化されます。それぞれの CIT には、CI と関連プロパティを作成するテンプレートがあります。

すべての CI は CI タイプに属する必要があります。CIT の主なカテゴリは次のとおりです。

- ▶ **Business Element** : プロセスや組織グループなど、ビジネスの論理要素に対応する CIT。
- ▶ **IT Process Record** : IT インフラストラクチャで発生する変更に対応する CIT。
- ▶ **モニタ** : ビジネス環境から収集された入力測定値を処理する CIT。
- ▶ **Location** : デバイス、企業組織、または職務をサポートする人の場所に対応する CIT。
- ▶ **Party** : 人または組織などのアクティブなエンティティに対応する CIT。
- ▶ **CI Collection** : CI の論理的な集合。
- ▶ **Infrastructure Element** : ビジネス環境に導入された物理要素 (ハードウェアとソフトウェア) に対応する CIT。

[CI タイプ] 表示枠には、CIT が前述のカテゴリの下にツリー構造で整列されます。[CI タイプ] 表示枠でツリーを展開すると、CI タイプ・モデルをブラウズできます。左の表示枠で CIT を選択すると、ほかの CIT との潜在的な有効関係とともに、トポロジ・マップに表示されます。

また、ビジネス・ニーズに合わせて、新しい CIT を定義することもできます。新しい CIT の定義の詳細については、486 ページの「[構成アイテム・タイプを作成 / 関係を作成 / 計算済み関係の作成]」を参照してください。

## CI タイプの属性

すべての CI タイプには、名前、説明、および標準設定値などを定義する属性があります。CI タイプ・ツリーでほかの CIT の下にグループ化された CIT は、上位の CIT から属性を継承します。

新しい CI タイプを定義するときは、まず既存の CIT のリストから基本構成アイテム・タイプを選択します。新しい CIT は既存の CIT の属性を継承します。その後、新しい CIT の属性を設定できます。既存の CIT の属性を編集するには、[CI タイプ] 表示枠でツリーから CIT を選択し、トポロジ・マップの [属性] タブを選択します。CIT 属性の詳細については、488 ページの「[属性] ページ」を参照してください。

すべての CIT には、少なくとも 1 つのキー属性が必要です。キー属性は CIT の識別子として使用される属性です。CIT のインスタンスを定義する場合、CIT のキー属性が当該タイプに属する CI の必須フィールドとなります。特定の CIT に必要なだけのキー属性を割り当てることができます。新しい CIT を定義するときにキー属性を割り当てなくても CIT は作成されますが、抽象的なままです。つまり、そのインスタンスを作成できません（ウィザードの [修飾子] ページで ABSTRACT\_CLASS 修飾子を含めるよう要求されます）。

HP Universal CMDB では、CMDB ベース・アプリケーションのエンティティ名は次の表記規則に従います。

- ▶ **CIT 属性の値**：すべてのプリミティブ型がサポートされています (long, double, float, string など)。
- ▶ **CIT 属性の値 (string 型)**：すべての特殊文字がサポートされています。最大長は 4,000 文字です。
- ▶ **CIT 名および属性名**：a ~ z, A ~ Z, およびアンダースコア ( \_ ) が許可されています。文字長は 200 文字に制限されています。CIT 名は英語でなければなりません。0 ~ 9 も許可されていますが、CIT 名の先頭文字にすることはできません。
- ▶ **CIT 属性の長さ**：1 つの CIT 内にあるすべての属性の全長は、Microsoft SQL Server の制限のために 8K を超えられません。

## CI タイプの関係

関係は、2 つの CI 間のリンクを定義します。関係は IT 環境におけるエンティティ間の依存関係と接続を表します。[CI タイプ] 表示枠のドロップダウン・ボックスで関係または計算された関係を選択すると、トポロジ・マップに、選択した関係でリンクされている CIT の有効なインスタンスがすべて表示されます。計算された関係の詳細については、103 ページの「計算された関係の使用」を参照してください。

CIT に定義したのと同じ属性が関係にも定義されます。キー属性も関係に割り当てることができますが、必須ではありません。新しい関係タイプの定義の詳細については、486 ページの「[構成アイテム・タイプを作成 / 関係を作成 / 計算済み関係の作成]」を参照してください。

## システム・タイプ・マネージャ

システム・タイプ・マネージャでは、属性タイプを定義する値の定義済みリストを作成できます。システム・タイプ・マネージャの詳細については、505 ページの「[システムタイプマネージャ] ダイアログ・ボックス」を参照してください。

次の属性タイプを作成できます。

- ▶ **リスト** : 値の定義済みリスト (Location など) を作成できます。
- ▶ **列挙** : 値の定義済みリストを作成し、各値に色を割り当てることもできます。列挙は状態による重要度値リストとして使用するよう設計されています。詳細については、『HP Universal CMDB 管理ガイド』の「状態マネージャ」を参照してください。  
重要度リストは次の目的に利用します。
- ▶ IT ユニバース・マネージャで影響分析の結果を取得する。詳細については、201 ページの「IT ユニバース・マネージャ」を参照してください。
- ▶ 影響ルールを作成する。詳細については、439 ページの「影響分析マネージャ」を参照してください。

リストおよび列挙の値は次の目的に利用できます。

- ▶ CIT の属性を編集する。詳細については、470 ページの「CI タイプの作成」を参照してください。
- ▶ TQL クエリ・ノードまたは関係の属性条件を定義する。詳細については、80 ページの「[クエリ ノード / 関係のプロパティ] ダイアログ・ボックス」を参照してください。

---

---

## タスク

---

---

### CI タイプの作成

このタスクでは、[構成アイテム タイプを作成] ウィザードを使って CIT を作成する場合に従うプロセスを記述します。

このタスクには次の手順が含まれます。

- ▶ 470 ページの「前提条件」
- ▶ 470 ページの「CI タイプの定義」
- ▶ 470 ページの「CI タイプの属性の設定」
- ▶ 471 ページの「CI タイプへの修飾子の割り当て」
- ▶ 471 ページの「CI タイプへのアイコンの割り当て」
- ▶ 471 ページの「CI タイプ・メニューのカスタマイズ」
- ▶ 471 ページの「CI タイプの標準設定ラベルの定義」

#### 1 前提条件



CI タイプ・マネージャで、**CI タイプ** 表示枠のリスト・ボックスから [CI タイプ] を選択します。次に、[**新規作成**] を選択して [構成アイテム タイプを作成] ウィザードを起動します。

#### 2 CI タイプの定義

新しい CI タイプの名前、説明、およびベースの構成アイテム・タイプを入力します。詳細については、487 ページの「[詳細] ページ」を参照してください。

#### 3 CI タイプの属性の設定

新しい CI タイプの属性を編集し、そのキー属性を定義します。詳細については、488 ページの「[属性] ページ」を参照してください。

---

**注:** リストおよび列挙の定義は、システム・タイプ・マネージャで作成します。必要に応じて、追加のリストおよび列挙の定義を作成できます。詳細については、474 ページの「リストおよび列挙定義の作成」を参照してください。

---

#### 4 CI タイプへの修飾子の割り当て

新しい CI タイプの定義に修飾子を割り当てます。詳細については、492 ページの「[修飾子] ページ」を参照してください。

#### 5 CI タイプへのアイコンの割り当て

新しい CI タイプに割り当てるアイコンを選択します。詳細については、495 ページの「[アイコン] ページ」を参照してください。

#### 6 CI タイプ・メニューのカスタマイズ

新しい CI タイプのショートカット・メニューに表示されるメニュー項目とコマンドを選択します。詳細については、496 ページの「[アタッチ メニュー] ページ」を参照してください。

#### 7 CI タイプの標準設定ラベルの定義

CI タイプ・ラベルに表示される属性を定義します。詳細については、500 ページの「[標準設定] ラベル・ページ」を参照してください。

### 関係タイプの作成

このタスクでは、[関係を作成] ウィザードを使って関係タイプを作成する場合に従うプロセスを記述します。

このタスクには次の手順が含まれます。

- ▶ 472 ページの「前提条件」
- ▶ 472 ページの「関係の定義」

- ▶ 472 ページの「関係の属性の設定」
- ▶ 472 ページの「関係への修飾子の割り当て」
- ▶ 472 ページの「関係メニューのカスタマイズ」
- ▶ 473 ページの「関係の標準設定ラベルの定義」

## 1 前提条件



CI タイプ・マネージャで、[CI タイプ] 表示枠のリスト・ボックスから **関係** を選択します。次に、[**新規作成**] を選択して [関係を作成] ウィザードを起動します。

## 2 関係の定義

新しい関係の名前、説明、およびベースの CI タイプを入力します。詳細については、487 ページの「[詳細] ページ」を参照してください。

## 3 関係の属性の設定

新しい関係の属性を編集し、そのキー属性を定義します。詳細については、488 ページの「[属性] ページ」を参照してください。

---

**注：** リストおよび列挙の定義は、システム・タイプ・マネージャで作成します。必要に応じて、追加のリストおよび列挙の定義を作成できます。詳細については、474 ページの「リストおよび列挙定義の作成」を参照してください。

---

## 4 関係への修飾子の割り当て

新しい関係の定義に修飾子を割り当てます。詳細については、492 ページの「[修飾子] ページ」を参照してください。

## 5 関係メニューのカスタマイズ

新しい関係のショートカット・メニューに表示されるメニュー項目とコマンドを選択します。詳細については、496 ページの「[アタッチ メニュー] ページ」を参照してください。



## 6 関係の標準設定ラベルの定義

関係ラベルに表示される属性を定義します。詳細については、500 ページの「[標準設定] ラベル・ページ」を参照してください。

### 計算された関係タイプの作成

このタスクでは、[計算済み関係の作成] ウィザードを使って計算された関係タイプを作成する場合に従うプロセスを記述します。

このタスクには次の手順が含まれます。

- ▶ 473 ページの「前提条件」
- ▶ 473 ページの「計算された関係の定義」
- ▶ 473 ページの「関係への修飾子の割り当て」
- ▶ 473 ページの「必須のトリプレットの追加」

#### 1 前提条件



CI タイプ・マネージャで、[CI タイプ] 表示枠のリスト・ボックスから **計算された関係** を選択します。次に、[新規作成] を選択して [計算済み関係の作成] ウィザードを起動します。

#### 2 計算された関係の定義

新しい計算された関係の名前、説明、およびベースの CI タイプを入力します。詳細については、487 ページの「[詳細] ページ」を参照してください。

#### 3 関係への修飾子の割り当て

新しい関係の定義に修飾子を割り当てます。詳細については、492 ページの「[修飾子] ページ」を参照してください。

#### 4 必須のトリプレットの追加

必要なトリプレットを追加します。詳細については、493 ページの「[トリプレット] ページ」を参照してください。

## リストおよび列挙定義の作成

本項では、リストおよび列挙定義を作成するタスクについて説明します。

このタスクには次の手順が含まれます。

- ▶ 474 ページの「リスト定義の作成」
- ▶ 474 ページの「列挙定義の作成」

### 1 リスト定義の作成

定義済み値の **リスト** 定義を作成できます。たとえば、**Location** というリスト定義に以下の値が含まれていることがあります。

- ▶ New York
- ▶ Boston
- ▶ Baltimore

詳細については、502 ページの「[リスト / 列挙定義の作成 / 更新] ダイアログ・ボックス」を参照してください。

### 2 列挙定義の作成

**列挙** 定義を作成し、リストの各値に色を割り当てることができます。詳細については、502 ページの「[リスト / 列挙定義の作成 / 更新] ダイアログ・ボックス」を参照してください。列挙定義の例については、475 ページの「列挙定義の作成 - ワークフロー」を参照してください。

## 列挙定義の作成 – ワークフロー


次の手順で、列挙定義を作成する方法について説明します。

---

**注：**必要な結果を取得するには、このタスクの各手順に従う必要があります。

---

**列挙定義を作成するには、次の手順を実行します。**

- 1 [マネージャ] > [モデリング] > [CIタイプマネージャ] を選択します。
- 2 メイン・メニューで [CIタイプ] > [システムタイプマネージャ] を選択すると、[システムタイプマネージャ] ダイアログ・ボックスが開きます。
-  3 [追加] ボタンをクリックすると、[リスト定義の作成] ダイアログ・ボックスが開きます。

---

**注：**あるいは、[マネージャ] > [管理] > [状態マネージャ] を選択して、[新規列挙] ボタンをクリックすると、[列挙定義の作成] ダイアログ・ボックスが開きます。

---

- 4 **列挙** を選択します。
- 5 **名前** ボックスで、必要な名前を入力します。
- 6 **表示名** ボックスで、必要な表示名を入力します（任意指定）。

この例では、次の重要度リストを作成する方法について説明します。

キー	値	重要度
0	緑	標準
1	オレンジ	重大
2	赤	致命的

- 7** **[追加]** ボタンをクリックして、新しい行を作成します。
- 8** **[値]** ボックスに **Normal** と入力し、**[キー]** ボックスに **0** と入力します。また、**[色]** セクションで **[緑]** を選択します。
- 9** **[追加]** ボタンをクリックして、別の行を作成します。
- 10** **[値]** ボックスに **Major** と入力し、**[キー]** ボックスに **1** と入力します。また、**[色]** セクションで **[オレンジ]** を選択します。
- 11** **[追加]** ボタンをクリックして、別の行を作成します。
- 12** **[値]** ボックスに **Critical** と入力し、**[キー]** ボックスに **2** と入力します。また、**[色]** セクションで **[赤]** を選択します。

次の図は、変更後の **[列挙定義]** セクションを示しています。

名前:

表示名:

リスト       列挙

列挙定義

**[+]** 標準

**[X]** 重大

致命的

値:

キー:

色

- 緑
- 薄緑
- 黄
- オレンジ
- 赤
- グレー

- 13** **[OK]** をクリックして、変更内容を保存します。

---

---

## 参照先

---

---

### CI タイプと関係の詳細を表示

CI タイプ・マネージャの左表示枠に、利用可能な CI タイプの一覧をツリー形式で表示できます。481 ページの「CI タイプ マネージャ」で説明しているように、個別の CI タイプをインクリメンタル検索することができます。特定の CI タイプの詳細を確認するには、ツリーでそのタイプを選択し、トポロジ・マップで対応するアイコンの上にポインタを置いたままにします。CI タイプの説明が記載されたツールチップが表示されます。

関係については、左表示枠で **関係** を選択し、関係の最初の文字でインクリメンタル検索をします。必要な関係を選択し、トポロジ・マップでそのアイコンの上にポインタを置いたままにすると、関係の詳細が記載されたツールチップが表示されます。

CI タイプと関係の詳細については、HP Software BTO Data Model Reference ファイルを参照してください。


### CI タイプ・マネージャのユーザ・インタフェース

本項の内容

- ▶ 478 ページの「属性の追加 / 属性の編集ダイアログ・ボックス」
- ▶ 481 ページの「関係の追加 / 削除 ダイアログ・ボックス」
- ▶ 481 ページの「CI タイプ マネージャ」
- ▶ 486 ページの「[構成アイテム・タイプを作成 / 関係を作成 / 計算済み関係の作成]」
- ▶ 502 ページの「[リスト / 列挙定義の作成 / 更新] ダイアログ・ボックス」
- ▶ 505 ページの「[システム タイプ マネージャ] ダイアログ・ボックス」

## 属性の追加 / 属性の編集ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、新しい属性を定義して CIT に追加したり、CIT の既存の属性を編集できます。

<b>利用方法</b>	CI タイプ・マネージャで [属性] タブを選択して [追加]  ボタンをクリックするか、あるいは属性を選択して [編集] ボタンをクリックするか、属性をダブルクリックします。
<b>重要情報</b>	[編集] モードでは、変更できないフィールドは使用不可になります。

### [詳細] タブ

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素 (A-Z)	説明
<b>属性名</b>	新しい属性に一意的な名前を入力します。この名前には、" \ / [ ] :   < > + = ; , ? * の符号を除くすべての文字を含めることができます。 <b>注</b> ：属性名では大文字 / 小文字を区別しません。
<b>属性タイプ</b>	次のオプションのいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>プリミティブ</b>：フィールド・タイプ boolean, bytes, date, double, float, integer, integer_list, long, string, string_list, xml のうちの 1 つを選択します。</li> <li>▶ <b>列挙 / リスト</b>：システム・タイプ・マネージャで定義した列挙およびリストの一覧が含まれます。詳細については、468 ページの「システム・タイプ・マネージャ」を参照してください。</li> </ul> このオプションによって、定義済みの値で属性を定義できます。たとえば、場所属性は Singapore, Paris, New York などの値が含まれた <b>location</b> リストで定義できます。
<b>標準設定値</b>	属性の標準設定値を入力するか選択します。 <b>標準設定値</b> フィールドのオプションは、選択した属性タイプによって異なります。 <b>注</b> ：integer_list または string_list の <b>プリミティブ</b> 属性タイプを選択すると、複数の値を入力できます。

UI 要素 (A-Z)	説明
説明	新しい属性の詳細を入力します。 <b>注意:</b> このフィールドは任意指定です。
表示名	HP Universal CMDB で識別するために、新しい属性の名前を入力します。 <b>注意:</b> このフィールドは任意指定です。
対象範囲	新しい属性の対象範囲 (属性が属するクラス・モデル) を選択します。
値のサイズ	新しい属性の最大物理サイズの値を入力します (bytes および string の場合にのみ使用可能)。

### [詳細設定] タブ

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素 (A-Z)	説明
アセット データ	アセット・レポートに属性値を表示する場合に選択します。
変更をモニタ	CI タイプ・マネージャで「変更をモニタ」とマークされている値の属性を定義する場合に選択します。このような属性の値の変更は、CMDB の履歴データベースに保存されます。 <b>注:</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ この修飾子を特定の属性に選択すると、[要素インスタンス] ダイアログ・ボックスで属性が可視カラムとして表示されます。詳細については、73 ページの「要素インスタンス ダイアログ・ボックス」を参照してください。</li> <li>▶ [変更をモニタ] は、CI タイプの属性にのみ適用されるため、関係の属性には適用されません。</li> <li>▶ [変更をモニタ] は、list of integers または list of strings タイプの属性には適用されません。</li> </ul>
比較可能	この属性は、複合 CI の比較に使用する場合に選択します。

UI 要素 (A-Z)	説明
<b>編集可能</b>	属性の将来的な編集を有効にする場合に選択します。 <b>編集可能</b> または値を持つもの) としてマークされた属性だけが、IT ユニバース・マネージャの [プロパティ] タブに表示されます。
<b>DFM による自動短縮を有効化</b>	選択すると、STRING タイプの属性がサイズ制限を超えた場合、ディスクバリにより値が短縮されます。詳細については、『HP Universal CMDB データ・フロー管理ガイド』の「Data Flow Probe でのデータ検証」を参照してください。
<b>インデックス</b>	属性取得パフォーマンスを高める場合に選択します。このオプションは、検索条件で頻繁に使用する属性に利用することをお勧めします。たとえば、IP address は、通常、ノードのインデックス属性です。
<b>小文字</b>	このオプションを選択すると、属性値が小文字で表示されます。
<b>パスワード</b>	このオプションを選択すると、属性値がアスタリスク（非表示値）で表示されます。
<b>必須</b>	値が CIT を作成するのに必要であり、属性を必須のものとして定義する場合に選択します。
<b>静的</b>	属性を静的属性として定義する場合に選択します。
<b>一意</b>	このオプションを選択すると、CI タイプのインスタンスごとに一意の値が必要になります。
<b>大文字</b>	このオプションを選択すると、属性値が大文字で表示されます。
<b>更新値ポリシーを使用</b>	このオプションを選択すると、ALLOW_VOLATILITY 修飾子が追加されます。この修飾子の詳細については、25 ページの「ALLOW_VOLATILITY 修飾子」を参照してください。
<b>可視</b>	IT ユニバース・マネージャの [プロパティ] タブに属性を表示する場合に選択します。



## 関係の追加 / 削除 ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、CIT 間で（物理または論理接続を定義する）標準設定関係または新しい関係の追加または削除を行います。

<b>利用方法</b>	CI タイプ・マネージャで、1 つまたは 2 つの CIT を右クリックして、 <b>[関係の追加 / 削除]</b> を選択します。
<b>重要情報</b>	2 つの CIT 間の関係を追加するときは、CTRL キーを押したまま CIT 名をクリックして、リンクする 2 つの CIT を選択します。いずれかの CIT を右クリックし、 <b>[関係の追加 / 削除]</b> を選択します。

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。








UI 要素 (A-Z)	説明
<クエリ node1 からクエリ node2>	第 1 クエリ・ノードから第 2 クエリ・ノードの方向に追加する関係を選択します。
<クエリ node2 からクエリ node1>	第 2 クエリ・ノードから第 1 クエリ・ノードの方向に追加する関係を選択します。
<b>関係名</b>	可能性のある関係のリスト。

## CI タイプ マネージャ

このページでは、CI タイプ・モデルの情報を表示できます。この情報には、システムで定義されたすべての構成アイテム・タイプ（CIT）および CIT 間の接続を定義する関係に関する定義が含まれています。それぞれの CIT には独自の属性に加えて、親 CIT から継承した属性もあります。

<b>利用方法</b>	ナビゲーション・メニューから <b>[CI タイプ マネージャ]</b> を選択するか、 <b>[マネージャ] &gt; [モデリング] &gt; [CI タイプ マネージャ]</b> を選択します。
-------------	--

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

UI 要素 (A-Z)	説明
	<b>新規作成</b> ボタンをクリックして、[構成アイテム タイプを作成] ウィザードを開くと、新しい CI タイプを定義できます。詳細については、486 ページの「[構成アイテム・タイプを作成 / 関係を作成 / 計算済み関係の作成]」を参照してください。
	<b>削除</b> をクリックすると、選択した CI タイプまたは関係が削除されます
	クリックすると、ほかのユーザによって変更された可能性がある階層ツリー構造のデータ内容が更新されます。
	<b>保存</b> ボタンをクリックすると、CI タイプに加えられた変更内容が保存されます。
	外部ファイルから CIT をインポートできます。
	CIT を XML ファイルとしてエクスポートできます。このオプションは、サーバ間で移動するのに使います。
	CIT を PDF としてエクスポートできます。
<CI タイプ / 関係ボックス>	次のオプションのいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>CI タイプ</b>: CIT モデルの CI タイプが表示されます。</li> <li>▶ <b>関係</b>: CIT モデルの関係が表示されます。</li> <li>▶ <b>計算された関係</b>: CIT モデルの計算された関係が表示されます。</li> </ul>
<メイン・メニュー>	詳細については、185 ページの「メイン・メニュー」を参照してください。
<ツールバー>	詳細については、189 ページの「ツールバー・オプション」を参照してください。

UI 要素 (A-Z)	説明
[CI タイプ] 表示枠	<p>CIT 間の継承関係が含まれる、CMDB で各 CIT のインスタンスの数を表示する CI タイプ・モデルの階層ツリー構造です。CI タイプ・モデルに含まれているすべての CIT は、CIT または関係に分類されます。トポロジ・マップで選択した CIT の関係および隣接項目をドリル・ダウンして表示できます。インクリメンタル検索で CIT または関係のリストを検索するには、必要な選択に達するまで、CIT または関係の先頭文字を繰り返し入力します。また、フルネームを入力しても、CIT または関係を検索できます。</p>

UI 要素 (A-Z)	説明
編集表示枠	<p>次のタブを利用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>CI タイプの依存関係</b> : CIT とその関係を含めて、CI タイプ・モデルをトポロジ・マップに表示します。選択した CI タイプまたは関係の名前が、表示枠の最上部にある境界線に表示されます。CIT をポイントすると、ツールチップに CIT の表示名とその説明が表示されます。</li> <li>▶ <b>詳細</b> : 左の表示枠で選択した CI タイプに関する基本情報を編集できます。詳細については、487 ページの「[詳細] ページ」を参照してください。</li> <li>▶ <b>属性</b> : 選択した CIT の属性を編集できます。詳細については、488 ページの「[属性] ページ」を参照してください。</li> <li>▶ <b>修飾子</b> : 修飾子は選択した CIT に割り当てることができます。詳細については、492 ページの「[修飾子] ページ」を参照してください。</li> <li>▶ <b>トリプレット</b> : 計算された関係を作成できます。詳細については、493 ページの「[トリプレット] ページ」を参照してください。このページは計算された関係にのみ表示されます。</li> <li>▶ <b>アイコン</b> : アイコンは選択した CIT に割り当てることができます。詳細については、495 ページの「[アイコン] ページ」を参照してください。このタブは、関係に対しては表示されません。</li> <li>▶ <b>アタッチ・メニュー</b> : メニュー項目とコマンド (ping, プログラムの実行, URL を開くなど) を追加して、CI のショートカット・メニューをカスタマイズできます。カスタマイズされたメニューは、IT ユニバース・マネージャで CI インスタンスを右クリックすると表示されます。詳細については、496 ページの「[アタッチ メニュー] ページ」を参照してください。</li> <li>▶ <b>標準設定ラベル</b> : CIT ラベルに表示される属性を定義できます。複数の属性を含めるには、機能ボタンを使います。詳細については、500 ページの「[標準設定] ラベル・ページ」を参照してください。</li> </ul>


## ショートカット・メニュー

CI タイプ・マネージャには、[CI タイプ] 表示枠または依存関係マップで CI タイプを右クリックすると利用できる、次のオプションが含まれています。

UI 要素 (A-Z)	説明
<b>関係の追加 / 削除</b>	[関係の追加 / 削除] ダイアログ・ボックスを開いて、CIT に関係を追加したり削除したりできます。詳細については、481 ページの「関係の追加 / 削除 ダイアログ・ボックス」を参照してください。
<b>選択した項目の削除</b>	選択した CI タイプを削除します。このオプションは、子もインスタンスもない CI タイプにのみ利用できます。
<b>XML へエクスポート</b>	CIT を XML ファイルとしてエクスポートできます。このオプションは、サーバ間で移動するのに使います。
<b>新規作成</b>	[構成アイテム タイプを作成] ウィザードを開いて、新しい CI タイプを定義できます。詳細については、486 ページの「[構成アイテム・タイプを作成 / 関係を作成 / 計算済み関係の作成]」を参照してください。
<b>CIT インスタンスを表示</b>	[全インスタンスを表示] ダイアログ・ボックスが開き、選択した CIT のすべてのインスタンスが表示されます。詳細については、73 ページの「要素インスタンス ダイアログ・ボックス」を参照してください。

## [構成アイテム・タイプを作成 / 関係を作成 / 計算済み関係の作成]

このウィザードでは、新しい構成アイテム・タイプまたは関係を定義できます。

<p><b>利用方法</b></p>	<p>CIT タイプ・マネージャのトポロジ・マップまたは [CI タイプ] 表示枠で CI タイプまたは関係をクリックして、[新規作成] を選択するか、[CI タイプ] 表示枠で [新規作成] ボタン  をクリックします。</p>
<p><b>ウィザード・マップ</b></p>	<p>[構成アイテム・タイプを作成 / 関係を作成 / 計算済み関係の作成] には、次のページが含まれています。</p> <p>[詳細] ページ &gt; [属性] ページ &gt; [修飾子] ページ &gt; [トリプレット] ページ &gt; [アイコン] ページ &gt; [アタッチメニュー] ページ &gt; [標準設定] ラベル・ページ</p>

[構成アイテムタイプを作成] ウィザードには、次のページが含まれています。

- ▶ 487 ページの「[詳細] ページ」
- ▶ 488 ページの「[属性] ページ」
- ▶ 492 ページの「[修飾子] ページ」
- ▶ 493 ページの「[トリプレット] ページ」
- ▶ 495 ページの「[アイコン] ページ」
- ▶ 496 ページの「[アタッチメニュー] ページ」
- ▶ 500 ページの「[標準設定] ラベル・ページ」

 **[詳細] ページ**

このウィザード・ページでは、定義する新しい CI タイプに関する基本情報を入力できます。

<b>重要情報</b>	[構成アイテム タイプを作成]ウィザードの一般情報については、486 ページの「[構成アイテム・タイプを作成 / 関係を作成 / 計算済み関係の作成]」を参照してください。
<b>ウィザード・マップ</b>	[構成アイテム・タイプを作成 / 関係を作成 / 計算済み関係の作成] には、次のページが含まれています。 [詳細] ページ > [属性] ページ > [修飾子] ページ > [トリプレット] ページ > [アイコン] ページ > [アタッチメニュー] ページ > [標準設定] ラベル・ページ

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素 (A-Z)	説明
<b>ベースの CI タイプ</b>	作成する CIT のベース CIT を選択します。新しい CIT はベース CIT の属性を継承します。 <b>注:</b> このフィールドは [構成アイテム タイプを作成] ウィザードにのみ表示されます。CI タイプ・マネージャの [詳細] タブで既存の CIT を編集する場合は関係ありません。
<b>Created By</b>	新しい CIT を作成したユーザです。 <b>注意:</b> このフィールドは任意指定です。
<b>説明</b>	新しい CIT の説明です。 <b>注意:</b> このフィールドは任意指定です。
<b>表示名</b>	CIT が HP Universal CMDB インタフェースに表示される時の名前です。 <b>注意:</b> このフィールドは任意指定です。
<b>ID</b>	CIT を識別するキー属性または調整ルールを表示します。 <b>注:</b> このフィールドは、CI タイプ・マネージャの [詳細] タブで既存の CIT を編集するときのみ表示されます。[構成アイテム タイプを作成] ウィザードには関係ありません。

UI 要素 (A-Z)	説明
名前	<p>新しい CIT の一意の名前です。この名前には, " \ / [ ] :   &lt; &gt; + = ; , ? * の符号を除くすべての文字を含めることができます。</p> <p><b>注:</b> [名前] フィールドでは大文字 / 小文字を区別しますが, 2 つの異なる CIT に大文字 / 小文字の異なる同じ名前を使うことはできません。</p>
対象範囲	<p>新しい CIT の対象範囲を選択します (所属するクラス・モデル)。</p>








### [属性] ページ

このウィザード・ページでは, CIT タイプの属性を編集できます。



ウィザード・マップ	<p>[構成アイテム・タイプを作成 / 関係を作成 / 計算済み関係の作成] には, 次のページが含まれています。</p> <p>[詳細] ページ &gt; [属性] ページ &gt; [修飾子] ページ &gt; [トリプレット] ページ &gt; [アイコン] ページ &gt; [アタッチメニュー] ページ &gt; [標準設定] ラベル・ページ</p>
-----------	--



ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

UI 要素 (A-Z)	説明
	<p>属性をキー属性として定義するには、属性名の横にある [キー] カラムをクリックします。セルにキー・アイコンが表示されます。キー属性は、該当の CI タイプの CI に定義する必要がある属性です。</p> <p>キー属性の定義を削除するには、[キー] カラムをもう一度クリックします。キー・アイコンが消えます。</p> <p>キー属性の詳細については、467 ページの「CI タイプの属性」を参照してください。</p>
	<p>静的属性を指示します。静的属性は該当のタイプのすべての CI に同じ値を設定します。その値が変更されると、該当のタイプの CI がすべて影響を受け、新しい値が自動的に表示されます。静的属性はキー属性として定義できません。</p> <p><b>注：</b>CIT マネージャからは、属性を静的属性として定義できません。定義するには、関連パッケージを配置します。静的属性は内部でのみ使用されます。</p>
	<p><b>追加</b> ボタンをクリックして、新しい属性を定義します。詳細については、478 ページの「属性の追加 / 属性の編集ダイアログ・ボックス」を参照してください。</p>
	<p>行を選択して、<b>編集</b> ボタンをクリックすると、[属性の編集] ダイアログ・ボックスが開きます。詳細については、478 ページの「属性の追加 / 属性の編集ダイアログ・ボックス」を参照してください。</p> <p><b>注：</b>CIT の親の属性を変更すると、テキストが明るい青になります。CIT 自体の属性を変更した場合、テキストは濃い青のままです。</p>
	<p><b>削除</b> ボタンをクリックすると、選択した属性が削除されます。このオプションは、新たに定義した属性に対してのみ使用できます。</p>
	<p>既存の属性を編集した後で、<b>リセット</b> ボタンをクリックすると、属性の設定がリセットされます。</p>
	<p><b>カラムの選択</b> をクリックして、[カラムの選択] ダイアログ・ボックスに表示するカラムを選択します。</p>

UI 要素 (A-Z)	説明
< 属性 >	<p>新しい CIT と関連する属性をすべて表示します。黒で表示される属性は、新しい CIT が基本 CIT から継承した属性です。濃い青で表示される属性は、新しい CIT とその子孫専用の属性です。明るい青で表示される属性は、新しい CIT で変更された継承属性です。</p>
アセット データ	<p>属性値がアセット・レポートに表示されるかどうかを示します。詳細については、375 ページの「アセット・レポート」を参照してください。</p> <p><b>注：</b> この修飾子を特定の属性に選択すると、[要素インスタンス] ダイアログ・ボックスで属性が可視カラムとして表示されます。詳細については、73 ページの「要素インスタンス ダイアログ・ボックス」を参照してください。</p>
BDM スコープ	<p>属性が BDM クラス・モデルに含まれるかどうかを示します。</p>
変更をモニタ	<p>CI タイプ・マネージャで「変更をモニタ」とマークされている値の属性を定義する場合に選択します。このような属性の値の変更は、CMDB の履歴データベースに保存されます。</p> <p><b>注：</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ この修飾子を特定の属性に選択すると、[要素インスタンス] ダイアログ・ボックスで属性が可視カラムとして表示されます。詳細については、73 ページの「要素インスタンス ダイアログ・ボックス」を参照してください。</li> <li>▶ [変更をモニタ] は、CI タイプの属性にのみ適用されるため、関係の属性には適用されません。</li> <li>▶ [変更をモニタ] は、list of integers または list of strings タイプの属性には適用されません。</li> </ul>
比較可能	<p>この属性が、複合 CI の比較に使用されるかどうかを示します。詳細については、387 ページの「CI 比較レポート」を参照してください。</p> <p><b>注：</b> この修飾子を特定の属性に選択すると、[要素インスタンス] ダイアログ・ボックスで属性が可視カラムとして表示されます。詳細については、73 ページの「要素インスタンス ダイアログ・ボックス」を参照してください。</p>

UI 要素 (A-Z)	説明
標準設定値	属性の標準設定値です。この値が表示されるのは、新しい CIT を定義したのに、属性の実行時の値がない場合です。
説明	属性の詳細です。
表示名	HP Universal CMDB インタフェースに表示される属性名です。
編集可能	属性を編集できるかどうかを示します。 <b>編集可能</b> または値を持つもの) としてマークされた属性だけが、IT ユニバース・マネージャの [プロパティ] タブに表示されます。
DFM による自動短縮を有効化	STRING タイプの属性に対して自動短縮機能が有効になっているかどうかを示します。
インデックス	属性がインデックス属性として定義されているかどうかを示します。インデックス属性として定義されていると、属性取得パフォーマンスが高まります。 このオプションは、検索条件で頻繁に使用する属性に利用することをお勧めします。たとえば、IP address は、通常、ノードのインデックス属性です。
キー	このカラムにキー・アイコン  が表示されている場合、属性はキー属性として定義されています。 このカラムに静的属性アイコン  が表示されている場合、属性をキー属性として定義することはできません。
小文字	属性値を小文字のままにするかどうかを示します。
名前	属性の実際の名前（表示名とは異なる名前）です。
必須	属性が、値が CIT の作成に必要な必須属性として定義されているかどうかを示します。
静的	属性が静的属性として定義されているかどうかを示します。
タイプ	属性のタイプです。
一意	属性が、CI タイプのインスタンスごとに一意の値が必要な、一意の属性として定義されているかどうかを示します。





UI 要素 (A-Z)	説明
大文字	属性値を大文字のままにするかどうかを示します。
可視	属性が IT ユニバース・マネージャの [プロパティ] タブに表示されるかどうかを示します。


## [修飾子] ページ

このウィザード・ページでは、修飾子を CIT タイプの定義に割り当てることができます。

重要情報	修飾子によって、CIT に追加属性を定義できます。 <b>修飾子</b> リストで、[追加] ボタンを使って必要な修飾子を選択し、選択したものを <b>構成アイテム タイプ修飾子</b> リストに移動します。複数の選択を行う場合は、CTRL キーを押したままにします。
ウィザード・マップ	[構成アイテム・タイプを作成 / 関係を作成 / 計算済み関係の作成] には、次のページが含まれています。 [詳細] ページ > [属性] ページ > <b>[修飾子] ページ</b> > [トリプレット] ページ > [アイコン] ページ > [アタッチメニュー] ページ > [標準設定] ラベル・ページ

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します (ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します)。

UI 要素 (A-Z)	説明
	このボタンをクリックすると、すべての修飾子が <b>構成アイテム タイプ修飾子</b> リストに移動します。
	修飾子を選択して、このボタンをクリックすると、修飾子が <b>構成アイテム タイプ修飾子</b> リストに追加されます。複数の修飾子を選択するには、CTRL キーを押したままにします。
	CIT 定義から修飾子を削除するには、 <b>構成アイテム タイプ修飾子</b> リストから修飾子を選択して、このボタンをクリックします。
	このボタンをクリックすると、 <b>構成アイテム タイプ修飾子</b> リストからすべての修飾子が削除されます。

UI 要素 (A-Z)	説明
	<p>新しいカスタム修飾子を定義するには、テキスト・ボックス修飾子名を入力して、<b>[挿入]</b> をクリックします。修飾子が<b>構成アイテムタイプ修飾子</b>リストに表示されます。</p>
< 構成アイテムタイプ修飾子 >	<p>新しい CIT の属性を定義する修飾子のリストです。たとえば、修飾子を使って、CIT を抽象 CIT として定義できます。つまり、この CIT からはインスタンスを作成できません。</p>
< 修飾子 >	<p>利用可能な修飾子オプションのリストについては、87 ページの「修飾子タブ」を参照してください。</p>

### [トリプレット] ページ

このウィザード・ページでは、計算された関係を作成できます。[トリプレット] ページの各行は、トポロジ・マップでソース CI からターゲット CI に至るパスで許容される手順の 1 つを示します。

---






**注：**ウィザードのこの手順は、計算された関係にのみ関連があります。

---

<p><b>重要情報</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ このページは、[CI タイプ] 表示枠のドロップダウン・ボックスで <b>[計算された関係]</b> を選択した場合に表示されます。</li> <li>▶ 計算された関係の詳細については、103 ページの「計算された関係の使用」を参照してください。</li> <li>▶ [構成アイテムタイプを作成]ウィザードの一般情報については、486 ページの「[構成アイテム・タイプを作成 / 関係を作成 / 計算済み関係の作成]」を参照してください。</li> </ul>
--------------------	---

<b>ウィザード・マップ</b>	<p>[構成アイテム・タイプを作成 / 関係を作成 / 計算済み関係の作成] には、次のページが含まれています。</p> <p>[詳細] ページ &gt; [属性] ページ &gt; [修飾子] ページ &gt; [トリプレット] ページ &gt; [アイコン] ページ &gt; [アタッチメニュー] ページ &gt; [標準設定] ラベル・ページ</p>
<b>関連情報</b>	103 ページの「計算された関係の使用」

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素 (A-Z)	説明
	計算された関係でソース CI からターゲット CI に至るトポロジ・グラフのパスで許容される手順を定義する場合にクリックします。[トリプレットの追加] ダイアログ・ボックスを開きます。詳細については、69 ページの「トリプレットの追加ダイアログ・ボックス」を参照してください。
	行を選択して <b>編集</b> ボタンをクリックし、トリプレットを編集します。[トリプレットの編集] ダイアログ・ボックスを開きます。詳細については、69 ページの「トリプレットの追加ダイアログ・ボックス」を参照してください。
	<b>削除</b> ボタンをクリックすると、選択したトリプレットが削除されます。
<b>関係</b>	2 つのクエリ・ノードを接続するのに必要な関係です。
<b>関係の方向</b>	<p>関係のソースおよびターゲットです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶  方向は、ソースからターゲットです。</li> <li>▶  方向は、ターゲットからソースです。</li> </ul>
<b>ソース</b>	必須のソース・クエリ・ノードです。
<b>ターゲット</b>	必須のターゲット・クエリ・ノードです。



## [アイコン] ページ

このウィザード・ページでは、新しい CI タイプに割り当てるアイコンを選択します。

**注：**ウィザードのこの手順は、関係には関連がありません。

<b>重要情報</b>	それぞれの CIT は標準設定アイコンで表示されます。ただし、一定の条件が当てはまる場合は、同じ CIT に異なるアイコンを添付できます。たとえば、属性値の 1 つが変わると、同じ CIT に別のアイコンを結び付けることができます。
<b>ウィザード・マップ</b>	[構成アイテム・タイプを作成 / 関係を作成 / 計算済み関係の作成] には、次のページが含まれています。 [詳細] ページ > [属性] ページ > [修飾子] ページ > [トリプレット] ページ > <b>[アイコン] ページ</b> > [アタッチメニュー] ページ > [標準設定] ラベル・ページ

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素 (A-Z)	説明
	クリックすると、行が追加されます。 <b>注：</b> [構成アイテムタイプのアイコンを、その属性値に応じて変更する] を選択した場合にのみ使用できます。
	クリックすると、行が削除されます。 <b>注：</b> [構成アイテムタイプのアイコンを、その属性値に応じて変更する] を選択した場合にのみ使用できます。
<b>属性</b>	CIT に割り当てるアイコンを決める属性を選択します。

UI 要素 (A-Z)	説明
構成アイテム・タイプのアイコンを、その属性値に応じて変更する	各属性値にアイコンを割り当てることができます。たとえば、City 属性に 2 つの値を定義できます。City=London の場合は、あるアイコンが表示されます。City=Beijing の場合は、別のアイコンが表示されます。 <b>注:</b> 既存のビューに表示される CIT のアイコンを変更しても、そのビューでは CIT のアイコンが更新されません。
構成アイテム・タイプ・メイン・アイコン	CIT が属するグループを選択します。
アイコン	[値] カラムに入力した値と関連付けるアイコンを選択します。
値	選択した属性に対応する値を入力します。入力する各値ごとに新しい行を追加できます。





### [アタッチメニュー] ページ

このウィザード・ページでは、メニュー項目とコマンド (ping, プログラムの実行, URL を開くなど) を追加して、CI のショートカット・メニューをカスタマイズできます。カスタマイズされたメニューは、IT ユニバース・マネージャで CI インスタンスを右クリックすると表示されます。

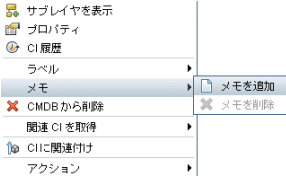
重要情報	CIT にメソッドが明確に定義されていない場合、その CIT はメソッドが定義されている親 CIT または最も近い祖先からすべてのメニューを継承します。 メニューを作成したり変更すると、編集する特定の CIT にのみ変化が起こります。
ウィザード・マップ	[構成アイテム・タイプを作成 / 関係を作成 / 計算済み関係の作成] には、次のページが含まれています。 [詳細] ページ > [属性] ページ > [修飾子] ページ > [トリプレット] ページ > [アイコン] ページ > [アタッチメニュー] ページ > [標準設定] ラベル・ページ



ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素 (A-Z)	説明
	ツリーからメニュー項目を選択して、このボタンをクリックします。選択した項目の下に、新しいエントリが表示されます。
	クリックすると、メニュー項目が削除されます。
	クリックすると、選択したメニュー項目がメニューで上に移動します。
	クリックすると、選択したメニュー項目がメニューで下に移動します。
< ツリー >	標準設定メニュー項目が含まれている階層ツリー。 <b>注意:</b> 標準設定メニュー項目の定義を編集するのはお勧めしません。
コマンド	World Wide Web 上の特定の位置に接続するには、URL を選択し、正確なインターネット アドレス (たとえば、 <a href="http://welcome.hp.com/country/jp/ja/prodserve/software.html">http://welcome.hp.com/country/jp/ja/prodserve/software.html</a> ) を入力します (URL コマンド・タイプ・オプションを選択した場合にのみ使用できます)。 <b>注:</b> [コマンド] フィールドで変数を使用する場合は、 <code>command name %1</code> という形式を使って、パラメータで説明しているように CIT 属性を定義します。リストでの順番に従って、%1 がパラメータ値に置換されます。たとえば、%1 はリストの最初のパラメータに置換され、%2 はリストの 2 番目のパラメータに置換されるというようになります。
説明	メソッドの詳細を入力しますこれは内部でのみ使用され、メニューには表示されません。
既存メソッド	IT ユニバース CIT およびすべての祖先から継承した定義済みメソッドのリストからコマンドを選ぶ場合に選択します。
アイコン	ショートカット・メニューでメニュー・オプションの横に表示されるアイコンを選択します。 <b>注意:</b> このフィールドは任意指定です。
メニュー項目名	新しいメニュー項目がメニューに表示されるときの名前を入力します。

UI 要素 (A-Z)	説明
メソッド	<p>メニューにコマンドを追加できます。</p> <p><b>注:</b> メソッドを作成し、既存のメソッドを上書きしないようにするには、新しいメニュー項目を作成し、そこに新しいメソッドを配置することをお勧めします。</p>
メソッド名	<p>コマンドの名前を入力します。</p>
新規メソッド	<p>メニュー項目にアクション (ping など) を追加する場合に選択します。</p>
パラメータ	<p>コマンドまたは URL に属性を追加するには、<b>パラメータの追加</b> ボタンをクリックして、リストから属性を選択します。</p> <p>既存のエントリを削除するには、そのエントリを選択して、<b>パラメータの削除</b> ボタンをクリックします。</p> <p><b>注:</b> 内部プロセスを選択していないと、パラメータは関連しません。</p>
ユーザの確認を求める	<p>項目が表示される前に、ユーザがメニュー項目へのアクセスを確認するチェック・ボックスを選択します。</p>
セパレータ	<p>2 つのメニュー項目間にセパレータを配置するには、次のとおりになります。</p> <p>[OK] をクリックすると、選択したメニュー オプションの下にセパレータが配置されます。</p>
ショートカット	<p>任意のキーの組み合わせを押して、メニュー項目のショートカット (CTRL+H など) を作成します。</p> <p><b>注意:</b> このフィールドは任意指定です。</p>





UI 要素 (A-Z)	説明
サブメニュー	<p>選択したメニュー オプションの下にサブメニューを作成する 場合に選択します。</p> 
タイプ	<p>次のコマンド・タイプを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>URL</b> : 指定した URL の Web ページを開きます。コマンドで URL ボックスに開かれる Web ページの URL を入力します。</li> <li>▶ <b>Inner Process</b> : 内部の HP Universal Cmdb アクションをトリガします。アクションのドロップダウン・リストからアクションを選択します。</li> <li>▶ <b>Execute</b> : 実行可能アクションをトリガします。[実行可能] ボックスに実行可能コマンドを入力します。</li> </ul>




## [標準設定] ラベル・ページ

このウィザード・ページでは、CIT タイプ・ラベルに表示される属性を編集できます。複数の属性を含めるには、機能ボタンを使います。これは、[構成アイテムタイプを作成] ウィザードの最終手順です。

<p><b>重要情報</b></p>	<p>ラベルは、[CI タイプ属性] 表示枠で属性を選択して [形式] 表示枠に追加し、[形式] 表示枠の演算子を使用してそれらをつなげて作成します。</p> <p>ラベルは新しい CI タイプの CI の下にタイトルとして表示されます。ラベルの定義は、さまざまな属性値を含めるようにカスタマイズできます。たとえば、ノード CIT の機能ラベルが <b>hostname and network</b>、で構成される場合、表示されるラベルは <b>server1 10.0.65.0</b> です。</p> <p>ラベルは正規表現を使って作成することもできます。</p>
<p><b>ウィザード・マップ</b></p>	<p>[構成アイテム・タイプを作成 / 関係を作成 / 計算済み関係の作成] には、次のページが含まれています。</p> <p>[詳細] ページ &gt; [属性] ページ &gt; [修飾子] ページ &gt; [トリプレット] ページ &gt; [アイコン] ページ &gt; [アタッチメニュー] ページ &gt; <b>[標準設定] ラベル・ページ</b></p>

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素 (A-Z)	説明
	クリックすると、選択した属性が[形式]表示枠に追加されます。
	書式設定されたテキストに丸括弧を追加します (ほかの機能と併用します)。
	書式設定されたテキストの 2 つの属性間に <b>AND</b> 演算子を置きます。たとえば、 <b>network_netaddr&amp;network_domain</b> では、クエリ・ノードのネットワーク・アドレスとドメインが表示されます。
	書式設定されたテキストの 2 つの属性間に <b>OR</b> 演算子を置きます。

UI 要素 (A-Z)	説明
	<p>ラベルの定義に（正規表現構文を使用して）正規表現を追加します。エントリの構造は (<b>v1, v2, v3</b>) のようになります。<b>v1</b> は選択した属性, <b>v2</b> は正規表現自体（値がグループに分割されます）, <b>v3</b> は選択したグループの番号を示します。</p> <p>たとえば, 選択した属性が名, スペース, および姓で構成される名前の場合, 正規表現は (<b>name, (\S*)(\s*)(\S*), 3</b>) となります。つまり, 姓は標準設定ラベルの名前属性に使用できます。</p> <p>正規表現構文の使い方の例については, 561 ページの「正規表現の例」を参照してください。</p>
	<p>クリックすると, [形式] 表示枠の最後の変更が取り消されます。</p>
	<p>クリックすると, [形式] 表示枠がクリアされます。</p>
<p><b>CI タイプ属性</b></p>	<p>CIT ラベルに含める属性の利用可能なオプションを表示します。</p>
<p><b>CI タイプラベル定義形式</b></p>	<p>CIT ラベルに表示するために選択した属性を表示します。</p> <p>たとえば, ノードにホスト名とオペレーティング・システムのラベルを付けるには, <b>host_hostname</b> および <b>host_os</b> 属性を選択します。CIT ラベルは <b>host1 UNIX</b> のようになります。</p> <p>条件は <b>AND</b> と <b>OR</b> の組み合わせを使って定義できます。</p> <p><b>注:</b> [形式] 表示枠から属性を削除するには, その属性を強調表示して, DELETE キーを押します。</p>

## [リスト / 列挙定義の作成 / 更新] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、新しいリストまたは列挙を定義できます。作成したリストまたは列挙の定義は、[システム タイプ マネージャ] ダイアログ・ボックスに表示され、必要に応じて編集できます（詳細については、505 ページの「[システム タイプ マネージャ] ダイアログ・ボックス」を参照してください）。

<b>利用方法</b>	[システム タイプ マネージャ] ダイアログ・ボックスで <b>追加</b> ボタンをクリックします。
<b>重要情報</b>	状態マネージャからも [列挙定義の作成] および [列挙定義の更新] ダイアログ・ボックスにアクセスできます。詳細については、『HP Universal CMDB 管理ガイド』の「状態マネージャ」を参照してください。
<b>関連タスク</b>	474 ページの「リストおよび列挙定義の作成」

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。



UI 要素 (A-Z)	説明
<b>表示名</b>	システム・タイプ定義のリストに表示する名前を入力します。このフィールドを空のままにすると、[名前] フィールドのエントリが使用されます。
<b>列挙</b>	値の定義済みリストを作成し、各値に色を割り当てることもできます。詳細については、504 ページの「[列挙定義] 領域」を参照してください。
<b>リスト</b>	値の定義済みリストを作成できます。詳細については、503 ページの「[リスト定義] 領域」を参照してください。
<b>名前</b>	属性に一意の名前を入力します。

## [リスト定義] 領域

この領域では、値の定義済みリストを作成できます。

<b>利用方法</b>	リスト / 列挙定義の作成] ダイアログ・ボックスで <b>リスト</b> を選択します。
<b>重要情報</b>	たとえば、 <b>Location</b> 属性は、次の値が含まれた場所リストで定義できます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ New York</li> <li>▶ Boston</li> <li>▶ Baltimore</li> </ul>

含まれている要素は次のとおりです（ラベルのない GUI 要素は山括弧で囲んで示します）。



UI 要素 (A-Z)	説明
	リストの定義を追加します。行内をダブルクリックして、表示されたカレンダーから日付を選択するか（ <b>Date</b> タイプを選択した場合）、必要な値を入力します。
	リストの定義を削除します。
<b>タイプ</b>	次のフィールド・タイプのいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ Date</li> <li>▶ Double</li> <li>▶ Integer</li> <li>▶ Long</li> <li>▶ 文字列</li> </ul>

### [列挙定義] 領域

この領域では、すべての値に色を割り当てる機能などを使って、値の定義済みリストからリストを作成できます（[リスト定義]と同様）。

<b>利用方法</b>	[リスト / 列挙定義の作成] ダイアログ・ボックスで <b>列挙</b> を選択します。
<b>重要情報</b>	列挙は状態による重要度値リストとして使用するように設計されています。キー値を必要とするリストには列挙を使用できません。
<b>関連情報</b>	475 ページの「列挙定義の作成 - ワークフロー」

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素 (A-Z)	説明
	列挙定義を追加します。
	列挙定義を削除します。
<b>色</b>	重要度を示す色を選択します。
<b>キー</b>	<p>カテゴリの重要度リストを記述する数字を入力して、列挙を作成します。</p> <p>次のルールに従って、キー値を割り当てます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ キー値のリストは、必ずゼロ (0) から始める必要があります (ゼロは標準状態を示します)。そうしないと、状態マネージャにリストが表示されません (詳細については、『HP Universal CMDB 管理ガイド』の「状態マネージャ」を参照してください)。</li> <li>▶ リストは必ず連続してナンバリングする必要があります。</li> </ul> <p>列挙定義の例については、475 ページの「列挙定義の作成 - ワークフロー」を参照してください。</p>
<b>値</b>	文字列または数字の値 (Red や my value など) を入力します。値は IT ユニバースで CI のツールチップに表示されます。






## [システム タイプ マネージャ] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、[リスト / 列挙定義の作成] ダイアログ・ボックスで定義した属性タイプを表示できます。

利用方法	CI タイプ・マネージャで、[CI タイプ] > [システム タイプ マネージャ] を選択します。
関連タスク	474 ページの「リストおよび列挙定義の作成」
関連情報	475 ページの「列挙定義の作成 - ワークフロー」

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

UI 要素 (A-Z)	説明
	属性タイプを定義する値の定義済みリストを作成します。次の属性タイプの定義を作成できます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ リスト定義</li> <li>▶ 列挙定義</li> </ul> これらの属性タイプについては、502 ページの「[リスト / 列挙定義の作成 / 更新] ダイアログ・ボックス」を参照してください。
	既存の定義を編集できます。詳細については、502 ページの「[リスト / 列挙定義の作成 / 更新] ダイアログ・ボックス」を参照してください。
	既存の定義を削除します。削除するシステム・タイプ定義を選択して、 <b>削除</b> ボタンをクリックします。
<システム・タイプ定義>	システム・タイプ・マネージャで作成した列挙およびリスト定義の一覧です。



# 12

---

## エンリッチメント・マネージャ

本章の内容

### 概念

- ▶ エンリッチメント・マネージャの概要 (508 ページ)

### タスク

- ▶ エンリッチメント・ルールの定義 - シナリオ (510 ページ)
- ▶ エンリッチメント・クエリ・ノードと関係をエンリッチメント TQL クエリに追加 (515 ページ)

### 参照先

- ▶ エンリッチメント・マネージャのユーザ・インタフェース (517 ページ)

## 概念

### 🔗 エンリッチメント・マネージャの概要

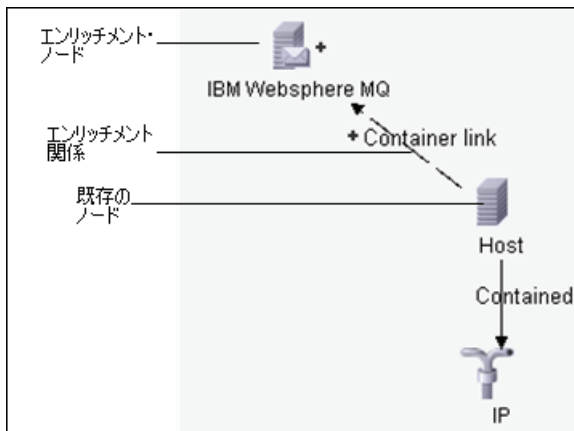
エンリッチメント・ルールは、次に示すいくつかの目的で使用できます。

- ▶ 新しい CI および関係を CMDB に追加
- ▶ CMDB から特定の CI インスタンスを削除
- ▶ CMDB 内の特定の CI インスタンスの属性値を更新

エンリッチメント・クエリ・ノードと関係は、検出プロセスによって自動的に検出できない実際の関係と CI を表す概念上のものであるという点で、ほかのクエリ・ノードと関係と異なります。

エンリッチメント・クエリ・ノードと関係は TQL クエリの一部として作成されます。TQL のほかの TQL クエリ・ノードは通常のもの、つまりすでに CMDB 内に存在している TQL クエリ・ノードです。TQL クエリの詳細については、19 ページの「トポロジクエリ言語」を参照してください。

次の例では、**Node** タイプの通常のクエリ・ノードが **Container link** エンリッチメント関係で **IBM Websphere MQ エンリッチメント・クエリ・ノード** にリンクされています。

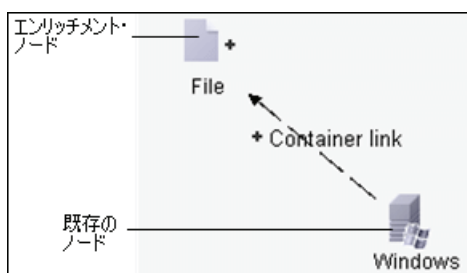


TQL クエリ・コンテキスト内にエンリッチメント・クエリ・ノードを配置することで、クエリはノードの属性からデータを取得し、それを使用して CMDB に新しい情報を挿入します。

エンリッチメント・ルールを作成すると、次の結果になる可能性があります。

- ▶ **CMDB が拡張される**：現在 CMDB に含まれていないエンリッチメント・クエリ・ノードと関係が追加されます。

次のエンリッチメント・ルールの例では、通常の **Windows** クエリ・ノード（すでに CMDB に存在）が **Container link** エンリッチメント関係で **File** エンリッチメント・クエリ・ノードに接続されています。



このエンリッチメント・ルールは、CMDB にあるすべての **Windows** CI インスタンスについて、新しい **File** CI インスタンスが作成され、**Container link** 関係で **Windows** CI にリンクされることを示しています。

- ▶ **CMDB から特定の CI インスタンスが削除される**：例については、510 ページの「エンリッチメント・ルールの定義 - シナリオ」を参照してください。
- ▶ **CI 属性の値が更新される**：エンリッチメント・ルールを使用して、すでに CMDB に存在する CI の属性を更新します。

次のエンリッチメント・ルールの例は、通常の **File System** クエリ・ノード（すでに CMDB に存在）がエンリッチメント・ルールで更新されたことを示しています。



File System

このエンリッチメント・ルールは、CMDB にあるすべての **File System** CI がエンリッチメント・ルールで定義された属性値で更新されることを示しています。

---

---

## タスク

---

---

### エンリッチメント・ルールの定義 – シナリオ

このタスクでは、次のエンリッチメント・ルールを作成する方法について説明します。

**IP Address CI** は同一の 2 つの **Node CI** に接続されます。1 つの **Node CI** は **IP Address** で識別され、もう 1 つは最下層 **MAC アドレス** で識別されます。このようなインスタンスすべてについて、**IP Address** で識別される **Node CI** を **CMDB** から削除します。

---

**注:** 必要な結果に到達するためには、次のそれぞれの手順を実行する必要があります。

---

このタスクには次の手順が含まれます。

- ▶ 511 ページの「エンリッチメント TQL クエリの作成」
- ▶ 513 ページの「最下層 MAC アドレスで識別される、Node タイプのクエリ・ノードの定義」
- ▶ 513 ページの「IP Address で識別される、Node タイプのクエリ・ノードの定義」
- ▶ 514 ページの「エンリッチメント・ルールの定義」

## 1 エンリッチメント TQL クエリの作成

エンリッチメント TQL クエリを作成するには、エンリッチメント・ルールを定義し、次にクエリを定義する通常の TQL クエリ・ノードと関係を追加する必要があります。

---

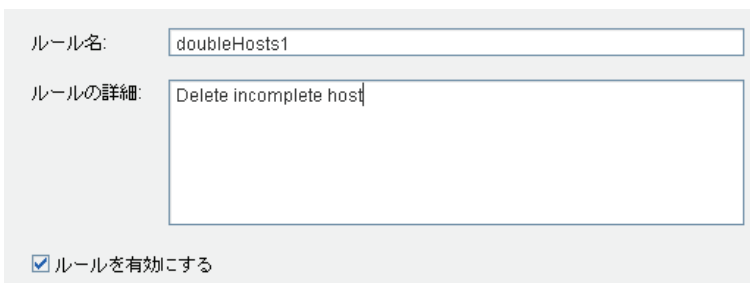
**注：**エンリッチメント・クエリ・ノードと関係の追加は、少なくとも 1 つの通常のクエリ・ノードがクエリに追加された後に行うことができます。

---

[マネージャ] > [モデリング] > [エンリッチメント マネージャ] を選択します。エンリッチメント TQL クエリの作成方法の詳細については、526 ページの「[新規エンリッチメントルール]、[エンリッチメントルールのプロパティ]、[エンリッチメントルールに名前を付けて保存] ウィザード」を参照してください。クエリにクエリ・ノードと関係を追加する方法の詳細については、28 ページの「TQL クエリへのクエリ・ノードと関係の追加」を参照してください。

### エンリッチメント TQL クエリの例

doubleHosts1 という新しいエンリッチメント TQL クエリ（Network フォルダの下）がエンリッチメント・マネージャに作成されます。

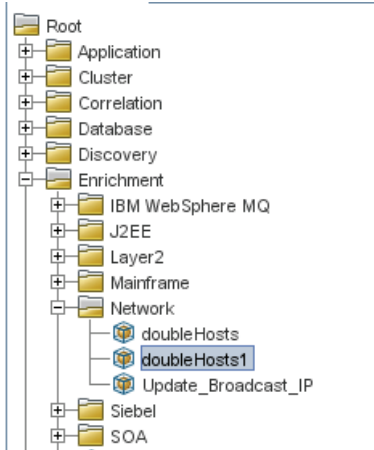


ルール名: doubleHosts1

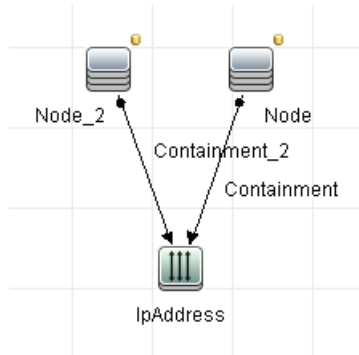
ルールの詳細: Delete incomplete host

ルールを有効にする

**doubleHosts1** エンリッチメント・ルールは、[エンリッチメントルール] 表示枠に表示されます。



このエンリッチメント TQL クエリでは、**IP Address** クエリ・ノードが **Containment** 関係で 2 つの **Node** タイプのノードにリンクされています。TQL 結果は、矢印の方向に適合する必要があります。



**注:** TQL クエリは一定の検証制限を受けます。詳細については、97 ページの「トラブルシューティングと制限事項」を参照してください。



## 2 最下層 MAC アドレスで識別される, Node タイプのクエリ・ノードの定義

[エンリッチメント マネージャ] ページの上部で **クエリ**・モードを選択します。編集表示枠で, 必要な **Node** タイプのクエリ・ノードを右クリックし, [クエリ ノードのプロパティ] を選択して [クエリ ノードのプロパティ] ダイアログ・ボックスを開きます。次に [属性] タブで属性条件を定義します。属性条件の定義方法の詳細については, 82 ページの「属性タブ」を参照してください。

### 最下層 MAC アドレスでノードを識別する属性条件定義の例

[属性] タブで, この属性条件定義が最下層 MAC アドレスによって該当のノードを識別します。

- ▶ 属性名 Node is Complete
- ▶ 演算子 等価
- ▶ 値 True

## 3 IP Address で識別される, Node タイプのクエリ・ノードの定義

[エンリッチメント マネージャ] ページの上部で **クエリ**・モードを選択します。編集表示枠で, 必要な **Node** タイプのクエリ・ノードを右クリックし, [クエリ ノードのプロパティ] を選択して [クエリ ノードのプロパティ] ダイアログ・ボックスを開きます。次に [属性] タブで 2 つの属性条件を定義します。属性条件の定義方法の詳細については, 82 ページの「属性タブ」を参照してください。

### IP Address でノードを識別できるようにするための属性条件の例

これは, IP Address によってノード・タイプのクエリ・ノードを識別できるようにするために [属性] タブに定義する必要がある 1 つ目の属性条件です。

属性名 Node is Complete

演算子 等価

値 False

これは、IP Address によってノード・タイプのクエリ・ノードを識別できるようにするために [属性] タブに定義する必要がある 2 つ目の属性条件です。

**属性名** Node is Complete

**演算子** null

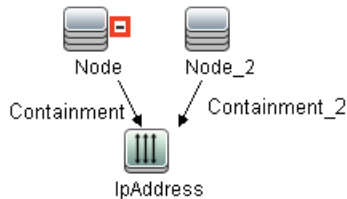
**値** 値は変更できません

#### 4 エンリッチメント・ルールの定義

IP Address で識別される **Node** タイプのクエリ・ノードのすべてのインスタンスを削除するエンリッチメント・ルールを定義します。ツールバーから [**エンリッチメント モード**] を選択します。[エンリッチメント ルール] 表示枠で **doubleHosts1** エンリッチメント・ルールを選択します。IP Address で識別される **Node** タイプのクエリ・ノードを右クリックし、[**関係 / クエリ ノードを削除**] を選択します。

##### 削除済みインジケータを含む Node タイプのクエリ・ノードの例

**Node** タイプのクエリ・ノードには、同一の属性とカーディナリティ設定を持つすべてのノード・インスタンスが **CMDB** から削除されることを示す削除済みインジケータが付きました。エンリッチメント・クエリは次のようになります。

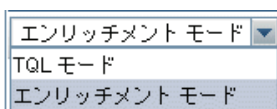


## エンリッチメント・クエリ・ノードと関係をエンリッチメント TQL クエリに追加

このセクションでは、エンリッチメント・マネージャでエンリッチメント・クエリ・ノードと関係をエンリッチメント TQL クエリに追加する方法について説明します。

**エンリッチメント・クエリ・ノードと関係を TQL クエリに追加するには、次の手順で行います。**

- 1 [エンリッチメント ルール] 表示枠のツリーで、エンリッチメント・クエリ・ノードと関係を追加するエンリッチメント・ルールを選択するか、または新しく作成します。詳細については、526 ページの「[新規エンリッチメント ルール]、[エンリッチメント ルールのプロパティ]、[エンリッチメント ルールに名前を付けて保存] ウィザード」を参照してください。
- 2 ページ上部の [Query/Enrichment] ドロップダウンで、[エンリッチメント モード] を選択します。



- 3 CI タイプ・セレクトアに表示されるツリーで、エンリッチメント・クエリ・ノードとして機能させるクエリ・ノードをクリックし編集表示枠にドラッグします。これらの TQL クエリ・ノードがクエリに含まれます。追加したエンリッチメント・クエリ・ノードには、[追加済み] インジケータが表示されます。




---

**注:** ルールには複数のエンリッチメント・クエリ・ノードを追加できます。

---

- 4 エンリッチメント・クエリ・ノードを既存の TQL ノード (1 つまたは複数) にリンクして、操作に必要な内容を持ったエンリッチメント・クエリ・ノードを提供します。

次に示すエンリッチメント・ルールを検証してください。

- ▶ ルールでは、新しいエンリッチメント・クエリ・ノードを既存の TQL クエリ・ノードの少なくとも 1 つにリンクする必要があります。
- ▶ エンリッチメント・クエリ・ノードは、エンリッチメント関係を持つ相手とのみリンクできます。

- ▶ 新しいエンリッチメント・クエリ・ノードを（CIT 定義に従って）別のクエリ・ノードに含める必要がある場合は、**Composition** 関係を使って、このエンリッチメント・クエリ・ノードを既存の TQL クエリ・ノードに接続する必要があります。
- ▶ エンリッチメント・クエリ・ノードを非表示の TQL クエリ・ノードにリンクすることはできません。

5 2 つのクエリ・ノードの間に関係を追加するには、次の手順で行います。

- ▶ CTRL キーを押しながら TQL クエリ・ノードをクリックして必要なクエリ・ノードを選択し、右クリックして **[関係の追加]** を選択します。

または



- ▶ **[関係を作成]** アイコンをクリックし、必要なクエリ・ノードの間に線を引きます。

追加したエンリッチメント関係には、**[追加済み]** インジケータが表示されます。

**[関係の追加]** ダイアログ・ボックスが開きます。詳細については、59 ページの「関係の追加 / 編集ダイアログ・ボックス」を参照してください。

6 **[OK]** をクリックします。選択したクエリ・ノードが、選択した関係によってリンクされます。

---



---

## 参照先

---



---

### エンリッチメント・マネージャのユーザ・インタフェース

本項の内容

- ▶ 517 ページの「[エンリッチメント マネージャ] ページ」
- ▶ 526 ページの「[新規エンリッチメント ルール], [エンリッチメント ルールのプロパティ], [エンリッチメント ルールに名前を付けて保存] ウィザード」
- ▶ 531 ページの「[クエリ ノード定義], [関係の定義] ダイアログ・ボックス」
- ▶ 533 ページの「[クエリ ノード定義 - 詳細な属性] ダイアログ・ボックス」

### [エンリッチメント マネージャ] ページ

このページでは、エンリッチメント・ルールを定義できます。これらのルールは特定の TQL クエリに基づいており、次のような目的で使用できます。

- ▶ 新しい CI および関係を CMDB に追加
- ▶ CMDB から特定の CI インスタンスを削除
- ▶ CMDB 内の特定の CI インスタンスの属性値を更新










利用方法	ナビゲーション・メニューから <b>[エンリッチメント マネージャ]</b> を選択するか、 <b>[マネージャ] &gt; [モデリング] &gt; [エンリッチメント マネージャ]</b> を選択します。
重要情報	エンリッチメント・マネージャでは 2 つのモードを使用できます。ツールバーの <b>エンリッチメント・モード / クエリ・モード</b> のリストを常にチェックして、現在選択しているモードを確認してください。
関連タスク	510 ページの「エンリッチメント・ルールの定義 - シナリオ」

## 【エンリッチメント ルール】 表示枠

定義済みのフォルダおよびエンリッチメント・ルールの階層ツリー構造を表示します。各エンリッチメント・ルールは TQL クエリに関連付けられています。

<b>重要情報</b>	<p>独自のクエリを作成することもできますし、HP Universal CMDB のインストールで提供されている用意済みのクエリ（ファクトリ クエリ）を利用することもできます。</p> <p>標準のフォルダは用意済みのクエリ専用です。これらのフォルダを変更、または組織の要件に応じて別のフォルダを追加できます。</p>
-------------	---

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素 (A-Z)	説明
	新しいフォルダを作成します。
	エンリッチメント・ルールを作成します。[エンリッチメント ルールのプロパティ] ウィザードが開きます。
	選択したフォルダまたはエンリッチメント・ルールを削除します。
	ほかのユーザによって変更された可能性がある階層ツリー構造のデータ内容が更新されます。
	(エンリッチメント・ルールが作成されたか、既存のエンリッチメント・ルールに変更が加えられた場合にのみ有効) エンリッチメント・ルールを CMDB に保存します。
	[エンリッチメント ルールのプロパティ] ウィザードが開きます。エンリッチメント・ルールの説明やアクティブ化の状態を変更できます。
	選択したエンリッチメント・ルールの結果のプレビューを生成します。
	フォルダを表します。
	エンリッチメント・ルールを表します。

フォルダまたはエンリッチメント・ルールを右クリックすると、次の要素を使用できます。

UI 要素 (A-Z)	説明
<b>削除</b>	選択したフォルダまたはエンリッチメント・ルールを削除します。
<b>XML へエクスポート</b>	標準の保存ダイアログ・ボックスを表示され、エンリッチメント・ルールを XML スクリプトとして保存できます。このオプションは、関連する TQL クエリも再配置されるという条件で、ワークステーション間でエンリッチメント・ルールを移動するのに使用できます。
<b>XML からインポート</b>	保存されたエンリッチメント・ルールを含む XML ファイルをエンリッチメント・マネージャにインポートします。
<b>新規作成</b>	エンリッチメント・ルールを作成します。[新規エンリッチメントルール] ウィザードが開きます。
<b>新規フォルダ</b>	新しいフォルダを作成します。
<b>プレビュー</b>	選択したエンリッチメント・ルールの結果のプレビューを生成します。
<b>プロパティ</b>	[エンリッチメントルールのプロパティ] ウィザードが開きます。ルールの説明やアクティブ化の状態を変更できます。
<b>フォルダの名前の変更</b>	フォルダの名前を変更します。
<b>保存</b>	(エンリッチメント・ルールが新規に作成されたか、既存のエンリッチメント・ルールに変更が加えられた場合にのみ有効) エンリッチメント・ルールを CMDB に保存します。
<b>名前を付けて保存</b>	[エンリッチメントルールに名前を付けて保存] ウィザードを表示します。このウィザードで、クエリの新しい名前や説明を定義できます。このオプションは、既存のエンリッチメント・ルールに基づく新しいエンリッチメント・ルールの作成に使用できます。

## 編集表示枠

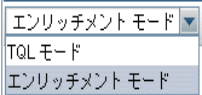
エンリッチメント・クエリ・ノードおよび関係を作成，定義します。

<p><b>重要情報</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ [エンリッチメント ルール]表示枠でフォルダを選択すると，編集表示枠は空の状態です。</li> <li>▶ [エンリッチメント ルール]表示枠内のエンリッチメント・ルールを選択した場合，編集表示枠には，TQL クエリで定義された TQL クエリ・ノードと TQL ノード間の関係で構成された選択したルール，および作成してルールに追加されたエンリッチメント・クエリ・ノードと関係が表示されます。</li> <li>▶ エンリッチメント・マネージャでは，<b>エンリッチメント・モード</b>と<b>クエリ・モード</b>の 2 つのモードで作業できます。作業しているモードによって，ショートカット・メニューに表示されるオプションが異なります。詳細については，後述の編集表示枠を参照してください。</li> <li>▶ エンリッチメント・ルールの結果として作成されたインスタンスの数を計算できます。また，エンリッチメント・ルールから作成されたインスタンスを CMDB から削除できます。詳細については，189 ページの「追加数」と 195 ページの「エンリッチメント結果を削除する」を参照してください。</li> </ul>
<p><b>関連タスク</b></p>	<p>510 ページの「エンリッチメント・ルールの定義 - シナリオ」</p>
<p><b>関連情報</b></p>	<p>TQL クエリの作成方法の詳細については，28 ページの「TQL クエリへのクエリ・ノードと関係の追加」を参照してください。</p>

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

UI 要素 (A-Z)	説明
	<p>追加されたエンリッチメント・クエリ・ノードまたは関係を示します。</p>
	<p>CMDB から削除されたクエリ・ノードまたは関係を示します。</p>
	<p>更新されたクエリ・ノードまたは関係を示します。</p>







UI 要素 (A-Z)	説明
 <p><b>クエリ モードとエンリッチメント モード</b></p>	<p>エンリッチメント・マネージャでは、<b>エンリッチメント・モード</b>と<b>クエリ・モード</b>の2つのモードで作業できます。</p> <p>次の作業ができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>クエリ・モード</b>では、通常の（エンリッチメントではない）関係とクエリ・ノードを定義し、それらを定義済みの TQL クエリに追加できます。</li> <li>▶ <b>エンリッチメント・モード</b>では、エンリッチメントの関係とクエリ・ノードを定義し、それらを定義済みの TQL クエリに追加できます。</li> </ul>
<ショートカット・メニュー>のオプション	<p>詳細については、37 ページの「ショートカット・メニュー・オプション」を参照してください。</p>
<メイン・メニュー>	<p>詳細については、185 ページの「メイン・メニュー」を参照してください。</p>
<クエリ・ノード>	<p>TQL クエリの構築元となるコンポーネントです。</p>
<関係>	<p>2 つのクエリ・ノード間の関係を定義するエンティティです。</p>
<ツールバー>	<p>詳細については、189 ページの「ツールバー・オプション」を参照してください。</p>
<ツールチップ>	<p>クエリ・ノードまたは関係の上にカーソルを置いたままにすると、そのノードまたは関係のツールチップが表示されます。</p> <p>このツールチップには次の情報が含まれます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>要素名</b>：クエリ・ノードの名前です。</li> <li>▶ <b>CI タイプ</b>：CI タイプ・マネージャで定義されているクエリ・ノードの CIT です。詳細については、465 ページの「CI タイプ・マネージャ」を参照してください。</li> <li>▶ <b>選択したクエリ・ノードと関係の定義</b>：属性条件です。詳細については 80 ページの「[クエリ ノード / 関係のプロパティ] ダイアログ・ボックス」を参照してください。</li> </ul>

## CI タイプ・セレクト

この領域には、CMDB に含まれる CI タイプの階層ツリー構造が表示されます。

<p><b>重要情報</b></p>	<p>CI タイプ・セレクトは、エンリッチメント・マネージャ、影響分析マネージャ、トリガ TQL エディタに含まれています。</p> <p>TQL クエリを作成または変更するには、クエリ・ノードをクリックして編集表示枠にドラッグし、ノード間の関係を定義します。変更が CMDB に保存されます。詳細については、28 ページの「TQL クエリへのクエリ・ノードと関係の追加」を参照してください。</p> <p><b>注：</b>各 CIT の右側に、CMDB 内の各 CIT のインスタンス数が表示されます。</p>
<p><b>関連タスク</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 442 ページの「影響ルールの定義 - ワークフロー」</li> <li>▶ 510 ページの「エンリッチメント・ルールの定義 - シナリオ」</li> <li>▶ 27 ページの「TQL クエリの定義」</li> <li>▶ 285 ページの「パターン・ビューの作成」</li> </ul>

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します（ラベルのない要素は山括弧で囲んで示します）。

UI 要素 (A-Z)	説明
	<p>[CI タイプをマップに追加] をクリックすると、選択した CI タイプが [編集] 表示枠に移動します。</p>
	<p>[更新] をクリックすると、CI タイプ・ツリーが更新されます。</p>
	<p>[検索] をクリックすると、入力した CI タイプが検索されます。</p>
	<p>[すべてを展開] をクリックすると、CI タイプ・ツリー内のすべてのサブツリーが展開されます。</p>
	<p>[すべてを折りたたむ] をクリックすると、CI タイプ・ツリー内のサブツリーが折りたたまれます。</p>
<p>&lt; 検索ウィンドウ &gt;</p>	<p>検索する CI タイプの名前または名前の一部を入力します。</p>


### ショートカット・メニュー・オプション

CI タイプ・セレクタでは、CI タイプを右クリックしたときに以下の要素を選択できます。



メニュー項目	説明
CI タイプをマップに追加	選択すると、選択した CI タイプが編集表示枠に追加されます。
CI タイプの定義へ移動	CIT マネージャ内の選択した CI タイプに直接移動します。
CIT インスタンスを表示	[CIT インスタンス] ウィンドウが開き、選択した CIT のすべてのインスタンスが表示されます。詳細については、73 ページの「要素インスタンス ダイアログ・ボックス」を参照してください。

### 詳細表示枠

この領域には、選択したクエリ・ノードおよび関係のプロパティ、条件、およびカーディナリティが表示されます。

重要情報	[詳細] 表示枠は、DFM のモデリング・スタジオ、影響分析マネージャ、エンリッチメント・マネージャ、入力クエリ・エディタ、トリガ・クエリ・エディタのマネージャおよびユーザ・インタフェースのウィンドウ下部に表示されます。データを含んでいるタブの横には、小さな緑色のインジケータ  が表示されます。
関連タスク	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 442 ページの「影響ルールの定義 - ワークフロー」</li> <li>▶ 510 ページの「エンリッチメント・ルールの定義 - シナリオ」</li> <li>▶ 27 ページの「TQL クエリの定義」</li> <li>▶ 285 ページの「パターン・ビューの作成」</li> <li>▶ 286 ページの「テンプレートの作成」</li> <li>▶ 288 ページの「パースペクティブの作成」</li> </ul>


ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。


UI 要素 (A-Z)	説明
	ウィンドウの幅が狭くてすべてのタブが表示されない場合は、左矢印または右矢印を使って必要なタブに移動します。
	[リストを表示する] をクリックすると、現在のモジュールで使用できるタブのリストが表示されます。このリストからタブを選択できます。
<b>属性</b>	クエリ・ノードまたは関係に対して定義された属性条件が表示されます。詳細については、82 ページの「属性タブ」を参照してください。
<b>カーディナリティ</b>	カーディナリティは、関係のもう一方の端にあることが期待されるクエリ・ノードの数を定義します。たとえば、ノードと IP Address の関係でカーディナリティが 1 : 3 である場合、TQL クエリは 1 ~ 3 個の IP Address に接続されているノードのみを取得します。詳細については、84 ページの「カーディナリティタブ」を参照してください。
<b>データ ソース</b>	選択したクエリ・ノードのデータ・ソース・セットが表示されます。 <b>注:</b> このタブはモデリング・スタジオにのみ表示されます。
<b>詳細</b>	次の情報が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>CI タイプ:</b> 選択したクエリ・ノード / 関係の CIT です。</li> <li>▶ <b>可視:</b> 緑色のチェック記号は、選択したクエリ・ノード / 関係がトポロジ・マップに表示されることを示します。赤色のマークは、表示されないことを示します。</li> <li>▶ <b>サブタイプを含める:</b> 緑色のチェック記号は、選択した CI とその子の両方がトポロジ・マップに表示されることを示します。赤色のマークは、選択した CI だけが表示されることを示します。</li> </ul>
<b>編集</b>	[編集] をクリックすると、選択したタブに対応するダイアログ・ボックスが開きます。

UI 要素 (A-Z)	説明
<b>エンリッチメント ルール</b>	<p>選択したクエリ・ノード / 関係に対して定義されたエンリッチメント・ルールが表示されます。エンリッチメント・ルールを使って CI の属性を更新する場合は、必要に応じて <b>[編集]</b> をクリックして <b>[クエリ ノード / 関係の定義]</b> ダイアログ・ボックスを開き、ルールを編集します。詳細については、531 ページの「<b>[クエリ ノード定義]</b>」,<b>[関係の定義]</b> ダイアログ・ボックス」を参照してください。</p> <p><b>注:</b> このタブはエンリッチメント・マネージャにのみ表示されます。</p>
<b>影響を受けるクエリ ノード</b>	<p>選択したトリガ・クエリ・ノードに発生した変更の影響を受けるクエリ・ノードが表示されます。必要な場合は、<b>[編集]</b> をクリックして <b>[影響を受けるクエリ ノード]</b> ダイアログ・ボックスを開き、影響を受けるクエリ・ノードを編集できます。詳細については、455 ページの「<b>[影響を受けるクエリ ノード]</b> ダイアログ・ボックス」を参照してください。</p> <p><b>注:</b> このタブは影響分析マネージャにのみ表示されます。</p>
<b>修飾子</b>	<p>クエリ・ノードまたは関係に対して定義された修飾子条件が表示されます。詳細については、87 ページの「<b>修飾子タブ</b>」を参照してください。</p>
<b>選択された ID</b>	<p>TQL クエリ結果に含める必要があるものを定義するために使用される要素インスタンスが表示されます。詳細については、90 ページの「<b>ID タブ</b>」を参照してください。</p>

## [新規エンリッチメント ルール], [エンリッチメント ルールのプロパティ], [エンリッチメント ルールに名前を付けて保存] ウィザード

このウィザードでは、エンリッチメント・ルールを作成または変更できます。

<p><b>利用方法</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 新規エンリッチメント・ルールを作成するには、[エンリッチメント ルール] 表示枠のどこかを右クリックして <b>[新規作成]</b> をクリックするか、<b>[新規作成]</b>  ボタンをクリックします。</li> <li>▶ 既存のエンリッチメント・ルールを変更するには、[エンリッチメント ルール] 表示枠でエンリッチメント・ルールを右クリックして、<b>[プロパティ]</b> を選択します。</li> <li>▶ 既存のクエリに基づいて新しいエンリッチメント・ルールを作成するには、[エンリッチメント ルール] 表示枠でエンリッチメント・ルールを右クリックして、<b>[名前を付けて保存]</b> を選択します。</li> </ul>
<p><b>重要情報</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 新規エンリッチメント・ルールを作成する場合、ルールに必要な TQL クエリの変更はアプリケーションが許可しないことに留意してください。これらの変更は次のとおりです。             <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ どの関係にも接続しなくなるクエリ・ノードが発生するような、エンリッチメント TQL クエリからエンリッチメント・クエリ・ノードに接続されているクエリ・ノードまたは関係を削除する操作。</li> <li>▶ エンリッチメント・ルールで使用しているクエリ・ノードまたは関係のカーディナリティ定義を <b>0</b> (不要) に変更することはできません。関係カーディナリティの詳細については、80 ページの「[クエリ ノード / 関係のプロパティ] ダイアログ・ボックス」を参照してください。</li> </ul> </li> <li>▶ エンリッチメント・ルールの基礎として機能するエンリッチメント TQL クエリは一定の検証制限を受けます。詳細については、97 ページの「トラブルシューティングと制限事項」を参照してください。TQL クエリが無効である場合は保存できません。</li> </ul>
<p><b>関連タスク</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 510 ページの「エンリッチメント・ルールの定義 - シナリオ」</li> </ul>
<p><b>ウィザード・マップ</b></p>	<p>[新規エンリッチメント ルール], [エンリッチメント ルールのプロパティ], [エンリッチメント ルールに名前を付けて保存] ウィザードは次のページで構成されています。</p> <p>[一般属性のルール] ページ &gt; [ルール ベース クエリ] ページ</p>
<p><b>関連情報</b></p>	<p>19 ページの「トポロジ クエリ言語」</p>

 **[一般属性のルール] ページ**

このウィザード・ページでは、エンリッチメント・ルールの一意の名前と説明を入力できます。

<b>重要情報</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ エンリッチメント・ルールの基礎として機能するエンリッチメント TQL クエリは一定の検証制限を受けます。詳細については、97 ページの「トラブルシューティングと制限事項」を参照してください。TQL クエリが無効である場合は保存できません。</li> <li>▶ TQL クエリ作成後の変更の影響に関する重要な情報については、526 ページの「[新規エンリッチメント ルール], [エンリッチメント ルールのプロパティ], [エンリッチメント ルールに名前を付けて保存] ウィザード」を参照してください。</li> <li>▶ 標準設定では、このウィザードは [ようこそ] ページを表示するように設定されています。ユーザ・プリファレンスを変更して、このページを表示しないようにできます。詳細については、97 ページの「[ユーザ プリファレンス] ダイアログ・ボックス」を参照してください。</li> </ul>
<b>ウィザード・マップ</b>	<p>[新規エンリッチメント ルール], [エンリッチメント ルールのプロパティ], [エンリッチメント ルールに名前を付けて保存] ウィザードには、次のページが含まれています。</p> <p>[一般属性のルール]ページ &gt; [ルール ベース クエリ]ページ</p>
<b>関連情報</b>	<p>19 ページの「トポロジクエリ言語」</p>

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素 (A-Z)	説明
<b>ルールの詳細</b>	ルールの詳細を入力します (任意指定)。
<b>ルールを有効にする</b>	<p>このオプションを選択すると、ルールが保存されたらすぐにシステム内で有効になります (任意指定)。</p> <p><b>標準設定:</b> 選択されていない</p> <p><b>注:</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 有効なエンリッチメント・ルールが無効化された場合 ([<b>ルールを有効にする</b>] チェック・ボックスをクリア), CMDDB で発生したルールに関連するすべての変更がシステムから削除されます。エンリッチメント・ルールを無効化すると, [エンリッチメント ルール] 表示枠でエンリッチメント・ルールの横に赤い [X] が表示されます。</li> <li>▶ ルールを再度有効にするには, [エンリッチメント ルール] 表示枠でルールを右クリックして, [<b>プロパティ</b>] を選択します。[一般属性] ページで [<b>ルールを有効にする</b>] を選択します。</li> </ul>
<b>ルール名</b>	<p>エンリッチメント・ルールの一意の名前を入力します。</p> <p>ルール名には, \/: "&lt;&gt; %? の文字を含むことができません。</p> <p><b>注:</b> ルール名が空の状態であるか, 別のエンリッチメント・ルールで使用している名前が含まれているか, 無効な文字を使用している場合, [<b>次へ</b>] および [<b>完了</b>] ボタンは使用できません。</p>



## [ルール ベース クエリ] ページ

このウィザードでは、エンリッチメント・ルールのベースとなる TQL クエリのプロパティを定義できます。

<b>重要情報</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ エンリッチメント・ルールの基礎として機能するエンリッチメント TQL クエリは一定の検証制限を受けます。詳細については、97 ページの「トラブルシューティングと制限事項」を参照してください。TQL クエリが無効である場合は保存できません。</li> <li>▶ TQL クエリ作成後の変更の影響に関する重要な情報については、526 ページの「[新規エンリッチメント ルール], [エンリッチメント ルールのプロパティ], [エンリッチメント ルールに名前を付けて保存] ウィザード」を参照してください。</li> <li>▶ 標準設定では、このウィザードは、このページで <b>[次へ]</b> をクリックすると [ウィザードの完了] ページを表示するよう設定されています。ユーザ・プリファレンスを変更して、[ウィザードの完了] ページを表示しないようにできます。詳細については、97 ページの「[ユーザ プリファレンス] ダイアログ・ボックス」を参照してください。</li> </ul>
<b>ウィザード・マップ</b>	<p>[新規エンリッチメント ルール], [エンリッチメント ルールのプロパティ], [エンリッチメント ルールに名前を付けて保存] ウィザードには、次のページが含まれています。</p> <p>[一般属性のルール] ページ &gt; [ルール ベース クエリ] ページ</p>
<b>関連情報</b>	<p>19 ページの「トポロジクエリ言語」</p>

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素 (A-Z)	説明
<b>新しいクエリのエンリッチメントに基づく</b>	<p>新しい TQL クエリをエンリッチメント・ルールのベースにする場合は、このチェック・ボックスを選択します。TQL 結果は、新しい TQL クエリに定義した属性に基づいたものになります。</p>
<b>既存のクエリのエンリッチメントに基づく</b>	<p>既存の TQL クエリをエンリッチメント・ルールのベースにする場合は、このチェック・ボックスを選択します。必要なエンリッチメント TQL クエリをドロップダウン・リストから選択します。</p>
<b>ベース クエリ詳細</b>	<p>TQL クエリの説明を入力します (任意指定)。</p>

UI 要素 (A-Z)	説明
ベース クエリ名	<p>エンリッチメント TQL クエリの一意的名前を入力します。</p> <p><b>[既存の TQL のエンリッチメント ルールに基づく]</b> オプションを選択した場合、ルールの基礎とするエンリッチメント TQL クエリを選択します。</p>
ベース クエリの優先度	<p>新しい TQL クエリの優先度（低，中，高，至急）を選択します。この設定により，システムが CMDB から更新情報を取り込むためにこのクエリを自動的に再実行する頻度が決定します。</p>
現在の定義に基づいて新規クエリを保存	<p>選択すると，エンリッチメント・ルールの定義に基づいて新しい TQL クエリが保存されます。</p> <p><b>注：</b>このフィールドは，[エンリッチメント ルールに名前を付けて保存] ウィザードにのみ表示されます。</p>

## [クエリ ノード定義], [関係の定義] ダイアログ・ボックス

選択したクエリ・ノード / 関係の属性を表示します。キー属性と選択したクエリ・ノードの必須属性は太字で表示されます。

<b>利用方法</b>	エンリッチメント モード（ [エンリッチメント マネージャ] ページの上部で [クエリ / エンリッチメント] ドロップダウン から [エンリッチメント] を選択）の場合、クエリ・ノード または関係を右クリックし、[関係を更新] または [クエリ ノードを更新] を選択します。
<b>重要情報</b>	<p>エンリッチメント・ルールを使用して、CMDB 内の CI 属性の値を更新するか、現在値が設定されていない属性にデータを追加します。たとえば、このオプションを使用して、すべての CI インスタンスに同時にメモを追加できます。</p> <p>キー属性とエンリッチメント・クエリ・ノードの必須属性の値を入力する必要があります。これらの値の定義に使用方法で、作成されるインスタンス数が決まります。</p> <p>動的な値を入力すると、膨大な数のインスタンスを作成できます。たとえば、<b>CIT Node</b> の <b>host_key</b> または <b>CIT IpAddress</b> の IP Address 属性に動的な値を入力します。</p>
<b>関連タスク</b>	510 ページの「エンリッチメント・ルールの定義 - シナリオ」


### 【属性】領域

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素 (A-Z)	説明
名前	属性名です。
タイプ	選択した属性のフィールドのタイプです。
値	次のいずれかで値が定義されます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 【属性の設定】領域の【値】ボックス。</li> <li>▶ 【属性の設定】領域の複数の【属性別】ボックスの値の組み合わせ。</li> <li>▶ [クエリノード定義 - 詳細な属性] ダイアログ・ボックスの【タイプ】カラムで【単純】を選択した場合、【値】カラム。</li> <li>▶ [クエリノード定義 - 詳細な属性] ダイアログ・ボックスの【タイプ】カラムで【属性別】を選択した場合、【値】カラムと【値】カラムの右側のカラムの値の組み合わせ。</li> </ul>

### 【属性の設定】領域

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素 (A-Z)	説明
	(フィールド・タイプの属性に <b>string</b> を選択した場合にのみ表示) [クエリノード定義 - 詳細な属性] ダイアログ・ボックスが開きます。  単純または複雑な表現を使用して、 <b>string</b> タイプのクエリ・ノードと関係の属性を定義します。また、正規表現形式を使用して複雑な表現を作成することもできます。
詳細	(フィールド・タイプの属性に <b>string</b> を選択した場合にのみ表示) [クエリノード定義 - 詳細な属性] ダイアログ・ボックスで定義された属性値を表示します。






UI 要素 (A-Z)	説明
属性別	TQL クエリのほかのクエリ・ノードの属性を使用して属性を定義します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 左側のボックスで必要なクエリ・ノードを選択します。</li> <li>▶ 右側のボックスでクエリ・ノードの必須属性を選択します。</li> </ul> 属性定義は [属性] 領域の [値] カラムに表示されます。
正規表現グループ	(フィールド・タイプの属性に <b>string</b> を選択した場合にのみ表示) 正規表現構文を使用して正規表現を追加した場合にのみグループ番号を入力します。これは、正規表現パターンのうち、属性を作成するときに注目する部分を表します。括弧 ( ) のセットでグループとみなされます。
正規表現	(フィールド・タイプの属性に <b>string</b> を選択した場合にのみ表示) 正規表現構文を使用して正規表現を追加します。正規表現パターンを入力します。
値 ([属性の設定] 領域)	定数値を定義します。[値] ボックスに必要な値を入力するか、[値] リストから値を選択します。 <b>注:</b> 値の定義は [属性] 領域の [値] カラムに表示されます。


## [クエリ ノード定義 – 詳細な属性] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、単純または複雑な表現を使用して、**String** タイプのクエリ・ノードと関係の属性を定義できます。また、正規表現形式を使用して複雑な表現を作成することもできます。

利用方法	[クエリ ノード定義] ダイアログ・ボックスの <b>string</b> タイプの属性を選択します。[詳細] を選択し、[詳細] ボタンをクリックします。
関連タスク	510 ページの「エンリッチメント・ルール of の定義 – シナリオ」

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素 (A-Z)	説明
	<p>単純または複雑な表現を使用して属性値を定義します。[タイプ] カラムに新しいエントリを作成します。新しいエントリをクリックし、[単純] または [属性別] を選択します。詳細については、後述の [タイプ] カラムの説明を参照してください。</p>
	<p>属性値を削除します。</p>
	<p>選択した行を上へ移動します。</p>
	<p>選択した行を下へ移動します。</p>
<p><b>詳細な値</b></p>	<p>([タイプ] カラムで [属性別] を選択している場合にのみ使用可能) ボックス内のエントリをクリックし、必須属性を選択します。</p>
<p><b>連結</b></p>	<p>このダイアログ・ボックスに一覧表示されているすべての属性値を使用します。</p>
<p><b>正規表現グループ</b></p>	<p>([タイプ] カラムで [属性別] を選択している場合にのみ使用可能) [正規表現グループ] カラム内をクリックし、 ボタンをクリックし、開いた [正規表現グループ] ダイアログ・ボックスの [値] にグループ番号を入力します。これは、正規表現パターンのうち、属性を作成するときに注目する部分を表します。括弧 ( ) のセットでグループとみなされます。</p>
<p><b>正規表現</b></p>	<p>([タイプ] カラムで [属性別] を選択している場合にのみ使用可能) [正規表現] カラム内をクリックして  ボタンをクリックし、開いた [正規表現] ダイアログ・ボックスの [値] に正規表現パターンを入力します。</p>

UI 要素 (A-Z)	説明
タイプ	<p>[タイプ] カラム内のエントリをクリックし、次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ [単純]: 単純表現を使用して定数値を定義します。</li> <li>▶ [属性別]: TQL のほかのクエリ・ノードの属性を使用して属性を定義します。</li> </ul> <p><b>標準設定:</b> 単純</p>
値を持つ最初の属性を使用	<p>このダイアログ・ボックスに一覧表示されている空ではない最初の属性値を使用します。</p>
値	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ [タイプ] カラムで [単純] を選択した場合、[値] カラム内をクリックして  ボタンをクリックし、[単純] ダイアログ・ボックスの [値] に必要な値を入力します。</li> <li>▶ [タイプ] カラムで [属性別] を選択した場合、[値] カラム内をクリックし、リストから必要な値を選択します。</li> </ul>





# 第 III 部

---

## HP Universal CMDB データ・モデル



# 13

---

## UCMDB データ・モデルの概要

本章の内容

概念

▶ BDM データ・モデルの概要 (540 ページ)

参照先

▶ データ・モデルのドキュメント (541 ページ)

▶ アップグレードに関するドキュメント (542 ページ)

---

---

## 概念

---

---

### **BDM データ ・ モデルの概要**

BTO データ ・ モデル (BDM) では, IT ユニバース ・ モデルのビジネス機能, サービス, プロセス, アクティビティを管理できます。

BDM のドキュメントは次のフォルダにあります。

C : ¥hp¥UCMDB¥UCMDBServer¥deploy¥ucmdb-docs¥docs¥eng¥pdfs

---

---

## 参照先

---

---

### データ・モデルのドキュメント

#### **BDM – Conceptual Data Model (英語版)**

概念モデルでは、BTO データ・モデル (BDM) の上位レベルの図を構造レイヤで編成して表します。このドキュメントでは、モデル化される概念とモデルの範囲について説明します。この概念データ・モデルは、モデル化されたドメインの意味論を理解する出発点となります。

---

**注:** これはモデルの抽象的な表現であるため、このドキュメントにはすべてのエンティティや関係は含まれていません。

---

#### **BDM – Data Model UMLs (英語版)**

このドキュメントでは、データ・モデルを視覚的な訴求力のある UML 図のセットで表します。モデル全体の大きくて複雑な 1 つの UML 図ではなく、ビューの特定部分を使用した小さい図で表します。UML 図の目的は、モデル・エンティティとその相互関係を図で表現することです。

---

**注:** UML 図を理解しやすくするために、一部の関係およびエンティティが除外されている場合があります。

---

#### **BDM – Data Model HTML (英語版)**

このドキュメントでは、すべての BDM クラスの情報が HTML 形式で記載されています。

## **BDM – Business Model and Best Practices (英語版)**

このドキュメントでは、UCMDB データ ・ モデルのビジネス部分、いくつかのベスト ・ プラクティス、およびビジネスをモデル化する方法のガイドラインについて説明します。

## **CMS Data Model 9.0 Documentation (英語版)**

このドキュメントでは、すべての BDM クラスおよび CMS クラスのサブセットについて説明します。このドキュメントには、次の情報が含まれています。

- ▶ クラスの説明
- ▶ 属性の情報
- ▶ オブジェクトの範囲設定 (BDM/CMS)
- ▶ 修飾子の情報
- ▶ 階層の情報

---

**注:** このドキュメントは、UCMDB ユーザ ・ インタフェースから自動的に生成できます。

---

## **アップグレードに関するドキュメント**

### **UCMDB Class Mapping Upgrade (英語版)**

このマッピング ・ ドキュメントでは、バージョン 8.0x と 9.0 のクラス ・ マッピングの概要について説明します。これには、階層の変更なども含まれています。

### **UCMDB Upgrade Documentation (英語版)**

このドキュメントでは、8.0x クラス ・ モデルと 9.0 データ ・ モデルの相違点について詳細に説明します。このドキュメントには、次の情報が含まれています。

- ▶ クラスおよび属性のマッピング
- ▶ 新しいクラスおよび属性

- ▶ 修飾子の変更
- ▶ 廃止予定に関する情報
- ▶ 削除されたクラス
- ▶ キー属性の変更
- ▶ 階層の変更





# 14

---

## UCMDB データ・モデルの UML ツールへのエクスポート

本章の内容

### 概念

- ▶ UML ツールへのエクスポート - 概要 (546 ページ)

### タスク

- ▶ クラス・モデルのエクスポート (547 ページ)
- ▶ クラス・モデルの選択部分の XML を変換 (548 ページ)

### 参照先

- ▶ [クラス モデルの UML へのエクスポート] ウィザード (550 ページ)
- ▶ ツール・プラグイン入力 (553 ページ)

---

**注:** 現在, Altova UModel バージョン 2008 と 2009 がサポートされています。

---

## 概念

---

---

### UML ツールへのエクスポート – 概要

UML ツールへのエクスポートでは、UCMDB クラス・モデルの選択したセクションを UML ツールと互換性のある形式にエクスポートし、モデルを UML 図として表示できます。

ツールへの入力項目は、UCMDB 9.0 の JMX サービス、**UCMDB : service=Class Model Services/exportClassModelToXml()** によって取得される UCMDB クラス・モデル XML ファイルです。

---

**注：**JMX コンソールにアクセスするには、ブラウザで **http://< サーバ名 > : 8080/jmx-console** と入力します。< サーバ名 > は、HP Universal CMDB がインストールされているマシンの名前です。

---

---

---

## タスク

---

---

### クラス ・ モデルのエクスポート

このタスクでは、[クラス モデルの UML ツールへのエクスポート] ウィザードの使用方法について説明します。

このタスクには次の手順が含まれます。

- ▶ 547 ページの「前提条件」
- ▶ 547 ページの「UML ツールの実行」
- ▶ 547 ページの「エクスポートしたファイルの Altova での表示」

#### 1 前提条件

次の zip ファイルを任意の場所に解凍してツールをセットアップします。

<Volume> : %hp%\UCMDB%\UCMDBServer%\tools%\ExportClassModel.zip

#### 2 UML ツールの実行

[クラス モデルの UML へのエクスポート] ウィザードを使用して、UML ツールにエクスポートする CIT とその属性を選択します。

[UML へのエクスポート] ウィザードを使用した作業の詳細については、550 ページの「[クラス モデルの UML へのエクスポート] ウィザード」を参照してください。

#### 3 エクスポートしたファイルの Altova での表示

- a Altova では、[ファイル] > [XMI ファイルからインポート] を選択します。
- b XMI ファイルを選択します。[モデル ツリー] 表示枠にクラス ・ モデル ・ エントリが表示されます。
- c エントリを右クリックして [新規ダイアグラムに表示] > [内容] を選択します。[OK] をクリックします。

## クラス・モデルの選択部分の XML を変換

このタスクでは、クラス・モデルの選択部分の XML を UML ツール形式に変換するカスタム・プラグインの使用方法について説明します。

Java クラスまたは XSLT テキスト・ファイルのプラグインを使用できます。Java クラスを使用する場合は、**ITransformToUML(ExportToUML.jar)** インタフェースを実装する必要があります。**transformToUML()** メソッドは XML 文字列をパラメータとして受け取り、出力ファイルに書き込まれるバイト配列を返します。

カスタム・プラグイン入力の詳細については、553 ページの「ツール・プラグイン入力」を参照してください。

このタスクには次の手順が含まれます。

- ▶ 548 ページの「Java クラスを使用したプラグインのアクティブ化」
- ▶ 549 ページの「XSLT テキスト ファイルを使用したプラグインのアクティブ化」

### Java クラスを使用したプラグインのアクティブ化

表示名と完全修飾クラス名を、次のように ExportToUML ディレクトリの **config.xml** ファイルに追加します。

```
<ConverterToUML>
  <名前><表示名></名前>
  <クラス><完全修飾クラス名></クラス>
</ConverterToUML>
```

クラス・モデルをエクスポートする手順を続行します。詳細については、547 ページの「クラス・モデルのエクスポート」を参照してください。

## XSLT テキスト ファイルを使用したプラグインのアクティブ化

この場合には、指定したファイルの XSLT がクラス・モデル XML に適用され、出力ファイルに書き込まれます。

表示名と XSLT ファイルのフル・パスを、次のように ExportToUML ディレクトリの **config.xml** ファイルに追加します。

```
<ConverterToUML>  
  <名前><表示名></名前>  
  <XsltFile><XSLT ファイルのフルパス></XsltFile>  
</ConverterToUML>
```

クラス・モデルをエクスポートする手順を続行します。詳細については、547 ページの「クラス・モデルのエクスポート」を参照してください。

## 参照先

### UML ツール ・ ユーザ ・ インタフェースへのエクスポート

本項の内容

- ▶ 550 ページの「[クラス モデルの UML へのエクスポート] ウィザード」

### [クラス モデルの UML へのエクスポート] ウィザード

このウィザードでは、UML ツールにエクスポートする CIT とその属性を選択できます。

利用方法	ツールを解凍した場所を参照します。ExportClassModel ディレクトリで <b>ExportClassModel.jar</b> を右クリックします。[アプリケーションから開く] > [Java 2 プラットフォーム SE バイナリ] を選択します。
重要情報	標準設定では、ツールにより ExportClassModel ディレクトリの <b>ClassModel.xml</b> ファイルが開かれます。[ファイル] > [クラス モデル ファイルを開く] メニューでほかのファイルを開くことができます。
関連タスク	547 ページの「クラス ・ モデルのエクスポート」
ウィザード ・ マップ	[クラス モデルの UML へのエクスポート] ウィザードには、次のページが含まれています。 [クラス モデルの UML へのエクスポート] ウィザード > 有効なリンクの選択 > 選択した項目のエクスポート
関連情報	553 ページの「ツール ・ プラグイン入力」

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。


UI 要素 (A-Z)	説明
ファイル	XML ファイルのリストを表示します。クラス・モデルを含むファイルを開きます。
[属性の選択] 表示枠	UML ツールに表示する属性を選択します。 選択した CIT の属性はこの表示枠に表示されます。属性の色は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 親 CIT から継承する属性は黒です。</li> <li>▶ この CIT に固有の属性は濃い青です。</li> </ul>
[CI タイプの選択] 表示枠	ここに表示される CIT は、ClassModel.xml ファイルから取得されます。 UML ツールにエクスポートする CIT とそのサブ・ノードを選択します。 サブインデックスをすべて選択またはすべてクリアするには、ボタンを使用します。

### 有効なリンクの選択

このウィザード・ページでは、2 つの CIT 間で使用できるリンクを選択できます。

重要情報	ウィザードに関する一般情報は、550 ページの「[クラスモデルの UML へのエクスポート] ウィザード」で入手できます。
ウィザード・マップ	[クラスモデルの UML へのエクスポート]ウィザードには、次のページが含まれています。 [クラスモデルの UML へのエクスポート] ウィザード > 有効なリンクの選択 > 選択した項目のエクスポート

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素 (A-Z)	説明
	このボタンをクリックすると、CIT のリストからフィルタが削除されます。
<b>適用フィルタ</b>	有効なリンクのリストをフィルタ処理できます。CIT のリストをフィルタ処理し、CIT または関係ごとにリストを並べ替えることができます。

### 選択した項目のエクスポート

このウィザード・ページでは、選択した CIT とその属性を UML ツールにエクスポートできます。

<b>重要情報</b>	ウィザードに関する一般情報は、550 ページの「[クラスモデルの UML へのエクスポート] ウィザード」で入手できます。
<b>ウィザード・マップ</b>	[クラスモデルの UML へのエクスポート]ウィザードには、次のページが含まれています。 [クラスモデルの UML へのエクスポート] ウィザード > 有効なリンクの選択 > <b>選択した項目のエクスポート</b>

ユーザ・インタフェース要素の説明を次に示します。

UI 要素 (A-Z)	説明
<b>エクスポート</b>	クリックして、UCMDB CIT とその属性を追加する XMI 形式の UML ファイルを参照します。 CIT のペアの有効なリンクがない場合は、「 <b>有効なリンクなし</b> 」メッセージが [有効なリンクの選択] ページに表示されます。



## ツール ・ プラグイン入力

プラグインへの入力は、次の形式の XML 文字列（選択したクラス / 属性 / 有効なリンク）です。

```
<?xml version="1.0" encoding="ISO-8859-1"?>
<Class-Model>
<Class class-name="hostresource" display-name="Host Resource"
visibility="public">
  <Attribute name="isvirtual" display-name="Is Virtual" visibility="public"/>
  <Attribute name="city" display-name="City" visibility="public"/>
</Class>
<Class class-name="host_node" display-name="Computer" visibility="public">
<Derived-From class-name="host"/>
</Class>
<Class class-name="vax" display-name="VAX" visibility="public">
  <Attribute name="root_actualdeletionperiod" display-name="Actual Deletion Period"
visibility="public"/>
  <Attribute name="data_allow_auto_discovery" display-name="Allow CI Update"
visibility="public"/>
  <Derived-From class-name="host_node"/>
</Class>
<Class class-name="host" display-name="Host" visibility="public">
  <Attribute name="host_iscomplete" display-name="Host Is Complete"
visibility="public"/>
  <Attribute name="host_isroute" display-name="Host Is Route" visibility="public"/>
  <Attribute name="host_hostname" display-name="Host Name" visibility="public"/>
  <Attribute name="host_os" display-name="Host Operating System"
visibility="public"/>
</Class>
<Class class-name="unix" display-name="Unix" visibility="public">
<Derived-From class-name="host_node"/>
</Class>
<Valid-Link ID="host_member_host" display-name="Member" visibility="public">
<End1 class-name="host"/>
<End2 class-name="host"/>
</Valid-Link>
<Valid-Link ID="host_container_f_hostresource" display-name="Container link"
visibility="public">
  <End1 class-name="host"/>
  <End2 class-name="hostresource"/>
</Valid-Link>
</Class-Model>
```



# 第 IV 部

---

参照情報



# 15

---

## テーブルを使用した作業

本章の内容

参照先

- ▶ カラムのユーザ・インタフェース (558 ページ)

## 参照先

### カラムのユーザ・インタフェース

本項の内容




- ▶ 558 ページの「[カラムの選択] ダイアログ・ボックス」
- ▶ 559 ページの「[カラムコンテンツの 並べ替え] ダイアログ・ボックス」

### [カラムの選択] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、表示する情報を選択できます。カラムを非表示にするか、非表示状態のカラムを表示するように選択できます。


<b>説明</b>	[カラムの選択]  をクリックします。このボタンはレポート内の各テーブルの上に表示されます。
-----------	---

含まれている要素は次のとおりです。




GUI 要素	説明
	カラムを表示します。選択したカラムを [利用可能なカラム] 表示枠から [可視カラム] 表示枠に移動します。
	選択したカラムを非表示にします。選択したカラムを [可視カラム] 表示枠から [利用可能なカラム] 表示枠に移動します。
	すべての非表示カラムを表示します。すべてのカラムを [利用可能なカラム] 表示枠から [可視カラム] 表示枠に移動します。
[利用可能なカラム]	この表示枠内のカラムはテーブルに表示されません。
[標準設定]	レポートのカラムを元の表示状態に戻します。
[可視カラム]	この表示枠内のカラムはテーブルに表示されます。




## [カラムコンテンツの 並べ替え] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、テーブルに表示されるエントリの並べ替え順序を設定、変更できます。

説明	 [カラム コンテンツの並べ替え] ボタンをクリックします。
重要情報	<p><b>1つのカラムを基準にしたテーブルの並べ替えは、次の手順で行います。</b>            カラム名を [利用可能なカラム] から [並べ替えられたカラム] リストに移動します。名前を選択し、該当するボタンをクリックして昇順（上向きの三角形）または降順（下向きの三角形）のいずれかで並べ替えるかを決めます。</p> <p><b>2つ以上のカラムを基準にしたテーブルの並べ替えは、次の手順で行います。</b>            カラム名（複数）を [利用可能なカラム] から [並べ替えられたカラム] リストに移動します。各カラムについて、昇順または降順のいずれかで並べ替えるかを決めます。</p> <p><b>カラムの並べ替え順序を変更するには、次の手順で行います。</b>            [並べ替えられたカラム] リストでエントリを選択し、上向きまたは下向き矢印を選択して順序を変更します（リスト内の上部にあるエントリがまず並べ替えられ、その後、下部にあるエントリが並べ替えられます）。テーブルのカラムのヘッダーに数が表示されます。</p> <p><b>注：</b>並べ替えることができるのは、表示されているカラムのみです。テーブル内に表示するカラムとその表示順序を定義する方法の詳細については、558 ページの「[カラムの選択] ダイアログ・ボックス」を参照してください。</p>

含まれている要素は次のとおりです。

GUI 要素	説明
	選択したカラムを [利用可能なカラム] 表示枠から [並べ替えられたカラム] 表示枠に移動します。この手順は、選択したカラムをダブルクリックすることでも行えます。
	選択したカラムを [並べ替えられたカラム] 表示枠から [利用可能なカラム] 表示枠に移動します。
	すべてのカラムを [利用可能なカラム] 表示枠から [並べ替えられたカラム] 表示枠に移動します。

GUI 要素	説明
	すべてのカラムを <b>[並べ替えられたカラム]</b> 表示枠から <b>[利用可能なカラム]</b> 表示枠に移動します。
	リスト内で選択したカラムを上または下に移動して、すでに決められている並べ替え順序内での優先順位を上げ下げできます。
	カラムの内容を昇順または降順に並べ替えることができます。 [並べ替えられたカラム] 表示枠でカラム名を選択し、昇順または降順ボタンをクリックします。
<b>[利用可能なカラム]</b>	内容が並べ替えられていないカラムです。 <b>注:</b> 複数のカラムを選択できます。
<b>[並べ替えられたカラム]</b>	内容が昇順または降順で並べ替えられたカラムです。



# 16

---

## 正規表現の例

本章の内容

参照先

- ▶ 正規表現の例 (562 ページ)

---



---

## 参照先

---



---

### 正規表現の例

- ▶ IP Address (aa.yy.zz.mm) を定義する正規表現は、次のように入力します。

目的	最初のフィールドへの入力内容	2 つ目のフィールドへの入力内容
aa でラベルを作成する	(.*)((.[.]*[.]*[.]*.)*	1
yy でラベルを作成する	(.*)((.[.])((.[.]*[.]*.)*	2
zz でラベルを作成する	(.*)((.[.]*[.])((.[.]*.)*	2
mm でラベルを作成する	(.*)((.[.]*[.]*[.]*[.])((.[.]*.)*	2

- ▶ 次のように正規表現を入力して、選択された属性の最初または最後の文字でラベルを作成できます。

目的	最初のフィールドへの入力内容	2 つ目のフィールドへの入力内容
最初の文字でラベルを作成する	(.)(.*)	1
最後の文字でラベルを作成する	(.*)((.))	2
最初の 2 文字でラベルを作成する	(.)(.)(.*)	1
最後の 2 文字でラベルを作成する	(.*)((.)(.))	2

---

# 索引

## A

ALLOW VOLATILITY 修飾子 25

## C

### CI

エイジング・メカニズムを使った自動  
削除 209

関連 CI の作成 207

既存の関連付け 212

削除 208, 250

作成 216

新規ビューの作成 206

[データフロー管理] ジョブからの削  
除 250

[データフロー管理] ジョブへの追加  
250

比較 366

非関連 CI の作成 207

プロパティ 208

[CI/ 関係履歴] ダイアログ・ボックス 231

[CI インスタンスをフィルタ] ダイアログ・  
ボックス 76

[CI 監視の管理] ダイアログ・ボックス 316

[CI 条件検索] ダイアログ・ボックス 149

### CI タイプ

アイコンの割り当て 471

概要 466

関係 468

計算された関係の割り当て 473

作成 470

修飾子の割り当て 471, 472, 473

説明を表示 477

属性 467

属性の設定 470, 472

定義 470, 472, 473

標準設定ラベルの定義 471, 473

メニューのカスタマイズ 471, 472

[CI タイプの選択] ページ

[パターンベースモデル] ウィザード  
331

CI タイプ・マネージャ 465, 481

[アイコン] タブ 495

[アタッチメニュー] タブ 496

[修飾子] タブ 492

[詳細] タブ 487

ショートカット・メニュー 485

[属性] タブ 488

[トリプレット] タブ 493

[標準設定ラベル] タブ 500

CI の選択 151

概要 144

検索モード 155

参照モード 151

制限事項とトラブルシューティング  
162

設定 147

ビューの表示 145

利用できないビュー 162

[CI の選択]

検索ツールの使用 145

[CI のプロパティ] ダイアログ・ボックス  
233

CI の変更履歴

表示 383, 384

CI 比較レポート 387

CI 変更レポート 381

[CI を公開] ダイアログ・ボックス 346

CMDB 使用率レポート 385

[Create New Impact Rule/ 影響ルールのプロ  
パティ / 影響ルールとして名前を付け  
て保存] ウィザード

[影響ルール グループ] ページ 462

[影響ルール的一般属性] ページ 460

## 索引

[ルール ベース クエリ] ページ 461  
Cron 式 370

## H

[Hierarchical] タブ  
[レイアウト プロパティ] ダイアログ・  
ボックス 174  
HP ソフトウェアの Web サイト 16  
HP ソフトウェアのサポート Web サイト 15

## I

IT ユニバース  
大きなビュー 165  
関係 210  
ビュー 203, 205  
IT ユニバース マネージャ  
[CIのプロパティ] ダイアログ・ボッ  
クス 233  
概要 202  
トポロジ・マップ 245  
[IT ユニバース マネージャ] ページ 244  
IT ユニバース・モデル  
作成 202

## M

Model Editor 317

## R

Readme 13

## T

TQL  
監査簡略ログ / 監査詳細ログ 46  
環状 クエリ 99  
クエリ, 可視の TQL ノード 67, 81  
クエリ, 可視の関係 55, 58  
クエリ, 環状 99  
クエリ, 検証制限 97  
自己関係 52, 58, 60, 64, 98, 304  
ショートカット・メニュー・オプショ  
ン 37  
増分詳細ログ 49

増分スプリッタ・ログ 48  
増分統計ログ 47  
パターン統計情報ログ 46  
パターン・ログ 45  
ログ 44

TQL クエリ  
作成 21  
定義 27  
TQL クエリ・エディタ 355  
TQL ノード  
可視, TQL クエリで 67, 81

## U

UCMDB アプレット・タグ  
概要 135  
UML ツール  
エクスポート 547  
UML ツール・ユーザ・インタフェースへのエ  
クスポート 550

## あ

アセット・レポート 375  
アプリケーション・ブレイクダウン・レポー  
ト 373  
アプレットの埋め込み  
ダイレクト・リンクの使用 133

## い

依存関係レポート 403  
[一般属性のルール] ページ  
[新規エンリッチメント ルール] ウィ  
ザード 527  
印刷  
トポロジ・マップの内容 186

## え

影響分析結果  
取得 220  
影響分析マネージャ  
[影響ルール定義] ダイアログ・ボック  
ス 457  
[影響を受けるクエリ ノード] ダイア  
ログ・ボックス 455

概要 440  
 [詳細] ダイアログ・ボックス 447  
 影響分析マネージャのユーザ・インタフェース 446  
 [影響分析マネージャ] ページ 448  
 [影響分析を実行] ダイアログ・ボックス 260  
 影響モデリング  
 計算された関係タイプ 106  
 影響ルール  
 作成 442  
 関連 TQL の検証 100  
 [影響ルールグループ] ページ  
 [Create New Impact Rule/ 影響ルールのプロパティ / 影響ルールとして名前を付けて保存] ウィザード 462  
 [影響ルール定義] ダイアログ・ボックス  
 影響分析マネージャ 457  
 [影響ルールの一般属性] ページ  
 [Create New Impact Rule/ 影響ルールのプロパティ / 影響ルールとして名前を付けて保存] ウィザード 460  
 [影響ルール ベース クエリ] ページ  
 [Create New Impact Rule/ 影響ルールのプロパティ / 影響ルールとして名前を付けて保存] ウィザード 461  
 [影響を受けるクエリ ノード] ダイアログ・ボックス  
 影響分析マネージャ 455  
 [影響を表示] 表示枠 263  
 エイジング・メカニズム  
 CI 用 209  
 [円形] タブ  
 [レイアウト プロパティ] ダイアログ・ボックス 171  
 エンリッチメント・ノードと関係  
 TQL クエリに追加 515  
 エンリッチメント・マネージャ  
 概要 508  
 [ノード定義 / 関係の定義] ダイアログ・ボックス 531  
 エンリッチメント・マネージャのユーザ・インタフェース 517  
 [エンリッチメント マネージャ] ページ 517  
 エンリッチメント・ルール  
 検証 515  
 定義 510

## お

大きなビュー 165  
 オンライン・ドキュメント 12  
 オンライン・ブック 13  
 オンライン・ヘルプ 13  
 オンライン・リソース 15

## か

[階層ルール] ダイアログ・ボックス 310  
 概要  
 CI の選択 144  
 トボロジ・クエリ言語 (TQL) 20  
 可視の関係 55, 58  
 可視のノード 67  
 カスタム・レポート 364  
 生成 365  
 [カスタム レポート] 表示枠 431  
 カラム コンテンツの並べ替え] ダイアログ・ボックス 352, 559  
 [カラムの選択] ダイアログ・ボックス 558  
 カラムのユーザ・インタフェース 558  
 関係  
 階層 211  
 可視, TQL クエリで 55, 58  
 削除 214  
 作成 210, 216, 471  
 説明を表示 477  
 について 210  
 [関係条件を結合] ダイアログ・ボックス 77  
 [関係タイプ] ページ  
 [関連クエリ ノードを追加] ウィザード 64  
 [関係タイプを変更] ダイアログ・ボックス 303  
 [関係のタイプを選択] ダイアログ・ボックス 92  
 [関係の追加 / 削除] ダイアログ・ボックス 481  
 [関係の追加 / 編集] ダイアログ・ボックス 59  
 関係を作成ウィザード 486  
 [関係を挿入] ダイアログ・ボックス 240  
 [関係] ページ 241  
 監視 280  
 [監視の更新] ダイアログ・ボックス 360

## 索引

[完了] ページ

[ダイレクト リンクの生成] ウィザード 132

[関連 CI の条件] ダイアログ・ボックス 305  
関連 CI マップ 259

[関連クエリ ノードのインスタンス] ページ  
[関連クエリ ノードを追加] ウィザード 68

[関連クエリ ノードのタイプ] ページ  
[関連クエリ ノードを追加] ウィザード 62

[関連クエリ ノードのプロパティ] ページ  
[関連クエリ ノードを追加] ウィザード 65

[関連クエリ ノードを追加] ウィザード 61  
[関係タイプ] ページ 64

[関連クエリ ノードのインスタンス]  
ページ 68

[関連クエリ ノードのタイプ] ページ 62

[関連クエリ ノードのプロパティ]  
ページ 65

## き

[機能の追加] ダイアログ・ボックス  
モデリング・スタジオ 301

## く

[クエリ / ビュー定義プロパティ] ダイアログ・ボックス 345

[クエリ ノード / 関係のプロパティ] ダイアログ・ボックス 80

[クエリ ノード タイプの再設定] ダイアログ・ボックス 91

クエリ・ノードと関係  
TQL クエリに追加 28

[クエリ ノードのグループ化] ダイアログ・ボックス 344

[クエリの選択] ページ  
[パターン ベース モデル] ウィザード 331

[クエリを保存] ダイアログ・ボックス 348  
クラス・モデル  
概要 539

選択部分の変換 548

クラス・モデル・ツールへのエクスポート 547

[クラス モデルの UML ツールへのエクスポート] 545, 546

プラグイン入力 553

[クラス モデルの UML へのエクスポート]  
ウィザード 550

グループ化

ネストされたグループ 271

## け

計算された関係

概要 104

作成 473

計算された関係タイプ

影響モデリング 106

[計算された関係を追加] ダイアログ・ボックス 50

計算済み関係の作成ウィザード 486

結合関係 24

定義 33

結合関係の追加ダイアログ・ボックス 56

[検索基準の保存] ダイアログ・ボックス 161

検索ツール

使用 145

[検索の整理] ダイアログ・ボックス 159

検証制限

TQL クエリ 97

## こ

公開 CI 280

[公開パスの作成] ダイアログ・ボックス 307

[公開パスの編集] ダイアログ・ボックス 307

[公開パスの保存] ダイアログ・ボックス 307

[公開パスを開く] ダイアログ・ボックス 329  
更新, ドキュメント 16

[構成アイテム タイプを作成] ウィザード 486

[アイコン] ページ 495

[アタッチ メニュー] ページ 496

[修飾子] ページ 492

[詳細] ページ 487

[属性] ページ 488

[標準設定ラベル] ページ 500

ゴールド・マスタ・レポート 407  
 [コマンドの選択] ページ  
   [ダイレクト リンクの生成] ウィザード 112  
 根本原因 440

## さ

[サイクル定義] ダイアログ・ボックス 309  
 削除候補レポート 401  
 [サブグラフ条件の定義] ダイアログ・ボックス 93  
 サブグラフの定義 25  
   定義 35  
 [サブグラフの定義] ダイアログ・ボックス 95  
 参照モード  
   ビューの表示 145

## し

[時間枠を変更] ダイアログ・ボックス 230  
 システム・タイプ・マネージャ 468  
 [システムタイプマネージャ] ダイアログ・ボックス 505  
 [実行中のソフトウェア検索] ダイアログ・ボックス 160  
 [詳細] ダイアログ・ボックス  
   影響分析マネージャ 447  
 ショートカット・メニュー・オプション  
   TQL 37  
 [ジョブリスト] ダイアログ・ボックス 413  
 [新規 CI] ダイアログ・ボックス 253  
 [新規影響ルール / 影響ルールのプロパティ / 影響ルールとして名前を付けて保存] ウィザード 459  
 [新規エンリッチメントルール] ウィザード  
   [一般属性のルール] ページ 527  
   [ルール ベース クエリ] ページ 529  
 [新規エンリッチメントルール], [エンリッチメントルールのプロパティ], [エンリッチメントルールに名前を付けて保存] ウィザード 526  
 [新規監視] ダイアログ・ボックス 328  
 新機能 13

[新規パターン ビュー] / [新規テンプレート] / [新規パースペクティブ] ダイアログ・ボックス 327  
 [新規ビューの作成] ダイアログ・ボックス 308  
 [新規モデル] ダイアログ・ボックス 327

## す

スナップショット  
   比較 368  
   ビューの取得 228  
 スナップショットの比較 368  
 スナップショット比較レポート 393  
 [スナップショットを保存する] ダイアログ・ボックス 262  
 [すべてのスタイル] タブ  
   [レイアウト プロパティ] ダイアログ・ボックス 169

## せ

正規表現  
   標準設定ラベルに追加 501  
   例 561  
 生成  
   カスタム・レポート 365  
 [選択した項目に対する操作の選択] ダイアログ・ボックス 304  
 選択した項目のエクスポート 552  
 [選択済みの CI を含むビューを表示] ダイアログ・ボックス 359  
 [選択済みの CI を含むモデル] ダイアログ・ボックス 326

## そ

属性演算子の定義 42  
 属性の追加 / 属性の編集ダイアログ・ボックス 478

## た

[対称] タブ  
   [レイアウト プロパティ] ダイアログ・ボックス 181  
 ダイレクト・リンク埋め込みアプレット





- ド 131
- [ダイレクトリンク パラメータ - モデルエディタ] ページ
- [ダイレクトリンクの生成] ウィザード 121
- [ダイレクトリンク パラメータ - レポートビューア - 保存済みレポート] ページ
- [ダイレクトリンクの生成] ウィザード 124
- [ダイレクトリンク パラメータ - レポートビューア] ページ
- [ダイレクトリンクの生成] ウィザード 124
- [ダイレクトリンク パラメータ] ページの
- [ビューエディタ]
- [ダイレクトリンクの生成] ウィザード 129
- [ダイレクトリンク パラメータ] ページの
- [ビューセクタ]
- [ダイレクトリンクの生成] ウィザード 129
- [ダイレクトリンク パラメータ] ページの
- [ビュートポロジを表示]
- [ダイレクトリンクの生成] ウィザード 128
- [ダイレクトリンク パラメータ] ページの
- [ビューを表示]
- [ダイレクトリンクの生成] ウィザード 130

## ち

- [直交型] タブ
- [レイアウトプロパティ] ダイアログ・ボックス 179

## つ

- 追加
- エンリッチメント・ノードと関係を TQL クエリに 515
- クエリ・ノードと関係を TQL クエリに 28

## て

- 定義

- 結合関係 33
- サブグラフの定義 35
- 複合関係 30
- マップ印刷設定 187
- [定期レポート] ダイアログ・ボックス レポート 427
- [ディスカバリ ステータス] タブ
- [モデリング] 238
- [データソースの設定] ダイアログ・ボックス 351
- [データフロー管理] ジョブ
- CI からの削除 250
- CI への追加 250
- データベース・ブレイクダウン・レポート 399
- データ・モデル
- 概要 539
- テンプレート
- 作成 286
- [テンプレートの選択] ページ
- [テンプレートベースビュー] ウィザード 353
- [テンプレートパラメータ値] ダイアログ・ボックス 355
- テンプレート・ベース・ビュー
- 作成 291
- [テンプレートベースビュー] ウィザード 353
- [テンプレートの選択] ページ 353
- [パラメータ] ページ 354

## と

- ドキュメントの更新 16
- ドキュメント, オンライン 12
- トポロジ・クエリ言語 (TQL) 20
- 概要 20
- トポロジ・クエリ言語 (TQL) のユーザ・インタフェース 49
- トポロジ・マップ 163, 245
- 印刷と保存 228
- 印刷前プレビュー 187
- 概要 164
- ツールバー・オプション 189
- ファイルに保存 166
- メインメニュー 185

## 索引

トポロジ・マップのサイドバー 197  
トポロジ・マップの使用 163  
トポロジ・マップの内容  
印刷 186  
トポロジ・マップのプレビュー  
印刷前 187  
トポロジ・レポート 434  
概要 364  
トポロジ・レポートの表示 365  
[トポロジレポート] 表示枠 431  
トラブルシューティングと制限事項  
CI の選択 162  
トラブルシューティングとナレッジ ベース 15  
トリガ・ノード 440  
[トリプレットの追加] ダイアログ・ボックス  
69

## な

ナレッジ ベース 15

## ね

ネットワーク・デバイス・ブレイクダウン・  
レポート 416

## の

ノード OS ブレイクダウン・レポート 418  
[ノード定義 / 関係の定義] ダイアログ・ボッ  
クス  
エンリッチメント・マネージャ 531  
[ノード要素タイプの変更] ダイアログ・ボッ  
クス 303

## は

パースペクティブ  
作成 288  
定義済み 274  
パースペクティブ・ベース・ビュー  
子 CI の包含と除外 279  
作成 276  
パースペクティブ・ベース・ビュー・エディ  
タ 338  
インスタンス・ビュー。「パースペクティブ・  
ベース・ビュー」を参照

パターン・ビュー  
作成 285  
パターン・ビュー・エディタ 333  
パターン・ベース・モデル  
作成 296  
[パターン ベース モデル] ウィザード 330  
[CI タイプの選択] ページ 331  
[クエリの選択] ページ 331  
[パラメータ] ページ  
[テンプレート ベース ビュー] ウィ  
ザード 354  
汎用ブレイクダウン・レポート 405

## ひ

比較 CI 366  
ビジネス CI モデル 274  
作成 294  
ビジネス・ビュー  
作成 269  
[非表示 CI] ダイアログ・ボックス 310  
ビュー  
CI のコレクションに基づいた 298  
IT ユニバース 203  
関係 210  
関連 CI の作成 207  
再検出 217  
新規 CI の作成 206  
ツリー構造 205  
定義済み 273  
非関連 CI の作成 207  
表示 145  
ファクトリ 274  
モデルに基づいた 297  
ライフサイクル 204  
利用できないビュー 162  
大きな 165  
ビュー形式 268  
ビュー・ベース・ディスカバリ 217  
[ビューを保存] ダイアログ・ボックス 349

## ふ

ファイルに保存  
トポロジ・マップ 166  
フォルダ

定義済み 273  
 複合関係 23  
   定義 30  
 [複合関係の追加] ダイアログ・ボックス 52

## へ

変更されたビューのレポート 379  
 変更数レポート 420  
 変更済みアプリケーション・レポート 377  
 変更レポートを表示 436

## ま

マップ印刷設定  
   定義 187

## も

[モデリング]  
   [ディスカバリ ステータス] タブ 238  
 モデリング・スタジオ  
   概要 267  
   [機能の追加] ダイアログ・ボックス 301  
 モデリング・スタジオの左表示枠 311  
 [モデリング スタジオ] ページ 324

## ゆ

有効なリンクの選択 551  
 [ユーザ プリファレンス] ダイアログ・ボックス 97

## よ

[要素インスタンス] ダイアログ・ボックス 73

## り

リスト定義 505  
   作成 474  
 [リスト定義の更新] ダイアログ・ボックス 502  
   [リスト定義] 領域 503  
 [リスト定義の作成] ダイアログ・ボックス 502

[リスト定義] 領域 503

## る

[ルーティング] タブ  
   [レイアウト プロパティ] ダイアログ・ボックス 182  
 [ルール ベース クエリ] ページ  
   [新規エンリッチメントルール] ウィザード 529

## れ

[レイアウト設定] ダイアログ・ボックス 79  
 [レイアウト プロパティ] ダイアログ・ボックス 168  
   [階層的] タブ 174  
   [円形] タブ 171  
   [すべてのスタイル] タブ 169  
   [対称] タブ 181  
   [直交型] タブ 179  
   [ルーティング] タブ 182  
 列挙定義 505  
   作成 474  
   ワークフロー 475  
 [列挙定義の更新] ダイアログ・ボックス 502  
   [列挙定義] 領域 504  
 [列挙定義の作成] ダイアログ・ボックス 502  
   [列挙定義] 領域 504  
 レポート  
   アプリケーション・ブレイクダウン 373  
   カスタム 364  
   設定の定義 293  
   [定期レポート] ダイアログ・ボックス 427  
 レポート設定の定義 293  
 [レポート] ページ 422

